

令和6年度自己点検・自己評価委員会総会

日時 令和7年4月19日（土）第1部 10:00～12:20

第2部 14:00～15:10

会場 F講義棟



あなたの学びを あなたのカタチに

九州医療科学大学

Kyushu University of Medical Science

学校法人 順正学園

建学の理念

学生一人ひとりのもつ能力を最大限に
引き出し引き伸ばし、社会に有為な
人材を養成する。

加計



令和6年度自己点検・自己評価委員会総会プログラム

日 時：令和7年4月19日（土）9：55 ～ 15：10（終了予定）

場 所：F講義棟

開催要項	9:55 ～ 10:00	令和6年度 実績評価優秀者表彰	
	10:00 ～ 10:05	理事長・総長挨拶	加計 勇樹 理事長・総長
	10:05 ～ 10:15	学長挨拶（外部評価員紹介を含む）	池ノ上 克 学長
第一部	《実施部会報告》【各5分程度】		
	10:15 ～ 10:20	基本事項検討部会	池脇 信直 部会長
	10:20 ～ 10:25	教育改革部会	大倉 正道 部会長
	10:25 ～ 10:30	研究活動部会	池脇 信直 部会長
	10:30 ～ 10:35	学生サポート部会	三宮 基裕 部会長
	10:35 ～ 10:40	キャリアサポート部会	徳永 仁 部会長
	10:40 ～ 10:45	社会貢献部会	川崎 順子 部会長
	10:45 ～ 10:50	学生受入部会	渡邊 一平 部会長
	10:50 ～ 11:00	質疑応答	
	《3Pを踏まえた各学科の中期計画実施状況報告》【各5分程度】		
	11:00 ～ 11:05	スポーツ健康福祉学科	正野 知基 学科長
	11:05 ～ 11:10	臨床福祉学科	稲田 弘子 学科長
	11:10 ～ 11:15	臨床心理学科	前田 直樹 学科長
	11:15 ～ 11:20	通信教育部	川崎 順子 部長
	11:20 ～ 11:30	質疑応答	
	11:30 ～ 11:35	薬学科	木村 博昭 学科長
	11:35 ～ 11:40	動物生命薬科学科	紺野 克彦 学科長
	11:40 ～ 11:45	生命医科学科	山本 成郎 学科長
	11:45 ～ 11:50	大学院研究科総括	正野 知基 研究科長
	11:50 ～ 12:00	質疑応答	
	《令和5年度授業アンケート結果報告》		
	12:00 ～ 12:05	結果報告	三宮 基裕 教育開発副部門長
	《講評・総評》		
	12:05 ～ 12:15	外部評価員 講評	高森 賢一 延岡市教育長 吉玉 典生 延岡商工会議所会頭
	12:15 ～ 12:20	副学長 総評	池脇 信直 副学長
昼休憩	12:20 ～ 14:00	第一部終了	
第二部	《事務部門報告》【各5分程度】		
	14:00 ～ 14:05	大学事務局	的場 嘉男 事務局長
	14:05 ～ 14:15	庶務部 庶務課 及び 附属図書館	大石 正憲 課長
	14:15 ～ 14:20	庶務部 会計課	牧野 喜代子 課長
	14:20 ～ 14:30	教務部 教務課 及び 教育イノベーション課	紺野 智子 参事
	14:30 ～ 14:35	教務部 通信教育事務課	矢野 朋光 参事
	14:35 ～ 14:40	学生部 学生課（英語村含む）	加藤 泰輔 課長
	14:40 ～ 14:45	キャリアサポートセンター	猪股 健久 課長
	14:45 ～ 14:50	入試広報室	高木 真理子 参事
	14:50 ～ 15:10	事務部門全体ディスカッション	

*実施部会 点検・評価項目（最重点項目に◎、重点項目に○）

①使命・目的（教育目的の設定と反映を含む）、②学生支援（学生の受入れ、各種支援、学修環境の整備、意見要望への対応を含む）、③教育課程（卒業認定、教授方法、学修成果の点検評価を含む）、④教員・職員（教学マネジメントの機能性、教員配置及びFD・SD、研究支援を含む）、⑤経営・管理と財務、⑥内部質保証、④地域貢献（人的、物的、知的資源等の社会への提供を含む）、⑥倫理教育（人権啓発、ハラスメント防止、情報教育等を含む）◎国際化（人材育成、国際交流推進等を含む）

令和 6 年度 自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
基本事項検討部会 ※R5 より図書館部会を統合	◎	○	○	○	○	◎	○	○	○

○今年度の取組状況

建学の理念を基盤に、本学の第3期中期目標・中期計画(大学全体)に沿って、自己点検・自己評価に関する基本方針の策定や評価結果の確認を行った。また、関連する委員会からの現状報告や内部質保証委員会からの提言も踏まえ、次年度に向けた基本事項の決定や検証・確認を行った。評価スコアは、定性的な評価として、5. 達成している、4. かなり進んでいる、3. 普通、2. やや足りない、1. ほとんど進んでいない、を採用した。

1. 3つのポリシーを踏まえた、人材養成に必要な使命・目的等の評価・検討

本学の第3期中期目標・中期計画を踏まえ、特に3つのポリシーの適正化かつ学生への周知浸透、履修系統図との整合ならびに点検評価への活用など、学修成果の可視化と教学IRを推進した。さらに、中核センター会議や大学教授会とも連動しながら、建学の理念や教育目標に沿った人材養成が行えているか評価・検討した。

(評価スコア 4)

2. 内部質保証の為の体制整備や自己点検・自己評価との更なる連動に関する評価・検討

本学ではこれまで自己点検・自己評価と内部質保証が混在した形で実施されており、十分な効果が発揮できていなかった。本年度から内部質保証委員会を独立させて、本学の自己点検・自己評価が十分に機能しているか否か協議・検討することで内部質保証体制の更なる確立・推進に努めた。また、内部質保証委員会により提出された改善意見に基づきPDCAサイクルの整備と中間評価を行い、自己点検・自己評価の実施にも連動させた。このことについて改善状況を踏まえて確認・評価した。

(評価スコア 4)

3. 内部質保証の機能性を高める為の状況把握や状況分析等の実施に関する評価・検討

内部質保証委員会と自己点検・自己評価委員会が連動して中間評価を実施する事で、本学の目標に向かって、適切に点検・評価(改善)が行えているかの状況把握と分析が可能となった。さらに、関係委員会や中核センター会議などで情報を共有することで、内部質保証のさらなる機能性を高めることができた。このことについて改善状況を踏まえて確認・評価した。

(評価スコア 4)

4. 学生生活、学修支援、学修環境改善など、学生サービス全般に関する評価・検討

学修支援体制を更に強化すべく、各種委員会の見直しや再編、学修環境の整備を行った。学生支援の一環(キャンパス環境の整備)として、スチューデントサポートセンター(事務部門)の整備や1号棟1階の学生共用スペースの大幅改修を実施した。また、学修支援システム(学修ポートフォリオとマイステップ)の積極的に活用した。さらに、教育開発部門や学生サポー

ト部会を中心に、学修環境の改善や学生サービス向上の取り組みを実施した。このことについて改善状況を踏まえて確認・評価した。

(評価スコア 4)

5. 図書館等の学生利用施設の有効活用に関する評価・検討

現在、本学図書館の管理・運営は、本学園の関連会社でもある株式会社 JEI に委託されているが、これまで同様に学生・教職員に加え市民の方にも利用しやすい(開かれた)図書館を目標に、利用促進に努めた。図書館内のグループ学習スペースである「ラーニングコモンズ」は、学生利用施設として有効活用されている。このことについて、運営状況や利用状況を踏まえて有効活用出来ているか確認・評価した。

(評価スコア 4)

6. CPやDPに沿った教育課程及び教授方法の改善に関する評価・検討

各学科において実施されている教育課程や教授方法の改善に関しては、中核センター会議や大学教授会などを中心に協議・検討がなされており、教務部や関係委員会・部会においても改善に向けた支援を行っている。本年度は人材育成の理念に沿った体系的な教育課程編成、外部の標準化されたアセスメントテスト (GPS-Academic) の導入による教授方法の改善を行った。さらに、FD 研修の一環として、教員相互の授業参観制度の強化に取り組むとともに、授業評価のフィードバック方法の検討も行った。このことについて、実施状況を踏まえて確認・評価した。

(評価スコア 4)

7. 大学の強みや特色を活かした教育研究活動の推進に関する評価・検討

本学の第3期中期目標・中期計画では、本学の強みや特色を活かした研究力の強化を目標としており、中核センター教育開発部門と研究推進部門を中心とした適切な組織による機能性の確保に加え、学長諮問会議ならびに学長裁量経費は教育研究活動を推進することができた。また、数理・データサイエンス・AI 教育のリテラシーレベル (文部科学省) とオープンアクセス加速化事業 (文部科学省) に採択されたことは、本学の教育研究活動の推進に大きく寄与した。今後は、宮崎県内の大学との連携強化と FD 研修会を基盤に教育研究活動の充実化、機能性の確保を推進する予定である。このことについて、実施状況を踏まえて確認・評価した。

(評価スコア 4)

8. 安定した財務基盤を確立し、経営の規律と誠実性の維持を行う為の機能に関する評価・検討

現在の学生入学状況は非常に芳しくなく、多くの学科で入学定員割れをおこしている事から安定した財務基盤の確立の為、教学体制の組織改革を行うとともに、入試広報室や関係委員会を中心に学生募集の見直しや本学のブランド形成の為に施策を検討・実施している。そこで、本年度からブランディング推進委員会を設置し、本学のブランドコア構築における外部環境の分析とインナーブランディングを進めている。さらに、AP の見直し、SNS、CM、新聞広告を活用した広報活動も実施している。このことについて、改善状況を踏まえて確認・評価した。

(評価スコア 2)

9. 大学が行う地域活性化に向けた取り組みの評価・検討

本学の第3期中期目標・中期計画では、地域活性化の為に拠点創生を目標として、本学の所在する宮崎県北部地域を中心に産官学が連携・協力する事で、更なる地域振興や必要な人材養成に努める事にしている。特に、のべおか市民大学院、公開講座、発達支援システム事業促進支援業務、定住自立圏フィールド調査事業、ジョイフルキッズクラブ、ジュニア科学スクールは地域活性化に向けた本学独自の取り組みである。さらに、南海トラフ地震の発生に備えて、防災活動への積極的な参加・支援、協力を行った。このことについて、実施状況を踏まえて確認・評価した。

(評価スコア 4)

10. 国際化に向けた国際競争力の強化の為に評価・検討

本学の第3期中期目標・中期計画では、重点項目の一つとして、国際競争力を意識したグローバル化の推進を目標としている。コロナ禍で一時ストップしていた海外協定校等との教育(研修)・研究などのプログラムも再開され、フィンドレー大学からの研修団やタイの高等学校からの研修団を受け入れるなど、単純な国際交流に留まらないグローバル化を目指した取組も実施・計画するとともに、積極的に教育交流協定校との国際交流に努めた。また、英語村の活用ならびに各種イベントも実施することができた。このことについて、実施状況を踏まえて確認・評価した。

(評価スコア 4)

○次年度の計画案

次年度は、第3期中期目標・中期計画の推進に加えて、非常に重要とされる高等教育評価機構による外部評価(第3者評価)が予定されていることから、新たな指針として特に重要視されている内部質体制の改善・充実が更に行えるよう、各学科や各部門、自己点検・自己評価委員会や内部質保証委員会とも連携して、基本事項の見直しや内部質保証活動に必要な評価・検討を行う。今年度の状況・評価を踏まえ、以下の項目を引き続き推進する。

1. 3つのポリシーを踏まえた、人材養成に必要な使命・目的等(学修成果を含む)を評価・検討・改善するために、以下の項目を引き続き推進する。

中核センター会議や大学教授会とも連動しながら、建学の理念と教育目標に沿った人材養成を実施する。

2. 内部質保証の為に体制整備や自己点検・自己評価との更なる連動を評価・検討・改善するために、以下の項目を引き続き推進する。

内部質保証委員会の改善意見を自己点検・自己評価の実施に反映させる。

3. 内部質保証の機能性を高める為に組織の整備、責任体制の確立を評価・検討・改善するために、以下の項目を引き続き推進する。

関係委員会や中核センター会議と情報を共有することで、内部質保証のさらなる機能を高める。

4. 学生生活、学修支援、学修環境改善など、学生サービス全般を評価・検討・改善するために、以下の項目を引き続き推進する。

教育開発部門や学生サポート部会を中心に、学修環境改善や学生サービス向上を推進する。

5. 図書館等の学生利用施設の有効活用を評価・検討・改善するために、以下の項目を引き続き推進する。

学生、教職員、市民に利用しやすい(開かれた)図書館を目指す。

6. CPやDPに沿った教育課程及び教授方法を評価・検討・改善するために、以下の項目を引き続き推進する。

教授方法の改善に向けたFDとSD活動(研修)を推進する。

7. 大学の強みや特色を活かした教育研究活動の推進を評価・検討・改善するために、以下の項目を引き続き推進する。

コンソーシアム宮崎との連携とFD研修会を基盤に、教育研究活動の充実化、機能性の確保を推進する。

8. 安定した財務基盤を確立し、経営の規律と誠実性の維持を行う為の機能を評価・検討・改善するために、以下の項目を引き続き推進する。

ブランディング推進委員会を中心に、本学のブランドコア構築、APの見直し、各種デバイスを利用した広報活動を推進する。

9. 大学が行う地域活性化に向けた取り組みを評価・検討・改善するために、以下の項目を引き続き推進する。

産官学の連携を基盤に、更なる地域社会貢献や地域が求める人材養成を推進する。

10. 国際化に向けた国際競争力の強化を評価・検討・改善するために、以下の項目を引き続き推進する。

本学の「魅力と強み」を活かしたグローバル化を実践するとともに、積極的に教育交流協定校との国際交流を推進する。

令和6年度 自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
【教育改革部会】 (旧：教育指導部会、カリキュラム部会、大学院部会、通信教育部会)	◎	○	◎	○		○			○

以下のスコア概要【定性的評価：5. 達成している、4. かなり進んでいる、3. 普通、2. やや足りない、1. ほとんど進んでいない】

○今年度の取組状況（教育改革部会）

本年度、取り組み計画として掲げた下記事項について総括する。教学マネジメント（別紙体制図）の推進を中心に、取り組むべき事項に着手できたものもあるが、未達或いは検証・検討を要する事項もあり、令和7年度に向けた更なる改善に取り組む計画とする。

1. ブランドビジョンの実現に向け、新設した大学共通基礎科目の検証・改善に努め、完成年次（R7）に向けた改正の有無を含めた検討を行う。

令和5年度より掲げる「4つのen」の実現に向け、更なる改善・検討を進める。

- ・「情報、AI、データサイエンス科目」を確立し、令和6年度には文部科学省が推奨する『数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）』に認証された。今後は、情報教育センターが中心となり、上位認証となる「リテラシーレベル+」及び「応用基礎レベル（薬学科先行）」に向けた検証・協議に努める。

また12月5日付で、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムへの加盟承認を受け九州ブロックでの活動を開始しており、本学での教育推進を加速する計画である。

(実施、点検評価等内容については別紙 HP 内容を参照)

- ・医療、福祉を標榜する大学として基礎教育の強化に取り組み、「日向国地域体験学習」では延岡市だけではなく、高千穂町・五ヶ瀬町とも連携体制の構築が来ている。今後更に研修内容や実施方法の検討を重ね、受講者増及び満足度の向上に努めたい。
- ・「医療・福祉連携講座」の在り方の検証、「インターンシップ」については、文部科学省が掲げるインターンシップの要件にも合致していないため、取り組み計画の再考を含め、改善に向けた検討を加速させる必要がある。
- ・教学マネジメント指針にも掲げられる学修成果の可視化に資するため、『GPS-Academic：ベネッセ i-キャリア』の運用を開始した。今後は学生への動機づけ、フィードバック方法、更にはDPとの整合性検証など、活用方法の実質化を加速させる計画である。

※取り組み計画について概ね着手できたため、「評価スコア4」とした。

2. 全学的方針として掲げる「国語力強化」の在り方自体を再考し、リメディアル教育として導入している e-learning システムの是非を含め検証を行う。

本年度入学生の第1回・第2回・第3回の受検結果を受け、e-learningシステムの有効性と検証も含め、薬学部・社会福祉学部については継続利用することとなったが、臨床心理学部については生命医科学部同様、利用せず国語力強化に努める方針となった。

※e-learning の是非および国語力強化の判断を含め課題が残るため「評価スコア2」とした。

3. 国家試験合格率の向上を目指す。少なくとも、全国の大学の国家試験合格率平均を下回ることがないように国家試験対策の充実に取り組む。(ストレート合格率の向上を含む)

11 資格中 (社会福祉士は通学・通信でカウント)、全国平均で達成 8 資格、未達 3 資格。達成資格が未達を上回るものの、ステークホルダーたる受験生の関心の高い数値の一つであるため、単なる合格率のみでなく、ストレート合格率なども意識した対策強化に努める。

(数値については別紙参照)

※取り組み強化までには至っていないため「評価スコア 3」とした。

4. 教職員の意識改革並びに課題の共有を目的に、FD・SD 活動の促進に努め、学生を中心とした(学修者本位)研修活動の充実に努める。(ワークショップやハラスメント研修などの充実)

- ・各学部での FD 開催の推進とサポート・連携体制の確立
- ・各事務部を中心とした SD 研修の開催促進と情報共有・フィードバック体制の確立

下記のとおり、全学部での個別開催が実現できた。

(全学開催)

令和 6 年 9 月 4 日『GPS-Academic の活用と教学マネジメント』

(学部・学科開催)

令和 6 年 10 月 17 日『問題解決能力とリーダーシップを兼ね備えた薬剤師の育成を目指し』(薬学科)

令和 6 年 11 月 11 日『薬剤師の軌跡と未来ー病院薬剤師の魅力と求められる職能ー』(薬学科)

令和 6 年 11 月 26 日『臨床検査技師について』事務職員研修(生命医科学部)

令和 7 年 1 月 24 日『届けるコミュニケーション』(臨床心理学部)

令和 7 年 2 月 18 日『大学授業における説明・反論・論証』(社会福祉学部)

次年度に向けては更なる促進を目指し、学部等での開催計画を後押しする。

※全学部において実施できたため「評価スコア 5」とした。

5. 学修者本位の教育環境充実に向け、以下の強化を図る。

- ・ユニバーサルパスポートを活用した学修成果の可視化の検証、改善

GPS-Academic の受検結果を学生個人毎に記録し、学生指導及び学生自身の成長実感に繋がる仕組みを検討している。(年度内に稼働見込)

- ・シラバス内容の充実・検証及びチェック体制の改善・強化

『学修者本位の教育』の実現を目的に、シラバス入力項目に学生の学習結果(レポート、小テストなど)フィードバックの方法を設け、評価方法と共に学修の動機づけに対する取り組み強化を行うことができた。

■入力項目：評価方法 ⇒ 評価とフィードバックの方法

- ・授業アンケートを初めとした教育 IR の改善と実施体制の強化

大学全体のアンケート等実施内容を取り纏め、重複を避け、学生が回答することを敬遠することなく取り組む体制の見直しを行っている。これまでの画一的な取り纏め報告書に留まらず、学生からの意見を踏まえ取り組んだ内容を積極的にフィードバックし、学生コメントを無駄にしない姿勢を意識的に行うことができた。

■新エリアでのデジタルサイネージ告知にも取り組む。

※概ね取り組み方針について実現できたため「評価スコア 4」とした。

6. ハイブリットコースを含めた通信教育部の改革並びに通学課程との連携強化を図る。

・福岡事務所の活用と、入学生増に向けた体制強化

ハイブリッドコースの学生スペースを整備し、学生相互の交流はもとより、教員との連携、また事務局との連携を図る体制確保を行うことができた。

また福岡事務所を中心にメタ広告を実施し現在のところホームページを経由した資料請求数(約3倍増)が伸びており今後も同様に取り組む。

なお、「宮崎看護専門学校」との連携協定が実現できたことは大きな前進となっている。

※前進もあるが課題も残るため「評価スコア 3」とした。

7. 研究者育成の大学院教育の充実を目指し、適正な入学生確保を行うことで、学部学生の意識向上と TA・SA などの活用計画を推進する。

通信制大学院研究科が中心となり、本年2月に院生も対象としたプレFD研修会を開催し、研究マインドの醸成に努めた。また令和7年度には15名の研究科入学生(薬1、福祉前期7・後期1、保健前期7・後期0)を迎えることが出来たため、学部学生との連携等を計画したい。

※大きな前進ともなっていないため「評価スコア 2」とした。

○次年度の計画案(教育改革部会)

令和7年度に向けては高等教育評価機構による第三者評価が控えている。その具体的な取り組み評価が次年度実績となるため、更なる点検評価・改革推進に努める。

1. ブランドビジョンの実現に向け、新設した大学共通基礎科目の検証・改善に努め、完成年次(R7)に向けた改正の有無を含めた検討を行う。

2. 全学的方針として掲げる「国語力強化」の在り方自体を再考し、リメディアル教育として導入している e-learning システムの是非を含め検証を行う。

3. 国家試験合格率の向上を目指す。少なくとも、全国の大学の国家試験合格率平均を下回ることがないように国家試験対策の充実に取り組む。(ストレート合格率の向上を含む)

4. 教職員の意識改革並びに課題の共有を目的に、FD・SD 活動の促進に努め、学生を中心とした(学修者本位)研修活動の充実に努める。(ワークショップやハラスメント研修などの充実)

・各学部での FD 開催の推進とサポート・連携体制の確立

・各事務部を中心とした SD 研修の開催促進と情報共有・フィードバック体制の確立

5. 学修者本位の教育環境充実に向け、以下の強化を図る。

- ・ユニバーサルパスポートを活用した学修成果の可視化の検証、改善
- ・シラバス内容の充実・検証及びチェック体制の改善・強化
- ・授業アンケートを初めとした教育 IR の改善と実施体制の強化

6. ハイブリットコースを含めた通信教育部の改革並びに通学課程との連携強化を図る。

- ・福岡事務所の活用と、入学生増に向けた体制強化

7. 大学院教育の充実に目指して研究マインドを醸成していくとともに、研究成果の地域への発信にも努めて本学大学院の知名度を高め、大学院への入学生確保につなげる。

令和6年度 国家試験結果

社会福祉士

第37回

	新卒	既卒者	合計
出願者	41	69	110
受験者	40	69	109
合格者	26	28	54
不合格者	14	41	55
合格率(%)	65.0%	40.6%	49.5%
全国平均(%)	56.3%		
福祉大学等平均(%)	75.2%	35.8%	56.3%

社会福祉士(通信教育部)

	新卒	既卒者	合計
出願者	54	79	133
受験者	54	79	133
合格者	41	29	70
不合格者	13	50	63
合格率(%)	75.9%	36.7%	52.6%
全国平均(%)	56.3%		
福祉大学等平均(%)	75.2%	35.8%	56.3%

愛玩動物看護師

第3回

	新卒	既卒者	合計
出願者	14		14
受験者	14		14
合格者	14		14
不合格者	0	0	0
合格率(%)	100.0%		100.0%
全国平均(%)	88.0%		
大学等平均(%)	93.7%	85.1%	

精神保健福祉士

第27回

	新卒	既卒者	合計
出願者	10	4	14
受験者	10	4	14
合格者	9	0	9
不合格者	1	4	5
合格率(%)	90.0%	0.0%	64.3%
全国平均(%)	69.8%		
福祉大学等平均(%)	85.3%	32.5%	69.8%

言語聴覚士

第27回

	新卒	既卒者	合計
出願者	8	9	17
受験者	8	9	17
合格者	7	1	8
不合格者	1	8	9
合格率(%)	87.5%	11.1%	47.1%
全国平均(%)	72.9%		
大学等平均(%)	89.6%	32.0%	78.4%

臨床工学技士

第38回

	新卒	新卒(別科)	既卒者	既卒者(別科)	合計
出願者	12	2	6	1	21
受験者	11	2	6	1	20
合格者	10	2	1	0	13
不合格者	1	0	5	1	7
合格率(%)	90.9%	100.0%	16.7%	0.0%	65.0%
全国平均(%)	88.8%		25.9%		78.9%
大学等平均(%)	—	—	—	—	—

はり師

第33回

	新卒	既卒者	合計
出願者	7	6	13
受験者	7	6	13
合格者	6	2	8
不合格者	1	4	5
合格率(%)	85.7%	33.3%	61.5%
全国平均(%)	89.3%	24.0%	73.9%
大学平均(%)	84.3%	31.7%	66.6%

きゆう師

第33回

	新卒	既卒者	合計
出願者	7	5	12
受験者	7	5	12
合格者	7	2	9
不合格者	0	3	3
合格率(%)	100.0%	40.0%	75.0%
全国平均(%)	89.8%	24.0%	74.9%
大学平均(%)	86.9%	30.8%	68.8%

薬剤師

第110回

	新卒	うち新卒ストレート	既卒者(6年)	既卒者(4年)	合計
出願者	76	53	72	1	149
受験者	47	45	69	0	116
合格者	45	43	22	0	67
不合格者	2	2	47	0	49
合格率(%)	95.74%	95.56%	31.88%	0.00%	57.76%
全国平均(%)	84.96%		43.94%	48.10%	68.85%
私立大学平均(%)	84.38%		43.79%	27.72%	67.52%

介護福祉士

第37回

	新卒	既卒者	合計
出願者	4	0	4
受験者	4	0	4
合格者	4	0	4
不合格者	0	0	0
合格率(%)	100.0%	—	100.0%
全国平均(%)			82.8%
養成施設合格率(%)	78.5%	14.6%	66.7%

臨床検査技師

第71回

	新卒	既卒者	合計
出願者	45	23	68
受験者	35	22	57
合格者	34	1	35
不合格者	1	21	22
合格率(%)	97.1%	4.5%	61.4%
全国平均(%)	94.0%	40.4%	84.6%
私立大学平均(%)	—	—	—

※9月卒は新卒に含む。

令和6年度 自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ
研究活動部会	○			◎	○	○	○	○	○

○今年度の取組状況（研究活動部会）

評価スコアは、定性的な評価として、5.達成している、4.かなり進んでいる、3.普通、2.やや足りない、1.ほとんど進んでいない、を採用した。

1. 学内共同研究

本年度は応募件数が 10 件（研究経費助成 5 件、地域創生事業経費助成 5 件）で、応募者や採択者が毎年あまり変わらない点が問題であった。研究経費助成は、科研費審査評価に基づき審査を行い、科研費採択率の向上を支援したが、新規採択は 1 件のみであった。地域創生事業経費助成は、社会貢献度に基づき審査を行い、地域社会貢献活動を支援した。本年度は、採択者にヒアリングを行い研究・事業推進の後押しをした。経費の使途について、旅費や機器購入の割合が多い申請書があり、事前審査が必要であると思われた。また、研究経費助成の採択者が毎回同じ人になっているので応募規程の見直しも必要である。研究活動部会 FD の一環として、デジタルサイネージ（電子看板）を用いた成果発表会を行ったが、効果を十分活かせなかった。

(評価スコア 2)

2. 科研費助成事業

採択率向上として、University Research Administrator (URA) を育成するとともに、申請公募要領の説明と申請書作成の指導を行った。ガルーンに「研究助成・補助金関連の情報提供のスペース」を設け、採択件数の向上を目指したが、向上には至らなかった。申請状況は、基盤(B) 1 件、基盤(C) 23 件、挑戦的研究(萌芽) 1 件、若手研究 5 件の計 30 件(昨年 34 件)で、採択率は 16.7%であった(昨年 11.7%)。研究推進部門のさらなるバックアップが必要である。ほとんど申請をしていない教員には実効的施策が望まれる。

(評価スコア 2)

(評価スコア 2)

3. 公的研究費コンプライアンス研修および研究倫理教育研修

コンプライアンス研修と研究倫理のさらなる浸透・定着を図った。本年度は新たに税理士法人事務所（延岡市）の公認会計士による「不正事例から学ぶ公的研究費不正使用防止の考え方」の研修を実施することができた。また、競争的研究費経費執行説明会も同時に開催することで公的研究費と倫理教育のコンプライアンス意識が高められた。今後も公的研究費と倫理教育のコンプライアンス意識を浸透・定着させるとともに、安全保障輸出管理規程の制定と研究インテグリティの確保も並行して進める。

（評価スコア 4）

(評価スコア 4)

4. 査読制ジャーナル

ジャーナルの充実と質向上を図るために、詳細な査読ガイドランの策定と明確化に取り組んだ。次年度以降も同様の継続が望まれる。

(評価スコア 3)

(評価スコア 3)

5. 順正学園学術研究交流会

学園間での共同研究を推進した。本年度の発表件数は、8 件（吉備国大 4 件・九医科大 4 件）であった。各教員の研究テーマと研究シーズをまとめた冊子を作成した。全教員が研究成果を発表する機会を設けることが望まれる。

（評価スコア 4）

6. みやざきテクノフェア&ものづくり交流展

みやざきテクノフェア（令和6年11月8日～9日）に生命医科学科と薬学科が出展した。生命医科学科は、細胞検査士や臨床検査技師の仕事を紹介した。薬学科は患者ロボット「SCENARIO」を用いたシナリオプログラムと薬の動きを見える化する「ADME（アドメ）人形や図鑑」を紹介した。ものづくり交流展（令和7年1月31日～2月1日）は薬学科と生命医科学科が出展し、社会貢献の一環として大学の知的財産である「もの」を出展した。

（評価スコア 4）

7. 各種研究助成と補助金関連情報の提供

競争的外部資金獲得のためのプラットフォームをガルーンに構築し、外部資金獲得のための情報提供を行った。この情報提供を契機に外部資金総額の増加が認められた。

（評価スコア 4）

8. 個人研究費の研究成果報告書

成果報告書の提出を義務化する計画を立てたが、まだ完成には至っていない。報告書は、卒論指導、学科活動、学生ならびに大学院生の教育研究指導も成果報告に含める。

（評価スコア 1）

9. オープンアクセス（OA）加速化事業

宮崎大学との連携により OA 加速化事業に採択された。学術機関リポジトリアシスト機能を導入するとともに、論文掲載料（APC）を支援した。

（評価スコア 4）

○次年度の計画案

1. 学内共同研究

より詳細な採択ガイドラインを設定し厳選なる審査を行う。成果報告は各種デバイスを利用して学内と学外に発信する。適切な経費配分と成果発表に対する定性的・定量的な改善とアップデートを進める。特に成果発表の改善点として、ターゲットが多く集まるスポットの選定、発表内容を効率よくリストアップできる「キーワード」の設定を検討する。研究に対するモチベーションを向上させるとともに、全教員が研究成果を発表する機会を設ける。

2. 科研費助成事業

採択率向上の戦略として、学会発表や論文発表のノルマ化、URA の育成と科研費クラブの設置を積極的に進める。PDCA サイクルの高速回転を基盤に、科研費申請を全教員の共通目標とする。研究推進部門を中心に申請書の「書き方講習会」を実施する。

3. 公的研究費コンプライアンス研修および研究倫理教育研修

研修内容の形骸化を防止するため、研究費使用ハンドブックの見直し、研究倫理と研究コンプライアンスの啓発活動を推進する。また、安全保障輸出管理規程の制定と研究インテグリティの確保も並行して進める。

4. 査読制ジャーナル

本学の査読制ジャーナルの充実と質向上を図るために、より詳細な査読ガイドランの策定と明確化に取り組む。オープンアクセス（OA）加速化事業と連動したジャーナルの充実化を目指すとともに、本学学術機関リポジトリ運用を推進する。

5. 順正学園学術研究交流会

本交流会の開催目的を明確化し、交流会の場を盛り上げるとともに、学園間の共同研究を推進する。

6. みやざきテクノフェア&ものづくり交流展

社会貢献の一環として、大学の知的財産である「もの」を積極的に出展し、本学を積極的にアピールする。

7. 各種研究助成と補助金関連情報の提供

競争的外部資金獲得を推進するために、情報提供に関する本学独自のプラットフォームを整備する。

8. 個人研究費の成果報告書

個人研究費の成果報告書を年度末に提出することを義務化する。成果報告書は学内で教職員が閲覧できるプラットフォームを構築する。

9. オープンアクセス（OA）加速化事業

学術機関リポジトリアシスト機能を最大限利用し、研究者間のコミュニティ形成、OAに対応した論文の投稿を積極的に推進する。

令和6年度 自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
【学生サポート部会】		◎							◎

関係委員会等：

学生支援委員会、障がい学生サポート委員会、ラーニングサポートセンター・英語村

○今年度の取組状況「 」内は第3期中期目標・中期計画該当箇所

1. 学生生活の安定のための支援（学生支援委員会関係）

① ニーズ把握のための学生との意見交換「学生支援1」 3] (達成度:◎ 達成)

- ・ 学長と学生との意見交換会（R6.7.24）を実施し、各学部学科の代表学生12名より大学生活の様子と要望を聞き取った。NP0法人のべおか子どもネットワーク主催で年2回（6月、12月）市内の公民館で開催されている『学生生活応援イベント（食材や日用品の無償提供）』は近隣に住んでいない学生にはわかりにくいイベントである。できるだけ多くの学生が参加できるように大学が会場を貸し出すことはできないか？の要望が挙がった。当該法人と協議をして、12月21日に本学学食を会場として開催した

② 学生への経済的支援〔学生支援1）2〕（達成度：◎ 計画外の実施）

- ・奨学金業務は定期的な情報提供、個別連絡等をおこない滞りなく遂行された
- ・今夏、宮崎市内で台風の影響により発生したと考えられる竜巻被害を受けた学生に対して、授業料特別減免措置を適用した

③ 学生生活の危機管理に関する事項「学生支援1）2」

a. 交通トラブル対策（達成度：△ 一部改善、一部悪化）

- ・ 学生課へ届出があった事故件数は、令和6年1月から令和7年2月までの間で19件（R5. 2～R6. 1は17件）であり、集計期間の多少のずれはあるが前年度から増加した。学生が第一当の事故が12件（昨年は13件）、ケガをした学生は6人、うち5人が骨折等で入院した。物損事故は6件（昨年は12件）。学生が道路上でひき逃げされ重傷を負った特異事案も発生した（被疑者逮捕済み）

b. 犯罪、生活トラブル対策（達成度：△ 一部改善）

- ・ 犯罪、生活トラブルに関する相談が6件（去年は8件）あった。（学内での自転車盗難3件）
- ・ 相談に対しては個別面談を実施し、関係学部・学科、部署へ通知し早期の問題解決に努めた

c. 防災に対する意識向上（達成度：◎ 計画外の実施）

- ・ 全学生、教職員参加による南海トラフ大地震を想定した消防防災総合訓練及び防災講座を実施した（R6年12月）
- ・ 万が一の災害に備えての学生用の備蓄品がストックされていない。災害時に帰宅困難となった学生たちへの供給を考えて、最低でも800人分の備蓄品を3か年で整備することを計画した。今年度は270人分の備蓄品の整備をした。

2. 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用（障がい学生サポート委員会関係）

① 関係各所との連携体制の構築「学生支援1」 1」（達成度：◎ 達成）

- ・チューターより、付きまとい行為に関する相談が1件あったが、双方の学生および保護者（付きまとい学生）へのヒアリングを実施。また、チューター・健康管理センター・カウンセラーとも連携して医療機関（検査機関含む）の受診について協議をした結果、正式な診断名を把握することになった。今後同様の事態が生じた際の対応に備えることになった
- ・令和6年4月から障害者差別解消法の改正が行われたことに伴い、本学の障がい学生支援に関する基本方針ならびに規程は既に整備に加えて、合理的配慮の提供に関わるフロー図の作成を行なった
- ・発達障害や自閉症の学生が人混みや騒音など日常と違う雰囲気が原因で感情が高ぶるなどのパニックになった際に利用してもらうカームダウン・クールダウンスペースの設置について、学生課・健康管理センター・教務課に設置の検討を依頼した

② 相談しやすい環境づくりと相談スキルの向上〔学生支援1〕1〕（達成度：○ 現状維持）

- ・ 事務局職員、委員会メンバーが下記の研修会に参加し、情報収集をおこなった
令和6年度第69回日本私立大学協会学生生活指導部課長相当研修会（R6.7.3～7.4）
令和6年度障害者支援に関する大学間連携情報交換会（R6/12/13）
第52回九州地区学生指導研究集会（R6.8.29）・・・台風のため中止
- ・ 上記研修会での情報を事務局内で共有し、学生が相談しやすい環境づくりに努めたが、参加した委員以外のメンバーや委員以外の教員に対して、研修成果の報告はできなかった

3. 留学生・国際交流の取り組み（ラーニングサポートセンター・英語村関係）

① 留学生の支援〔グローバル化1〕1〕（達成度：◎ 達成）

- ・ 2025.3.31現在、在学生15名（韓国14・中国1）、2024年度の退学者0名 ※R6.11.30 1名除籍

② 日本人学生等との交流の機会を設ける〔グローバル化1〕2〕（達成度：◎ 達成）

- ・ 英語村主催で下記のイベントを実施した（カッコは実施日と人数）
Easter（4月：18名）、ゲーム大会（5月：11名）、国際交流員出前講座（6月：20名）、七夕（7月：16名）、映画鑑賞会①（7月：3名）、夏季集中講座（8月：2名）、Halloween（10月：22名）、Malaysia Day（11月：5名）、Christmas（12月開催予定）、パンケーキの火曜日（1月開催予定）、映画鑑賞会②（2月開催予定）、春季集中講座（3月開催予定）、教育後援会留学生支援経費にて日本人学生と高梁湧水トンネル公園・阿蘇中缶火口/草千里・カドリードミニオンへ日帰り旅行（10月：18名）、11月3日～11月4日 第26回九保祭の開催

③ 学習支援スペースとしての英語村の利用促進〔グローバル化1〕2〕（達成度：◎）

- ・ 今年度（2025年2月末日）の利用人数は、レッスン受講者403名（前年度509名、前年比79.2%）、自習室利用者1,452名（前年度787名、前年比184.5%）、合計1,855名（前年度1,296名、前年比143.1%）であり、前年度に比べて自習室利用者が大幅に増加した。10号棟（学生食堂前）の移転により、とくに薬学科の学生利用が増加した。

○来年度の計画案

1. 学生生活の安定のための支援（学生支援委員会関係）

① 交通トラブル対策

- ・ 定期的な安全運転講習の企画・実施や交通安全啓発活動をおこない、交通事故の減少を目指す
- ・ 延岡警察署との連携を継続し、事故等に対して迅速に対応する

② 犯罪、生活トラブル対策

- ・ 学生生活上のトラブル事例等の情報を配信し、身のまわりの「危険なこと」への理解を高める
- ・ 犯罪、トラブルに巻き込まれないように、そのような兆候があれば速やかにユニパでの周知を行い、学生の無知・常識のなさ・情報収集力の未熟さからくるトラブル・軽犯罪の防止や啓蒙を継続する。また、発生した場合には迅速かつ適切に対応する

③ 防災に対する意識向上と備蓄等の準備

- ・ 地震に対する備えとして、総合的な防災訓練を実施するとともに学生の防災意識向上のためオリエンテーションでの講習、防災マニュアルの配布など各種対策を昨年に引き続き推進する
- ・ 備蓄品の整備計画の2年目となる。引き続き、災害時に帰宅困難となった学生たちへの供給を考えて270人分の備蓄品の整備を進める

④ 学内生活のニーズ把握と改善

- ・ 学生の要望を聴く機会を設けてニーズを把握し、改善の可能性を検討し、実施する

2. 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用（障がい学生サポート委員会関係）

① 関係各所との連携体制の構築

- ・ 医療機関、学内健康管理センターとの連携の仕組みを検討する
- ・

- ・ チューター、学科長、学部長との連携、情報共有の仕組みとして、緊急時対応の連携フローを検討する
- ② 相談しやすい環境づくりと相談スキルの向上
 - ・ 学生生活に不安を抱える学生との信頼関係づくり、相談しやすい窓口対応をしていくために、学生が相談しやすい環境を整える
 - ・ 合理的配慮に関わる相談体制（関係書類、学生向けフロー、周知チラシなど）を整備する
 - ・ 学生支援に関わる研修会に参加し、情報収集とともに関係教職員に研修内容を周知し、学生支援の質の向上に努める
- ③ 合理的配慮の理解
 - ・ 合理的配慮の提供の義務化を受けて、本学で取り組むことを検討し、実施する。特に次の2点については早急に進める。
 - ・ 合理的配慮の提供に関わるフローを学内で共有する
 - ・ カームダウン・クールダウンルーム（エリア）の設置の検討

3. 留学生・国際交流の取り組み（ラーニングサポートセンター・英語村関係）

- ① 留学生の除籍・退学者が出ないための支援をする
 - ・ 留学生であっても精神的な不安による退学者が出つつある。十分な意思疎通が難しい留学生にとっては相談できる場所も限られるため、相談できず不安を抱え込んでしまうこともある。留学生向けの相談体制を検討する
- ② 日本ででの生活に慣れてもらうための機会を設ける
 - ・ 留学生と日本人と一緒に楽しめるイベントを増やしていきたい。令和6年度に企画したイベント（カフェの日）の活動充実を図り取り組みを定着させる
 - ・ とくに留学1年目の学生を対象に、日常生活上の不安や疑問を聞き取り、少しでも早く日本生活に順応できるように支援していく
 - ・ 部活やサークル情報を提供し、日本人学生同様、課外活動を楽しむよう促す
 - ・ 学生委員会内に留学生部門の設置を検討し、留学生を中心とした活動を促す仕組みづくりに取り組む
- ③ 円滑かつ安全な一時帰国を支援する
 - ・ 新型コロナ感染拡大措置の緩和により、一時帰国希望者の増加が予想される。円滑かつ安全に一時帰国できるように、関係部署と情報共有し連携していく
- ④ 学習支援スペースとしての英語村の利用促進
 - ・ レッスン受講者向上のために令和6年度から取り組みを始めた「医療現場を想定した患者との英会話」の取り組みを定着させる
 - ・ オンラインによるレッスンの導入を検討し、学習機会を増やす

令和 6 年度 自己点検・自己評価委員会

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
キャリアサポート部会		◎						○	

○今年度の計画案

1. 就職希望者の就職率 100%を目指すとともに、数値目標だけでなく、個人指導重視の支援を通して学生の成長を促し、一人ひとりが満足できる進路選択ができるよう、学生支援担当部署と連携し質の高いキャリアサポートを実施する。

2. 低学年からのキャリア意識の醸成を目的とした支援、就職活動の円滑な展開や就職試験への対応に繋がる公務員試験対策講座や各種企画を積極的に実施する。また、宮崎県や延岡市などの地元企業や自治体と連携し、公務員を含む地元への就職者増を実現させる。さらに、ユニバーサルパスポートの「私の活動記録」を活用し、就職活動における履歴書作成や、自己分析の振り返りの有効な手段として活用させたい。

3. 学生の個々のキャリア適性や志向性を把握し、適切なキャリア選択を支援するために、定期的なキャリア適性調査を実施する。また、調査結果をもとに、個別のフィードバックやキャリアプランの策定を行い、学生が自己の強みや興味に合ったキャリアを見つけられるようにサポートする。また、資格取得にかかる費用を IT パスポートなど一部の資格に限りサポートしてきたが、様々な学生が求める資格に対応するため、支援する資格の範囲を拡大させる。

〈取り組み状況〉

1. 高品質なキャリアサポートを提供することを目指し、単なる就職率向上にとどまらず、学生が社会人として自立できるよう情報共有や意見交換を行い教職協働体制で支援した。また、学生一人ひとりが納得のいく進路選択を実現できるよう、キャリアサポートセンターと各学科に加え、地元のハローワーク、ヤング JOB サポートみやざき延岡サテライト、九州コミュニティーカレッジとも連携し、各種イベントの開催や多様な進路支援に取り組んだ。さらに、旭化成の特定子会社である旭化成アビリティの説明会に参加するなど、障がい者雇用に積極的な事業所との接点を持つ機会を増やしている。他には、学納金未納で除籍されそうな学生に、企業奨学金や各種の教育ローン情報を提供し、学生自身が借入手続きを行えるよう支援し納付を完了させたことで、国家試験合格と卒業の称号を手に入れることができた。令和 7 年 4 月 4 日現在、就職希望者における就職率は 94.4%である。

2. 昨年実施した「workCafé のべおか」の学生アンケートを参考に、参加事業所を選定し調剤薬局や動物病院等に依頼した結果、救命救急コース第一期生の就職先の有力候補と考えられる延岡消防本部ほか、地元の調剤薬局、異色の経歴を持つコーヒー店店長など 7 社の参加があり、終了後の学生アンケートでは、「普段聞けない話が聞けた」など 8 割の学生から「満足した」との回答があった。また、11 月に開催した「薬学科業界研究会」では、就職先に求める内容など、事前に学生アンケートを実施し、参加事業所に向けて、アンケート内容を含む事前の説明会を

開催したことで、参加事業所・学生共に満足度の高い研究会となった。さらに次年度開催に向け、令和7年1月上旬に薬学科就職・同窓会委員と開催検討会を実施した。他には、12月に開催した公務員試験対策講座は、リニューアルした1号棟ラウンジエリアで土曜日に実施した。この講座では、解放感あふれる環境かつパーティションを活用し、ある程度の閉鎖空間を作り参加者の集中力を高めると共に、キャリアサポートセンター関係者以外の教職員への認知拡大を図ったことで、次年度以降の参加者増につながると考えている。令和7年4月4日現在、公務員合格者14名、就職者における宮崎県内就職率は40.9%である。

3. 多様な特性を持つ学生へのキャリア支援としてハローワークと連携し、職業適性テストなどを活用した結果、学生が自身のスキルや興味に合った仕事を見つけやすい環境が整ったことで、就労に向けた具体的な活動が見受けられた。また、これまで実施してきた卒業時アンケートにおいて、「在学期間中にパソコンスキルを向上させたい」という要望が多く寄せられたことを受け、関連する資格取得の講座を開設した。さらに、学生アンケートでの要望に応える取り組みを実施している旨の動画を作成し、学生掲示板に設置された大型スクリーンで放映することで在学生への周知を図っている。

○来年度の計画案

1. 就職希望者の就職率100%を目指すとともに、数値目標だけでなく、個人指導重視の支援を通じて学生の発達を促し、一人ひとりが満足できる進路選択ができるよう、学生支援担当部署・会計課と連携し質の高いキャリアサポートを実施する。

2. 低学年からのキャリア意識の醸成を目的とした支援、就職活動への円滑な展開や就職試験の対応に繋がる公務員試験対策講座や各種企画を積極的に実施する。また、宮崎県や延岡市などの自治体や地元企業と連携し、公務員を含む地元への就職者を増やす。

3. 障がいのある学生のキャリア選択と開拓を実現させるために、ハローワークを中心とする障がい者就職支援団体と連携を密にする。また、障がい者雇用に特化した求人情報サイトから情報収集し、リアルタイムで対象学生に提供する。さらに、卒業時アンケートで要望の多かったパソコンスキルの向上を目的とした資格取得講座を開設することで、医療福祉業界のDX化に対応できる人材の輩出を目指す。

令和6年度 自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
社会貢献部会								◎	

○今年度の取組状況

- ・評価スコアは、定性的な評価として、5. 達成している、4. かなり進んでいる、3. 普通、2. やや足りない、1. ほとんど進んでいない、を採用した。

1. 社会貢献活動の推進

本学の社会貢献活動の基幹事業でもある順正ジョイフルキッズクラブ(JKC)事業、順正デリシャスフードキッズクラブ(DFK)、のべおか子どもセンター事業について、例年同様に重要な子ども支援活動として事業を実施した。また、産学官連携事業等により地域課題解決への提案を行うなど地域活性化に向けた活動を推進した。さらに、地域のクリーン活動やワークショップ、イベント、市民講座などへの参加を通して、本学が積極的に社会貢献の推進に努めていることを周知した。

(評価スコア：3)

2. 情報公開、情報発信の充実

各学部・各学科・各部活動・ボランティア・各個人における社会貢献等の実績について、前期と後期に分けて調査を行い、集約した内容を大学ホームページ社会貢献活動 | 九州医療科学大学：オフィシャルサイト <https://www.phoenix.ac.jp/outline/social-action> にて広く公表している。なお、公表の成果を検証するには至っていない。

(評価スコア：3)

3. ボランティアセンター活動の推進

延岡市を中心に活動団体等からのボランティア活動要請件数は145件(昨年総数177件)、内 学生の参加件数99件(昨年総数136件)、参加者数は299人(昨年509人)と前年を下回る活動実績となっている。また、地域から活動要請がありながらも対応できなかった件数が43件であった。主な原因としては、学生数の減少に加え、台風や地震の発生など大きな自然災害もあり、学生参加の促進や地域ニーズへの大学側の調整対応が難しかったことがあげられる。

(評価スコア：2)

4. 順正ジョイフルキッズクラブ(JKC)の充実

JKCの活動は、延岡市の「ひとり親家庭等学習支援等事業」の業務委託事業(9年目)として、19回実施した(台風接近の影響で1回は中止)。中学生の登録者数は32名(昨年34名)で、延べ参加人数は291名(昨年317名)であった。運営側では、外部ボランティアとして、延岡はげまし隊や元教員、食生活改善推進員等延べ127名の協力を得ている。学内の学生ボランティアは延べ74名、教職員延べ21名であった。内外のボランティアの協力を得て年間計画に基づき学習支援を中心に、調理実習や文化・教養・スポーツ活動等を企画・実施してきた。実施状況については、JKC便りを作成し、年2回保護者や関係者に発送した。今年度の中学生・保護者へのアンケート調査結果では学習支援に95%の満足が得られている。効果として、学習意欲の高まりと交流経験による自主性や協調性の向上が挙げられる。引き続き調査結果を元に課題を明確にし、更なる充実を目指す。

(評価スコア：4)

○来年度の計画案

1. 社会貢献活動の更なる推進

各学部で推進している産学官連携による地域活性化の取組や社会貢献活動の実施状況について情報収集し、ホームページ等を活用して情報発信していく。また、大学全体で情報を共有する機会や方法を検討する。

2. ボランティアセンター活動の推進

地域関係団体からの派遣依頼の調整はもとより、ボランティアセンターによる本学独自の学内外のボランティア活動も推進していく。また、令和 9 年度に開催予定の全国障害者スポーツ大会での選手団サポーター学生ボランティア要請（70 名程度×3 日間）に向けた準備を進めていく。

3. 順正ジョイフルキッズクラブ（JKC）の充実

令和 7 年度も実施回数 20 回を計画する。学年に合わせたプログラムの工夫や実施体制の強化を図る。具体的には、調理実習や企画イベントの回数を増やす。また、3 年生には入試対策として面接練習や小論文指導などの要望に対応できるよう大学教職員と連携して充実していく。さらに、運営スタッフを増員することで、中学生と学習支援員のサポートを密にして、円滑な事業運営を確立していく。

令和 6 年度 自己点検・自己評価委員会報告書

部会名\点検・評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
学生受入部会		◎			○				

○令和 6 年度の取組状況

入学者を増やすための取り組みとして、以下 2 点を掲げ取り組んだ結果、志願者数は昨年比 115%、入学者数は昨年比 127%となった。ただし、入学定員充足率は 70.7%にとどまっており、各学科ともに 100%は達成できなかった。また、出願状況、入学定員充足率とも学科による差が認められ、大学全体の広報活動において、ターゲットの分析、対象地域の見直しが必要である。

入学者を増やすため特に以下の 2 点を強化した。

1. オープンキャンパスおよびキャンパス見学会への参加者数を増やす（目標値：前年比 130%）

今年度のオープンキャンパスの参加者数（6・7・8 月開催分）は、高校生 434 名（昨年 372 名）で前年比 116%、総参加者数 966 名（昨年 794 名）で前年比 121%であった。目標値に到達しなかったが、下記に示す年次推移から 2018、19 年度の参加者数に近い数値まで徐々に増加する傾向を示した。これらは参加者増に向けて無料送迎バスの追加など、状況に応じた細かい修正が功を奏したものと推察された。またキャンパス見学会（9 月～12 月）の参加者数は、中学・高校・既卒生 84 名（昨年 66 名）で前年比 127%となり、目標値に近い数値となった。各学部全体を俯瞰できる OC とは異なり、希望学科（コース）を詳細に見学できるキャンパス見学会の特徴が少しずつ高校生等に理解され、受験生のニーズに合った見学方法が選択されていることが推察された。

【オープンキャンパス参加者数年次推移（※高校生のみ。3 月開催分は除く）】

2024 年度：434 人 2023 年度：372 人 2022 年度：295 人

2021 年度：152 人 2020 年度：162 人（2021 および 2020 年度はコロナのため 2 回開催）

2019 年度：449 人 2018 年度：460 人

※3 月開催：2024 年度；56 人 2023 年度；73 人 2022 年度；31 人 2021 年度；54 人

1-1. 参加者数を増やすために行った方策

1) 資料請求者へ定期的なメール配信

資料請求者の一部（メールアドレス、LINE 等を活用している方）には定期的な配信（オープンキャンパス告知、イベント開催告知、出願開始のお知らせ等）を行ったが、2 年生、1 年生、地域などをセグメントしての情報発信はできなかった。今後は年間を通じた計画的な情報発信を検討していく予定である。

【資料請求者数推移】

2025 年度入学者対象：10,326 人 目標値 9,000 人（昨年比 119.3%）

2024 年度入学者対象：8,652 人 2023 年度入学者対象：9,065 人

2022 年度入学者対象：8,194 人 2021 年度入学者対象：7,899 人

2) ガイダンスへの参加を増やす

宮崎県、沖縄県など参加を強化した（参加回数を増やした）地域はあるが、参加できなかった地域もあり、学科教員の参加回数は昨年度とほぼ同数、入試広報室等職員の参加回数は増加となった（学科教員参加約 50 会場、入試広報室等参加約 140 会場（昨年 110 会場））。

3) 認知度アップのため、沖縄・鹿児島・福岡など遠方地域へはネットバナー広告を活用

年3回のうち2回を沖縄県、大分県、鹿児島県、宮崎県にネットバナー（google、Instagram等）オープンキャンパス、応援学費告知を実施した。残り1回を春のオープンキャンパスに向けて配信予定であったが、最後の入試に向けての配信に切り替えた。配信先はターゲットを絞るために福岡県を除き宮崎、大分を中心に沖縄、鹿児島にも配信。状況を見て地域や媒体を検討しながら実施した。上述した通り、今年度オープンキャンパス参加者数、志願者数共に増加した。その中には北海道、沖縄、長崎等の地域や入学実績のない高校などからの出願も一定数あったため、ネットバナー効果や大学名認知拡大対策等の効果である可能性が推察された。

2. 各学科の特色づくり（可視化）

1) 学科毎に在学生に対するアンケートを実施し、本学を選択した理由および本学の特色をまとめ「他の大学（専門学校）との相違点が“わかりやすい資料”」を作成する

アンケートについてはIRが入学後に実施するが、その結果配信と資料作成時期が合っておらずアンケートに基づく資料は作成できなかった。しかし広報委員を通じて分かりやすい資料作成の依頼を行い高校教員対象の資料を作成した。また、各学科のトピックスをホームページ、Instagram等に掲載することで、高校生向けガイダンスでの説明に活用した。また、報道機関に取り上げられた記事やニュースを通して地域貢献や他大学にはない魅力を伝えるために、トピックスの収集および報道依頼を行った。しかしながら新聞掲載件数においては昨年と同等の数値に留まった。

（新聞掲載144件、昨年144件）

○令和7年度の計画案

入学者を増やすため特に以下の4点を強化する。

1. オープンキャンパスやキャンパス見学会への参加者数を増やす（目標値：前年比120%）

- ・資料請求者への定期的な情報提供
- ・ガイダンス等の接触者を増やす
- ・沖縄、鹿児島、福岡など遠方地域へはネットバナー広告を活用して認知度を上げる

2. 宮崎県内の認知・募集強化、沖縄県（離島）の募集強化

- ・宮崎県内での認知度を上げ、県内出身者の入学生を増やすため、宮崎市内でのイベントや宮崎県内の告知を強化する。
- ・沖縄県・離島出身者に対する家賃補助制度や本学にしかない学びを伝える資料を作成し沖縄県からの受験生を増やす。
- ・計画的に学科教員が高校訪問を行い、在学生の状況報告をすることで高校との関係性を強化する。また、新規高校への訪問を計画し認知拡大を図る。

3. 学科および他委員会等との連携強化

- ・各学科代表教員との広報活動に関する意見交換を行い、情報共有の体制を更に強化することで各学科（コース）の魅力を解りやすく伝える広報活動を行う。また「大学名」を認知させるために、ブランディング委員会等、関連する部会（委員会）との連携を深める。

4. 学科ごとのターゲット対象地域の見直し、および広報

各学科の志願者出身地域（過去3年）、高校などを精査し、各学科（コース）のターゲット地域・ターゲット高校等を明確にし、1～3に示す募集強化を行っていく。

九州医療科学大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州医療科学大学（スポーツ健康福祉学科）

ビジョン (教育目標)	医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。	
区分	全学共通目標	スポーツ健康福祉学科
教育力(使命・目的等を含む)	1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。	I. 3つのポリシーを明確に示し、それらを踏まえた学修成果の可視化を図り、学生が自らの学びを振り返り展望することができる体制を構築する。 II. リメディアル教育、とくに基礎国語力の向上について、学修成果の可視化を図りながら学びに対するモチベーション維持・増進を図る。 III. 建学の理念、学部・学科の人材養成の目的を踏まえたアドミッションポリシーを策定し、学力の3要素、意欲、資質、能力を多面的に評価する評価基準の見直しを図る。 IV. 卒業研究をはじめとしたアクティブ・ラーニングを活用し、自ら考え実践できる人材の養成に繋がる教育手法について検討し、実践する。 V. 3つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価を行い、より質の高い学修成果が身につくように、教育の改善向上に取り組む。 VI. 学部（学科）FDを継続して企画・実施することで、個別の課題を横断的に共有し、学部（学科）全体および各コース個々の課題解決や、教員個々および教員組織としての教育力の向上に取り組む。 VII. 国家資格取得を目指す学生に対してロードマップを作成し、指導内容と学生の習熟度を評価し、学修成果の可視化を図りながら国家試験合格を目指す。
	2) 学修支援体制の強化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、適正な学修環境整備に努め、学生などステークホルダーの意見を反映できる体制を確保する。	I. 問題を抱えた学生を可能な限り早期に発見・対応するために、チューター・学科教員・カウンセラー・保護者・事務職員との連携を図った支援体制を強化する。 II. 学科行事やゼミ活動等を通じ、異学年の学生や卒業生と交流の場を企画し、各学生が卒業までの過程をイメージした上で、卒業に向けたモチベーションを高く持ち学生生活に臨めるように支援体制を整える。 III. 進級規程に定められたGPAおよび修得単位数の基準の意義を1・2年生にわかりやすく説明し、これらの基準を卒業に向けた短期目標として捉え、将来に希望を持ち学業に取り組めるように、また3・4年生については、卒業や資格取得等の具体的な目標を定めて主体的に学業に取り組むことができる支援体制を整える。
	3) キャリア支援並びに就職支援の強化 建学の理念に基づき、各学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」を構築すると共に、学生個々の具体的な進路や就職先をイメージした「就職支援」体制を構築する。	I. 学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」をキャリアサポートセンターとの協力により構築し、キャリアサポートセンターを積極的に活用するように促す。 II. ミスマッチを防ぐため、学生個々の具体的な進路や希望する就職先に応じた「就職支援体制」をキャリアサポートセンターとの協力により構築する。 III. キャリアサポートセンターと協力し、公務員対策を強化する。 IV. 教員が有する地域社会・地域資源との関係を活用して、学生の就職に活かす。また、新たな就職先の開拓にも努める。
	4) キャンパス環境の整備 本学の基本計画に沿って、大学の長所を活かしたキャンパス機能強化や学生のニーズを踏まえた教育研究環境の改修・改善を効果的に行うことで、キャンパスの創造的再生に取り組む。	I. 学科の各コースの強みや特色を活かした教育・研究環境の整備に取り組む。 II. 実習施設、演習室、図書館等の有効活用を図る。 III. 学修環境に関して学生の意見を基に検討し、学科レベルで可能な学修環境の整備に取り組む。

研究力	1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化 地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。	I. 地域における中核的な研究拠点として、学科の特色を生かした研究を推進する。 II. 学生を巻き込んだフィールドワークを行い、研究に繋げる。 III. 学科や学内の教員間での共同研究を促進する。 IV. 研究機器・備品等ハード面の適切な管理およびより使いやすい環境に整備する。 V. 学会発表や学術雑誌への論文投稿を促し、研究力のアップを図る。 VI. 研究成果をフォーラム、シンポジウム、研修会等で地域住民に還元する。 VII. 研究活動の助成として、科研費申請や学内の「研究経費助成」、「地域創生事業研究助成」への申請を促す。
学生支援	1) 学生生活の支援を中心としたサービス向上 学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。	I. 悩み（学生生活や授業など）のある学生が、より相談しやすい体制を構築する。 II. チューター制度を活用し、学生の単位取得状況や生活状況を把握し、学生一人ひとりの状況に応じた適切な助言、指導を行い、また必要に応じて保護者や関係者へ連絡を行う。 III. 学科会議において学生の状況を共有し、学科全体で支援する体制を整える。 IV. 学生同士、横の繋がりのみならず、縦の繋がりを築ける行事を開催する。
募集力(ブランド力)	1) ブランド形成と募集力(ブランド力)の強化 ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。	I. 戦略的な募集活動を行う。 II. 学科の施設・設備の整備を実施する。 III. 社会的ニーズに応じた教育力の向上を図る。 IV. 学科の魅力・特色や大学・学科の情報発信・広報活動を積極的に行う。
グローバル化	1) 国際競争力を意識したグローバル化の推進 国際競争力を意識した教育・研究に取り組み、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。	I. 留学生の受け入れについて、事務部門と連携・協力して環境整備を図る。 II. 海外留学・短期研修プログラムについては積極的な案内を進めて、参加学生の増加を図る。 III. 海外での学会発表や、国際ジャーナルでの論文発表などを推奨する。
地域活性化	1) 地域活性化の為に拠点創生 地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。	I. 教員とともに学生も参加し、地域の活性化や地域課題解決に向けたフィールドワークに積極的に取り組む。 II. 大学の施設や人材等を活用して、地域（自治体、関係機関、団体等）と共同企画を検討し、学生の主体的参加を促しながら協働事業を充実していく。 III. イベント情報を教員が把握し、より多くの学生にイベント参加を促す。 IV. 地域のニーズに対応すべく各種審議会や委員会の委員要請に応えていき、知の拠点としての役割を果たしていく。 V. 福祉関係機関や教育現場（小学校・中学校・高校）との連携を強化し、教員の教育力・研究力を発揮する機会を創ると同時に、地域の活性化や人材育成のために大学の知の還元を推進する。 VI. 地域における福祉、健康やスポーツに関する課題の解決を目的とした調査研究を実施する。

2024年度の総評 (今年度の取組) 【定性評価スコア】 5. 達成している 4. かなり進んでいる 3. 普通 2. やや足りない 1. ほとんど進んでいない	教育力(使命・目的等を含む) 1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化	I. 学生便覧に明示された3つのポリシーを踏まえてのシラバス作成、授業を展開した。学生が自らの学びを振り返り展望することができるように、教務課と連携して学修ポートフォリオの活用を進めているが、十分に活用できていない。 II. リメディアル教育、特に基礎国語力の向上についてICT教材を活用したホームワークを実施し、全学国語統一試験により確認した。平均点の伸びは認められなかったが、少人数ではあるが点数が大幅に増加するなど、学習成果が見られた学生もいた。 III. 本年度よりスポーツ健康福祉学科と臨床福祉学科が統合されて救急救命士養成課程を新たに設置し、スポーツ健康福祉学科の1学科、4コース体制となるために見直したアドミッションポリシーに沿った入試を行い評価した。 IV. スポーツ健康福祉学科と臨床福祉学科との統合に伴い、卒業研究発表会を合同開催した。両学科の学生が自由に発表を聴講できる環境整備に取り組んだ。異なる学科の発表を聴講する学生もみられ、概ね会の運営は成功したと考えられる。 V. 各教員が3つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価を行い、より質の高い学修成果が身につくように、教育の改善向上に取り組んだ。旧スポーツ健康福祉学科の資格合格者は、社会福祉士5名(合格率55.6%)、健康運動実践指導者1名(合格率100%)であった。教員採用試験の現役合格者、アスレティックトレーナーと健康運動指導士受験者はいなかった。学ぶ意欲、資格取得意欲の向上を目指したさらなる取り組みが必要である。 VI. 学部(学科)FDを企画・実施し、他学部教員や事務局職員も参加した。質疑応答の際にそれぞれの立場での考えも聞け、各コース個々の課題解決や、教員個々および教員組織としての教育力の向上に取り組むための参考となるものであった。 VII. はり師7名受験6名合格で合格率85.7%(全国平均89.3%、養成大学平均84.3%)、きゆう師7名受験7名合格で合格率100%(全国平均89.8%、養成大学平均86.9%)であった。一年を通して鍼灸コース全体で継続して実施した国家試験対策に加え、2月には直前対策講座を開講した。開講日には2コマ以上の講義時間を設定し、過去問題の傾向と対策、模擬問題の演習を繰り返した。 旧スポーツ健康福祉学科の社会福祉士9名受験5名合格で合格率55.6%(全国平均56.3%、養成大学平均75.2%)であった。前期6月に資格代表者による会議を実施し、年間の国家試験対策について検討した。また、月に一度、ガルーン上でのミーティングを行い進捗状況の確認を行った。 【定性評価スコア2】 2) 学修支援体制の強化 I. 各チューター教員は、教務課から適宜発信される授業の欠席状況などを基に担当学生の就学状況を把握するなど、早期に就学に問題がある学生の支援を行った。また状況に応じて保護者と連絡をとり、問題解決の働きかけを行った。これらの状況は、月に1度行う学科会議で他の教員へ情報提供を行い、学科全体で学生の支援を行えるよう取り組んだ。 II. 入学式直後に保護者も交えたチューター懇談会を行い、各コース毎のチューター単位で、上級生が大学生活や資格取得のための勉強について直接レクチャーを行うなど、大学生活をイメージしやすいような取り組みを行った。コロナ禍以降、学科の全学生が参加するイベントが行えていない状況にあったが、本年度は1年生の入学直後に上級生を交えた交流会を学科イベントとして行い、同学年間および異学年との関わりを持てるようにした。 III. 入学前ガイダンス、入学後のオリエンテーション、1年次の基礎演習およびチューター時間、各学年での前期開始時(4月)および後期開始時(9月)のガイダンス、ゼミでの指導時、各資格にかかわる授業時において、継続して確認を繰り返し、希望する資格や卒業に向けて主体的に学業に取り組めるように支援した。 【定性評価スコア3】 3) キャリア支援並びに就職支援の強化 I. キャリアサポートセンターを中心に、work Café 延岡や小規模就職説明会等を開催し、学生の参加を促した。キャリアサポートセンターの利用増加を目指したが、本年度の利用・面談件数(4月～1月)は、94件と昨年度(70件)と比べ増加した。 II. キャリアサポートセンターから学生の就職活動に関する情報を聴取し、就職活動の状況把握に努めた。就職情報や就職面談会等について、ガルーンを通じて学科内教員と情報共有を行った。3月20日時点で就職内定率は100%(昨年度96.7%)を達成した。 III. 公務員希望の学生には、積極的にキャリアサポートセンターに行くように促し、各地域の公務員試験の傾向など卒業生からの情報を確認するように働きかけた。キャリアサポートセンター、エクステンションセンターと協力し、公務員対策講座を開催し、学生の参加を促した。また、公務員希望の学生に向けた勉強会や有料模試の案内も行った。その成果として数は少ないが、県庁、市役所、消防、警察への合格者があった。また、救急救命コースをはじめとして公務員対策を強化するため、次年度より開講するキャリアデザイン演習(公務員)の準備を行った。 IV. 教員が有する地域社会・地域資源との関係を活用して、学生の就職に活かした。また、新たな就職先の開拓にも努めた。 【定性評価スコア5】
---	--	---

2024年度の総評 (今年度の取組) 【定性評価スコア】 5. 達成している 4. かなり進んでいる 3. 普通 2. やや足りない 1. ほとんど進んでいない	4) キャンパス環境の整備	I. 新たに教育・研究備品として3点を購入した。特に救急救命コースの救急車カットモデルの有効活用が期待される。また、耐用年数が過ぎ使用でなくなった備品の整理も進めた。 II. 学科教員を対象に教育備品の使用頻度を調査したところ、昨年と同定度の使用頻度が確認された。図書館での学科にかかわる新規購入書籍44冊、雑誌購読数51雑誌であった。 III. 体育館の備品について、特に開学当初からの古いものを新しいものに入れ換え、学科レベルで可能な学修環境の整備に取り組んだ。 【定性評価スコア3】
	研究力	I. QOL研究機構社会福祉学研究所と連携して、地域に根差した調査研究・イベントを実施し、助成を受けた3件を報告書としてまとめ、公表した。 II. 延岡市学校教育研修所特別支援教育部会主催「きらきらスポーツフェスタ」への補助として参加、地域の小・中・高等学校における教育活動の補助・参観や生徒との交流、市民対象の運動教室で体力測定の実施など、今後の研究に繋がるフィールドワークを行った。学生の卒業研究として、福祉・介護の現場や学校現場におけるアンケート調査および観察調査が行われた。 III. 学科や学内の教員間での共同研究を促した。学内の「地域創生事業研究助成」の共同研究者として2件採択された。 IV. 新たに教育・研究備品として3点を購入した。 V. 今年度の著作数(3)、論文数(15)、学会発表(12)、学会参加(29)、科研費応募(3)、科研費採択(4:継続を含む)、研究費助成等(2)であった。所属教員1名が博士取得に向けた研究を継続中である。 VI. 大学中核センター研究推進部門による「研究経費助成」および「地域創生事業経費助成」の研究・事業内容について、年度末に学内および市内のパブリックスペースにおいてデジタルサイネージを用いて報告し、本学科からは2名が共同研究者として報告を行った。 VII. 科研費応募(3)、科研費採択(4:継続を含む)、学内の「地域創生事業研究助成」採択2件(共同研究者)であった。 【定性評価スコア3】
	学生支援	I. オフィスアワーを積極的に活用するように学生に促した。オフィスアワー以外でも、何かあればチューターもしくは自分の話しやすい教員に相談が可能であることを伝えた。チューターやゼミ担当教員に加え、保健室内でカウンセラーによる学生相談が受けられることを学生に周知した。個人情報管理に十分配慮しながら、学内のカウンセリングに関する状況をカウンセラーと関係教員とで共有し、学生指導に活かした。 II. 学科におけるチューター制度の目的、学生支援の主な視点と役割を明文化して、生じ得る問題に対応するためのフローチャートを作成し、学科教員で共有した。これを活用し、学生の単位取得状況や生活状況を把握し、学生一人ひとりの状況に応じた適切な助言、指導を行い、また必要に応じて保護者や関係者へ連絡を行った。 III. 月1回の学科会議において各チューターからの報告により学生の状況を共有し、学科全体での支援を行った。 IV. 改組により学科定員が増加し、旧学科も存続した状態で新入生を迎えた。新入生歓迎会は実施したが、十分な調整ができずに全員の参加とはならず、その他の行事は見送りとした。今後の対応について検討中である。 【定性評価スコア3】
	募集力(ブランド力)	I. 進路ガイダンス、出張講義、高校の探求学習のアドバイザー、教育実習での巡回訪問等の機会も活用し、募集力(ブランド力)強化に努めた。強化部であるサッカー部の募集において、スポーツ系各コースで幅広く募集を行った。各コース20名の入学者確保を目指した結果、ソーシャルワーク14名(達成率70%:昨年11名)、スポーツ科学24名(達成率120%:昨年23名)、鍼灸健康13名(達成率65%:昨年11名)、救急救命17名(達成率85%:昨年17名)であった。学科全体では68名:充足率85%(昨年62名:充足率77.5%)で、昨年比7.5ポイント改善した。 II. 本学科は、改組により順次開設された4つのコースで構成されているが、近接する空き教室に学科の施設・設備を設置してきた。これにより、オープンキャンパスでは高校生と保護者が各コースの施設を見学する流れがスムーズに行え、コースの魅力や特徴を学科の一体感を持って伝えることができた。グラウンドの天然芝の整備を進めているが、サッカー部の入部体験では、天然芝グラウンドでの体験が募集にも繋がった。大学会館のAT演習室は、年度学科予算の可能な範囲で年次計画を立て、トレーナー養成のための実技授業に必要なウエイトトレーニングをはじめとした各種機器を少しずつ加え充実を図っている。その結果、スポーツ医学分野の測定評価を行うスペースが減少したため、現在空き教室となっているスペースの活用を要望した。 III. 資格取得率向上のために、各資格の担当者が模擬試験や個別に学生対応などの対策講座を行った。AT取得を目指す学生や教員が積極的に地域や高校に出向き、トレーナーとしてのサポートや講習会を実施した。学科の多くの教員がスポーツ関連の外部団体の委員を行うことで先進的なスポーツの関連の情報を得るとともに小中高の競技団体の指導者と交流を行った。本年度新設された救急救命コースの学生を中心に地域の消防団活動等に積極的に取り組み、社会的ニーズに応じた教育力の向上を図った。

2024年度の総評 (今年度の取組) 【定性評価スコア】 5. 達成している 4. かなり進んでいる 3. 普通 2. やや足りない 1. ほとんど進んでいない	募集力(ブランド力)	IV. 多角的な視点から本学の広報活動を行った。SNSの活用ではAT部、サッカー部、陸上部が学生を中心に行った。また、大学HP内の学科ブログも活用し、学科の情報発信に努めた。出張講義や模擬授業を通して近隣の中学校や高校へ学科の魅力を発信した。教育実習やアスレティックトレーナー実習は、副次的効果として学科の魅力発信・学生募集に繋がっている。また、志望動機に本学科教員について記述している受験生が増えていることから、外部依頼による講演会やスポーツ活動のサポート等も、募集力(ブランド力)向上に貢献していることがうかがえる。 【定性評価スコア4】
	グローバル化	I. 留学生1名が入学し、事務部門と連携・協力して環境整備を図った。 II. 海外留学・短期研修プログラムの案内は十分に行えていない。 III. 海外での学会発表、国際ジャーナルでの論文発表はなかった。 【定性評価スコア2】
	地域活性化	I. 木城町との連携事業で地域課題の抽出と解決に向けたフィールドワークに、学生とともに継続して取り組んでいる。 II. のべおか子どもセンターのイベントで本学体育館やグラウンドを使用し、またボランティアとして学生も参加し、親子での体力測定およびレクリエーションスポーツの体験会を実施した。「お灸教室」のイベントを企画し、学生とともに参加した。旭化成陸上部の依頼を受け、定期的な体力測定を実施した。測定は学生が担当し、結果のフィードバックも行った。 III. 高校部活動の練習会や大会、延岡市の駅伝大会、地域の特別な支援を要する小中学校の児童生徒が参加する「きらきらスポーツフェスタ」等のイベントに積極的に参加・協力した。 IV. 地域のニーズに対応すべく各種審議会や委員会の委員要請に応え、知の拠点としての役割を果たせるよう努めた。 V. 延岡市内の小学校から依頼を受け、水泳授業や遠足の補助に学生をボランティアとして派遣した。また、学外授業として本学体育館にてレクリエーション指導等を受け入れ、本学学生主体に実施した。アスレティックトレーニング部の教員と学生が高校の部活動に対するサポートを行った。高大連携を活用し、本学教員が高校部活動の外部指導者として継続的に指導を行っている。 VI. 宮崎県地域部活動移行のコーディネーターとして県内の事業への取り組みを担当した。延岡市教育委員会主催による学校インターンシップ「教育大学リーグ」に学生3名が参加し、県内外の学生と交流し、学生視点による教育現場の現状について報告を行った。 【定性評価スコア5】
2025年度への展望 (来年度の計画案)	教育力(使命・目的等を含む)	スポーツ健康福祉学科と臨床福祉学科の統合、救急救命士養成課程の新設により、スポーツ健康福祉学科の1学科、4コース体制となり、新たに見直した3ポリシーに基づき、教育力の向上に向けて設定した各目標達成に向けての取り組みを行う。 合同卒業研究発表会について、前年度の運営方法を踏襲しながら実施計画に取り組む。問題点の洗い出しや、意見聴取も行い、円滑な発表会の運営を目指す。多くの学生に幅広い学問的知識が得られる場にしていきたい。 国家資格および認定資格を目指す学生の増加、各資格の合格率が全国平均を上回り、より多くの合格者を出すため、3つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価を行い、より質の高い学修成果が身につくように、教育の改善向上に取り組む。
	研究力	大学の強みや特色を活かした研究力の強化という目標の中で、特に本学科では「地域」がキーワードとなる。その地域に関連した研究を学生と共に遂行することは、地元延岡市との「公私協力方式」として開学した本学の特色を発揮するものである。今年度は学科再編により、新「スポーツ健康福祉学科」としてスタートした。これからも地域を基盤とした研究を行い、その成果を地域住民に還元していく。 QOL研究機構社会福祉学研究所と連携を継続し、地域における中核的な研究拠点として、学科の特色を生かした研究を推進する。 学生を巻き込んだフィールドワークを研究に活かす活動は、学生の学習・研究意欲向上にも非常に有意義であり、積極的に取り組む。 論文および研究発表数は増加してきており、今後もこの状態を維持あるいは向上させるため、単独で行う研究だけではなく学科や学内、さらに学外の研究機関や研究者との共同研究を促進する。
	学生支援	1学科、4コースと学科の規模が大きくなり、学生支援の仕組み、取り組みについて、状況に合わせて再構築していく必要があるが、下記の基本に変わりはなく。 学生生活や授業などについて悩みのある学生が、より相談しやすい体制を構築する。その一つとしてチューター制度を効果的に活用していく。また、個人情報に配慮しながら学生の状況を共有し、学科全体で支援する体制を整える。 1学科4コース体制における、同学年や異学年との繋がりを築ける行事を検討し、可能なものから開催していく。

2025年度への展望 (来年度の計画案)	募集力(ブランド力)	入試広報課と連携し、本学科の各コースに関して高校生が進路を決める際に重要視する点についての情報を収集、分析し、受け身ではなく積極的に4コースが協力し合い戦略的な募集活動を実施し、各コース20名の入学者確保を目指す。 他大学との競争において特にスポーツ施設の充実を行わなければ、他のスポーツ系大学との競争は困難となるため、スポーツ施設・設備の整備を実施し、本学科の特色を活かした環境づくりに努める。 教職、アスレティックトレーナーや社会福祉関連の資格を目指す学生や教員が実践的学びを行うために、学校現場や社会福祉関連施設等と連携し、教育力の向上を図り、ブランド力向上につなげる。 部活動を学生課と協力して活性化し、各部の活動や成績の向上を目指すとともにSNS等で活動情報を広める。 学科のHPブログやSNSを充実させ、また、その他の広報媒体も活用して、学科の取り組みや学生の学びの情報を積極的に広める。
	グローバル化	事務部門と連携・協力し、受け入れた留学生の学修環境整備を図る。 海外留学・短期研修プログラムについて積極的な案内を進める。 海外での学会発表や、国際ジャーナルでの論文発表などを推奨する。
	地域活性化	地域の活性化や地域における福祉や教育、健康、スポーツ、医療に関する課題解決に向けたフィールドワークに、教員が学生とともに積極的に取り組む。その際、分野を超えた教員間の相互協力を重視し、異分野の積極的な交流を促す。 地域のイベント情報を教員が把握して積極的に協力し、より多くの学生にイベント参加を促す。加えて、大学の施設や人材等を活用し、地域と連携した福祉や教育、健康、スポーツ、医療に関するイベントを企画し、実施する。 各種審議会や委員会からの委員要請や受託業務に積極的に応じ、さらに、自身の活動や成果を積極的に情報発信し、地域住民や関係者との連携を強化するなど、教員が自身のフィールドを広げるように努める。

九州医療科学大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州医療科学大学（臨床福祉学科）

ビジョン (教育目標)	医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。	
区分	全学共通目標	学科別計画・対策
教育力(使命・目的等を含む)	1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。	①福祉現場のニーズに対応できる専門知識や技術、実践力を備えた福祉・教育人材を育成するというディプロマ・ポリシーに基づく単位認定を行うための基準を策定し、学科での周知活用を目指す。 ・福祉人材育成に求められる評価ポイントを整理し、学科内で共有し各教員が単位認定の在り方を検討する ②社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の資格取得を目指す学生に対してロードマップを作成し、指導内容と学生の習熟度を評価しながら国家試験合格を目指す。 ③3つのポリシーを踏まえた学習成果の点検や評価を定期的に学科内で行い、より質の高い教育の提供を目指す。 ・学科内で学内教育および実習教育等の学外教育において注意や教育上の配慮を要する学生の情報を共有し、学生教育の質の向上を目指す。 ④大学および学部FDに積極的に参加し、教員の教育力向上を目指す。 ⑤座学講義におけるアクティブラーニングの導入を推奨する。また、アクティブラーニング実施科目の実施状況を学科内で共有し、効果的な教授法について検討する。
	2) 学修支援体制の強化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、適正な学修環境整備に努め、学生などステークホルダーの意見を反映できる体制を確保する。	①ディプロマ・ポリシーに基づいた卒業研究の評価基準を策定し、卒業研究指導のあり方を学科で共有したうえで指導を実践し、学生が自ら学ぶ力を十分に引き出すことのできる卒業研究発表会の実現を目指す。 ②1年次からの卒業研究教育法を確立し、4年間を通じた卒業研究指導を目指す。 ③教員による講義参観や複数担当教員科目を通じて、教員相互で教授法について定期的な意見交換を実施し、また、授業アンケートの結果を踏まえ、各講義の教授法改善の良循環を目指す。 ④国語力増進プログラムを構築し、文章力・読解力の基礎ならびに論理的思考を身につけさせ、専門書の内容理解やレポート報告書の作成、卒業論文の執筆技術につなげる。 ⑤統計や社会調査等のデータの取り扱いに際し必要となる数学的知識や操作スキルを習得させ、エビデンスに基づいた論理的思考教育を目指す。
	3) キャリア支援並びに就職支援の強化 建学の理念に基づき、各学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」を構築すると共に、学生個々の具体的な進路や就職先をイメージした「就職支援」体制を構築する。	就職率100%を目指す ①「基礎演習」（1年次必修）の中で、キャリア教育を取り入れ、就職についての動機付けを行う。 ②学科会議等を利用して、個々の学生のニーズを教員間で共有し、学科全体としてのサポート体制を整える。 ③ミスマッチを防ぐために、インターンシップや就職ガイダンス等への参加を促進して、学生の自己覚知を促す。 ④キャリアサポートセンターを積極的に活用するように指導する。特に就職面接対策講座等の受講を促す。 ⑤キャリアサポートセンターとの連携を密にはかる。特に就職面談会等の情報を教員も把握して、参加促進をはかる。 ⑥教員が有する地域社会・地域資源との関係を活用して、学生の就職に活かす。また、新たな就職先の開拓にもつとめる。
	4) キャンパス環境の整備 本学の基本計画に沿って、大学の長所を活かしたキャンパス機能強化や学生のニーズを踏まえた教育研究環境の改修・改善を効果的に行うことで、キャンパスの創造的再生に取り組む。	①学修環境に関して学生の意見を基に、学修環境について検討し安全で快適なキャンパス生活実現に向けた環境整備に取り組む。 ・演習室、図書館、英語村等の有効活用を図る。

研究力	1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化 地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。	①地域における中核的な研究拠点として学科の特色を生かした研究を推進する。 ・地域のネットワークや資源を活用し、地域に密着したテーマに基づいた研究を推奨する。 ・学生を巻き込んだフィールドワークを行い、研究に繋げる。 ・学科教員間での共同研究を勧める。 ・研究成果をフォーラム、シンポジウム、研修会等で地域住民に広く還元する。 ・学会発表や学術雑誌への論文投稿を促し、研究力のアップを図る。 ②研究活動の助成として、科研費申請や学内の「研究経費助成」、「地域創生事業研究助成」への申請を促す。
学生支援	1) 学生生活の支援を中心としたサービス向上 学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。	①学生の健康相談や経済的支援（奨学金等利用を含む）に関して担当部署、保護者等との連携を図る。 ②学内のバリアフリーに関する課題を検討し学内の利便性を図り、学生のサービスへとつなげる。
募集力(ブランド力)	1) ブランド形成と募集力（ブランド力）の強化 ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。	①学科の魅力発信 ・高校（特に出身校や福祉科高校など）と連携を図り、学科の魅力を伝える。 ・学科ブログを更新し、近況をアップする。 ・保護者通信で在学生の様子や学科の取り組みを紹介する。 ②オープンキャンパスのあり方を検討し、分かりやすい学科案内方法を検討する。 ③高校のガイダンス（出張講義）や大学見学会、体験型模擬授業、こども体験学習等を積極的に受け入れ、福祉の職業理解につなげる。 ④学生が地域（学外）に出る機会（ジョイフルキッズクラブ、ボランティア活動、授業活動等）を通して、地域との交流を図る。 ⑤公開講座やセミナー、科目履修証明プログラム等を通して、教員一人ひとりの研究内容や講義内容を地域住民へ情報発信をする。
グローバル化	1) 国際競争力を意識したグローバル化の推進 国際競争力を意識した教育・研究に取り組み、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。	①海外での学会発表や、国際ジャーナルでの論文発表などを推奨する。 ②留学生の受け入れを積極的に行い、事務部門と連携・協力して、受け入れに伴う環境整備を図る。
地域活性化	1) 地域活性化の為に拠点創生 地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。	①教員をはじめ学生参加により、地域の活性化や地域課題解決に向けたフィールドワークを積極的に取り組む。 ②大学と地域（自治体、関係機関、団体等）と共同企画を検討し、学生の主体的参加を促しながら協働事業を充実していく。 ③地域のニーズに対応すべく各種審議会や委員会の委員要請に応じていき、知の拠点としての役割を果たしていく。 ④福祉関係機関や教育現場（中学・高校）との連携を強化し、教員の研究力を発揮する機会を創ると同時に、人材育成・地域の活性化に還元していく。

2024年度の総評	教育力(使命・目的等を含む)	1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 (70%) 1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 ①福祉現場のニーズに対応できる専門知識や技術、実践力を備えた福祉・教育人材を育成するというディプロマ・ポリシーに基づく単位認定について、各学科教員による単位認定基準の共有化を図り、専門知識や技術、実践力の醸成に対する評価について検討した。 ②社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家試験対策について、前期6月に資格代表者による会議を実施し、年間の国家試験対策について検討した。また、月に一度、ガールーン上でのミーティングを行い進捗状況の確認を行った。 国家試験の結果は、社会福祉士が臨床福祉学科75.0%合格（全国合格率56.3%）、精神保健福祉士が90%合格（全国合格率70.7%）、介護福祉士が100%合格（全国合格率78.3%）であった。社会福祉士80%以上合格、精神保健福祉士100%合格の目標達成には至らなかった。転科生1名、編入学生1名が社会福祉士国家試験に合格した。 ③3つのポリシーを踏まえた学修成果の点検や評価について、毎月開催される臨床福祉学科会議で学生生活および出席状況、学修状況において課題を抱える学生について、担当教員をはじめ他教員からからの情報収集し、情報共有を行った。さらに、課題のある学生には指導を行うことに加え、保護者への情報提供を行い課題改善に向けて学科全体で対策した。結果、留年となった学生は、4年次生0名、3年次生4名、2年次生1名であった。 ④9/4実施の大学FD研修会「GPS-Academicの活用と教学マネジメント」には、研修会開催日時と業務が重なった教員以外は、全員、参加した。また、他学部のFD研修会「講義テーマ：届けるコミュニケーション」にも積極的に参加し、教育力の向上を図った。 ⑤アクティブラーニングについて、各教員が講義においてフィールドワーク等を企画し教育の質の向上に取り組んでいたが、学科内での情報共有には至らなかった。 2) 学修支援体制の強化 (65%) ①2024年度の卒論指導に卒業研究評価基準を導入し、評価の平準化を図った。また、2～3年生（学科募集停止のため1年生は不在）に卒業研究発表会への出席を義務づけ、卒業研究着手に向けた動機づけをおこなった。 ②卒業研究の評価基準を導入したことで、教育水準の平準化に一定の効果があったが、卒業研究教育の問題点の共有、教育法の確立には至らなかった。 ③演習・実習等において授業参観や定例会議を定期的におこない、授業改善に努めた。授業アンケートの回答率向上に対する有効な手立ての検討と取り組みは実施していない。 ④学科廃止に伴いWEB学習教材を活用した国語力増進プログラムは2023年度で完了した。 ⑤フィールドワーク演習Ⅰ・Ⅱの時間において、学生の取り組む卒業研究を題材にして、調査法、分析法、コンピューター操作法について、研究法を体系的に指導するシラバスを作成・実施した。 3) キャリア支援並びに就職支援の強化 (80%) ①「基礎演習Ⅰ」で、チューター時間にキャリアサポートセンターを訪問し、職員からキャリアサポートセンターの役割や目的について講義を受けた。 ② 学科会議において、学生の就職状況についての情報共有はしている。 ③ ④ゼミにおいて、担当教員より就職ガイダンス等への参加促進は促している。また、随時学生より進捗状況を把握し、キャリアサポと情報共有・連携をしている。R.7.3.25 現在の就職率は90%である。公務員3名（宮崎県庁1名、宮崎市役所1名、延岡市役所1名）就職した。 ⑤ 就職面談会等の開催についての情報はキャリアサポートセンターより連絡を受け、ガールーン上で情報発信している。 ⑥ 福祉は学生の売り手市場の傾向が強く、新たな就職先を特段開拓する必要はなかったので実施していない。 4) キャンパス環境の整備 (80%) 基礎演習（チューター時間第1回目）等の授業で、演習室、図書館、英語村等のキャンパス環境を学生に周知した。ゼミ活動や自主勉強、国家試験受験者に対して、演習室を有効活用できるようにしている。
-----------	----------------	--

2024年度の総評	研究力	研究力 (60%) ①県内自治体との連携事業の一環で、学生を中心としたフィールドワークを実施した。地域のネットワークを活かした研究については一部実施している教員もいるが、積極的に実施できてはいない。学生間での共同研究は一部実施している。研究成果の公表は、地域住民も交えた報告会等を実施している。全体で学会発表数は8、学術雑誌への掲載は4であった。博士論文作成中1名。 ②科研費への応募数は1、科研費の継続が3であった。「研究経費助成」、「地域創生事業研究助成」への申請は一部見られたものの、積極的に実施できていない。
	学生支援	学生支援 (75%) ①オフィスアワーやチューター時間、ゼミ時間を活用し学生の生活状況や学業等について個別面談等を実施した。学生の個人情報を守秘できる範囲で学科会議等で情報共有し学科教員全体で共有している。進級が難しい学生、欠席の多い学生に対しては学生、保護者に早期に対応している（継続中）。 ②バリアフリーに関する課題は、学生より意見はなかったが、教員から積極的なはたらきかけはしていない。
	募集力(ブランド力)	募集力 (80%) 臨床福祉学科は、2024年度、募集停止となりスポーツ健康福祉学科ソーシャルワークコースとして学科統合となった。 【ソーシャルワークコース】 ①学科の魅力発信 高校の探求学習のアドバイザーとして学科教員が参加。また「宮崎県高校生介護技術コンテスト」（福祉科高校）の審査委員、普通科高校の進路ガイダンスや模擬授業などを通して中・高校へ福祉の魅力を伝えた。学科ブログの更新については、学科統合になり、福祉に関する内容を更新できていない。年2回の社会福祉学部保護者通信を発行した。 ②団一ブンキャンパスのあり方の検討 コースごとに体験や相談のブースを設け、のぼり旗を立てた。4コースの協で案内がスムーズにできている。来場者は例年並みであった。 ③盲校のガイダンスや大学見学会、体験型模擬授業、こども体験学習等を積極的に受け入れ、福祉の職業理解につなげた。 見学会（ソーシャルワークコース）では、9～12月に延べ4人の高校生が参加した。高校の進路ガイダンス（出張講義・福祉の仕事）5件、中学・高校生の大学訪問（模擬授業）7件、受け入れを行った。 ④学生が地域に出る機会を通して、地域との交流を図る。 ジョイフルキッズクラブ、ボランティア活動、日向国地域体験学習、木城町連携事業、防災フェスタ、防災ボランティアセンター設置運営訓練、専門職との事例検討会など、実習以外でも授業やボランティアで、地域の方々と交流を継続した。 ⑤公開講座やセミナー、科目履修証明プログラムを通して、教員一人ひとりの研究内容や講義内容を地域住民へ情報発信する。 公開講座1件、出前講座2件実施した。科目履修証明プログラムの参加者はない。
	グローバル化	グローバル化 (0%) ①海外での学会発表や、国際ジャーナルでの論文発表などの情報交換はできていない。 ②留学生の受け入れ（1年生中国国籍の学生）や環境整備に関しては取り組んでいない。

2024年度の総評	地域活性化	地域活性化（90%） ①教員・学生参加による、地域の活性化や地域課題解決に向けたフィールドワーク 1）木城町との連携事業の実施 ソーシャルワーク演習（2年生対象40名）木城町でのフィールドワークを実施した（7月と12月）。 特徴1）まち歩き点検により地域課題を抽出、改善案を検討し、木城町に対して報告会を行い、地域活性化に向けて対応策を提案した。 特徴2）木城町内福祉事業所3カ所を訪問し、利用者と学生の交流を図った。また、施設職員等へのインタビューを行い、施設紹介動画を作成し、木城町ホームページ等広報活動の資料として提示した。 2）災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施と災害時避難経路フィールドワークの実施 ソーシャルワーク演習Ⅳ（3年生30名）が、アパートなどの居住地から近隣避難所への避難経路を昼夜2回歩くことにより、危険個所の確認とリスク回避策を考察した。 3）3月2日（日）延岡市防災フェスタへの4名の学生参加により学生のフィールドワーク実施状況の展示を行い、普及啓発活動にかかわった 4）宮崎県障がい者相談支援事業連絡協議会との共同事例検討会の実施 （精神保健福祉援助演習Ⅰ・時事福祉学Ⅱ 11月8日（金）3～4限目） 内容：現場で活躍されている相談支援専門員の方々（44名）から実際の事例を提示していただき、支援の現状と課題を学ぶとともに、求められる対策について学生（50名）と相談支援専門員がともに検討した。 ②宮崎県事業「土呂久を学ぶフィールドワーク」2025年3月19日～20日 参加者：宮崎県環境管理課（2名）、NPO法人アジア砒素ネットワーク（AAN 4名、大学13名（教員2名、学生11名） 内容：高千穂町 土呂久公舎の歴史、文化に関する講演、現地視察 ③県、市町村、各種団体からの要請に応え、学科教員9割は各種審議会や委員会委員など26の組織委員において役割を果たしている。 ④福祉関係機関や教育現場（中学・高校）との連携を強化し、教員の研究力を発揮する機会を創ると同時に、人材育成・地域の活性化に還元している。 ⑤県内外福祉・医療関係機関・団体からの研修講師の派遣依頼が35件あり、教員の専門性を発揮する機会を得て地域の人材育成に還元した。また、教育現場への出張講義には中学3回・高校5回行い、高校での探求学習には3回シリーズで指導した。
2025年度への展望	教育力(使命・目的等を含む)	1）3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 1）3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 ①福祉現場のニーズに対応できる専門知識や技術、実践力を備えた福祉・教育人材を育成するというディプロマ・ポリシーに基づく単位認定基準を6月までに作成し、学科教員で共有するとともに、単位認定試験において基準に基づく単位認定を行う。 ②前年度の結果を評価検証し、特に社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験対策の充実を図る。前期における受験生の習熟度を評価し、試験対策の軌道修正を行う。前期および後期に各1回、国家試験対策状況を共有するための代表者会議を開催するとともに、毎月、進捗状況をガルーン上で共有し指導内容を検討する。社会福祉士80%以上、精神保健福祉士・介護福祉士100%の合格を目標とする。 ③3つのポリシーを踏まえた学修成果の点検や評価を毎月開催される臨床福祉学科会議で行う。視点として、学生が抱える生活および学修状況における課題に加え、積極性や行動力、社会貢献など他学生の模範となるような学生についても共有し、学生の力を引き出すための指導方法を検討する。 ④大学および学部FDに全学科教員が参加し、教育力の向上を目指す。 ⑤学科教員が実施しているアクティブラーニングの事例を学科会議で共有し、各講義での教育方法の工夫を実施する。 2）学修支援体制の強化 ①卒業研究評価基準導入による効果と問題点を共有し、改善する。 下級学年の卒業研究発表会への参加を義務づけ、学生から自ら学ぶ力につながるようにする。 ②学科教員が抱えている卒業研究教育における問題点を共有し、教育法確立につなげる方策を検討する。 ③相互の授業参観や定例会議をつうじて情報交換をおこない、授業改善に努めていただく。授業アンケートの回答率を向上させるための手立てを検討し、実施する。 ⑤フィールドワーク演習Ⅰ・Ⅱのシラバスを見直し、卒業研究に円滑につながる研究教育法の確立を目指す。 3）キャリア支援並びに就職支援の強化 キャリアサポートセンター職員と情報共有し、就職率100%となるよう学生指導を行う。

2025年度への展望	教育力(使命・目的等を含む)	4) キャンパス環境の整備 ・学生が自由に学習図書を使用できるような場を設けていく。 図書館の資料を活用して、探究的な学習を繰り返し経験することにより、学生の関心に応じて主体的に学習したり、問いを見いだして解決したりする機会を設ける。 ・情報機器を使用できるような場を設け学生に周知する。 適切に情報機器を使用し、情報を収集・選択・活用する力を身につけることができるような機会を設ける。
	研究力	①地域のネットワークや資源を活用し、宮崎県、近隣地域が抱える問題、テーマに基づいた研究を推奨する。研究活動は学科教員に限定せず、他大学の研究者、学生と積極的に研究会等で学術交流を図る。また、研究成果は学会発表や学術雑誌へ積極的に論文投稿し、フォーラム、シンポジウム、研修会等を本学を会場として活用して地域住民に還元する。 ②研究助成を活用した研究に関しては、学会発表、学術論文投稿による公表を行う。
	学生支援	①オフィスアワー、チューター時間、ゼミ時間を活用し学生の状況を把握し、必要時は学科教員、学科長・学部長、担当部署と連携し早期対応をする。新1年生はスポーツ健康福祉学科なので、連携していく。 ②学生から学内のバリアフリーに関する意見を聞く。
	募集力(ブランド力)	①②③④⑤スポーツ健康福祉学科教員の一人として継続して積極的に取り組んでいく。
	グローバル化	①海外での学会発表や、国際ジャーナルでの論文発表するための情報収集・共有をする。 ②他コースの教員と連携し、留学生の受け入れ環境整備を積極的に取り組む。
	地域活性化	①②③④ 継続していく。また、新規での要請も積極的に取り組む。

九州医療科学大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州医療科学（臨床心理学科）

ビジョン (教育目標)	医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。	
区分	全学共通目標	学科別計画・対策
教育力(使命・目的等を含む)	1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。	1 臨床心理学科における3つのポリシーを明確に示し、ステークホルダーへの理解を深めることで、教育目標の実現を図る。 2 臨床心理学科が掲げる3つのポリシー（DP・CP・AP）について、学生などのステークホルダーが、ホームページ・ガイダンス・オリエンテーション等の様々な方法をスムーズに活用できるように促す。また、学生自らの学びを省察できる体制を構築する。その方法として以下の取り組みを重点課題とする。 ・学修支援システム（UNIVERSAL PASSPORT）の積極的な活用を促す。 ・基礎教養教育における学部横断型カリキュラムの全学協働による展開と受講を促進させる。 ・国語力等の向上にののための課題実施及び、elearningを積極的に活用する。 ・初年次教育につながる入学前教育の実施する 3 学生自らが考える力を向上させる。その対策として以下のような取り組みを進めていく。 ・卒業研究指導のあり方を検討し、学生が自ら学ぶ力を十分に引き出すことのできる卒業研究を目指す。 ・できる限り多くの科目において、学科教育力を向上させるアクティブラーニングの導入を目指す。 ・コース会議等で卒業研究の取り組み状況を確認し合い、全員の卒業論文の完成を目指す。 4 基礎国語力増進させる。対策として以下のような取り組みを進めていく。 5 学修成果の点検・評価においては、臨床心理学科の3つのポリシーを踏まえて、PDCAサイクルを円滑に確立し、より質の高い学修成果が身につくように、教育の改善・向上に取り組んでいく。
	2) 学修支援体制の強化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、適正な学修環境整備に努め、学生などステークホルダーの意見を反映できる体制を確保する。	1 大学院進学希望者への効果的な対策を行う。 ・高校英語の再学習の機会を設け、英語力の向上を図る。 ・英語村を積極的に活用し、インプットだけではなくアウトプットの学習にも力を入れる。 2 国家試験合格率アップへ向けた対策を行う。 ・国家試験対策部会で効果的な対策方法を検討・実施し、コース会議等でその効果を検証する。 ・1年次から資格関連科目の授業において、必要に応じて資格取得の意義・意識づけを行う。 ・資格希望者のうち、成績不振者に対して個別指導による国家試験対策を行う。 ・コース会議等で各学生の成績を共有し、教員間で個別の対策を検討する。 3 学科教員の教育力のアップを図る。 ・授業改善に向けたFDへの積極的な参加を促す ・学修成果可視化に向けた教員相互による授業改善の仕組みを検討する。 4 教育施設のレベルアップを図る。 ・社会生活コミュニケーション室、家庭生活コミュニケーション室等を設備し、学内の実習・演習等で積極的に活用する。 ・学生の学習場所として演習室を積極的に開放し、国家試験対策や単位認定試験対策等の学習の利用を促す。 ・学生の学習場所で学生が使用できる学習資料や学習ツールを充実させる。

教育力(使命・目的等を含む)	3) キャリア支援並びに就職支援の強化 建学の理念に基づき、各学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」を構築すると共に、学生個々の具体的な進路や就職先をイメージした「就職支援」体制を構築する。	1 学生の希望する就職先への就職率をアップさせる。 - 履歴書作成や模擬面接等を通じて、全ての学生が希望する就職先へ就職できるよう、キャリアサポートセンターと連携を取りながら、きめ細かい指導を行う。 「即戦力の九保大生」「印象の良い九保大生」を求人側施設にアピールできるよう、学生に臨床教育を行う。 - 低学年からインターシップへの積極的な参加を促し、キャリアイメージを早期に形成できるように支援を行う。 2 キャリア支援の一環として、行われる公務員試験対策講座への積極的な参加を学生に促す。 3 学生に各種就活イベント等への参加を促進する。 - キャリアサポートと連携し、学科に必要なガイダンスを通年で実施する。 - 対面での就職活動を意識したイベントへの参加を促す。
	4) キャンパス環境の整備 本学の基本計画に沿って、大学の長所を活かしたキャンパス機能強化や学生のニーズを踏まえた教育研究環境の改修・改善を効果的に行うことで、キャンパスの創造的再生に取り組む。	教育施設のレベルアップを図る。 - 社会生活コミュニケーション室、家庭生活コミュニケーション室等を設備し、学内の実習・演習等で積極的に活用する。 - 学生の学習場所として演習室を積極的に開放し、国家試験対策や単位認定試験対策等の学習の利用を促す。 - 学生の学習場所で学生が使用できる学習資料や学習ツールを充実させる。
研究力	1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化 地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。	1 学科教員の研究力アップを図る。 - 学科教員間で研究力アップの仕組みを検討する。 - 研究力アップの仕組みを充実させ、研修等を周知する。 - 学会への参加等、研究活動に必要な機会を保障する。 - 学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に推進する。 2 研究施設のレベルアップ。 - 必要な研究施設・設備の調査を行う。 - 研究施設充実のための資金調達の検討を行う。 - 必要な研究施設整備を行う。 3 外部資金の獲得を目指す。 - 外部資金獲得に関する研修会等の参加を促す。 - 研修等で得た知識を活かして、資金獲得の具体的な対策を立てる。 - 科研費や外部資金への積極的な申請を促す。
学生支援	1) 学生生活の支援を中心としたサービス向上 学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。	1 学生生活を積極的にサポートする。 - 定期的なチューター面談を実施し、学生の情報をコース会議等で報告し、教員間で共有する。 - 学生の学力の把握を常時行い、必要に応じてチューターからの指導を実施する。 - 学生の適性やモチベーションに応じた指導を行う。 - 学生の意見を教育内容や方法に反映させ満足度の向上を図る。 2 退学者を防止する。 - 連続欠席者に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。 - 学生が抱える問題を早期に発見し、健康管理センターと連携して適切に対応する。 - 教員はオフィスアワーだけでなく、相談やコミュニケーションがとりやすい環境を作る。 - チューターも含めた複数の教員で学生に寄り添い、不安や困りごとに対応する。 - 転学科してきた学生に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。 - 転学科してきた学生について、教員間で情報を共有し、早期対応を行う体制をとる。

学生支援		3 社会人としてのマナーを身につけさせる。 ・各チューターやゼミ担当教員が、マナーについて学生の心構えについて確認し、大学生の生活の様々な場面で、社会が求めるマナーが身につくように必要な指導を実施する。 ・教員から学生に対して積極的な挨拶を行い、普段から学生にどの程度のマナーが身についているかを教員間で確認する。 ・学内実習を通して、社会人として現場に必要な基本的態度、他人との関わり方について具体的な指導を行う。
募集力(ブランド力)	1) ブランド形成と募集力(ブランド力)の強化 ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。	1 学科入学定員確保のための対策。 ・教員が学生ファーストの立場で教育を行い、在学生から家族や後輩、学校関係者に本学科の肯定的な評価が伝わるよう日々努力する。 ・入試広報、教員との連携を進めて広報活動を活発にする。高校訪問、出前講義等を活用し、本学科に興味関心を向けてもらえるよう働きかけ、一般入試における入学希望者の増加に繋げる。 ・本学科の教育理念、方針、コース内容などについてわかりやすく説明できるチラシ等の作成を行う。 ・入学者に対する入学動機、傾向を調査し、結果を広報活動に活かす。 ・入試広報室と定期的に情報交換会を行い、奉公活動のあり方を協議する。 ・高校訪問、出張講義等を積極的に行い、本学科をアピールする。 2 学科の魅力を発信する。 ・中高生の学科見学、高校からの模擬講義、出張講義等に積極的に対応する。 ・社会で活躍している卒業生の情報を収集し、オープンキャンパス等で紹介する。 ・国家資格取得状況についてチラシ、ホームページ等を活用して発信する。 ・保護者通信等で在学生の様子や学科の取り組みを紹介する。
グローバル化	1) 国際競争力を意識したグローバル化の推進 国際競争力を意識した教育・研究に取り組み、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。	1 学内の国際化推進に努める事で、グローバル化を推進する。 ・学科の学生に対して、ラーニングサポートセンター（英語村）の積極的な利用を促す。 ・学科教員に対して。海外の研究者との共同研究や、海外での学会発表、国際ジャーナルでの論文発表など、海外を意識した研究活動を促す。
地域活性化	1) 地域活性化の為に拠点創生 地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。	1 学科教員の地域連携力を向上させる。 ・教員と自治体・関係機関・団体・学校との連携活動状況（連携協働事業、教員の専門知識・技術、研究成果の提供状況）を把握し、状況を教員間で共有するとともに、その成果を検証・分析し、連携の強化を図る。 ・教員に期待される地域のニーズ・期待度を把握する（自治体・関係機関等） ・連携推進に係る検討チームを設置し、地域要請に応えられるよう相談窓口を検討する。 ・学会等、関連団体の役員として、地域・社会貢献を行う。

2024年度の総評 (今年度の取組)	教育力(使命・目的等を含む)	1 基礎国語力の向上 - 入学前教育で国語力向上の課題を継続し、基礎国語力の増進を図った。 - 学生に対して基礎演習と並行して、e-learning等々に積極的に取り組むように指導したが、実際に取り組む学生は少なかった。 - 多くの学生が卒業研究に主体的・積極的に取り組んだ。 - 学科の科目でアクティブラーニングに取り組んだ。 - 来年度以降e-learningによる国語力向上を見直し、学科独自の国語力対策を進めることになった。 (達成度:4) 2 学修支援体制の強化 - 学科全体として、学習支援体制の強化を行うことはできなかったが、各教員が個別の対応を積極的に行なった。 (達成度:3) 3 国家試験、大学院試験、就職率の強化 - 言語聴覚士国家試験合格率は83%であった。 - 公認心理師指定大学院志望者の進学率は87%であった。 - 就職希望者の就職率は78%であった。 (達成度:4)
	研究力	- 学会への参加等、研究活動に必要な研修の機会を保障した。 - 各教員学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に行なった。 - 国際学会での発表や国際誌への論文掲載も見られた (達成度:4)
	学生支援	- 連続欠席者に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行った。 - 学生が抱える問題を早期に発見し、健康管理センターと連携して適切な対応を行った。 - 本年度の退学者は1名であった。 (達成度:4)
	募集力(ブランド力)	- 入試広報、教員との連携を進めて広報活動を活発に行なった。 - 土日見学会、オープンキャンパス、高校訪問、出前講座等を活用し、本学科に興味関心を向けてもらえるよう積極的に働きかけた。 - 本学科の教育理念、方針、コース内容などについてわかりやすく説明できるチラシ等の作成を行った。 - 入試広報室と定期的な情報交換会を行い、広報活動のあり方を協議した。 - 高校訪問、出張講義等を積極的に行い、本学科を知らない学校関係者、生徒、保護者に本学科の特色をアピールした。 - 令和7年度の本学科の入学予定者が前年度に比べて倍になった。 (達成度:5)
	グローバル化	- 学科の学生は、ラーニングサポートセンター（英語村）を積極的に利用した。 - 海外での学会はあったが、インパクトファクターの高い国際ジャーナルでの論文掲載がなかったため、引き続き学科教員の積極的な研究活動を促していく。 (達成度:4)
	地域活性化	- 昨年度と同様に、教員と自治体・関係機関・団体・学校との連携活動状況（連携協働事業、教員の専門知識・技術、研究成果の提供状況）を把握し、状況を教員間で共有するとともに、その成果を検証・分析し、連携の強化を図った。 - 学科教員が学会等、関連団体の役員として、地域・社会貢献を行った。 (達成度:4)

2025年度への展望 (来年度の計画案)	教育力(使命・目的等を含む)	1 基礎国語力の向上 ・入学前教育で国語力向上の課題を継続し、基礎国語力の増進を引き続き図っていく。 ・基礎演習の中で、学科独自の国語力向上の取り組みを行う。 ・学生が自ら学ぶ力を十分に引き出すことのできる卒業研究を目指す。 ・できる限り多くの科目において、学科教育力を向上させるアクティブラーニングの導入を目指す。 ・学生全員の卒業論文の完成を目指す。 2 学修支援体制の強化 ・学科教員の教育力のアップを図る。 ・授業改善に向けたFD等への積極的な参加を促す ・教員相互による授業見学等を行い、授業改善の内容等を検討する。 3 国家試験、大学院試験、就職率の強化 ・言語聴覚士国家試験合格率100%を目指す。 ・公認心理師指定大学院志望者の進学率100%を目指す。 ・就職希望者の就職率100%を目指す。
	研究力	・学会への参加等、研究活動に必要な研修の機会を保障する。 ・学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に推進する。 ・積極的に外部資金を獲得できるようさまざまな働きかけを行う。
	学生支援	・連続欠席者に対して、チューターや授業担当者を中心に早期対応を行う。 ・学生が抱える問題を早期に発見し、健康管理センターと連携して適切な対応を行う。 ・学生がいつでも教員等に相談できるような支援体制の構築を検討する。 ・心理的な問題を抱えて登校が困難が学生に対して、本学の通信教育等への転科を提案する。 ・心理的な問題を抱える学生に対して様々な配慮を行う。 ・本学科の退学者0人を目指す。
	募集力(ブランド力)	・教員自身が学生ファーストの立場で教育を行い、在学生から家族や後輩、学校関係者に本学科の肯定的な評価が伝わるよう日々努力する。 ・入試広報、教員との連携を進めて広報活動を活発に行う。 ・土日見学会、オープンキャンパス、高校訪問、出前講座等を活用し、本学科に興味関心を向けてもらえるよう積極的に働きかける ・本学科の教育理念、方針、コース内容などについてわかりやすく説明できるチラシ等の作成を行う。 ・入試広報室と定期的な情報交換会を行い、広報活動のあり方を協議する。 ・高校訪問、出張講義等を積極的に行い、本学科を知らない学校関係者、生徒、保護者に本学科の特色をアピールする。
	グローバル化	・学内の国際化推進に努めグローバル化を推進する。 ・学科の学生に対して、ラーニングサポートセンター（英語村）の積極的な利用を促す。 ・学科教員に対して。海外の研究者との共同研究や、海外での学会発表、インパクトファクターの高い国際ジャーナルでの論文発表など、海外を意識した研究活動を促す。
	地域活性化	・教員と自治体・関係機関・団体・学校との連携活動状況（連携協働事業、教員の専門知識・技術、研究成果の提供状況）を把握し、状況を教員間で共有するとともに、その成果を検証・分析し、連携の強化を図る。 ・教員に期待される地域のニーズ・期待度を把握する（自治体・関係機関等） ・連携推進に係る検討チームを設置し、地域要請に応えられるよう相談窓口を検討する。 ・学会等、関連団体の役員として、地域・社会貢献を行う。

九州医療科学大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州医療科学大学 通信教育部（臨床福祉学科）

ビジョン (教育目標)	医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。	
区分	全校共通目標	学科別計画・対策
教育力(使命・目的等を含む)	1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。	・3つのカリキュラムポリシーを明確に示すとともに、通信教育部の特徴について、学生などステークホルダーに対し、多様な情報媒体（雑誌、ホームページやガイダンス等）を活用し周知する。 ・学修者が目標とする資格取得や学習方法を支援するため、カリキュラムツリー（履修系統図）や履修モデルを提示する。 ・定期的な授業アンケートを実施し、学修成果の点検や評価を行い、教育内容・方法及び学習指導等の改善に取り組み、より質の高い教育の提供を目指す。 ・オンラインによるスクーリングの効果的な教授法について検討する。
	2) 学修支援体制の強化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、適正な学修環境整備に努め、学生などステークホルダーの意見を反映できる体制を確保する。	・通信教育部の学習支援体制の改善点を明確にし、環境を整備していく。 ・特に、ハイブリッドコースの学生が、学内で相互交流したり、添削課題等に取り組むことができる場所・空間を確保する。 ・学生によっては通信環境が不安定な場合もあるため、学内において、スクーリングや単位認定試験の際に活用できるパソコン室を設置し、運用する。（LL教室等学内優先で使用されており、随時使用できない状況にあるため） ・オンラインによる学生相談会を実施し、得られた情報を適切に分析・検討していく。 ・学生の学修進捗状況を確認し、継続的な学修環境へのサポートを通して、退学防止に努める。
	3) キャリア支援並びに就職支援の強化 建学の理念に基づき、各学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」を構築すると共に、学生個々の具体的な進路や就職先をイメージした「就職支援」体制を構築する。	・キャリアサポートセンターと連携し、通信教育部からの就職希望者に対しても就活情報の提供を行う。また、必要に応じてオンラインでの面接指導や履歴書添削など、個別の就職支援も行う。 ・学生からの要望があれば、求人受付ナビの閲覧が出来るように設定し、本学に届いている全国からの求人情報をオンラインで確認出来るよう設定する。
	4) キャンパス環境の整備 本学の基本計画に沿って、大学の長所を活かしたキャンパス機能強化や学生のニーズを踏まえた教育研究環境の改修・改善を効果的に行うことで、キャンパスの創造的再生に取り組む。	・ハイブリッドコースの学生が、学内で相互交流したり、添削課題等に取り組むことができる場所・空間を確保する。（再掲） ・学生によっては通信環境が不安定な場合もあるため、学内において、スクーリングや単位認定試験の際に活用できるパソコン室を設置し、運用する。（LL教室等学内優先で使用されており、随時使用できない状況にあるため）（再掲） ・通信事務課に隣接して学生の相談スペースを確保し、通信生が来学した際に、気軽に相談できる環境を整備する。
	1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化 地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。	・基礎となる学部において研究活動を推進する為、通信教育部独自では目標や計画は策定しない。
学生支援	1) 学生生活の支援を中心としたサービス向上 学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。	・通信制への入学動機等から、心身に関することや経済的な背景を把握し、支援の必要性を通信事務課と教員で情報共有し、支援体制を構築していく。 ・経済的支援（奨学金等利用を含む）に関して担当部署、保護者等との連携を図る。 ・学修の進捗状況を把握し、必要に応じて個別に相談対応していく。 ・学生の問い合わせに対して、メール・電話等を活用して迅速に対応できるようにサービス向上に努める。
募集力(ブランド力)	1) ブランド形成と募集力(ブランド力)の強化 ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。	・通信教育部の特色（福祉と心理が学べる）や学習方法の選択性（ハイブリッドコース設定のメリット）等についてわかりやすいパンフレットや広報媒体等を作成し、募集広報戦略を検討する体制を作っていく。 ・通信教育部独自の募集方法として、教育提携校や提携施設を増やすとともに、募集を全国圏域に拡大していく。 ・社会人及び通信制や定時制をもつ高等学校に通信教育の周知を図る。新たにハイブリッドコースの魅力も取り入れながら広報活動を行う。 ・インターネットを利用した募集強化の充実を図る。
グローバル化	1) 国際競争力を意識したグローバル化の推進 国際競争力を意識した教育・研究に取り組み、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。	・大学全体でのグローバル化の推進には協力するが、学部の特性から通信教育部独自では目標や計画は策定しない。

地域活性化	1) 地域活性化の為に拠点創生 地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。	・福祉人材の充足と質の向上に資するため、福祉施設等や関係機関・団体との提携により、実践現場職員のスキルアップに寄与できるよう知の拠点としての役割を果たしていく。 (現状：ある福祉職場では高校卒業の職員が入職と同時に通信教育部に入学させて資格取得と大学卒業を目指す環境を整備している。学費も職場が出資)
2024年度の総評 (今年度の取組)	教育力(使命・目的等を含む) 45 30 66.7	定性的な評価として、5.達成している、4.かなり進んでいる、3.普通、2.やや足りない、1.ほとんど進んでいない、を採用した。 ・通信教育部の学科再編成に伴い、3つのポリシーを設定しなおし、体系化して公開した。 ・ホームページを大幅にリニューアルし、情報発信力を強化した。 ・進学情報サイトへ情報を掲載し、広く募集に努めた。 ・ハイブリッドコース開設のリーフレットを作成し、通信制を持つ西日本地域の高校等関係機関へ配布した。 ・スクーリング時の授業アンケートを実施し、集計結果を担当教員にフィードバックし、授業改善の検討資料として活用した。 ・科目単位認定試験を全てオンライン化して、利便性を図った。 ・オンラインによるスクーリングの効果的教授法について、同科目を複数で担当する教員と協議し、具体的な検討機会を設け今後の方向性を見出した。 ・社会福祉士国家試験対策情報を希望する学生（既卒者を含む）に、年間を通して随時模擬試験などの最新情報を配信した。また、オンラインにて試験対策講座を年2回（9月42名、12月36名参加）開催し、合格率の向上に取り組んだ結果、合格率75.9%（昨年度66.7%）であった。【評価スコア3】
	研究力	通信教育部独自では目標や計画は設定していない。
	学生支援	・直接の来学、電話、オンラインそれぞれに対応し在学生の学習相談、入学希望者の入学相談をおこなった。 ・スクーリング等連絡事項を郵送からメール配信に移行し、迅速な対応を可能とする体制を確立してきた。 ・科目単位認定試験もプレテスト期間を設け、完全オンライン化した。 ・ハイブリッドコース学生用の大学における学習空間を確保し活用開始した。 ・事務室のスクーリング用PCを入替え、PCトラブルでスクーリングが滞らないように努めた。 ・仮想空間（バーチャルキャンパス）を導入しコミュニケーションツールとして活用開始した。【評価スコア4】
	募集力(ブランド力)	・通信教育協会主催の入学説明会（大阪・福岡）会場へ参加し募集に努めた。 ・広報業務を推進するため福岡サテライト事務所を開設した。 ・オンラインによる在学生の学習相談、入学希望者の入学相談をおこなった。 ・通信教育部独自に新たな教育提携校として宮崎看護専門学校と協議し、次年度から提携することとなった。 ・デジタル広告を導入した結果、資料請求数今年度2,506件（昨年度1,625件）と大幅に伸びた。【評価スコア4】
	グローバル化	通信教育部独自の目標や計画は策定していない。
	地域活性化	・福祉施設・専門職能団体への広報活動により、実践現場職員のスキルアップに寄与する環境を推奨した。（提携団体への入学金・免除制度の周知を図った年2回）【評価スコア3】
2025年度への展望 (来年度の計画案)	教育力(使命・目的等を含む)	・通信教育部の特色を生かした教育内容の充実を図る。 ・仮想空間を取り入れ在学生のコミュニケーションツールを導入し、スクーリング等に役立てる ・オンラインによるスクーリングの教授方法を教員間で共有し、対応可能な教員数を増やしていく。 ・ハイブリッドコースのメリットを明確にし、学びの多様性を実現できる教育方法を検討していく。 ・スクーリング時に学生アンケート調査を行い、教育内容の改善に役立てる。 ・社会福祉士国家試験の最新情報の発信充実と年2回実施の試験対策講座への参加を働きかけ、合格率向上を目指す。
	研究力	通信教育部独自の目標や計画は策定していない。
	学生支援	・通信教育学部に関連する問い合わせには継続して丁寧な対応を行うとともに、通信生との連絡手段としてメールを活用していく。 ・ホームページ上にチャットボットを導入し、簡易な問い合わせには迅速に対応できるように構築していく。 ・提出書類関係について、可能な限りデータの送受信で確認できるシステムを活用し、学生の利便性と省力化を図る。 ・学内において、スクーリングや単位認定試験の際に活用できるパソコン室を設置し、運用する。 ・ハイブリッドコースの学生が、学内で相互交流したり、添削課題等に取り組むことができる学習スペースを確保し、利用しやすい環境を充実する。 ・通信生が来学した際に、気軽に相談できる学生相談スペースの環境を整備する。

2025年度への展望 (来年度の計画案)	募集力(ブランド力)	・福岡サテライト事務所を活用し、広域的に募集活動を展開する。 ・提携校の開拓を行い、入学者を拡大していく。 ・通信教育部の特色（福祉と心理が学べる）や学びの多様性を実現できるハイブリッドコースのメリットを明確にして、通信制高校などに積極的にアピールしていく。 ・進学情報サイトに社会福祉、心理、大学院と3分野に参画し広く募集を行う。 ・提携団体（宮崎県社会福祉法人経営者協議会・宮崎県介護支援専門員協会・宮崎県介護福祉士会）への定期的（年2回以上）な広報活動を推進する。 ・新たな提携団体を検討していく。 ・デジタル広告を引き続き実施し出願へつなげていく。
	グローバル化	通信教育部独自の目標や計画は策定していない。
	地域活性化	・提携している教育機関、福祉関係機関の人材確保に資するニーズを把握するため意見交換会等の場に参画し、知の拠点として通信制大学が果たす役割を明確にしていく。 ・提携団体の職員に対する通信制大学のスキルアップカリキュラム（科目等履修制度等）の活用を促し、地域に貢献していく。

九州医療科学大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州医療科学大学（薬学科）

ビジョン (教育目標)	医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。	
区分	全学共通目標	学科別計画・対策
教育力(使命・目的等を含む)	1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。 (学修成果基盤型教育の徹底)	1 全教員で薬学科のブランドビジョンを策定した上で、3つのポリシーの改訂を行い、教員・学生・学外への周知を行う。カリキュラム委員会が中心となり、ブランドビジョンを達成するためのカリキュラム編成を行う。 2 学修者本位の教育課程編成の理念のもと、薬学科の3つのポリシー（DP・CP・AP）を明確に定め、学生などのステークホルダーに対し、ホームページ・ガイダンス・オリエンテーション等様々な方法を活用し周知する。また、学生自らの学びを省察できる体制を構築する。その方法として以下の取り組みを重点課題とする。 ・学修支援システム（UNIVERSAL PASSPORT）の積極的な活用（特に学修ポートフォリオ、マイステップの機能） ・基礎教養教育における学部横断型カリキュラムの全学協働による展開と受講促進 ・初年次教育につながる入学前教育の実施 3 薬学科のポリシーに基づく入学選抜を実施するために以下の取り組みを行う。 ・アドミッションポリシーに沿った、入試科目の設定 ・高等学校の教育課程に応じた出題範囲の設定と見直し ・学力の3要素、意欲、資質、能力を多面的に評価する評価基準の見直し ・入学者の追跡調査 ・上記4つの実施とその結果の分析、それを踏まえたアドミッションポリシーの策定 4 薬学科のブランドビジョンをを明確に示し、土台となる横断的な基礎教養教育を実践することで、医療・福祉などのコ・メディカル専門人材を育成する。その一例として、アクティブ・ラーニングを推奨し、自ら自分自身の学修における問題を提議し、解決策を考え、それを実践できる人材の養成に繋がる教育手法を共有する。 5 学修成果の点検・評価においては、学修成果基盤型教育における評価基準を事前に設定した上で3つのポリシーを踏まえて、内部質保証を重視した点検・評価を行うことで、PDCAサイクルを円滑に確立し、より質の高い学修成果が身につくように、卒業生や地域社会関係者及び地域医療関係者による効果的な第三者評価の実施など、教育の改善向上に取り組む。 6 大学全体のFD活動はもとより、薬学科のFDの実践を推奨し、個別の課題を横断的に共有することで、全体の課題解決に取り組む。また、教育実践の点検評価として、授業アンケートの実施方法並びに内容を検証することで、教育内容・方法及び学習指導等の改善に取り組む。 7 中核センター教育開発部門が中心となり、教授方法改善に繋がるFD活動を毎年実施し、学部学科の垣根を超えた教員間のグループワークを行うなど、教育方法の改善に取り組む。 8 本学は医療・福祉を中心とした専門職人材養成を目指す学部学科により構成されている。その土台となる学部横断的な基礎教養教育の充実並びに開発に努め、地域社会に貢献できる人材養成を実践できるカリキュラムを構築する。 ・カリキュラムツリー（履修系統図）及び履修モデルの活用、精査 ・シラバスの検証とチェック体制の強化

教育力(使命・目的等を含む)	2) 学修支援体制の強化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、適正な学修環境整備に努め、学生などステークホルダーの意見を反映できる体制を確保する。	1 中核センター教育開発部門を中心に、教職協働によるエンロールメントマネジメントに関する方針・計画・実施体制を適切に整備し、運営する。 ・全学的なチューター制度を土台に、学修支援システム（ユニバ）の積極活用により、学生 個々の支援体制を強化する。 ・退学防止の観点から、授業の連続欠席者情報を教職員が共有し、早期から学生の対応に取り組む。 ・在学中のあらゆる活動を可能な限り可視化（ユニバ、マイステップの積極活用）し、学生のキャリア開発を継続的に支援する。 2 教職協働により在籍学生数に応じた教室の割り当ておよび管理を行う。教室設備の経年劣化に伴う改修等も見据え、将来計画を踏まえた実現可能かつ実効性のある学修環境を提供する。 3 リメディアルを含めて、学生アンケートの実施と回答率向上に努め、得られた情報を適切に分析・検討し課題の明確化を行う。 ・授業アンケートの回答促進を行う。 ・授業アンケートを含めその内容精査に努め、効果的に学生の意見を反映できる体制確保に取り組む。 4 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等は学生便覧やオリエンテーションにおいて周知徹底を図り、厳正に適用することで進級・卒業率の向上に取り組む。卒業研究はルーブリックを用いて公正な評価を行う。 5 自ら考え行動できる専門職人材を養成する為に、学部学科を横断した教養科目の開発に取り組み、専門的な知識と技術の実践に必要な、思考力・判断力・コミュニケーション能力、及び国語力等の基礎学力向上に取り組む。 ・さららの利用促進を含め、基礎学力向上に向けた取り組み強化について全学的に検証する。 ・学部横断科目の履修者を増やす。
3) キャリア支援並びに就職支援の強化 建学の理念に基づき、各学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」を構築すると共に、学生個々の具体的な進路や就職先をイメージした「就職支援体制」を構築する。		1 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備を進める。地元企業と連携し、学生のキャリア支援の取り組みとしてオープンカンパニーやインターンシップを含む企業との接点を積極的に提供する。また、外部機関と連携し学生のキャリア支援を強化する。 2 就職支援サイトと連携することで就職支援の強化に努める。ミスマッチを防ぐことを最大の目的とし、本学独自の就職ガイダンスを実施する。また、各地で開催される就職説明会等の情報を収集し、職種にあった情報をリアルタイムで提供する。 3 キャリア支援の一環として、公務員試験対策講座の強化を進める。参加学生の要望や各自治体の採用試験に合わせ、現場の専門職も参加した、より有意義な講座とする。 4 学生に各種就活イベント等への参加を促進する。各学科のキャリアサポート委員と連携し、学科が求めるガイダンスを通年で実施する（就職面談会〔5年生対象〕など）。また、対面での就職活動を意識したイベントも新たに計画する。
4) キャンパス環境の整備 本学の基本計画に沿って、大学の長所を活かしたキャンパス機能強化や学生のニーズを踏まえた教育研究環境の改修・改善を効果的に行うことで、キャンパスの創造的再生に取り組む。		1 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理を行う。 ・施設設備の優先順位や必要性を明確化した上で、中長期的視点に立った修繕計画の立案や既存施設の老朽化対策を検討することで、学修環境の整備や管理を行う。 2 実習施設、図書館等の有効活用を検討し、学生のニーズに対応する教育研究環境を整える。 3 学修環境に関するアンケート調査や学生との意見交換の結果を分析・検討し、安全で快適なキャンパス生活実現に向けた環境整備に取り組む。 ・建物の利用状況や用途、設備の整備状況等を把握し施設の有効活用を図る。

研究力	1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化 地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。	1 外部研究費の獲得や国際学術誌への論文投稿などを促進する研究支援体制を構築することで研究環境の整備に努め、実施される研究活動についても研究倫理や安全面での管理を行い、適切な研究体制の運営を行う。 2 研究活動を適正に行う為に、関係諸規程の見直しや制定を行い周知する。併せて関係委員会などにおいて厳正な研究内容の審査を実施し適正な運用を行う。 3 海外の研究者との共同研究や、海外での学会発表、国際ジャーナルでの論文発表など、海外を意識した研究活動を推奨し、研究のグローバル化を推進する。 4 研究活動の点検・評価においては、内部質保証を重視した点検・評価を行うことで、PDCAサイクルを確立し、より質の高い研究活動が実施できるよう、適切な研究体制を構築する。 5 論文発表、学会発表等の研究成果を可視化・公表することで、地域における研究のノード機関としての役割を構築する。 6 学科内の高額共通機器等について、計画的な導入・更新を図る体制を見直す。 7 学科内の共通機器等の管理者を明確にし、不具合時の対応だけでなく研究成果を上げる効果的な使用法等についての情報を共有する。
学生支援	1) 学生生活の支援を中心としたサービス向上 学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。	1 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握し、分析・検討することで学生サービス向上に活用する。 ・健康管理センターを中心とした教職協働による支援体制の強化 ・学生の健康管理に関して外部機関と連携 ・課外活動支援の充実 2 各機関および諸団体から提供される奨学金情報は、遺漏のないように対象となる学生に確実に案内をすることで、学生の経済的負担を軽減することに繋げる。 ・家計急変等の情報を教職員間で共有することで、学生支援体制を構築 3 バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性向上を図る事で、学生サービス向上に繋げる。 ・アンケート調査及び学生との意見交換を実施。
募集力(ブランド力)	1) ブランド形成と募集力(ブランド力)の強化 ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。	1 アドミッション・ポリシーに沿った入学受入れの実施と検証を行う。(再掲) 2 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持に取り組む。 3 入試・入学後のデータを分析し、高校との連携強化に取り組む。 ・入試データおよび入学後の学生の伸長状況などのデータを分析し、関連部署と連携し、高校への情報発信を実施 4 学生を活用した大学の魅力を発信する。 ・部活動の活性化、学友会組織の強化、在学生に対するイベントの企画・告知・実施 ・オープンキャンパスにおける学生ボランティア、「在学生と語ろう」の実施 5 効果的な学生募集の実施に向けて、卒業生の大学に対する満足度を向上させ、同窓生(会)との組織的な連携に取り組む。 6 地域の学びの拠点として、施設の開放や受け入れなど以下の内容を積極的におこなうとともに広く活動を周知する。 ・地元学生・生徒のための体験行事、課外学習の受け入れ ・施設の貸し出し、本学を会場とした公開講座の実施やセミナーなどのイベントを開催 7 教員一人ひとりの研究内容、成果についての情報発信を行う。また、高校生の課題研究に積極的にかかわり、高校との連携強化に取り組む。 ・県北サイエンスフォーラム ・県内高校の課題研究サポート

募集力(ブランド力)		8 SNS・ウェブサイトを活用した、本学の魅力(学科の特色)や大学・学科の情報発信を行う。 ・薬学科の活動やイベント、薬用植物園の開花状況などを定期的に発信 ・学生スタッフを配置し、学生目線の情報発信による募集広報戦略を展開
グローバル化	1) 国際競争力を意識したグローバル化の推進 国際競争力を意識した教育・研究に取り組み、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。	1 学内の国際化推進に努める事で、グローバル化を推進する。 ・留学生の受け入れ増加、受け入れに伴う環境整備の推進、ラーニングサポートセンター(英語村)の充実など 2 薬学科教員が、定期的に米国提携校のフィンドレー大学への短期研修プログラムに参加し、フィンドレー大学からの薬学生の受け入れも定期的に行い、両校の交流を推進する。薬学科学生の海外留学・短期研修プログラムについては、実施可能かどうかを積極的に検討する。また、学生の英語力向上を目指す。 ・ラーニングサポートセンター(英語村)において、留学を希望する学生の語学力の向上のためのネイティブ講師によるレッスンを充実 ・留学を目的とした英語力の向上を目指すだけでなく、国際交流のためのイベントなどを充実
地域活性化	1) 地域活性化の為に拠点創生 地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。	1 知の拠点として、産官学の地域連携も含めた地域振興及び人材育成に取り組む。 ・自治体、関係機関、団体、学校等との連携を推進 ・県内の大学間連携・高大連携を推進
2024年度の総評 (今年度の取組)	教育力(使命・目的等を含む) (教務委員会, カリキュラム委員会, アセスメント委員会)	1 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 ・学修成果(教育目標/アウトカム)としての①～⑥の目標とDPとの対応を見直すことで、薬学科のDP1～5を達成するための具体的な目標を明確にした。(達成率100%) ・学生自らが学びの省察を行えるよう、DP1～5の達成度(各科目の学生個人の評点に基づくスコア)の目標値設定を行った。また、この目標値を活用して学生ごとに現状でのDP1～5の達成度を評価して指導することが開始された。(達成率70%) ・思考力、判断力、表現力、学びに向かう力、人間性などのレベル評価を目的として全学的に導入されたGPS-Academicを1年次の学生に対して実施した。個々の学生にはその結果をフィードバックし、より良いレベルを目指すよう指導した。(達成率70%) ・各科目で実施しているSGD(Small Group Discussion)、ALなど到達目標の領域(技能・態度)とレベルに対応した学習成果の測定方法やその基準と評価方法(点数化)をシラバスに明記し、広く学生に周知していくため、推奨されるシラバスの記載例と各科目レベルで技能・態度を評価するルーブリックの記載例を作成し、学科教員で共有した。次年度より運用開始することとした。(達成率50%) 2 学修支援体制の強化 ・より手厚い学修支援体制とすべく、助教を含めた専任教員の増員/学科専任の専門職員の配置/老朽化が進んだ一部の共通研究機器の更新について、学科長より大学に引き続き要望していくこととした。(達成率10%) ・教育内容・方法及び学習指導等の改善に資するべく、学科独自のFDを年度内に2回実施した。(達成率100%) 3 入学者の入学時の学力評価のシステム構築や、入学後の成績の推移等については、簡単な解析しかできておらず、アドミッションポリシーの評価を行うためにも今後進める必要がある。(達成率20%) 4 2023年度に策定したブランドビジョンに基づき、九州医療科学大学薬学科のブランドを大学内外に周知する目標を掲げた。大学内においては、薬学科の建物に理念およびディプロマ・ポリシーを掲示することで、学生や教職員へのアピールを実施した。しかし、大学外へのアピールについては課題が残り、特にステークホルダーとなり得る高校・中学校およびその生徒に向けた統一的かつ効果的なアピール方法が十分に確立されなかった。(達成率50%) 5 3つのポリシーについてPDCAサイクルを実践した結果、カリキュラム・ポリシーの修正が必要であることが明らかとなり、年内に学科会議での審議を経て修正を完了した。この修正により、ブランドビジョンおよびディプロマ・ポリシーの達成に向けたカリキュラム・ポリシーの適正化が進み、教育の質向上に寄与できるものと考えている。(達成率90%)

2024年度の総評 (今年度の取組)	教育力(使命・目的等を含む) (教務委員会, カリキュラム委員会, アセスメント委員会)	6 名城大学の薬学部長を招聘し、薬剤師国家試験合格率日本一のノウハウを聴講することで、薬学科独自のFDを実施した。(達成率60%) 7 中核教育開発部門のFDでGPSアカデミックについて知識を深め、まだ1年生のみであるが、学生の指導につなげることができた。(達成率70%、継続することにより達成率を高める。) 8 新カリキュラム用のカリキュラムポリシーやツリーを作成し、また、毎年改善するためにカリキュラム委員会で検討している。シラバスのチェック機構については、さらに強化する必要がある。(達成率70%)
	研究力 (研究促進委員会)	1 外部研究費の獲得について、薬学科では基本的に全ての教員に対して任期内での科研費の申請を奨励している。科研費獲得率は比較的良好で、2024年度の申請者が採択されるのを期待している。また、民間助成金においても、教員1名が大和証券の助成金を取得し、報道された。学内の競争的研究助成にも積極的に応募してもらい、薬学科でかなり多くいただいている。学術誌への論文投稿については、数報アクセプトがあるが、引き続き増加させる手段を構築する必要がある。(達成率60%) 2 全学の研究関連の講習会への参加を義務化している。(達成率90%) 3 国際共同研究はなかなか進んでいないが、生薬の渥美准教授がアジア内の国際共同研究を推進している。(達成率60%) 4 研究活動の点検については、どの部署が点検するのかが定まっていない。(達成率20%) 5 薬理学講座の論文などを大学HPでアナウンスしてもらったり、学会発表なども大学HPや薬学科SNSに掲載した。(達成率70%) 6 高額研究機器として、老朽化したものの代わりとして新規にリアルタイムPCRを購入し、研究施設の整備に努めている。(達成率60%) 7 共通機器に関しては、研究環境整備委員会で適切に管理している。(達成率90%)
	学生支援 (学生・安全委員会, ハラスメント委員会)	・学生の健康管理に関しては、健康管理センターの利用状況(4月～9月)を当該部署より取得し、その状況を学科会議で報告し教員間で情報共有を図った。現状をより早く教員に周知するため、今年度は情報の取得・報告を半期に短縮して行った。 ・演習室(4号棟)のカビ臭対策に関して、会計課と相談・協議のうえ空調機分解清掃を依頼し、より良い環境で学生が演習室を利用できるよう対応を実施した。 ・学内の設備・環境に関しては薬学科2年、4年、6年の学生を対象に11月にアンケート調査を実施し、現在集計作業を行っている。 ・学生支援委員会の関連では、薬学科代表学生が学長との意見交換会に出席し、大学生生活の様子と要望の聞き取りが行われた。また、自宅が竜巻被害を受けた学生に対し、授業料特別減免措置の適用が承認された。 ・学生生活における学生からの相談事案に関しては薬学科ハラスメント委員間で情報を共有し対応した。また、健康管理センターと協働して学生相談に応じ、問題解決に向けて学生支援を強化した。 以上より、学生支援は概ね遅滞なく課題改善に向けて進んでいると言える(達成度80%)。
	募集力(ブランド力) (広報委員会, 入試委員会)	1 実施できていない、達成状況は0%である。 2, 3 入学維持のためには、入学人数増加が必須で、そのために下記のオープンキャンパス、高校への出張ガイダンス、出張講義、特に鹿児島県の高校18校に学科長が訪問し、大学名と学費の変更について説明した。新コアカリでの入試別入学後のデータは、1年生において収集中である。したがって、達成状況は、60%とする。 4 オープンキャンパス(OC)における学生ボランティアの大幅な増員(例8月OC 16名(2023年度)→48名(2024年度))を行い、その結果、来場者からも好評を得た。一方、部活動や学友会組織、在学生向けイベント等に関しては、十分な取り組みが行えていない状況である。総じて、達成状況は60%とする。 5 薬学科が主体となっていく5年生対象業界研究会を開催するにあたり、初めて業界研究会に関する学生アンケートを事前に行った。その結果を踏まえて参加する事業所に対しても業界研究会のコンセプト、学生アンケートの結果や個人情報の取り扱いなどに関して説明を行った。その結果、学生、事業所ともに業界研究会は有益であったとの意見を得ることができた。総じて、達成状況は70%とする。 6 地元学生(小中高生)を対象とした、多くの体験行事や課外学習、進路ガイダンス等を行っており、参加学生や保護者から好評を得ている。件数は、26件(2023年度)→30件(2024年度)と増加しており、各校から依頼があった際には全例対応している。また、対応教員の負担軽減のため、ガイダンス資料ファイルの共有化を開始した。総じて、達成状況は70%とする。

2024年度の総評 (今年度の取組)	募集力(ブランド力) (広報委員会, 入試委員会)	7 今年度も県北サイエンスフォーラムを実施した。2023年度の学外参加者が4名と少なかったため、周知を強化し、2024年度の学外参加者（事前登録者数）は27名に増加した。また、県内高校の課題研究への取り組みは、2校（2023年度）→3校（2024年度）へと拡充している。現時点での達成状況は60%とする。 8 SNSでは、インスタグラム（ID：kums_pharm）を活用しており、投稿件数は、56件（2023年度）→86件（2024年度末時点）と増加している。また、フォロワー数は538名（2024年度末時点）と多くはないが着実に増加し、投稿へのリアクション数も増えてきている。ウェブサイトの活用に関しては、現在、大学全体のウェブサイトのリニューアルが計画されており、それに伴い薬学科のコンテンツを充実させる予定であるが、今年度の更新は軽微なものに留まっている。総じて、達成状況は55%とする。
	グローバル化 (国際交流委員会)	1, 2 フィンドリー大学薬学部との交流を再開し、5月にフィンドリー大学学生4名と教員2名を受け入れた。2週間の滞在中に日本の医療システムや薬学での教育、日本の文化にも触れていただいた。また、9月に教員2名をフィンドリー大学に派遣し、1週間ほどの滞在の間に、米国の医療システムや薬学での教育、文化にも触れていただいた。さらに、10月にフィンドリー大学からの交流担当者が来学した際に、本学からの薬学生の短期訪問を将来的に実現したい旨を話し、時期は未定であるが前向きに計画を詰めていくことを合意した。地域における英語ボランティア活動を充実させ、英語の読み聞かせのボランティアが始まった。英語教育については、本学学生のフィンドリー大学薬学部派遣のために引き続き強化する計画を立てた。（達成率：50%）
	地域活性化 (地域連携委員会)	1 今年度、大学の入試広報室および薬学科入試広報委員会が中心となり、高校等からの出前講義や探究学習に関する協力要請に全て対応した。その中で、延岡高校の探究学習では、生徒と共同で宮崎県で生産量の多い薬用作物「シソ」の抗菌活性に関する試験を実施し、生徒の学びの向上に貢献した。（達成率80%） 2 延岡市との薬用作物産地化事業では、担当教員がサフラン生産者部会に参加し、地域農業生産者の技術向上を支援した。また、ムラサキに関しては、伝統工芸品の原料としての高品質かつ安定的な生産を目指し、生産者と方法を共有する活動を行った。（達成率100%） 3 地域の薬剤師の偏在を解消するため、宮崎県薬剤師会、宮崎県病院薬剤師会、宮崎県庁と連携し、「宮崎県薬剤師確保対策協議会」を設立した。本学の薬学生へのアンケート調査や個別面談を実施したが、薬学生と各団体との意識の乖離を埋める具体的施策には至らなかった。（達成率50%） 4 2022年より当大学と延岡市との共同で「慢性腎臓病糖尿病重症化予防事業における特定健診および診療報酬明細書情報での評価」に関する研究を行っている。この研究成果は第67回日本腎臓学会学術総会（2024年6月）および米国腎臓学会議（2024年10月）で報告された。（達成率70%） 5 宮崎県薬剤師会と当大学薬学部薬学科との共催で、生涯学習研修会が2024年4月14日、9月8日の2回開催された（WEBと会場のハイブリッド開催）。4月14日は戸井田達典准教授が司会で鈴木彰人教授、黒川昌彦専任教授、木村博昭薬学科長が講演された。また、9月8日には木村博昭薬学科長の司会で戸井田達典准教授が講演された。各研修会ともに宮崎県薬剤師会会員を中心に200名以上が聴講した。（達成率60%） 6 地域の薬剤師のスキル向上に向けた取り組みとして、漢方・生薬分野の研修強化を検討した。（達成率100%）
2025年度への展望 (来年度の計画案)	教育力(使命・目的等を含む)	1 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 ・具体的な目標を明確にしながら薬学科のDP1～5を達成していくため、学修成果（教育目標／アウトカム）としての①～⑩の目標とDPとの対応、新旧の両カリキュラム・ツリーにおけるアウトカムの対応については、引き続き、適時見直ししていく。 ・学生自らが学びの省察を行えるよう、引き続き、DP1～5の達成度（各科目の学生個人の得点に基づくスコア）の目標値を活用して学生ごとにDP1～5の達成度を評価して指導していく。 ・思考力、判断力、表現力、学びに向かう力、人間性などのレベル評価を目的として、引き続き、全学的に導入されたGPS-Academicを1年次の学生に対して実施し、個々の学生にその結果をフィードバックして指導していく。 ・各科目で実施しているSGD（Small Group Discussion）、ALなど到達目標の領域（技能・態度）とレベルに対応した学習成果の測定方法やその基準と評価方法（点数化）をシラバスに明記し、広く学生に周知していくため、2024年度に作成したルーブリックを2025年度より運用開始し、各科目レベルで技能・態度を評価する仕組みを確立する。

2025年度への展望 (来年度の計画案)	教育力(使命・目的等を含む)	2 学修支援体制の強化 ・より手厚い学修支援体制とすべく、助教を含めた専任教員の増員／学科専任の専門職員の配置／老朽化が進んだ一部の共通研究機器の更新について、引き続き、学科長より大学に要望していく。 ・教育内容・方法及び学習指導等の改善に資するべく、引き続き、学科独自のFDを年度内に複数回実施する。 ＊目指すべき成果として、以下の3つを設定する。 ・薬学科ブランドの高校生や地域住民を含むステークホルダーへの認知度向上。 ・探究活動や出前講義を通じた薬学科の社会的評価の向上。 ・学生の学習成果の可視化と進級率・単位取得率の向上。 2024年度の総評において、学外への薬学科ブランドの周知に課題があることが考えられた。この課題を解決するため、薬学科で統一された説明資料を作成し、全教員がその内容を十分に認識した上で発表できる体制を整える。これにより、学外へのブランド発信が一層効果的になると期待される。また、社会的評価の向上を目的に、引き続き高校や中学校からの依頼に対して積極的に対応し、薬学科の活動を広く発信する。 学習成果の可視化に関しては、学生が年度ごとに「DP（ディプロマ・ポリシー）達成度確認票」を作成し、チューター教員との新学期面談で活用する仕組みを導入する予定である。この仕組みにより、各学生のDPへの達成度を明確に把握できるようになり、学習支援の適切な提供や指導が可能になると考えている。
	研究力	2月の科研費の採択状況を見て、今後の改善点を薬学科研究促進委員会で検討する。特に若手教員に民間助成金への応募を促す。論文投稿や国際共同研究についても積極的な活動を促す。年度末に毎年行っている県北サイエンスフォーラムとリトリートを行うが、聴講者のフィードバックから改善点をみつけ、今後に活用する。高額機器については、学科費との兼ね合いを考慮し、費用なものを購入していく。共通機器の管理については、現在も研究環境整備委員会によって適切に管理されているため、引き続き継続していく。
	学生支援	学生の健康・安全管理及び学生生活のサービス充実を図ることを中心に取り組む。特に学生の声・意見を吸い上げるため、学内の設備・環境に関するアンケート調査等は必須であり、毎年継続して実施する。次の目標として、得られた学生の意見に基づいて着実に改善・解決に繋げるための仕組みづくりを構築する。
	募集力(ブランド力)	1 アセスメント委員会で検証方法を考える。 2 2月の前期一般入試と共通テストでの合格者の歩留まり数を増加させるよう説明会の方法を工夫する。 3 リメディアル委員会での解析を検証する。 4 引き続き、学生ボランティアの積極的な参加を促し、学生ボランティア、来場者共に満足を得られるオープンキャンパスを目指す。2024年度に十分な取り組みが行えていない部活動、学友会組織、在学生向けイベントに関し、まずは、どのような対応が必要とされているのか、有効であるのかを学生・教員間で議論する場を設ける。 5 2025年度は学生アンケートをさらに充実させ、業界研究会のテーマを多様化する。事業所との連携強化により、学生に最新の業界情報を提供し、5年生のみならず3年生も対象に実施する予定である。また、参加後のフォローアップを行い、学生の満足度を向上させ、キャリア形成に役立つよう取り組む。 6 引き続き、依頼があった際には可能な限り対応を行う。対応教員の負担軽減のため、ガイダンス資料ファイルの共有化を更に推進し、内容の質の向上にも努める。 7 県北サイエンスフォーラムの認知度アップのため、各種薬剤師団体や地域企業等への広報を行う。今後、高校の課題研究への対応増加が予想されるため、研究能力に優れた教員へ予め参加協力を依頼する。 8 本学科へ興味をもってもらい機会を増やすべく、SNS活用のさらなる拡充を行う。各教員の行っている講義・実習・研究等の情報を積極的に公開するための仕組みづくり（当番制等）を行う。また、学術的でない気軽な内容でも投稿可能であることを教員・学生に周知し、投稿数を増やす。大学ウェブサイトのリニューアルに合わせて新規コンテンツを作成し、既存サイトから質・量ともに拡充する。
	グローバル化	1, 2 留学生は入試広報と協力して積極的に受け入れる。フィンンドリー大学との交流で、5月に薬学部生と教員を引き受ける。また、フィンンドリー大学への学生派遣を目指した英語教育を充実させると同時にフィンンドリー大学への学生派遣の契約を進める。
	地域活性化	高校の探究学習への協力や薬用作物の産地化事業については継続して取り組んでいく。 2024年度設立した「宮崎県薬剤師確保対策協議会」の活動を本格化させる。 2025年度は、奨学金制度創設の可能性を検討し、宮崎県庁および県内の医療機関と協議を進める。また、県内就職率向上のため、地元医療機関でのインターンシップ参加を促し、学生の地域医療への関心を高める。 2025年度より新たに、薬剤師研修センターと協力して年4回程度の薬用植物園研修（受講者目標：各回5名以上）を実施し、薬剤師の生涯学習支援の一環で、漢方生薬認定薬剤師の資格取得や資格維持を促進する研修を開始する。

九州医療科学大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州医療科学大学（動物生命薬科学科）

ビジョン (教育目標)	医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。	
区分	全学共通目標	学科別計画・対策
教育力(使命・目的等を含む)	1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。	1 3つのポリシーの明確化による教育目標の明確化 ・前後期毎のオリエンテーションにて、学科独自に作成した学修マニュアルを用いて、3つのポリシーを明確に示す。 ・修学支援システム（ユニバ）の積極的な活用。 2 基礎学力を向上させ資格試験の合格率を向上させる。 ・愛玩動物看護師、実験動物技術者の受験資格に必要な科目、成績などを学修マニュアルに明記、各資格試験受験担当者からの受験指導を実施する。（学芸員資格は必要な科目修得で取得できる） ・生物学について、入学前教育（課題学習：問題集）を実施する。 ・リメディアル教育を生物Ⅰ、化学Ⅰ、数学Ⅰで実施する。 ・学部横断的な基礎教育科目の履修を学生に推奨する。 3 学生の学修目的の把握・明確化 ・1年次にインターンシップ（動物病院、宮崎大学附属牧場） 4 教育において注意や配慮を要する学生情報の共有化を図る。 ・学科会議等で情報の共有化、分析、支援対策・体制、進捗方法等を確認することで教育の質の向上に努める。 5 大学及び学部FDに積極的に参加、教員の資質向上に努める。
	2) 学修支援体制の強化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、適正な学修環境整備に努め、学生などステークホルダーの意見を反映できる体制を確保する。	1 チューター制度・学修支援システム（ユニバ）の積極的な活用 ・教員間で学生情報の共有化を随時、あるいは定期的（学科会議）に図り、円滑な学生対応により、退学者等を予防する。 ・必要に応じて、医務室並びに学生課等と連携を図り、円滑な学生対応を実施する。 2 基礎学力の確認・向上 ・入学直後に、「生物学」の試験を全員に実施、基礎学力を確認すると共に、成績は教員が共有、学生への教育指導に活用する。 ・1年次においては、「すらら」を利用することで基礎国語力の向上に取り組む。 3 卒業研究のレベルアップ ・3年次から卒業研究の教員（チューターを兼ねる）を固定し、2年間の継続した教育研究指導を実施する。 4 学科独自の学修マニュアル・飼育マニュアルの作成により、学習効果の向上を図る。また、学科独自の学科基準薬を定め、愛玩動物看護師、実験動物技術員などの職域にふさわしい薬の知識を修得する。
	3) キャリア支援並びに就職支援の強化 建学の理念に基づき、各学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」を構築すると共に、学生個々の具体的な進路や就職先をイメージした「就職支援」体制を構築する。	1 就職率100%を目指す。 ・1年次において、①キャリア教育（必修）で専任教員並びに外部講師のキャリア並びに②動物病院、宮崎大学農学部附属牧場、リバーバル五ヶ瀬川におけるインターンシップ（選択科目：必修扱い）を通して、将来、愛玩動物看護師やその他の職域に必要な知識・技術を知ること、学生個々の就職先における学びの必要性について早期に動機づけを行う。 ・動物病院・企業―教員間のネットワークを活用、キャリアサポート委員並びにキャリアサポートセンターと情報共有し、学生が希望する職種の情報提供を円滑に行う。 ・学科―キャリアサポートセンターと積極的に連携、動物病院・企業等の情報の収集、並びに学生への円滑な情報提供あるいは学内就職説明会を実施する。
	4) キャンパス環境の整備 本学の基本計画に沿って、大学の長所を活かしたキャンパス機能強化や学生のニーズを踏まえた教育研究環境の改修・改善を効果的に行うことで、キャンパスの創造的再生に取り組む。	1 高度な獣医療に関わる愛玩動物看護師（国家資格）の育成に相応しい教育設備の充実を図る。そのために、教育・研究機器の新規導入あるいは更新の優先順位を立案・計画する。

研究力	1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化 地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。	1 研究活動の推進 ・科学研究費助成事業など競争的外部資金への応募を推奨する。 ・学内・学外との研究ネットワークを広げ、共同研究を推奨する。 ・学術論文・学会発表を推奨する。 ・学会・研究会等への参加を推奨する。 ・学位（博士）取得を推奨する。
学生支援	1) 学生生活の支援を中心としたサービス向上 学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。	1 チューター制度を活用、適宜面談を実施することで学生の健康並びに健康状態を把握するとともに、学生の要望をも把握する。その情報は学科会議等で教員間で共有、対策を検討、実施することで学生サービスの向上を図る。 ・健康管理センターを中心とした教職協働による支援体制の強化 ・学生課とも協働し、奨学金情報を収集、学生に情報提供する。 ・講義・実習に汎用する大学会館における学生専用の休憩室（飲食可能な）の設置について関係部署と協議、学生サービス並びに利便性を向上を模索する。
募集力(ブランド力)	1) ブランド形成と募集力（ブランド力）の強化 ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。	1 九州で唯一、大学として新たな国家資格の愛玩動物看護師受験資格取得が可能であることを発信する。 ・大学ホームページ（学科）を活用、学科の特色を発信する。 2 大学（学科）と動物病院との連携を強化する。 ・愛玩動物看護師病院実習における病院提携の登録の推進を行い、登録証を発行することで、本学のブランド形成と募集力の一助とする。 3 オープンキャンでは、本学科で取得できる3つの資格（愛玩動物看護師、実験動物技術者、学芸員）並びにフィリピン国立大学獣医学部編入留学制度とその実績（日本の獣医師誕生）を積極的に展示、広報する。
グローバル化	1) 国際競争力を意識したグローバル化の推進 国際競争力を意識した教育・研究に取り組み、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。	1 フィリピン国立大学獣医学部（UPLB）への海外留学並びに短期研修プログラムを推進して、参加学生の増加を図る。 ・ラーニングサポートセンター（英語村）において、留学を希望する学生の語学力の向上のためのネイティブ講師によるレッスンの受講を推進する（英語村を積極活用）。 ・2年次の英語科目（選択）では留学を目的としたTOEFL対策の授業を推進する。 2 UPLBからのインターンシップ学生を円滑に受け入れるための学内・学外の仕組みを構築する。 3 海外留学生（UPLB以外）の受け入れるための仕組みを模索する。 4 学術交流協定校のUPLBと教員間（全学科を対象とした）の国際交流を図り、共同研究のグローバル化を模索する。
地域活性化	1) 地域活性化の為に拠点創生 地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。	1 学科教員の地域連携力の資質向上を目指す。 ・地域連携プロジェクトの調査・実施を推進する。 ・市民大学講座などで本学科の教育・研究の成果を発信する。 2 持続可能な目標に位置付けられる活動を実施する。 ・SDGs推進に位置付けられる活動を目指す。

2024年度の総評 (今年度の取組)	教育力(使命・目的等を含む) 研究力 学生支援 募集力(ブランド力) グローバル化 地域活性化	1. 3つのポリシーの明確化による教育目標の明確化 学科独自に作成した学修マニュアル（学科基準薬を含む）、動物飼育マニュアルを用いて、前・後期毎のオリエンテーションならびに講義(動物実習基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳなど)において説明した。特に1年生についてはキャリア教育においても学修マニュアルにて説明を重ね、理解を深めた。 2. 生物学の基礎学力を向上させるため入学前教育（問題集使用）を実施した。また、入学直後には、生物学の基礎学力を把握するため基礎学力試験を実施した。 3. 国語力強化のため、すらら（e-ラーニング）を活用した。到達率は例年よりも高かったが、80%以上到達学生は43%であり、学習参加への工夫を必要とする。 4. 資格試験の合格率の向上を目指した。愛玩動物看護師試験対策では「動物臨床演習」科目（4年生）において、過去問試験実施、解説などの演習を教員（4名）（学科内の3名の専任教員は国家試験作問委員のために国家試験対策授業ができない）がオムニバス形式で実施（通期開講）。また、今年度から全国模擬試験（3回実施）を初導入、国試対策とした。実験動物技術者認定試験では、「実験動物演習」において、筆記試験並びに実技試験対策を行った。また、実技試験対策としてSA制度（実験動物1級技術者合格の学生2名）を活用した学生指導も行った。 5. 1年次に学外インターンシップを実施した。①NP0法人五ヶ瀬川流域ネットワーク：リバーパル五ヶ瀬川におけるイベントのボランティア活動に6回参加。②動物病院での体験学習。ほぼ全員が2日間参加。 6. ①愛玩動物看護師国家試験合格率 100%（14/14）（全国新卒93.7%）。②実験動物1級技術者認定試験 1次試験（学科）合格率83.3%（10/12）、2次試験（実技）合格率100%（10/10）。2級合格者1名（1/1）。③就職率 100%（就職希望者：11/11）。④獣医師国家試験合格者3名（フィリピン国立大卒＋本学卒）（本学卒の獣医師は13名となった）。 7. 高度な獣医療に関わる愛玩動物看護師の育成にふさわしい教育設備の充実（例：超音波診断機の更新・導入）は果たせなかった。 2025年度科研費に1件採択（5件応募）。投稿論文は国際4報（共著・査読有）掲載、国内2報（共著・査読有）掲載。書籍1件（共著）（5名）。学会報告は国際1報、国内2報。博士論文2名・作成中（専任教員6名／8名博士取得済み）。 1. ハラスメント教育（学生）の説明の機会を設けた（オリエンテーション、キャリア教育などにおいて）。 2. 長期欠席者に対しては、チューター、健康管理センター、必要に応じて保護者と連携して対応した。また、その他関連部署と情報を共有した。休学者1名。退学者1名。 3. 一般学生に対しても、チューター面談を積極的に行い、教員間で情報共有した。 4. 就職情報については、キャリアサポートセンター、教員間とで情報を共有し、就職活動を協働でおこなった。 1. 愛玩動物看護師資格が国家資格であること、九州では本学並びに鹿児島大学共同獣医学部畜産学科が受験資格あることを広報した（九州県内の私学では唯一）。本資格に「国立大が参入」したことは「国家資格」であるとの情報とともに、愛玩動物看護師の今後の地位や認知度の向上が期待できる広報活動の情報である。 2. オープンキャンパスでは、本学科で取得できる3つの資格（愛玩動物看護師受験、実験動物技術者受験、学芸員）を積極的に展示、広報した。大きな特徴としては、1・2年生の全員がオープンキャンパスに参加（分散）、積極的に来学者に学科内容を説明した。 3. 来学した中・高生あるいは訪問先の中・高校生に本学科の紹介並びに講義を行った。 4. 動物病院との連携：「動物看護総合実習」受入れ承諾施設 本年度追加申請25施設。合計42施設。 5. 入学者数は34名（85% 34/40）（昨年度22名、55%）（一昨年度23名、58%） 学科全学年64.4%（103/160）。 1. 昨年8月に在学（編入）留学生として最後の2名がフィリピン国立大学獣医学部（UPLB）並びに9月に本学を卒業した。UPLBとの教育交流協定に基づくUPLBへの編入留学制度は昨年度中止となったが、UPLBを卒業した。学生個人で、編入留学することは可能である。これまでの留学の実績（本学出身の獣医師は13名）を踏まえて、学生の留学相談を実施した。英語力向上のため、2年次における英語授業（選択）ではTOEFL対策に特化した講義とした。 2. 留学・進学希望者の語学力の向上のため、少人数ではあるが、ラーニングサポートセンター（英語村）を積極的に利用した。1名がオーストラリア語学留学（予定）。海外留学を中止した1名が、国内の獣医学科へ学士入学した。 自治体・地区と連携し災害伝承を活用した防減災プログラムを延岡市伊形小学校にて実施した。また、門川町における空き家をテーマとした展示を国立歴史民族博物館における企画展示において実現した。さらに複数の自治体において研究活動の成果を講演した。また河川の環境問題に関する活動にも取り組んだ。
-----------------------	---	---

2025年度への展望 (来年度の計画案)	教育力(使命・目的等を含む)	来年度、1～7を継続する。 1. 3つのポリシーの明確化による教育目標の明確化 2. 生物学の基礎学力を向上させる(入学前教育)。 3. 国語力教科のための、すららを活用する。 4. 1年次での学外インターンシップを継続・実施する。 5. 資格試験の合格率を向上させる(試験対策演習授業、外部模擬試験の導入。SA制度活用など)。 6. 教育において注意や配慮を要する学生情報の共有化を行う。 7. 大学及び学部FDに積極的に参加、教員の資質向上に努める。
	研究力	科研費その他の外部研究費の獲得、並びに国内外の学術雑誌に論文を投稿する(査読有)。
	学生支援	1. ハラスメント教育(学生)の説明の機会を多く設ける(オリエンテーション、キャリア教育などにおいて)。 2. 学生の授業欠席等の情報に留意し、チューター、健康管理センター、教務課並びに学科教員間での情報を共有する。 3. 就職活動については、キャリアサポートセンターと協働で活動する。
	募集力(ブランド力)	1. 国家資格の愛玩動物看護師資格、実験動物技術者、学芸員の3資格について幅広く、広報活動を実施する。広報活動は、主にオープンキャンパスで行い、実施方法は在学生(主に1・2年生)参加型を継続する。 2. 来学した中・高校生並びに出張先の中・高校生に学科紹介、講義を実施、本学科の魅力を広報する。 3. 高校訪問先としては、農業高校も考慮する。
	グローバル化	1. フィリピン国立大学獣医学部への個人留学を支援する。特に英語力向上のため、2年次の英語教育(選択)はTOEFL対策に特化した講義とする。 2. ラーニングサポートセンター(英語村)において、大学院進学、留学希望者の語学力の向上のため、受講を奨励する。
	地域活性化	1. 教員の研究成果に基づいた活動を展開する。 2. 継続性を意識した地域連携活動の推進を目指す。 3. 持続的な社会構築を目標とし、それに沿った活動を推進する。

九州医療科学大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州医療科学大学（生命医科学科）

ビジョン (教育目標)	医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。	
区分	全校共通目標	学科別計画・対策
教育力(使命・目的等を含む)	1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。	1 生命医科学科における3つのポリシーを明確に示し、教育の目標・目的を明確にする。 2 学修者本位の教育課程編成の理念のもと、生命医科学部生命医科学科に掲げる3つのポリシー（DP・CP・AP）を明確に定め、学生へホームページ・ガイダンス・オリエンテーションなど、様々な方法を活用し周知する。 ・学修支援システム（UNIVERSAL PASSPORT）を積極的に活用する。 ・基礎教養教育における学部横断型カリキュラムの全学協働による展開と受講を促進する。 ・初年次教育につながる入学前教育を実施する。 3 生命医科学科のポリシーに基づく入学選抜を実施するために以下の取り組みを行う。 ・アドミッションポリシーに沿った、入試科目の設定を行う。 ・高等学校の教育課程に応じた出題範囲の設定と見直しを行う。 4 生命医科学科卒業後の将来像を明確に示し、基礎教養教育を実践することで、グローバルな医療専門職としての人材を育成する。 5 学修成果の点検・評価においては、3つのポリシーを踏まえて、点検・評価を行いPDCAサイクルを円滑に確立し、より質の高い学修成果が身につくように教育の改善に取り組む。 6 大学全体のFD活動はもとより、生命医科学科のFDの実践を推奨し、個別の課題を横断的に共有することで、全体の課題解決に取り組む。 また、教育実践の点検評価として、授業アンケートの実施方法並びに内容を検証することで、教育内容・方法及び学習指導等の改善に取り組む。
	2) 学修支援体制の強化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、適正な学修環境整備に努め、学生なドステークホルダーの意見を反映できる体制を確保する。	1 生命医科学科教員を中心とし入学前・進級・国家試験・卒業に至る間の体制を適切に整備し運営する。 ・チューター制度を土台に、学修支援システム（UNIVERSAL PASSPORT）の積極活用により、学生個々の支援体制を強化する。 ・退学防止の観点から、授業の連続欠席者情報を教職員が共有し、早期対応を図ることで、未然に退学を防止する。 ・国家試験合格률アップのための対策を講じる。 2 学生アンケートの実施と内容改善に努め、得られた情報を適切に分析・検討し課題の明確化を行う。 ・授業アンケートの回答促進を行い、毎年度の回答率向上に取り組む。 ・授業アンケートを含めその内容精査に努め、効果的に学生の意見を反映できる体制確保に取り組む。 3 生命医科学科では卒業研究を必須化しており、同時に卒業を見据えてルーブリック評価を用いた国家試験合格相当かの評価を行う。
	3) キャリア支援並びに就職支援の強化 建学の理念に基づき、各学科の特性を活かした体系的な「キャリア支援体制」を構築すると共に、学生個々の具体的な進路や就職先をイメージした「就職支援」体制を構築する。	1 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備を進めるため、キャリアサポートセンターと協力して以下の事を行う。 ・履歴書の書き方指導 ・面接の受け方指導 2 次世代の医療人として「キャリアアップ」と「キャリアデザイン」を目指すために、本学科オリジナルの「キャリア教育」を構築・展開する。
	4) キャンパス環境の整備 本学の基本計画に沿って、大学の長所を活かしたキャンパス機能強化や学生のニーズを踏まえた教育研究環境の改修・改善を効果的に行うことで、キャンパスの創造的再生に取り組む。	1 学修環境に関するアンケート調査や学生との意見交換の結果を分析・検討し、安全で快適なキャンパス生活実現に向けた、環境整備に取り組む。
研究力	1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化 地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。	1 学科教員の研究力アップを図る。 ・外部研究費の獲得や国際学術誌への論文投稿などを促進する。 ・学科教員間で研究力アップの仕組みを検討する。 ・研究力アップの仕組みを充実させ、研修等を周知する。 ・学会への参加等、研究活動に必要な機会を保障する。 ・学会発表、論文発表等、研究活動を積極的に推進する。 ・本学出版の査読制ジャーナル（JHWI）のさらなる充実化を目指す。 ・大学の知的財産の充実化を図るために、「ものづくり」を中心とした企業的人材育成と産学官連携事業の強化を推進する。 2 論文発表、学会発表等の研究成果を可視化・公表することで、地域における研究のノード機関としての役割を構築する。

学生支援	1) 学生生活の支援を中心としたサービス向上 学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。	1 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握し、分析・検討することで学生生活に積極的なサポートを行う。 ・健康管理センターを中心とした教職協働による支援体制の強化 ・退学へつながる欠席の多い学生への教員からの連絡 ・学生の健康管理に関して外部機関と連携 ・課外活動支援の充実
募集力(ブランド力)	1) ブランド形成と募集力 (ブランド力) の強化 ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。	1 アドミッション・ポリシーに沿った入学受入れの実施と検証を行う。(再掲) 2 入学定員に沿った適切な学生受入数の維持に取り組む。 3 入試データの分析、高校との連携強化に取り組む。 ・入学後の追跡調査、入学後の学生の学力の伸長などの分析を行う。 4 学生を活用して大学の魅力を発信する。 5 地域の学びの拠点として、施設の開放や受け入れなど以下の内容を積極的にこなうとともに広く活動を周知する。 ・地元学生・生徒のための体験行事、課外学習の受け入れを行う。 ・施設の貸し出し、本学を会場とした公開講座の実施やセミナーなどのイベントを開催する。 6 教員一人ひとりの研究内容、成果についての情報発信を行う。 また、高校生の課題研究に積極的にかかわり、高校との連携強化に取り組む。 7 SNSを活用した、本学の魅力(学科の特色)や大学・学科の情報発信を行う。
グローバル化	1) 国際競争力を意識したグローバル化の推進 国際競争力を意識した教育・研究に取り組み、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。	1 学内の国際化推進に努める事で、グローバル化を推進する。 ・学科の学生に対して、ラーニングサポートセンター(英語村)の積極的な利用を促す。
地域活性化	1) 地域活性化の為の拠点創生 地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。	1 知の拠点として、産官学の地域連携も含めた地域振興及び人材育成に取り組む。 ・自治体、関係機関、団体、学校等との連携を推進する。 ・県内の大学間連携を推進する。
2024年度の総評 (今年度の取組)	教育力(使命・目的等を含む) 1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。	本学科の第3期中期目標・中期計画に沿って、検証・確認を行った。評価スコアは、定性的な評価として、5.達成している、4.かなり進んでいる、3.普通、2.やや足りない、1.ほとんど進んでいない、を採用した。 1 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 3つのポリシーを明確化するとともに、浸透させた。学修ポートフォリオとマイステップ機能を最大限活用し、ディプロマ・ポリシー達成率向上のための指導を行った。また、GPSアカデミックを活用し、学生の成長を促した。さらに、教育内容と方法および学習指導改善のための学部FD・SDを実施した。このことについて、運営状況や利用状況を踏まえて確認・評価した。(評価スコア3) 2 学修支援体制の強化 ディプロマ・ポリシーの周知徹底と達成率向上の指導を行った。成績不審者には1on1の指導による支援を行い、さらに、GPA値の適正評価とループリックの定量的評価をアップデートした。また、学科オリジナルの国家試験対策講座を改善した。授業アンケートの回答率向上のために、学生による意見の把握体制を整えた。このことについて、運営状況や利用状況を踏まえて確認・評価した。(評価スコア3) 3 キャリア支援並びに就職支援の強化 キャリアサポートセンターとの連携を強化し、就職内定に直結させる支援を行った。学生のキャリアアップを図るとともに、社会人の基礎力を学科オリジナルの「キャリア教育」を通して身に付けさせた。このことについて、運営状況や利用状況を踏まえて確認・評価した。(評価スコア3) 4 キャンパス環境の整備 国家資格取得に必要な学習環境を整備した。また、保健センターとの連携を強化するとともに、キャンパス・ハラスメント防止対策に積極的に取り組んだ。このことについて、運営状況や利用状況を踏まえて確認・評価した。(評価スコア2)
	研究力 1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化 地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。	本学科の第3期中期目標・中期計画に沿って、評価を行った。評価スコアは「5.大変良い、4.良い、3.普通、2.あまり良くない、1.良くない」を用いた。 1 学科教員の意識改革が研究環境の整備・改善、引いては研究力アップに繋がると考え、その方策としては各教員が研究に対する意識を高め、積極的な行動を伴うことが必要で、その実際的な方法について以下のような点での実施状況を検証した。 ・新規テーマの掘り起こし (評価スコア:2) ・教員間での協力(研究グループ構築や作業分担、研究カンファレンス) (評価スコア:2) ・外部研究費の獲得や学術誌への論文投稿等の積極的な研究活動の推進 (評価スコア:4) ・研修や学会への参加等の研究活動の周知や参加機会の保障 (評価スコア:3) ・本学出版の査読制ジャーナル(JHWI)の更なる充実のための積極的投稿 (評価スコア:3) ・大学の知的財産の充実化のため、産学官連携強化による「ものづくり」に関連する研究を活用できる人材の育成 (評価スコア:2) 2 地域における研究のノード機関としての役割を担う上で必要とされる、研究成果の論文や学会等での迅速な可視化・公表の実施について、以下の点で検証した。 ・教員間での協力による研究プランの検討・実施や研究成果のまとめ・発表 (評価スコア:3) ・地域の学校の大学訪問に対する対応、模擬講義実施、研究活動への協力 (評価スコア:3) ・地域との関連性や地域へのフィードバックにも視点を向けた研究テーマの検討 (評価スコア:2)

2024年度の総評 (今年度の取組)	学生支援 1) 学生生活の支援を中心としたサービス向上 学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。	2024年度は以下の6点に絞り充実した支援を行った。 尚、評価スコアは以下の通り5段階評価とした。 「5. 大変良い、4. 良い、3. 普通、2. あまり良くない、1. 良くない」 1 体調不良や精神的不安定な学生には保健室や診療所の受診を積極的に勧める。 体調不良な学生については、保健室や医療施設への受診をすすめた。後期になり、インフルエンザ感染が1名、発熱を伴う気分不良の学生（新型コロナ感染：陰性）が数名いた。しかし精神的不安定な学生は見受けられなかった。（評価スコア：4） 2 新入生がなるべく早く学校に馴染むことができるように新入生、2年生そして教員とレクリエーションを実施する。 このことについては例年、1 グループに1年生3～4名と2年生3～4名+教員のグループ単位として大学北側の延岡市植物園にピクニックに行き、交流を図った。（評価スコア：5） 3 休職時の勉強スペースについては、5月の連休や年末年始の期間中に学校で勉強できるよう、1号棟を開放した。 5月の連休の使用は、あまり多くないようであったが、年末年始時期は国家試験を前にした4年生を中心に多くの利用があった。（評価スコア：5） 4 欠席の多い学生へ電話やメールで連絡し学校に来るように促す。 欠席の多い学生については1年次、2年次の各1名で電話やメールでも連絡が取れない状況であった。このような状況の解決について何らかの案を講じる必要がある。（評価スコア：3） 5 臨地実習に関わるワクチン接種を早めに行うよう推進する。 2年次に進級の時点から何度も伝え続けワクチン接種については全員完了した。しかしワクチンへの低反応者も少なからずいるが、本年度は実習先に全員受け入れを認められた。（評価スコア：3） 6 授業についていくことが困難な学生についてはクラスメートから離れる事が無い様、積極的に声がけを行う。 授業についていけない学生は、本年度は数名おり、可能な限り声がけを推進した。その結果いずれも①朝起きることができないため1限目の授業に欠席や遅刻する傾向にある。②授業には出席しているが、小テストの結果を見ても全く勉強している形跡が認められない。このような学生のように感じられた。指導として毎日の生活の中のリズムとして勉強するリズムを入れるよう再度、指導することとした。（評価スコア：2） 以上の事より本年度の達成度としては70%程度と思われる。
	募集力(ブランド力) 1) ブランド形成と募集力（ブランド力）の強化 ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。	総評：今年度の入学予定者数は学科定員を大幅に割っており、募集力（ブランド力）が充分に強化できたとは言い難い。 1 大学の魅力発信（進捗度：40%） ●ネットワーク・サービスの活用 - これまでの広報活動計画は大学公式HPやチラシの配布等、入試広報に依存している部分が多く、X（旧Twitter）及びYoutube上に学科独自のアカウントを設立した。 - しかし、記事や動画投稿に関わる教員が少人数である為、次年度の改善点と思われる。 - また、これらの活動が大学の魅力発信に貢献しているか否かは現時点で不明であり、引き続きの投稿と統計学的な解析が必要である。 ●県内イベントへの参加 - 延岡市並びに宮崎県内での知名度をあげるべく、学科としてイベントに参加した。 - みやざきテクノフェア、東九州ものづくり交流展；工業系の企業や団体が中心として開催される展示会であるが、会場には学校単位で地元高校の生徒が来場する為、出展は有意義であったと思われる。実際に生徒や引率の高校教員とコミュニケーションを交わすことで、元来医療系に興味が無かった方々にも情報を発信することが出来た。 ●発信すべき強み（ブランド） - 臨床検査技師を養成する機関は九州圏内のどの県にも存在する為、本学及び本学科の強み（ブランド）は九州唯一の細胞検査士養成課程を有することであるが、充分に発信できたかは疑問である。 - また、学科に併設するがん細胞研究所も有効に活用し、研究活動を活発化させ、積極的に発信すべきと思われる。 2 地域の学びの拠点としての施設開放（進捗度：60%） ●出張授業、大学訪問 - 入試広報及び庶務課を通じた出張講義や大学訪問では臨床検査技師及び細胞検査士の紹介に加え、地元の中高生が基礎科学的な授業・実習も体験する機会となったと思われる。 ●オープンキャンパス - 年度内に4回のオープンキャンパスに参加し、参加者に臨床検査技師・細胞検査士の紹介、大学設備の紹介ができた。 - 警備上の問題とは思われるが、現在はオープンキャンパスへの参加申し込み方法がやや煩雑である為、今後は入試広報等と協議して申し込み方法を改善すべきと思われる。 - 中高生以外のおさなお子様をお連れのご家族も顕微鏡等の展示物に興味を示していた点を考慮すると、参加対象とする年齢層の拡大も有効であると思われる。 - 参加後のアンケート回答率が高くなく、また内容も簡素である為、回答方法や質問内容については入試広報と協議する必要があると思われる。 3 教員の研究内容に関する情報発信（進捗度：30%） ●情報発信方法 - 大学HPやネットワーク・サービスで情報を発信した。 - 但し、論文発表や学会発表を含む研究活動を行う教員が多いとは言えず、発信すべき内容が充分であったとは言い難い。 - 研究活動の充実は次年度以降の課題である。 4 学科教員の広報活動への参加（進捗度：50%） ●参加状況 - 入試広報及び庶務課を通じて開催されたイベント（出張授業や大学訪問）は多くの教員が積極的に参加した。 - 一方、学科独自でのイベント参加やネットワーク・サービスへの投稿作業は各教員の予定等にも依存していた為、次年度以降は業務の平等化も課題であると思われる。 5 入試データの分析と次年度対応（進捗度：10%） ●追跡調査・アンケートの実施状況 - 資料請求、出願、合格、入学など基本データがあると思われるが関係部署と学科での連携が充分とは言えず、学科としての解析・対応がほぼできなかった。 - 次年度以降は広報活動に係る関係部署と学科での合同会議等の場を定期的に設け、意義のある広報活動を展開したい。

2024年度の総評 (今年度の取組)	グローバル化 1) 国際競争力を意識したグローバル化の推進 国際競争力を意識した教育・研究に取り組み、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。	以下の点において学生及び教員のグローバル化への意識拡大を行った。 1. タイの生徒や学生との実習において、当学科学生に補助をさせることによって、国際言語としての英語の重要性を感じさせた。実際、その後英会話や生物科学系の英語の教科書を読みたいという学生が出てきたため、一定の効果はあったものとみられる。(評価スコア4) 2. 英語村の活用の推進を行った。どの程度の学生が利用しているかは把握していない。(評価スコア3) 3. 選択科目である医療英語、英語コミュニケーションの履修の推進を行った。(評価スコア3) 4. 専門科目での医療系の英語(機械や検査の英語表現など)の紹介を行った。(評価スコア3) 5. 研究成果の英文雑誌への投稿の推進においては、当学科から数報の国際雑誌への採択があった。(評価スコア4)
	地域活性化 1) 地域活性化の為の拠点創生 地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。	前年度に引き続き以下の項目を継続して実施することを掲げて地域活性化を図った。 1 知の拠点として、産官学の地域連携も含めた地域振興及び人材育成に取り組む。 (自治体、関係機関、団体、学校等との連携を推進する。) 2 県内の大学間連携を推進する。 1. 地域振興・人材育成についての実施は以下のとおり。 A: 大学から情報発信する公開講座を生命医学科の教員6名が実施。 B: 旭化成の創業者を顕彰する野口遼顕彰会が中学生の科学への興味を育てるために主催している「ジュニア科学スクール」を中学校3校(岡富中学校、延岡中学校、西階中学校)の生徒に対して実施。 C: 宮崎県臨床細胞学会に関連するイベント等に運営・スタッフとして参加し人脈を広げることで、本学の知名度を向上させるとともに、県内の病理医・細胞検査士を細胞検査士養成課程へ招聘する為の体制を確立。 D: 一般社団法人 宮崎県工業会主催のみやざきテクノフェア(11/8~9)に参加。 E: 一般社団法人宮崎県工業会県北地区部会他が主催した東九州ものづくり交流展(1/31~2/1)に参加。 F: 延岡高校SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として、延岡高校の1年生を対象としたフィールドワークを実施。 G: 延岡高校「さくらサイエンスプログラム」に協力し、延岡高校・タイ国の学生に培養細胞を用いた研究指導を実施。 H: 延岡星雲高校、ウルスラ学園高校、延岡商業高校、延岡中学、南中学、北方学園中学、東海中学、尚学館中学、西階中学、聖心ウルスラ学園聡明中学校等延岡市の地元にある学校や富島高校、日向高校、日向学院高校、都城泉ヶ丘高校、クラーク記念国際高校宮崎キャンパスなど宮崎県内の学校を対象として講義や体験学習を実施。 I: 臨地実習病院への訪問(交流)を通して、県内の実習先の関係者の方々とこれから求められる人材育成(臨床検査技師育成・養成)などについて意見交換を実施。 2. 県内の大学間連携の大学間連携では、タイからの研修生受け入れに関して宮崎大学医学部附属病院と全面的な協力体制を構築。 以上の事から2024年度の評価は極めて高く、ほぼ100%の実施であると考えられる。
2025年度への展望 (来年度の計画案)	教育力(使命・目的等を含む) 1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化 学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。	2025年度の計画は、今年度の状況・評価を踏まえ、さらなる教育力の向上を目指す。 1. 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化を評価・検討・改善するために、以下の項目を引き続き推進する。 ・3つのポリシーを明確化するとともに、さらに強力に浸透させる。 ・学修ポートフォリオとマイステップ機能を最大限活用する。 ・ディプロマ・ポリシー達成率向上のための1on1の指導を行う。 ・コンソーシアム宮崎への参画、県内の高等教育機関との連携事業を強力に推進する。 ・GPSアカデミックを最大限活用し、学生の成長を強力に促す。 ・教育内容と方法および学習指導改善のための学部FD・SDを積極的に実施する。 2. 学修支援体制を評価・検討・改善するために、以下の項目を引き続き推進する。 ・ディプロマ・ポリシーの周知徹底と達成率向上の1on1の指導を行う。 ・退学防止に努める。 ・ルーブリックの定量的評価を吟味するとともに、評価内容をアップデートする。 ・学科オリジナルの国家試験対策講座の改善を積極的に行う。 ・授業アンケートによる学生の意見を把握し、建設的なフィードバックを行う。 3. キャリア支援と就職支援を評価・検討・改善するために、以下の項目を引き続き推進する。 ・キャリアサポートセンターとの連携を強化し、就職内定の支援を積極的に行う。 ・学生のキャリアアップとキャリアデザインを図る。 ・社会人の基礎力である「考える力」と「チーム志向能力」を身に付けさせる。 4. キャンパス環境の整備を評価・検討・改善するために、以下の項目を引き続き推進する。 ・国家資格取得に必要な学習環境を整備する。 ・保健センターと連携し、学生の体調管理を把握するとともに、改善指導を行う。 ・キャンパス・ハラスメント防止対策を徹底する。
	研究力 1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化 地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。	2025年度の計画としては、今年度の状況を踏まえ、以下のようなことを進展させたい。 1 学科教員が「生命医科学」に含まれる研究領域(基礎研究から臨床研究)の強みや特色を活かした研究の更なる推進と併せて研究環境の整備・改善に対する意識を高め、積極的な行動ができるよう、引き続き以下のような実践を試みる。 ・新規テーマの掘り起こしや教員間での協力(研究作業分担、研究カンファレンス) ・外部研究費の獲得や学術誌への論文投稿等の積極的な研究活動の推進 ・研修や学会への参加等の研究活動の周知や参加機会の保障 ・本学出版の査読制ジャーナル(JHWI)の更なる充実のための積極的投稿 ・産学官連携強化のため、地域の「ものづくり」に関連する研修・集会への参加 2 地域における研究の拠点としての役割を担えるよう、研究成果の論文や学会等での迅速な可視化・公表を地域密着型で行うため、以下の活動を引き続き充実させる。 ・教員間での協力による研究プランの検討・実施や研究成果のまとめと地域での発表 ・地域の学校の大学訪問に対する対応、模擬講義実施、研究活動への協力 ・地域との関連性や地域へのフィードバックに重点を置いた研究テーマの検討

2025年度への展望 (来年度の計画案)	学生支援 学生を中心とした視点の下、学生が安定した学生生活を送れるように、健康管理や危機管理、経済的支援や課外活動支援など各種の学生サービス向上に取り組む。	2025年度は2024年度に引き続き検討改善するため以下の6項目について実施する。特に高い評価とは言えない6)について重点的に声掛けを行う。 1. 体調不良や精神的不安定な学生には保健室や診療所の受診を積極的に勧め検討・改善する。 2. 新入生がなるべく早く学校に馴染むことができるように入学生、2年生そして教員とレクリエーションを実施する。 3. 休眠時の勉強スペースを学校内で確保する。 4. 欠席の多い学生へ電話やメールで連絡し学校に来るように促しその効果を検討する。 5. 臨地実習に関わるワクチン接種を早めに行うよう推進する。 6. 授業についていくことが困難な学生についてはクラスメートから離れる事が無い様、積極的に声掛けを行う。
	募集力(ブランド力) 1) ブランド形成と募集力(ブランド力)の強化 ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。	総論；広報活動への各教員の参加に加え、関係部署との協働が不可欠であり、定期的な会議や情報交換を活発化させる。 1 大学の魅力発信 ●募集力(ブランド力)の強化 ・資格試験合格率向上、研究活動の活発化を目指し、発信する情報を増やす。 ・みやざきテクノフェアなどのイベントに学科として積極的に参加する。 ●ネットワーク・サービスの活用 ・これらのサービスにおいて閲覧数等を増加させるには高い頻度で興味を引く投稿が不可欠であるが、現状では担当する教員数が少なく、継続した投稿が困難である為、関わる教員の人数を増やす。 ・閲覧数等の統計的データを解析し、投稿内容・方法等を継続的に改善する。 ●デジタルサイネージの活用 ・デジタルサイネージを活用し学科及び教員の研究内容等を近隣高校等へ紹介する取り組みが開始される為、紹介内容を充実させる。 2 地域の学びの拠点としての施設開放 ●出張授業、大学訪問 ・引き続き、入試広報及び庶務課と協働し地元中高生へ臨床検査技師・細胞検査士をアピールする。 ●オープンキャンパス ・見学者の興味を引く展示・体験コーナーを引き続き展開する。 ・参加申し込み方法やアンケート回収方法を入試広報と協議し、より扱いやすい方法・内容を模索する。 ・回収したアンケートは結果を共有するのみでなく、解析結果も関係部署と共有する。 3 教員の研究内容に関する情報発信 ●研究活動の活発化 ・ネットワーク・サービスやデジタルサイネージを用いて発信する情報を増やすべく、各教員が研究活動を活発化させる。 ・教員自身の研究でなくとも、卒業研究の内容等を有効に利用し発信する。 4 学科教員の広報活動への参加 ●教員の参加推進 ・広報活動へ教員が積極的に参加するべく、学科会議等で協議する。 ・近隣県の高校訪問・予備校訪問を計画し、学科教員が積極的に大学及び学科をアピールする。 5 入試データの分析と次年度対応 ●追跡調査・アンケート ・入試広報が有する入試に関するデータを共有し、学科と関係部署で解析・共有する。 ・解析した内容を基に次年度以降の広報計画を立案すべきであり、関係部署との協働は必須である。
	グローバル化 国際競争力を意識した教育・研究に取り組み、積極的な情報発信を行うことで、学生の交流に留まらない教育・研究のグローバル化を推進する。	引き続き、学生及び教員のグローバル化への意識拡大を推進する。 1. 教育については、医療のグローバル化を目指す大学として、キャンパスのグローバル化や、海外の提携教育機関(タイなど)と連携した教育研究を通じて、医療や生命科学の課題に取り組み、世界諸地域の人々と協働できる英語力の向上によるグローバル人材を養成する。そのために、以下の項目を引き続き推進する。 a. 学生による外国人対応の強化 b. 英語村の活用 c. 選択科目医療英語、英語コミュニケーションの履修の推進 d. 基礎科目および専門科目での医療系の英語(機械や検査の英語表現など)の紹介 2. 研究については、グローバルな視点に基づく生命科学の研究並びに検査、治療に関する研究を推進する。また、学内設備の共同利用・共同研究として、他分野とのチーム連携による研究蓄積を情報資源化し、国内外の研究機関・研究者とともに推進する。そのために、以下の項目を引き続き推進する。 a. 研究成果の国際雑誌への投稿の推進 b. 国内外での国際学会での発表の推進
	地域活性化 地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。	2024年度の実績を踏まえ、引き続き以下の項目を継続・発展させる形で実施する。 1. 知の拠点として、産官学の地域連携も含めた地域振興及び人材育成に取り組む。 ・自治体、関係機関、団体、学校(海外:タイ国キンモンクート大を含む)等との連携を推進する。 2. 県内の大学間連携を推進する。

九州医療科学大学 中期目標・中期計画 【第3期】

九州医療科学大学（大学院：社会福祉学研究所・保健医療学研究所・医療薬学研究所）

ビジョン (教育目標)	医療・福祉についての魅力ある学び、協働による学び、地域での学びを通して、人びとの幸せを創り出すことのできる人材を育てる。	
区分	全学共通目標	各研究科別計画・対策
教育力(使命・目的等を含む)	1) 3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化	◆3つのポリシーを明確に示し、それらを踏まえた学修成果の可視化を図り、大学院生が自らの学びを振り返り展望することができる体制を構築する。
	学修者本位の学修支援体制の構築を目指し、学修成果を可視化することで、学生が自らの学びを振り返り展望することが出来る体制を構築する。	◆時代のニーズに対応したカリキュラムおよび指導体制の検討・検証を引き続き行う。
研究力	1) 大学の強みや特色を活かした研究力の強化	◆各研究室や教員個々の研究力向上を図り、国内外の学術論文発表数を増やす対策を講じる。
	地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。	
募集力(ブランド力)	1) ブランド形成と募集力(ブランド力)の強化	◆定員充足を目指し、とくに社会人を対象にした広報活動に取り組む。
	ブランド形成のための各部署との連携、大学のブランドビジョンに沿った各部署、各部門、各学科の特色、魅力を明確にし学内外へ周知する組織的な体制づくりに取り組む。	◆各研究室や教員個々の研究・指導内容に関する情報発信を行う。
地域活性化	1) 地域活性化の為に拠点創生	◆大学院と医療・福祉現場との連携強化を図っていく。
	地域における教育・研究の中核的な拠点として、地域ならではの特色ある人材育成や研究力や研究シーズを活かした地域社会の課題解決に取り組む。	
2024年度の総評 (今年度の取組) 【定性評価スコア】 5.達成している 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない	教育力(使命・目的等を含む)	・社会福祉学研究所では、学習のしおりに教育方針として明示した3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化を図る機会として、夏・冬期スクーリング時に大学院生および研究科教員全員参加による研究テーマ・計画・中間・成果発表会を継続して実施した。また、指導体制の充実を図る取り組みでは、新たな指導教員は加わらなかったが、先に加えた教員を希望する受験生が出てきた。【定性評価スコア4】 ・保健医療学研究所では、院生の研究内容をWEBにて1時間ほど複数の教員で検討、研究内容・方向性を多次元で検討することができ大変有意義であった。【定性評価スコア5】 ・医療薬学研究所では、大学院生の指導体制の確認を教授会や研究進捗報告会で行った。講義は、前年度と同様のカリキュラムで実施した。3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化を図る目的で、大学院生が自らの学びをユニバ上で記録して自ら振り返って展望できる体制とした。また大学院生がこのような学びを自ら展開しやすいよう、大学院生のスケジュールに即した指導体制を展開した。【定性評価スコア5】
	研究力	・社会福祉学研究所では、査読付き国際1報（前年0）、国内5報（前年5）、紀要等1報（前年3）、報告書3報（前年2）であった。【定性評価スコア3】 ・保健医療学研究所では、査読付き採択論文数は国内4報、国際10報であり、英語論文数が昨年を上回り質の向上が見られた。【定性評価スコア4】 ・医療薬学研究所では、各大学院教員の研究の進展度を、薬学科と連携して引き続きリトリートにおいて可視化した。また薬学科と連携して各講座の研究力向上を図る目的で、前年度に引き続き、講座費が講座一律に措置された。これらの取り組みが現時点で即時的に学術論文発表数増加につながったという効果は確認できていない。しかし前年度に発表がなかった講座からの発表があったことや年度内での採択までには至らなかったが本学の査読付きジャーナルが投稿先として活用された事例があったことは望ましいことであった。査読付き採択論文数（2024年度中に集計された2023年度分）は、国際11報、国内2報、紀要等4報、総説・著書等14報（前年度は国際10報、国内5報、紀要等3報、総説・著書等11報）であった。【定性評価スコア2】

	募集力(ブランド力)	・社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリングを活用した広報活動を継続して実施した。通信教育部から博士（前期）課程への進学も促し、1名の進学者があった。次年度入学の入試において、博士（後期）課程では受験希望者と教員とのマッチングがうまくいかず1名の受験となったが、博士（前期）課程では定員を上回る8名の受験となった。【定性評価スコア4】 ・保健医療学研究科では博士課程前期の入学人数が7名に増加し、入学定員数を満たした。【定性評価スコア4】 ・医療薬学研究科では、社会人を対象とした広報活動を地域の薬剤師会や学会を通じて実施したが、今年度の入学者は0名であった。しかし今年度には1名の学部学生による大学院受験があった。教員と本格的な研究に取り組めた経験が進学意欲を湧かせたとのことであり、望ましいことであった。【定性評価スコア1】
	地域活性化	・社会福祉学研究科では、QOL研究機構社会福祉学研究所を活用した取り組みを継続して行い、社会福祉学部と連携して実施したイベント3件を活動報告書としてまとめ、公表した。【定性評価スコア4】 ・保健医療学研究科では、宮崎大学医学部付属病院からの院生を受け入れ、大学病院との共同研究が進行中である。【定性評価スコア4】 ・医療薬学研究科では、現時点で在籍する大学院生は勤務先の医療現場において責任ある地位に就いており、大学院生を通じて大学院と医療現場は連携できる体制となっている。地域の活性化に資するアウトリーチとして、薬学科と連携して開催された「宮崎県北サイエンスフォーラム」において、5名の大学院教員が研究内容をPRした。地域の薬剤師にも本取り組みへの興味を持っていただき、学外参加者は29名まで増加した（前年度4名）。【定性評価スコア2】
	2025年度への展望 (来年度の計画案)	・社会福祉学研究科では、3つのポリシーを踏まえた学修成果の可視化を図る取り組みを継続して実施する。また、指導体制の充実を図る取り組みについても継続する。 ・保健医療学研究科では、引き続き院生の研究進捗状況を複数の教員でWEB検討を行い、指導教員と一体化した教育を行う。 ・医療薬学研究科では、次年度も指導体制を点検する。大学院生の満足度が高い教育力を維持していく。
	研究力	・社会福祉学研究科では、地域における中核的な研究拠点として、本学の研究経費助成・地域創生事業経費助成やQOL研究機構社会福祉学研究所の研究助成等も活用して、積極的な研究活動を促す。また、大学院生との共同研究も積極的に進めていく。 ・保健医療学研究科では、博士課程後期の研究内容を、本学の査読付き英文ジャーナルなどに投稿し国際研究力を向上させる。 ・医療薬学研究科では、各大学院教員が研究論文発表数を増やせるよう、今年度の支援体制を継続する。研究分野により1報の論文完成までの平均的な所用期間は異なるものの、各大学院教員が年1報程度は論文発表できることを目指す。最近数年間論文発表ができていない大学院教員には、引き続き、投稿先の選択肢として本学の査読付きジャーナルも奨める。
	募集力(ブランド力)	・社会福祉学研究科では、通信教育部のスクーリングを活用した広報活動を継続する。 ・保健医療学研究科では、修了生が集う場を設け、各自の後輩で研究意欲のある人材を確保すべく人材ネットワークの有効活用を試みる。 ・医療薬学研究科では、定員充足に向けて特に社会人が大学院に求めるニーズに応えていく必要がある。地域の病院/薬局に在籍の本学卒業生などを中心に学位取得のメリットをPRすることを継続する。
	地域活性化	・社会福祉学研究科では、社会福祉学部と連携して、QOL研究機構社会福祉学研究所を活用した地域活性化の取り組みを継続する。 ・保健医療学研究科では、地元の医療施設との共同研究により、さらなる地域の医療技術向上を図る。 ・医療薬学研究科では、今年度の活動を継続するとともに、地域における存在感を高められるよう、HPでも大学院教員の研究成果をPRしていく。地域の薬剤師会・病院薬剤師会/高校/中学と共同研究を行い、「宮崎県北サイエンスフォーラム」での発表などを通して地域との交流を広げていく。また同フォーラムへの学外参加者数が次回も連続して20名以上となるよう、地域の薬剤師が参加しやすいように、開催時期をより適切に設定して開催する。

授業アンケート結果 報告書

令和 5 年度(2023 年度)まとめ

教育開発・研究推進中核センター教育開発部門

1. はじめに

本学では平成 17 年度(2005 年度)より、各教員の授業方法・内容の充実を目指し、すべての講義・演習科目について、受講学生に対しアンケート調査を前期・後期に 1 回ずつ実施してきた。平成 22 年度(2010 年度)に設問の大幅な見直しを行い、平成 23 年度(2011 年度)から集計結果を公開してきた。平成 26 年度(2014 年度)に設問を 2 項目追加し、現行の授業アンケートは 15 項目の設問および自由記述から成っている。

授業アンケートの設問は、授業に対する学生自身と教員の取り組み姿勢、授業内容の理解度・達成度および授業の意義という観点から設定されている。その集計結果は、本学の教育理念「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」に相応しい教育が行われているか否かを知る貴重な手掛かりとなる。以下、令和 5 年度(2023 年度)の授業アンケートについて、実施方法と全体および学科単位での集計結果を示す。

2. 授業アンケート実施方法

アンケートの内容と配付・回収：

アンケートの設問は「学生自身の授業の取り組み」に関する 5 問(結果の図中 Q1～Q5)、「学生から見た教員の授業に対する取り組み」に関する 7 問(Q6～Q12)、「授業に対する学生自身の理解度・達成度」に関する 2 問(Q13～Q14)、総合評価として「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」に関する 1 問(Q15)である。回答は「あてはまる」から「あてはまらない」までの 4 段階または時間や回数などを 4 段階に区切った選択肢から 1 つ選ぶ形式とした。また自由記述の欄があり、授業の感想や要望等があれば記入することになっている。すべての科目について、前期・後期に 1 回ずつ、原則として授業実施時に時間を設け、ユニバーサルパスポート(本学 WEB 学習支援システム)において実施している。

アンケート対象学生数と科目数：

令和 5 年度(2023 年度)の授業アンケートの対象となった教員数、科目数、学生数を下記※表 1 にまとめた。

※ 表 1

アンケート実施		科目数	専任教員数	非常勤教員数	教員数	アンケート回収数	受講生数
令和 5 年 年度 (2023 年度)	前期	537	84	43	127	5,034	10,168
	後期	554	87	36	123	3,539	10,115

アンケート集計・解析方法とフィードバック：

各学科の学年ごとに、設問に対する 4 段階回答を集計し、学年及び学科単位で回答の割合を図示した。各授業科目については、科目間での比較のために差が顕著に表れるよう 4 段階回答を 8、3、2、0 点として点数化し、また設問項目間での比較のために評価レーダーチャートを作成した。

アンケートの集計・解析結果については、各教員へ担当分の結果を配布しており、アンケート結果

をふまえ授業改善につなげられるように、令和 3 年度の授業アンケートより、学生からのコメント等に対し、科目担当教員がユニバーサルパスポート上で学生へコメントを入力し、フィードバックを実施した。令和 5 年度の授業アンケート回収率について、前期約 49.5%・後期約 35.0%と前年度と比較して増加がみられた。薬学科では、学生を講義室に集めた上でオンラインでの回答を促す方式にて実施しており、他学科よりも回収率が高かった。そこで、次年度以降はこの方式を全学的に採用して回収率を高めることが望まれる。

3. 授業アンケート結果

授業アンケート結果については、アンケート内容である「学生自身の授業の取り組み」、「学生から見た教員の授業に対する取り組み」、「授業に対する学生自身の理解度・達成度」、また、総合評価として「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」について、各学科での回答割合を図で示した。全学的な総括は、過去の結果との比較および学科間での相違に着目して行った。

全学的アンケート結果（図Ⅱ）

各学科のアンケート結果を基に大学全体での傾向をまとめた。総合評価としては概ね高評価であり、令和 4 年度(2022 年度)と同様に、総じて「意義ある授業」が行われている。しかしながら、学科毎に分析されている後述の記載にある通り、臨床福祉学科の 1 年前期、薬学科の 4 年後期、6 年後期、生命医科学科の 4 年後期などにおいて、教員の授業に対する取り組みに対する批判的な回答がみられた。その理由として、学科毎の記載にある通り、一部科目において学生が不満に感じる内容やシステムで授業をしている可能性や、指導方法の善し悪しが結果に出ている可能性なども考えられる。薬学科ではアセスメント委員会が各授業を点検して改善を促すこととしているが、このような学科レベルでの自己点検に基づくフィードバックの取り組みを大学全体に広げていくことが望まれる。また一部科目への批判から得られた示唆を踏まえて教学改善につなげていくため、各科目のシラバス記載内容（教育内容、指導方法、成績評価方法など）の適切性を学科レベルで十分に点検し、授業担当教員は主担当、副担当の別なく共に責任をもって学科で点検されたシラバス通りの授業を実践していく必要がある。このように授業をより魅力的にしていくことで、学生の学びに対するモチベーションが上がり、教学改善につながっていくと期待される。

「学生自身の授業の取り組み（Q1～5）」

前期・後期ともに、全学的に授業を 4 回以上欠席した学生は 10%程度以下であったが、スポーツ健康福祉学科、臨床心理学科、臨床福祉学科での欠席は他学科よりもやや多く見受けられた（Q1）。予習（Q2）、復習（Q3）、準備学習（Q4）については、学科により差はあるが、10～40%の学生は全く予習、復習、準備学習をしていないことが示された。ただ、この比率は前年度よりも僅かだが減少していた。授業への参加意欲（Q5）に関しては、臨床心理学科での評価値が他学科よりやや低めであったが、概して問題はないようである。ただ後述される通り大学全体での傾向として、学生の学習時間が中間学年段階まで徐々に減少し、高学年での国試対策段階で苦労している実態がみられるため、学修内容の難化が進む中間学年段階に向けて学習意欲や学習時間を維持させる方策を学科レベルで考える必要がある。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み（Q6～12）」

シラバスに沿った授業と目標や習得すべき事項の説明(Q6, 7)、授業開始時間や授業雰囲気確保に対する教員の努力や学生の授業への参加を促す努力(Q8, 9, 10)、およびわかりやすい講義資料の作成や説明が行われたか(Q11, 12)について、概ね肯定的な回答であり、大部分の学生は教員の取り組みを認めていると考えられた。一部批判的な回答もあるが、学科毎に後述されるように、アンケートの学生コメントを真摯に受け止め、更なる授業の改善・工夫に取り組んでいく必要がある。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度（Q13・14）」「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か（Q15）」

学生の理解度（Q13）、学習意欲の高まり(Q14)および授業の意義(Q15)について、上述した内容と重

複するが、概ね肯定的な回答であった。これらは授業に対する教員の熱心な取り組みの成果であると思われる。一方で批判的な回答からみえてきた改善すべき点には、学科毎に真摯な対応が必要である。

臨床福祉学科アンケート結果(図Ⅲ)

「学生自身の授業の取り組み」

【欠席状況】では、4回以上欠席した学生が1年では（前20%→後3%）、2年では（前8%→後15%）、3年は（前10%→後4%）、4年は（後5%）と一定数いる。1～3回の欠席は2年が50～60%と高い割合となった。特に4～5回以上の欠席は、単位認定不可や放棄に繋がっていくので、早い段階から継続的に出席状況を把握し、個別指導をしていく必要がある。

【予習復習時間】では、「ほとんどしなかった」が、全学年を通し、前60%～30%であったが、後期30～20%と減少した。「ほとんどしなかった」は学年が上がるにつれ少なくなっている。予習復習の習慣づけが課題としてあげられる。1年生のうちから予習復習の学習習慣を身に着けるよう、チューター時間等で指導を促していきたい。

【授業中の取り組み】では、「授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか」の問いに対して、「あてはまる・ややあてはまる」が90～100%であった。
全体として、学習への意欲的な取り組みは良好であった。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

学生から見た教員の授業の取り組みに関する設問では、各項目（シラバスに沿って、授業の目標や習得すべき事項の説明、開始時間、授業の雰囲気確保、授業への参加、わかりやすい説明、講義資料）に関して、「あてはまる・ややあてはまる」が90%以上で肯定的な回答を得ており、学生からは概ね良好な評価であった。しかし「あてはまらない・あてはまらない」が若干ではある一定数いることは事実であり、特に1年前期が10%である。チューター時間を活用した個別指導や、授業意欲を低下させないため、アンケートの学生コメントを真摯に受け止め、更なる授業の改善・工夫に取り組んでいく必要がある。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

授業に対する学生自身の理解度・達成度に関する設問では、各項目（目標や習得すべき事項の理解、学習意欲）に関して、「あてはまる・ややあてはまる」が前期では80%～95%であった。後期は95%～100%と概ね良好であった。特徴的なこととして、「あてはまる」だけの割合では、2年前期が60～70%と低い。「あてはまる」の割合が高くなる取り組みを工夫・改善していく。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

授業の意義について「あてはまる・ややあてはまる」と回答した学生は、前期は全学年90%前後であった。後期は1年の数パーセントを除いて100%と全体的に肯定的な回答をしている。全体的な結果はおおむね満足できるが、更なる教育改善に努めていきたい。

* 授業アンケートの回収率をあげ、その結果を考察し、授業改善につなげていきたい。

スポーツ健康福祉学科アンケート結果（図Ⅳ）

「学生自身の授業の取り組み」

【欠席状況】は、3回以内の欠席でみると、全学年で前期後期とも80%以上であり、おおむね良好な出席状況であるが、1年生・2年生で前期後期の4～5回欠席者がやや気になる点である。また、1年前期の欠席0回の学生の割合が約65%と昨年の約59%よりやや改善しているが、2020年度の約71%よりは低く、後期には約35%（昨年約33%）とさらに低下していることも気になる点である。

【予習復習】は、前期では学年が上がるにつれて 30 分以上の実施率が上昇する傾向が認められる。後期における 2 年生の 30 分以上の実施率の大幅な低下、ほとんどしなかった者の増加が気になるところである。また、全学年で前期に比べ後期の 1 時間以上の実施率が低下している。予習復習の習慣づけが課題として挙げられる。

【学習への意欲的な取り組み】では、90%の学生が肯定的に回答している。

2022 年度は引き続きコロナウイルス感染症の影響により一部制約は残ったものの、ほぼ順調に授業が行われた。出席状況について 3 回以内の欠席でみると、おおむね良好であった。

中期目標・中期計画に沿って各種国家試験に対する地力を養成するための取り組みを実施してきた結果、各種国家試験の合格率は全国平均レベルを大きく下回ることにはなくなった。しかし、学年進行とともに受験をあきらめる学生もみられ、意欲的に資格取得を目指す者とそうでない者との二極化の傾向が続いている。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

Q6～12 のすべての質問において、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせると全学年において 9 割を超える肯定的な回答を得ており、学生からは概ね良好な評価を得ている。「ややあてはまる」の評価を「あてはまる」の評価にしていくため、教員の授業に対する取り組みを工夫・改善していく。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

学生の理解度・学習意欲の高まりについては、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせると、9 割を超える肯定的な回答を得ている。「学生から見た教員の授業に対する取り組み」の評価同様、「ややあてはまる」の評価を「あてはまる」の評価にしていくため、学生の理解度および学習意欲を高める取り組みを工夫・改善していく。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

授業の意義について、90%以上が「あてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な回答をしている。「あてはまる」だけに着目すると約 73～96%（昨年度：約 68～94%）であった。1 年生と 2 年生に前後期とも数%ではあるが「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の回答がある。原因を探り、本学科への進学に対する満足度を上げるために、学習意欲の向上を図る取り組みの工夫が必要である。

薬学科アンケート結果（図 V）

「学生自身の授業の取り組み」

【欠席】前後期とも、1～5 年生においては、約 70～80%が欠席なしであった。6 年生においては、薬学総合演習で授業回数が多い。前期は欠席が比較的少なかったが、後期は、単位認定試験や国家試験が迫り、自学を好む学生も増えるため、欠席数は増えていた。

【予習・復習】3 年生後期で予習復習を 1 時間以上やっている学生の割合が他学年より多くなっていた。2023 年度から 3 年後期に比較的難易度の高い科目が多くなったため、準備をしていたと考えられる。6 年生後期に予習復習の時間が見た目で増加している。国試対策の本腰が入ったからと考えられる。1,2 年生で予習をしていない学生が比較的多いので、薬学生として、難しい国家試験を目指すという自覚を早期に植え付けたほうが良いと考えられる。どのようにモチベーションを持たせるか、検討が必要である。

【シラバス記載の準備学習】昨年度より少し下がって、全体的には 9 割弱の学生が取り組んでいる。

【授業に取り組む態度・意欲】学年が上がる毎に悪化している傾向がある。難易度が上がるためでもあると思うが、薬剤師の先生の話や他大学の話などを取り入れて、モチベーションを保つ方法を考えるべきである。6年生で授業に取り組む態度・意欲が若干悪化している。これは、国試対策の勉強を無理にさせようとするシステムが良くないのかもしれない。これは少し改善するシステムを導入したので、来年度の結果を見て判断する。

「教員の授業に対する取り組み」

【シラバスとの一致性】6年生後期がオムニバス科目のみなのでシラバス通りでない授業があるようだが、概ねシラバス通り行われていると考えられる。

【目標等の説明】6年生後期がオムニバス科目のみなので、授業目標や修得すべき事項の説明が足りないという意見が多かった。それ以外は、概ね目標等の説明が適切に行われていると考えられる。

【開始時間】6年生で授業開始時間が少し守られなかったようであるが、概ね守られていると考えられる。

【授業の雰囲気・学生の参加】6年生後期で少し雰囲気が良くなかったようであるが、概ね良いと考えられる。

【授業の説明】5,6年生後期で説明があまり良くない授業がある。個別のデータからアセスメント委員会でチェックをして改善を促す。

【講義資料】5,6年生後期で講義資料が良くなかったようである。これについても個別のデータからアセスメント委員会でチェックをして改善を促す。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

【理解度】2023年度は、全学年前後期通して、授業に対する学生自身の理解度・達成度は「あてはまる」、「ややあてはまる」の解答が概ね90%以上であった。これに関しては、薬学科の各教員の努力の表れだと思われる。昨年度までは、特に6年生で良くなかったので改善されたと言える。

【学習意欲】4,5年生の後期で、学習意欲が良くなかった。単位認定のシステムの説明不足の可能性があるので、今後個別アンケート等のデータを解析し、改善につなげる。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

全学年前後期通して、意義のある授業であったか否かについては、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた評価が、ほぼ90%超あった。しかし、6年生の後期、4年生の後期に「あてはまらない」「あまりあてはまらない」が増加していた。どちらもオムニバスの授業で、一部の教員の講義が、薬学科の学生の望んでいるレベルに達していないと考えており、授業アンケートをしっかりと解析し、授業改善につなげるつもりである。

動物生命薬科学科アンケート結果（図VI）

「学生自身の授業の取り組み」

欠席については、前・後期を通じて全学年で90%以上が0-3回の欠席であった。0回欠席は、2年生の前期が94%と最も高く、4年生の後期が40%と最も低かった。1-3回欠席は4年生の後期が57%と最も高く、2年生の前期が6%と最も低かった。4-5回欠席は4年生の前期が8%と最も高く、次いで4年生の後期3%、1年生の前期3%、1年生の後期1%であった。なお、2年生の前・後期、3年生の前・後期は0%であった。4年生の前期欠席が高い理由は就職活動のためと考えられた。

予習時間について、「ほとんどしなかった」、「30分未満」を合わせると、全学年の前期67-88%、後期59-82%の学生が該当した。復習時間においても、「ほとんどしなかった」、「30分未満」を合わせると、全学年の前期50-87%、後期57-73%の学生が該当した。したがって、半数以上の学生は、「ほとんどしなかった」あるいは「30分未満」の予習・復習時間であった。毎年、予習・復習時間が短いことから、その原因を調査するとともに予習・復習の必要性についての指導を工夫する必要があると考える。

シラバスに記載されている準備学習については、「30-1時間」、「1時間以上」を合わせると、前期では、1年生53%、2年生44%、3年生64%、4年生53%、後期では、1年生63%、2年生58%、3年生94%、4年生83%とバラツキが大きかったものの、2年生の前期を除き、他の学年・学期においては、半数以上の学生が30分以上「シラバスに記載されている準備学習」を行っていた。ただし、「予習の時間」と「シラバスに記載されている準備学習」については、ある程度の相関があると考えられるが、乖離があり、設問内容を検討する必要があると思われる。なお、2年生の前・後期を除き、他の学年・学期の学生は、昨年度よりも準備学習の時間が多くなっていた。特に、昨年度と比較して、後期の「30-1時間」、「1時間以上」を合わせた3・4年生は、それぞれ、93%、83%と良好であった。今後もこの良好な傾向が続くか注意していきたい。

「学習に意欲的に取り組みましたか」という設問に対しては、前期・後期ともに、いずれの学年においても「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた回答は、89-100%であり、全体として、学習への意欲的な取り組みは良好であった。

「教員の授業に対する取り組み」

教員の授業に対する取り組みに関する設問では、前・後期を通じて全学年において、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた回答は、「担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか」との項目で、1年生の前期で89%が最も低くかったが、他の項目は、すべての学年・学期において90%以上と良好で、100%も散見された。これは、昨年度と比較して、大きく改善されており、教員が授業に対する取り組みの改善を実施した結果と考えた。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた評価は、前・後期を通じて全学年で95%以上（95-100）と良好であった。

「学生自身にとって授業が意義のある授業でしたか」

総合評価として、「授業は意義あるものでしたか」に対して、「あてはまる」、「ややあてはまる」を合わせた評価は、前・後期を通じて全学年で、96%以上（96-100）と良好であった。

生命医科学科アンケート結果報告(図Ⅶ)

「学生自身の授業の取り組み」

1 年次から 3 年次において欠席数 3 回以内は、前期の 1 年次・2 年次・4 年次においては、ほぼ 95%～100%であった。また後期では 84%～98%であった。特に 1 年次から 3 年次は 97%から 98%の出席であるにもかかわらず 4 年次で 84%と他の学年と一線を隔する結果であった。前期では 3 年次のみ僅かに 95%をきる値を示した。更に前期の 3 年次では 6 日以上欠席が 5.5%もあり、他学年とは一線を画した結果となった。4 年次では欠席ゼロが 54%程度しかおらず、他の学年と比較して皆出席が非常に少ない。そして 1 回から 3 回欠席が 42.9%もあり、他の学年とは異なった値を示した。後期でも 4 年次では 4 回以上の欠席が 15%もいるため国家試験を控えた学年である割には真剣身に欠けていると思われる。2022 年度のデータと比較すると 4 年次以外は概ね同様な結果を示している。2022 年度の 4 年次は 6 回以上の欠席が 30%を超えていた。尚、推定であるが 2022 年度も 2023 年度も就職試験に赴く為、欠席になっていることも考慮されることから全体的には概ね良好な出席であると思われる。予習については 1 年次ではほとんどしなかったが、63%以上もいた。しかし学年が上がるに従い、少なくなり 4 年次では 25.7%と少なくなっている。また、1 時間以上、30 分から 1 時間の予習については学年が上がるに従い予習時間が多くなっている傾向を示した。2022 年度と比較すると、1 年から 4 年までほとんど予習しなかった学生が 57%～33%おり、予習する学生が非常に少ない印象を受けたが、2023 年度では学年が上がるに従い、予習する学生が増えてきている。復習については、2023 年度の学生は 1 時間以上行う学生が、学年が上がるに従い多くなっているがそのポイント数の上昇が予習よりもはるかに高い数値を示した。勉強するという生活リズムが徐々に生まれているのかもしれない。しかし低学年では授業への予習・復習が低い傾向を示しているため教員からの指導の必要と思われる。

「教員の授業に対する取り組み」

「教員は、シラバスにそって授業を行ったか」と言う設問に対し「あてはまる」「ややあてはまる」の合計が前期 95%以上・後期は 91%を超えており概ねシラバスに沿った授業が行われていると推測される。「教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していたか」と言う設問に対しては「あてはまる」「ややあてはまる」の合計が前期・後期は約 94%以上あり、おおむね学生の授業への目標や修得すべき目標を得ることができたことがうかがえる。「授業の開始時刻を守っているか」と言う設問に対し「あてはまる」「ややあてはまる」が前期で 96%以上、後期では 97%以上であり概ね教員が開始時刻を守っていることが示唆された。これらについては 100%になるよう教員自身の意識改革が必要と思われる。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

「授業の目標や修得すべき事項を理解できたか」と言う設問に対し学年が上がるに従い「あてはまる」は高くなり「ややあてはまる」次第に少なくなっていく。しかし「あてはまる」「ややあてはまる」合計の平均は前期の平均が約 95%・後期が約 93%を超えており授業中に適切に目的や重要点の指導が行われていることが示唆された。また、「授業で学習意欲が高まったか」と言う設問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」という設問に対し、1 年次では後期に 3.6 ポイント下がっている。しかし・2 年次の前期に比較し、後期は、5.3 ポイント上がっており、専門教科が増えて意識・意欲が上がったと思われる。それに対し 3 年次・4 年次ではほぼ差が認められなかった。このように学習意欲については学年により明らかな差が確認された。国家試験を目前に控えた 4 年次については理解度・達成度に加え記憶力が必要となるため更なる理解を深める必要性がある。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか」

総合評価として「授業は意義あるものだったか」と言う設問に対し、「あてはまる」「ややあてはまる」の合計が前期・後期ともに 92%を超えている。学年別にみると 2022 年度に最も低かった 3 年次の前期 89%が 2023 年度では 6 ポイント上がり約 95%であった。また後期では 4 年次が最も低く 92%であるが、その他の学年では前期が 94%から 97%であり学年の経過により医療に関する専門科目の意義を理解し授業が意義あるものとして認識されている状況であった。このように意義ある授業を心がけ次年度は更に学生にとって意義あるものとなるよう学科全体で取り組んでいく必要がある。

臨床心理学科アンケート結果報告(図Ⅷ)

「学生自身の授業の取り組み」

2023 年度の本学科の全体の出席状況に関しては、1、2、3 年生の学生の 80%以上が 3 回以内の欠席であったが、4 年生の後期は約 25%の学生が 3 回以上の欠席をしていた。この結果から、今年度から 4 年生に対する出席指導を強化する必要があると考えられる。

予習時間は、「ほとんどしなかった」の割合が 1 年生では約 65%、2 年生 40%、3 年生 30%、4 年生 30%で 3、4 年生の予習時間が長く、学年が下がるほど予習時間が短くなることから、今後学科で 1、2、年生を中心に徹底した指導を行なっていく必要があると考えられる。

復習に関しては、ほとんどの学年で「ほとんどしなかった」の割合が前期よりも後期の方が高くなっており、後期の授業における復習の習慣を身につけるような学生指導を行なっていく必要がある。

授業中の意欲的な取り組みに関しては、1、2、3、4 年生において、前期・後期ともに「あてはまる・ややあてはまる」が 80%を超えており、学生は意欲的に大学の授業に取り組んでいるという結果であった。今後もこのような結果を継続できるよう、学生の学習意欲を向上させられるような授業を学科として取り組んでいく。

「学生から見た教員の授業に対する取り組み」

学生から見た教員の授業の取り組みに関しては、1、2、3、4 年生ともに全ての質問項目において「あてはまる・ややあてはまる」が前期・後期ともに 80%以上となっており、2022 年度と同様に教員の授業に対する取り組みは、学生から高く評価されていた。今後も学生から授業評価を意識した取り組みを継続して行っていく必要がある。

「授業に対する学生自身の理解度・達成度」

授業に対する学生自身の理解度・達成度に関しては、1、2、3、4 年生において、理解度、意欲の全ての質問項目において「あてはまる・ややあてはまる」が 80%を超えており、学生の授業に関する理解度・到達度は高いと考えられる。また、この結果から、学生が授業に対して意欲的に取り組んでいることが推測された。しかしながら、今年度は 2 年生の理解度・到達度、学習意欲が他の学年と比べて低い傾向があることから、2 年生の傾向に対する指導のあり方を検討する必要がある。

「学生自身にとって授業が意義のある授業であるか否か」

授業の意義に関しては、前期・後期ともに 90%以上の学生が「あてはまる・ややあてはまる」と回答しており、概ね高い評価であった。この結果は、各教員のこれまでの地道な取り組みによるものであると考えられる。現在のところ、全体的な結果は概ね満足できるものではあるが、この結果に満足することなく、常に学生ファーストの視点で、今後の授業を展開していけるように、学科教員一丸となって

取り組んでいく必要がある。

学生支援システム「UNIVERSAL PASSPORT」により、
Webアンケートを実施。

(以下、アンケート内容のイメージ)

123456789 科目A (教員B)

授業アンケート 年度 (前期)

授業アンケート Q1～Q18

Q1 【あなたの授業に対する取組について】

あなたは、この授業を何回欠席しましたか

- ☐ ① 0回
- ☐ ② 1回～3回
- ☐ ③ 4回～5回
- ☐ ④ 6回以上

Q2 【あなたの授業に対する取組について】

あなたは、1回の授業に対して平均どのくらい予習を行いましたか

- ☐ ① 1時間以上
- ☐ ② 30分～1時間
- ☐ ③ 30分未満
- ☐ ④ ほとんどしなかった

Q3 【あなたの授業に対する取組について】

あなたは、1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか

- ☐ ① 1時間以上
- ☐ ② 30分～1時間
- ☐ ③ 30分未満
- ☐ ④ ほとんどしなかった

Q4 【あなたの授業に対する取組について】

あなたは、シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか

- ☐ ① 全部やった
- ☐ ② ほとんどやった
- ☐ ③ あまりやらなかった
- ☐ ④ 全然やらなかった

Q5 【あなたの授業に対する取組について】

あなたは、この授業で居眠り・私語・遅刻・早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか

- ☐ ① あてはまる
- ☐ ② ややあてはまる
- ☐ ③ あまりあてはまらない
- ☐ ④ あてはまらない

Q6 【教員の授業に対する取組について】

担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか

- ☐ ① あてはまる
- ☐ ② ややあてはまる
- ☐ ③ あまりあてはまらない
- ☐ ④ あてはまらない

Q7 【教員の授業に対する取組について】

担当教員は、授業の目的や修得すべき事項を毎回説明していましたか

- ☐ ① あてはまる
- ☐ ② ややあてはまる
- ☐ ③ あまりあてはまらない
- ☐ ④ あてはまらない

Q8 〔教員の従業に対する取組について〕

担当教員は、授業の開始時刻をきちんと守っていましたか

- ☐ ① あてはまる
- ☐ ② ややあてはまる
- ☐ ③ あまりあてはまらない
- ☐ ④ あてはまらない

Q9 〔教員の授業に対する取組について〕

担当教員は、学生の私語などに注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか

- ☐ ① あてはまる
- ☐ ② ややあてはまる
- ☐ ③ あまりあてはまらない
- ☐ ④ あてはまらない

Q10 〔教員の授業に対する取組について〕

担当教員は、学生に授業への参加を促しましたか（質問等）

- ☐ ① あてはまる
- ☐ ② ややあてはまる
- ☐ ③ あまりあてはまらない
- ☐ ④ あてはまらない

Q11 〔教員の授業に対する取組について〕

担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか

- ☐ ① あてはまる
- ☐ ② ややあてはまる
- ☐ ③ あまりあてはまらない
- ☐ ④ あてはまらない（具体的に書いてください）

Q12 〔教員の授業に対する取組について〕

担当教員の講義資料（教科書を含む）は適切でしたか

- ☐ ① あてはまる
- ☐ ② ややあてはまる
- ☐ ③ あまりあてはまらない
- ☐ ④ あてはまらない（具体的に書いてください）

Q13 〔授業に対するあなたの理解・達成度〕

あなたはこの授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか

- ☐ ① あてはまる
- ☐ ② ややあてはまる
- ☐ ③ あまりあてはまらない
- ☐ ④ あてはまらない（具体的に書いてください）

Q14 〔授業に対するあなたの理解・達成度〕

あなたは、この授業で学習意欲が高まりましたか

- ☐ ① あてはまる

- ☐ ② ややあてはまる
- ☐ ③ あまりあてはまらない
- ☐ ④ あてはまらない

Q15 〔総合評価〕

あなたにとって、この授業は意義あるものでしたか

- ☐ ① あてはまる
- ☐ ② ややあてはまる
- ☐ ③ あまりあてはまらない
- ☐ ④ あてはまらない（具体的にかいてください）

Q16 この授業でよかったと思う点について書いてください

Q17 この授業で改善した方が良いと思う点について書いてください

Q18 この授業の感想（自己反省を含む）、また授業担当者へ伝えたいことなどを自由に書いてください

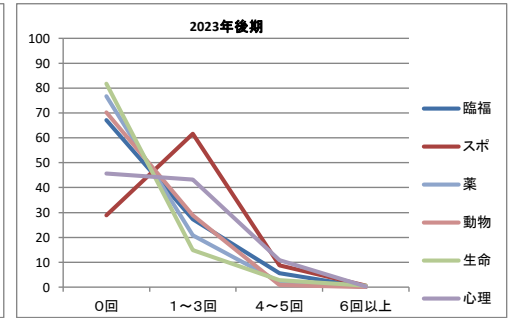
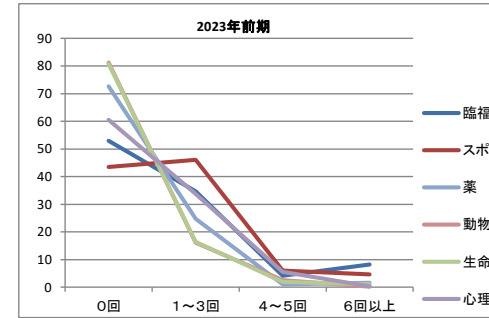
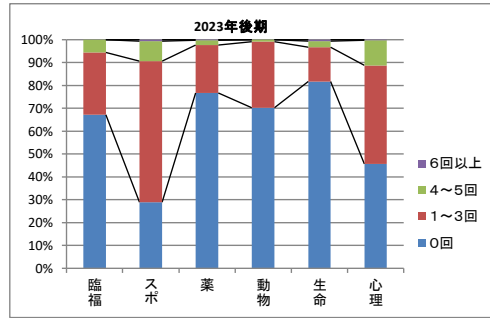
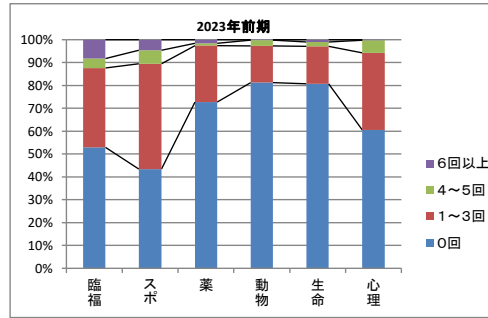
このアンケートは、授業改善を目的として実施するものです。あなたの意見は、今後の授業改善の参考となります。アンケートの回答によりあなたが不利益をこうむることはありませんので、率直な回答をお願いします。

回答

授業アンケート 令和5年度(2023年)

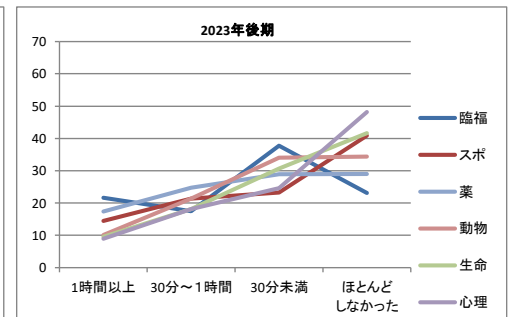
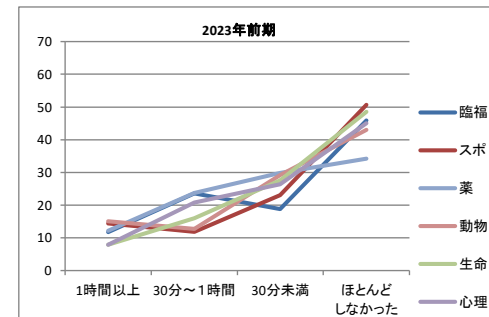
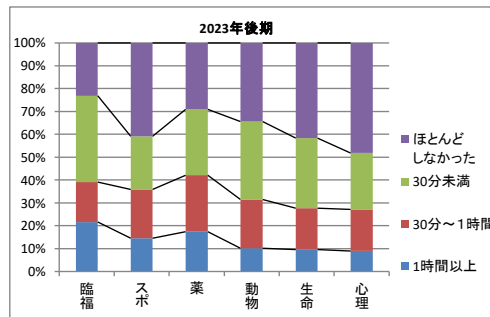
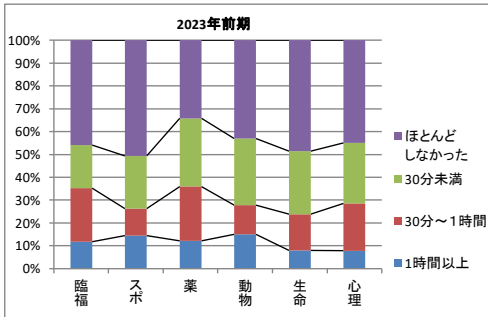
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



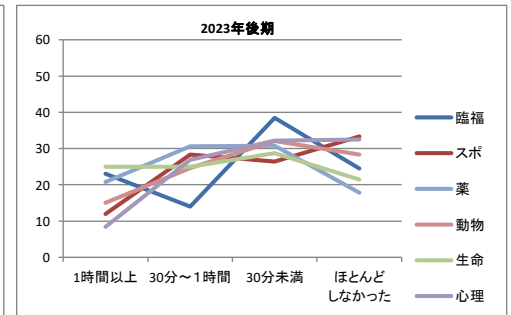
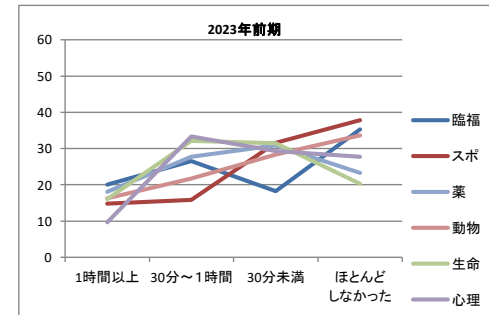
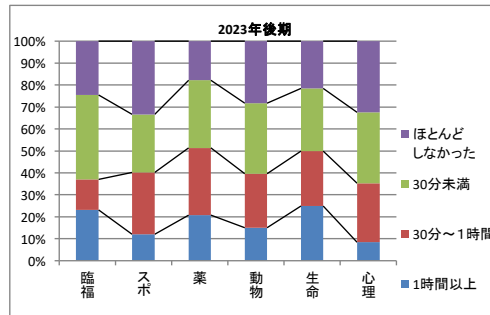
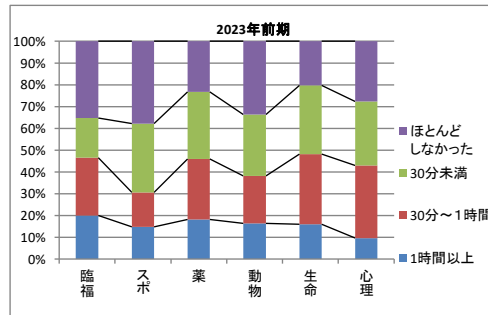
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して平均どのくらい予習を行いましたか。



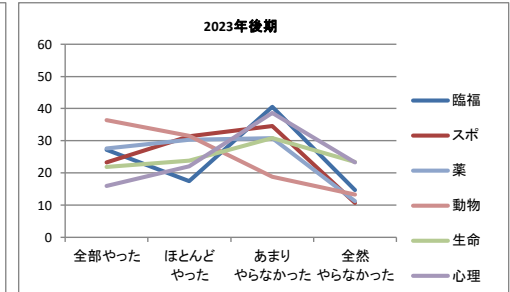
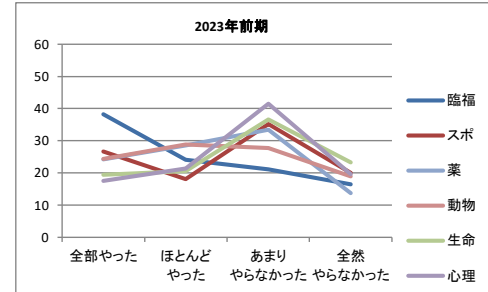
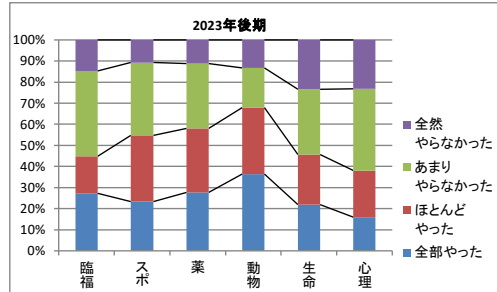
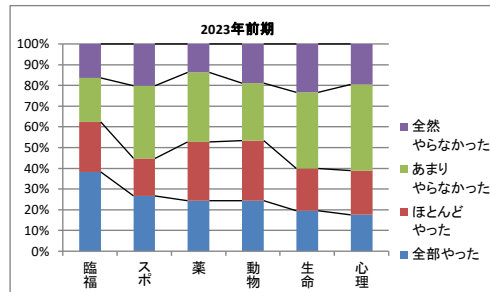
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



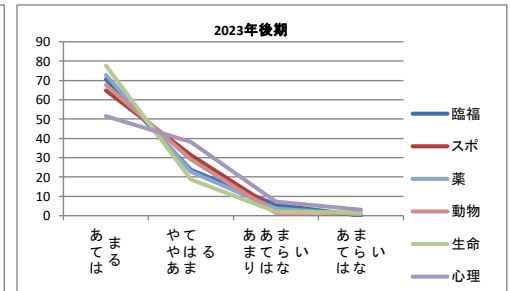
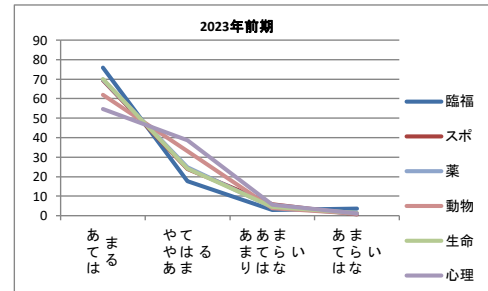
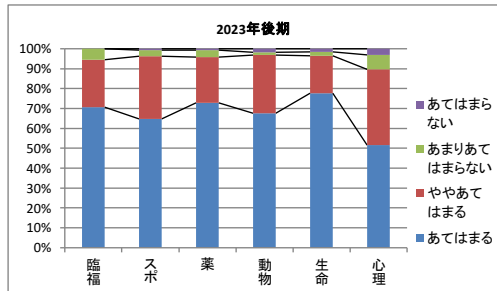
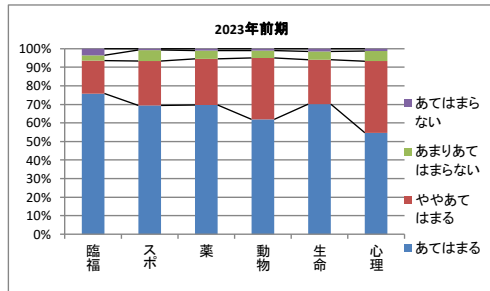
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



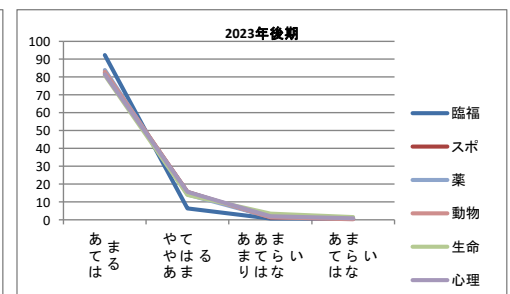
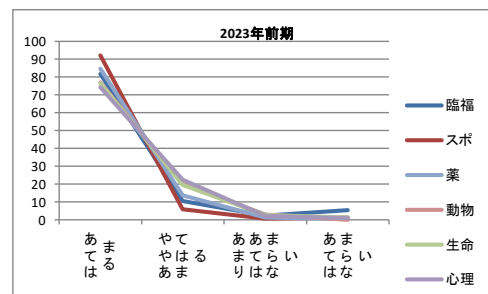
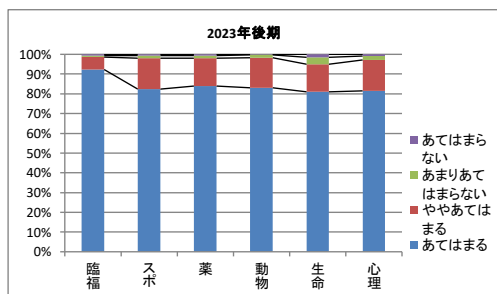
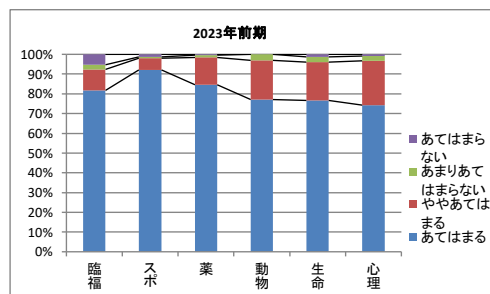
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



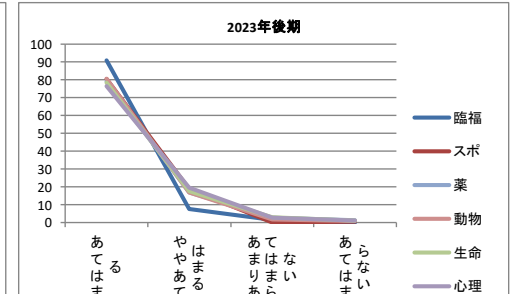
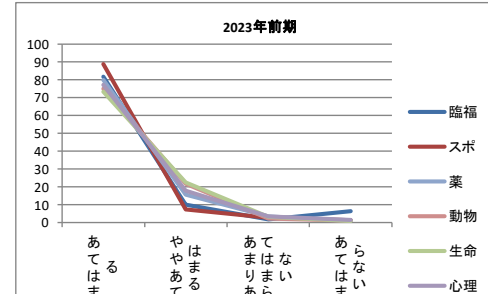
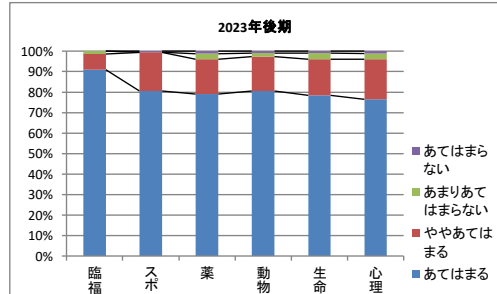
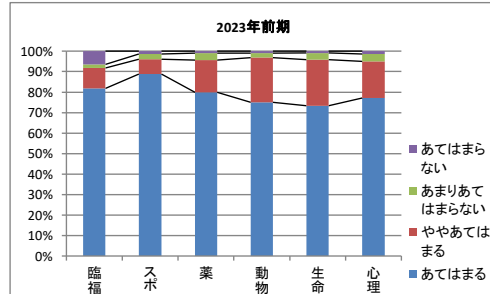
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



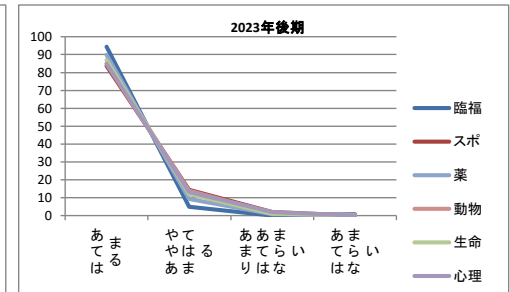
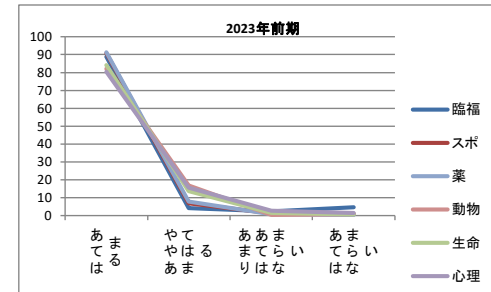
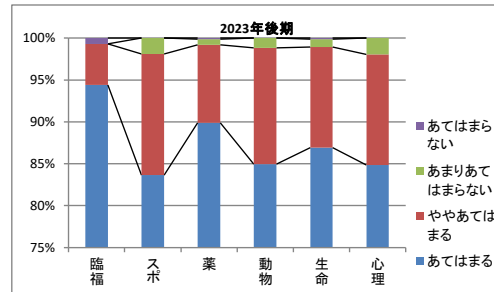
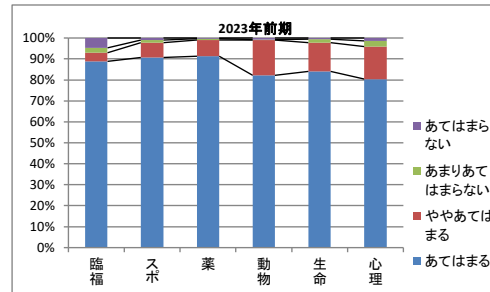
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



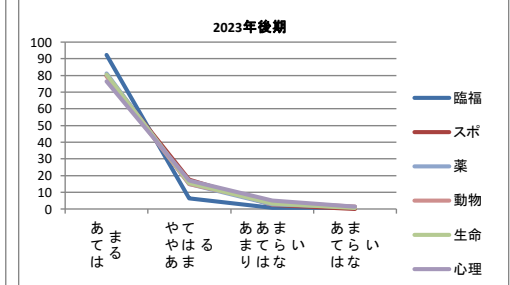
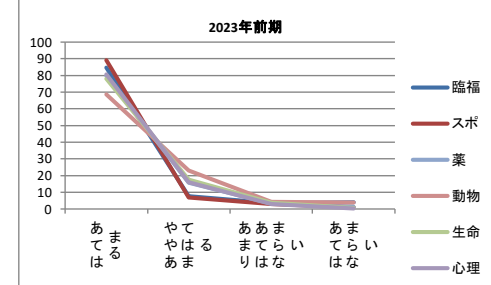
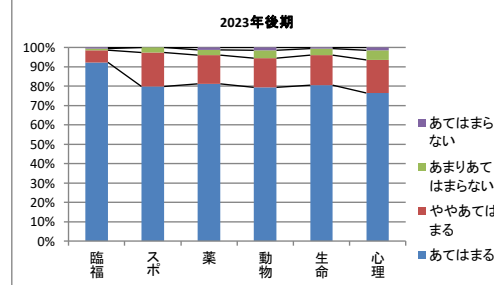
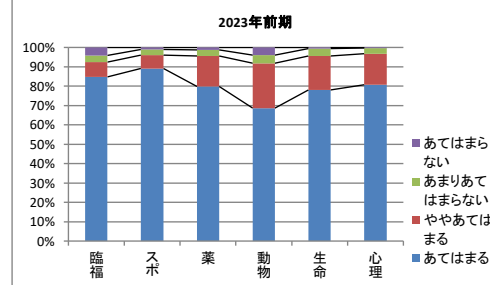
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



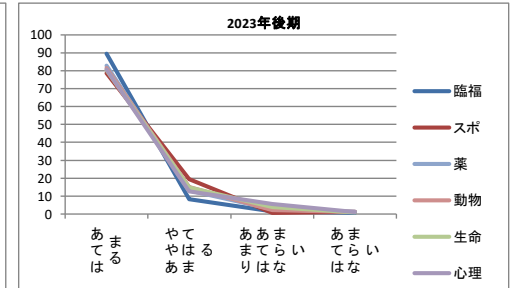
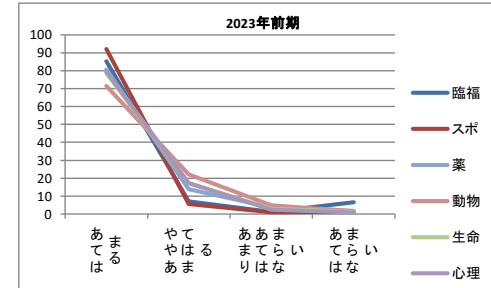
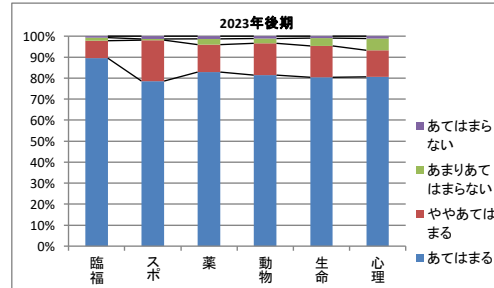
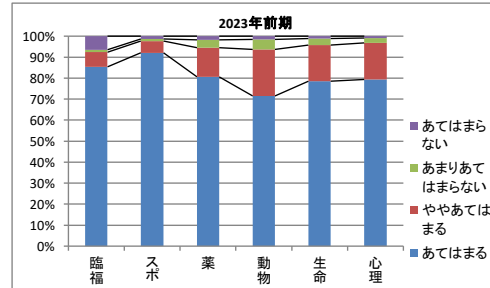
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



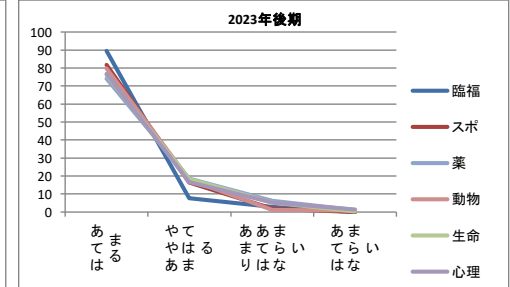
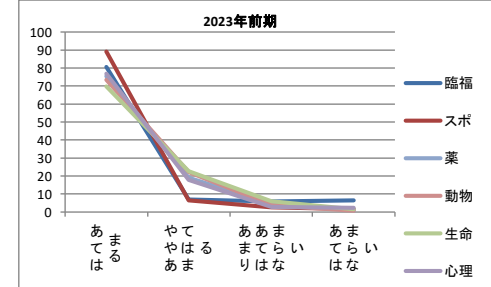
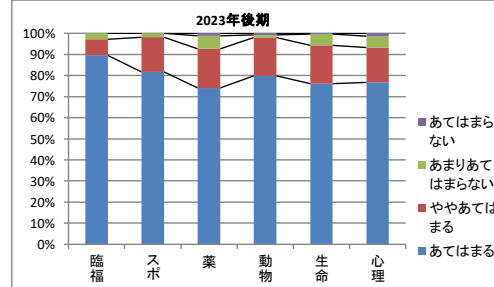
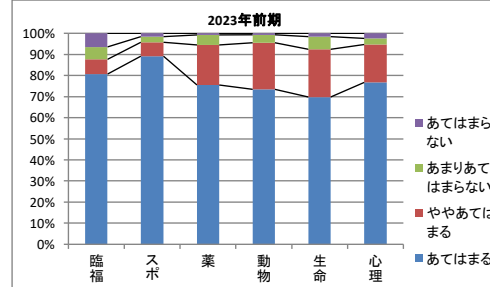
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



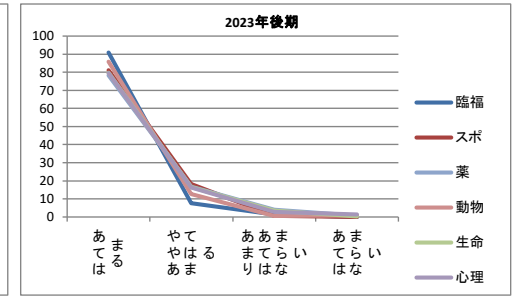
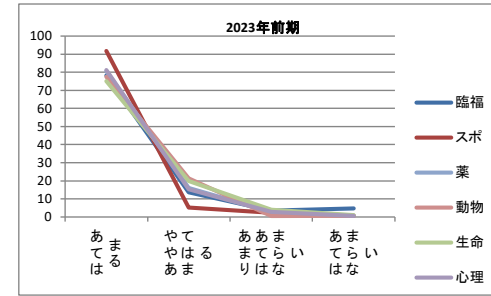
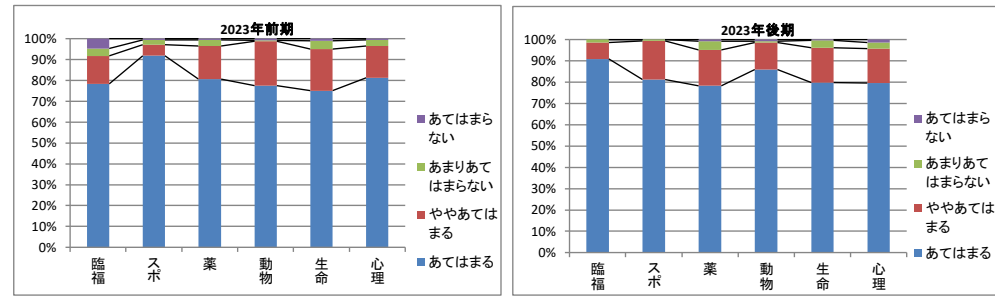
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



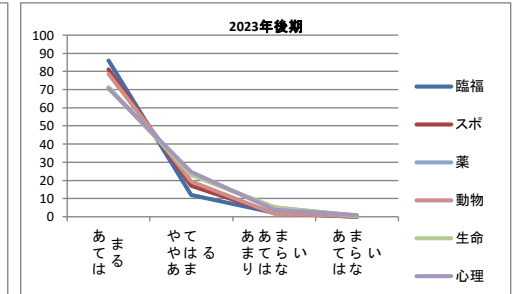
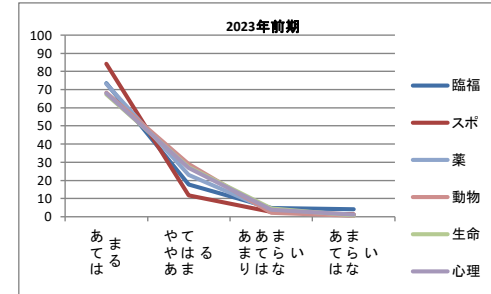
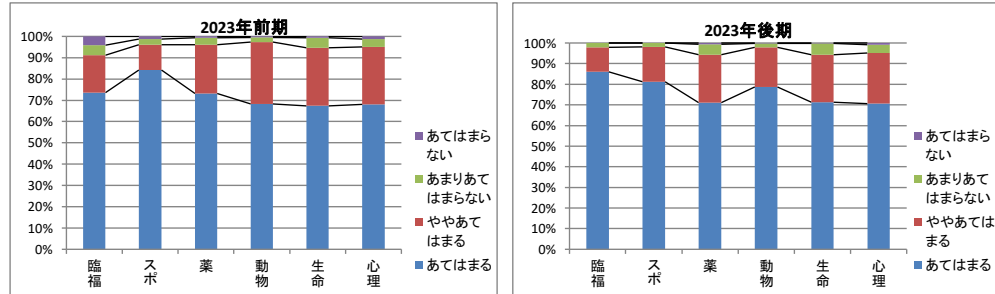
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



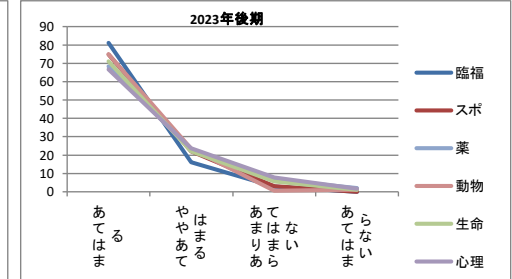
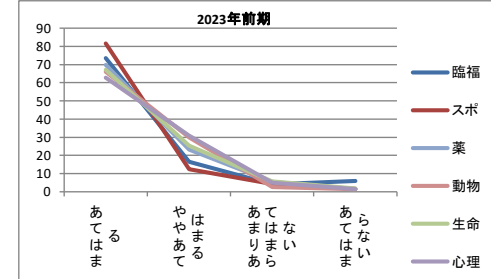
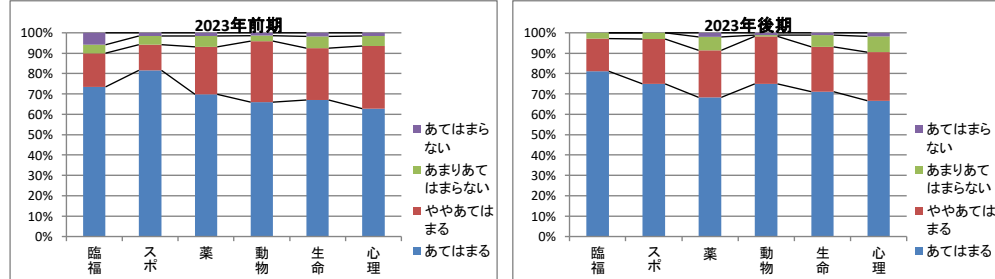
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



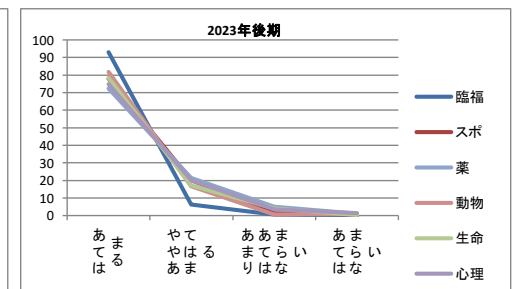
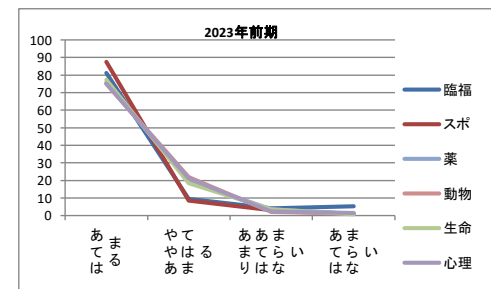
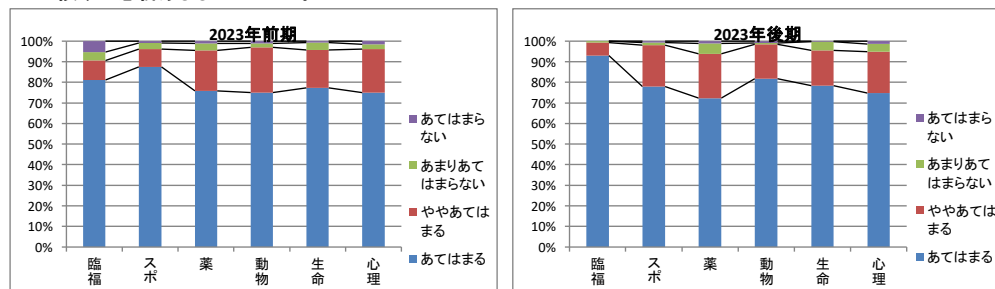
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。



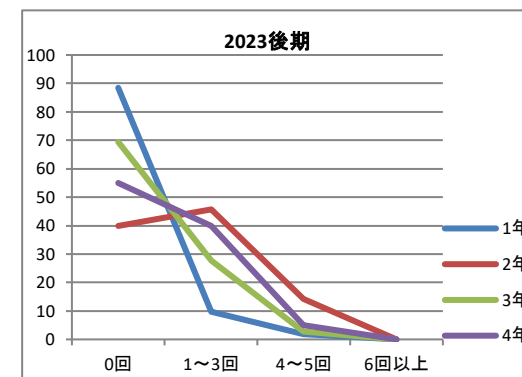
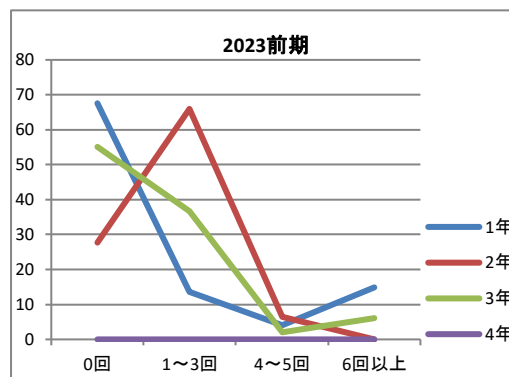
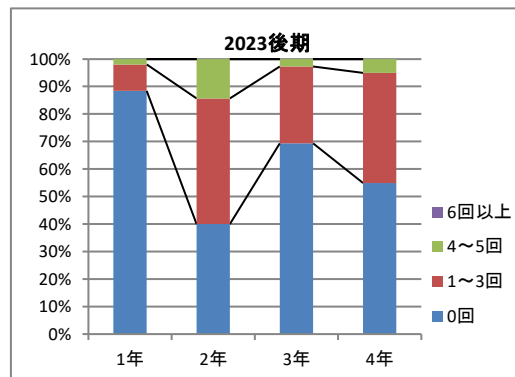
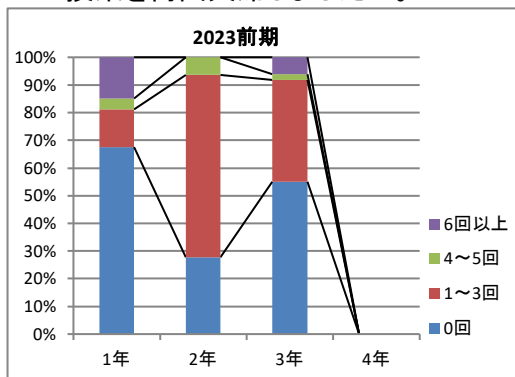
授業アンケート 令和5年度 2023年度

<臨床福祉学科>

図Ⅲ 臨福

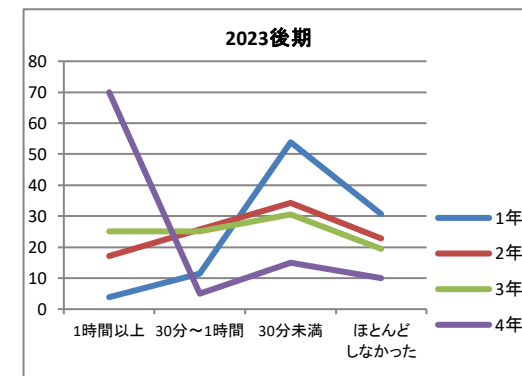
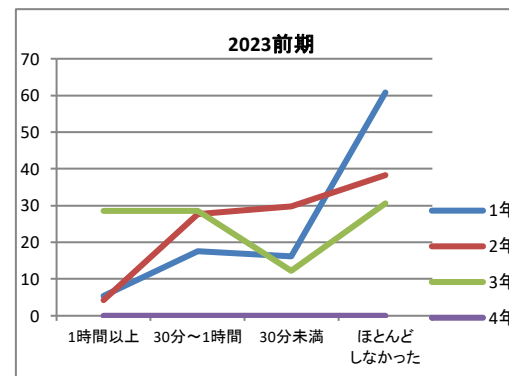
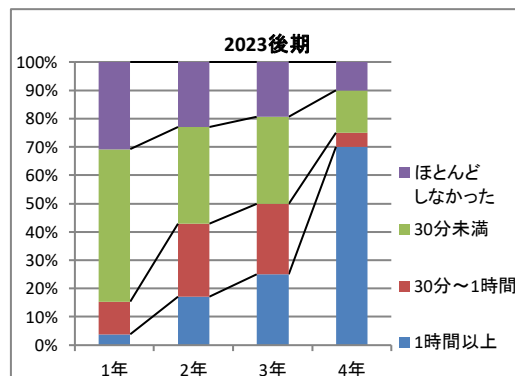
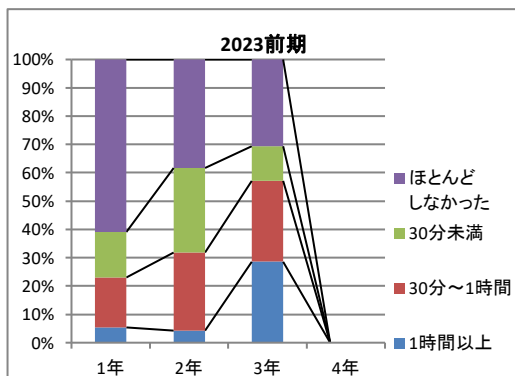
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



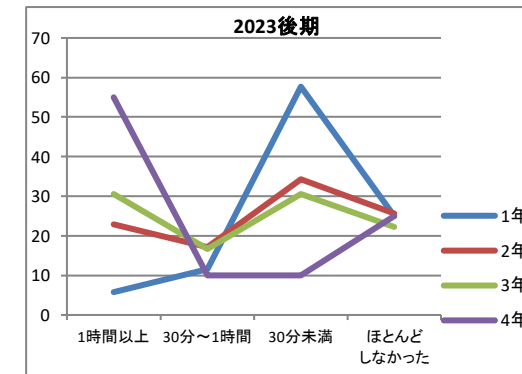
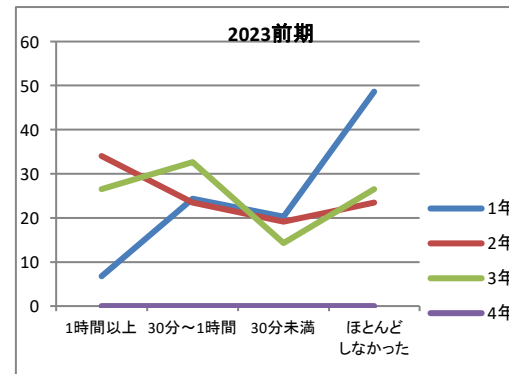
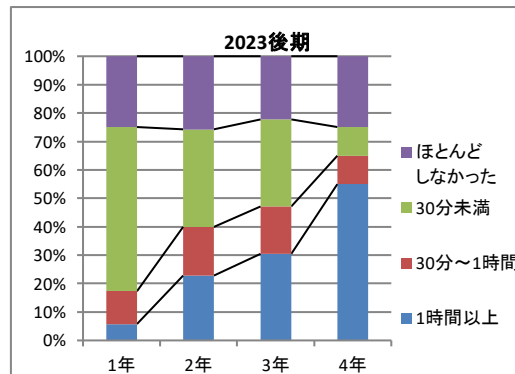
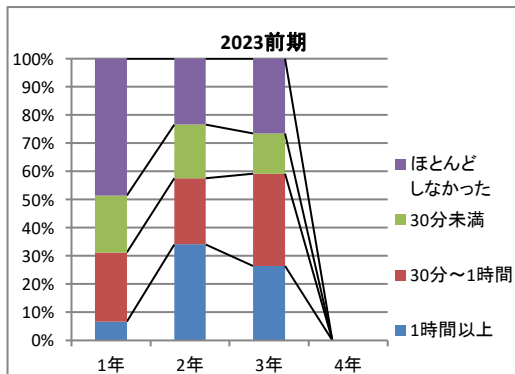
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



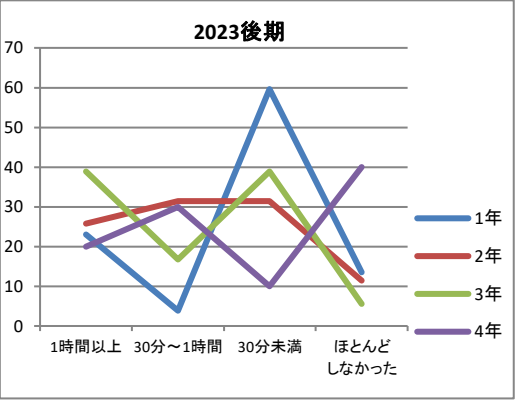
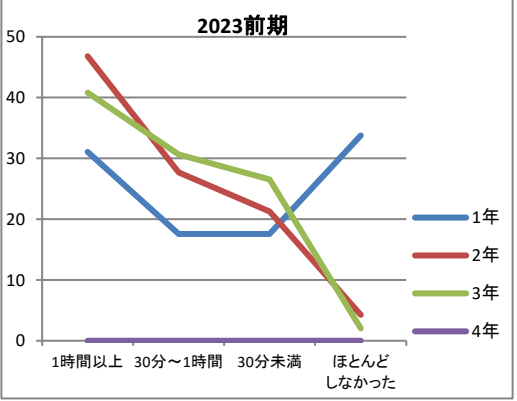
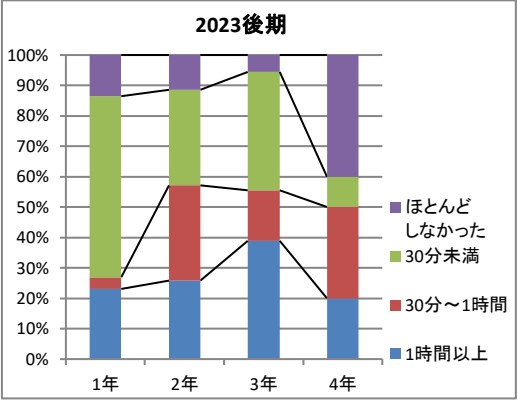
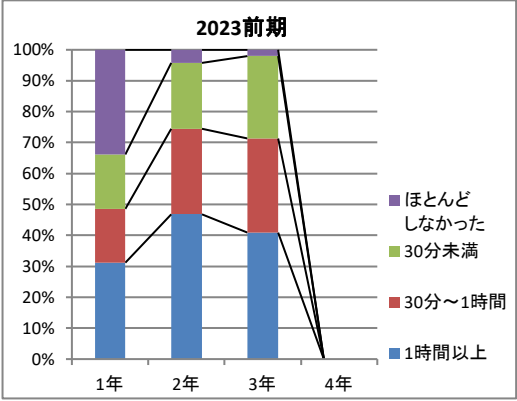
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



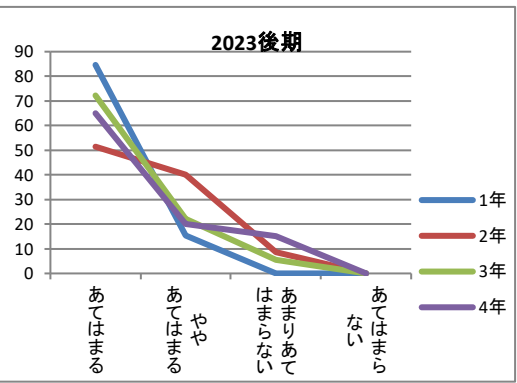
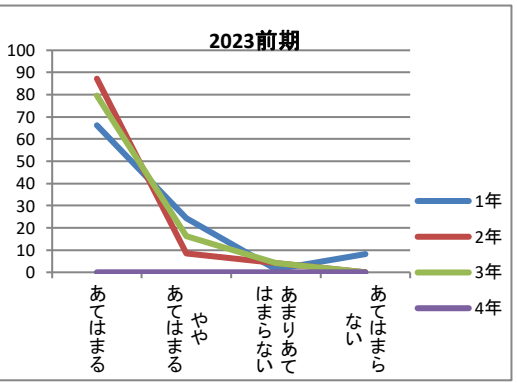
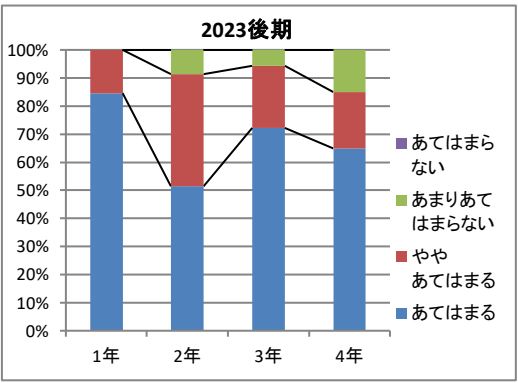
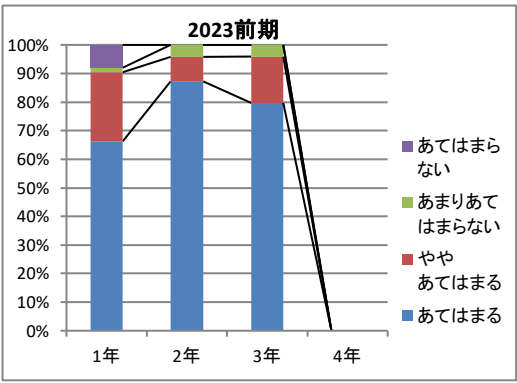
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



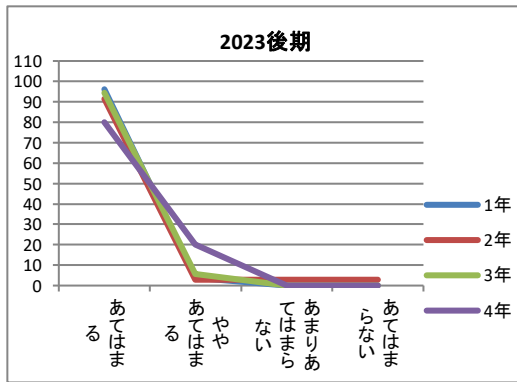
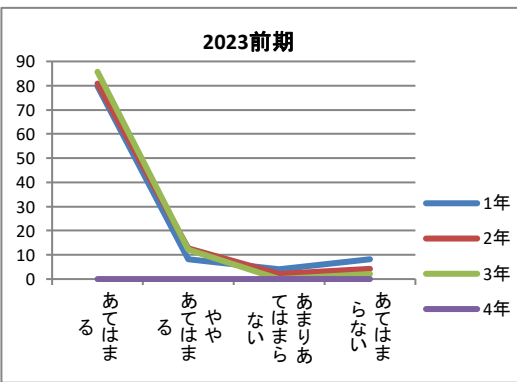
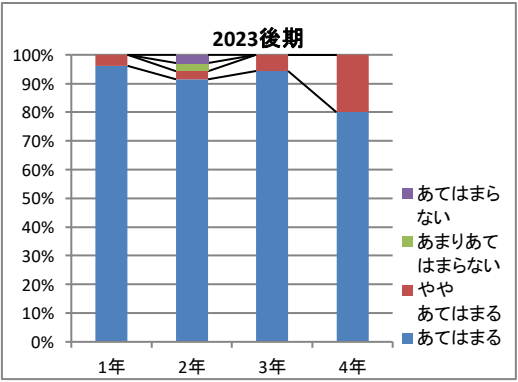
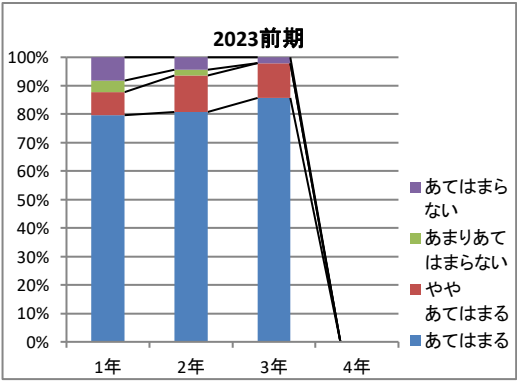
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



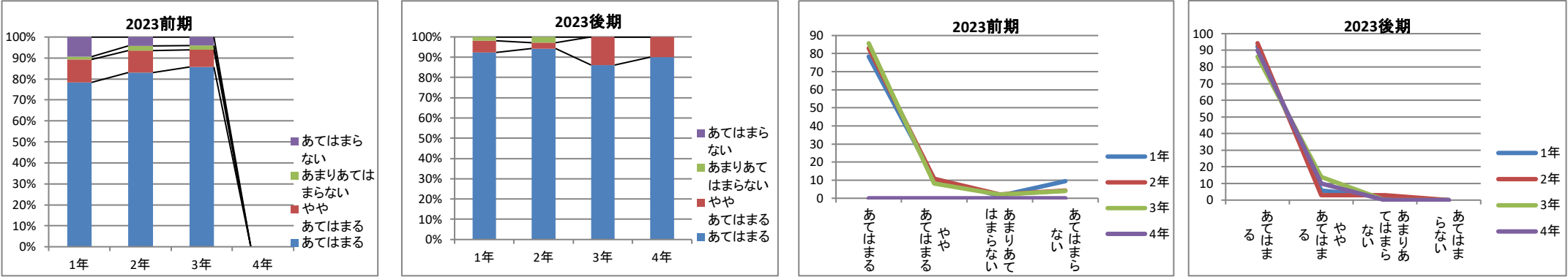
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



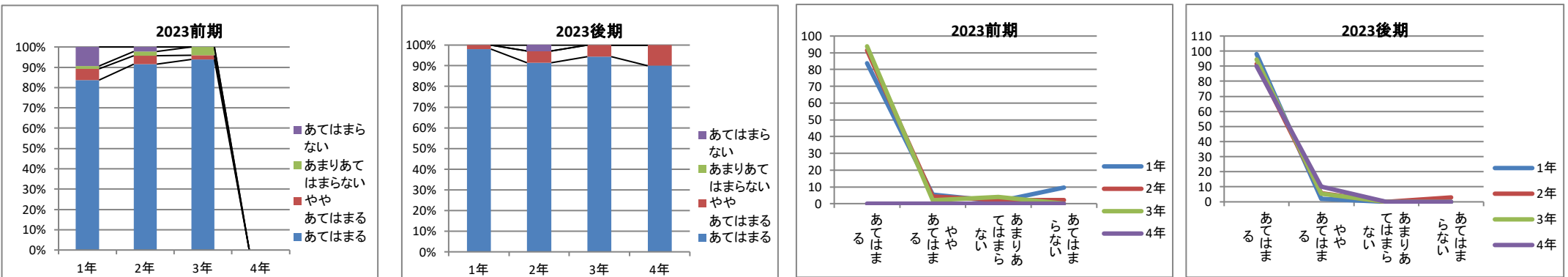
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



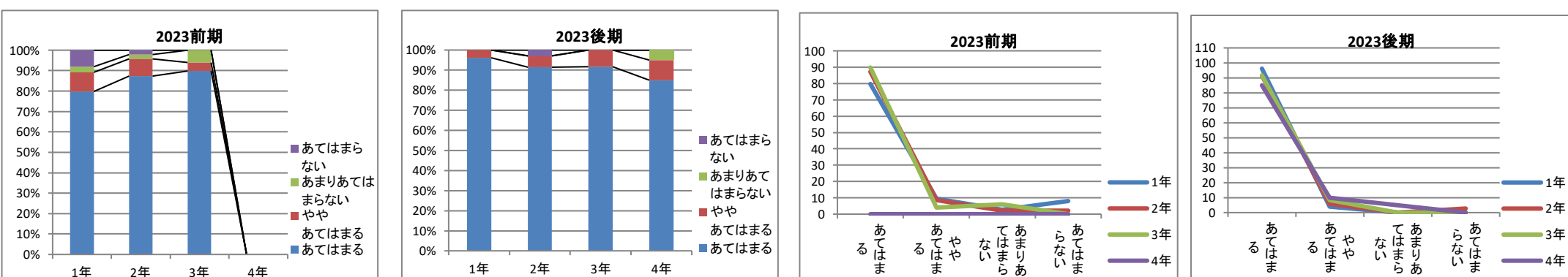
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。

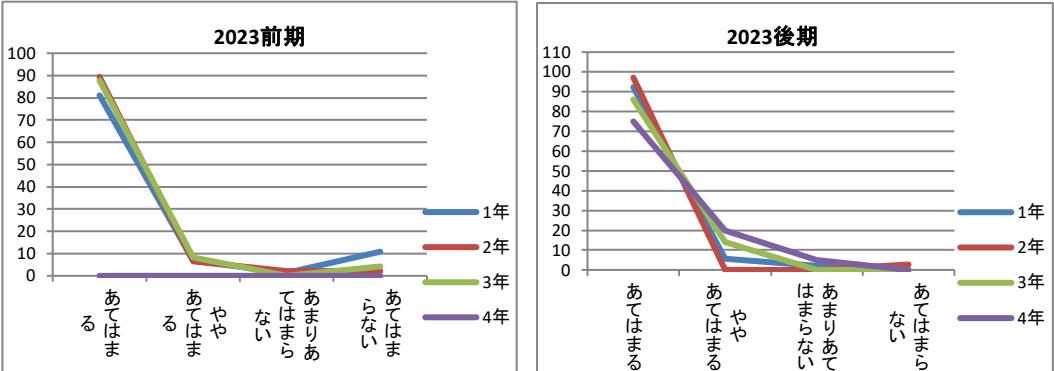
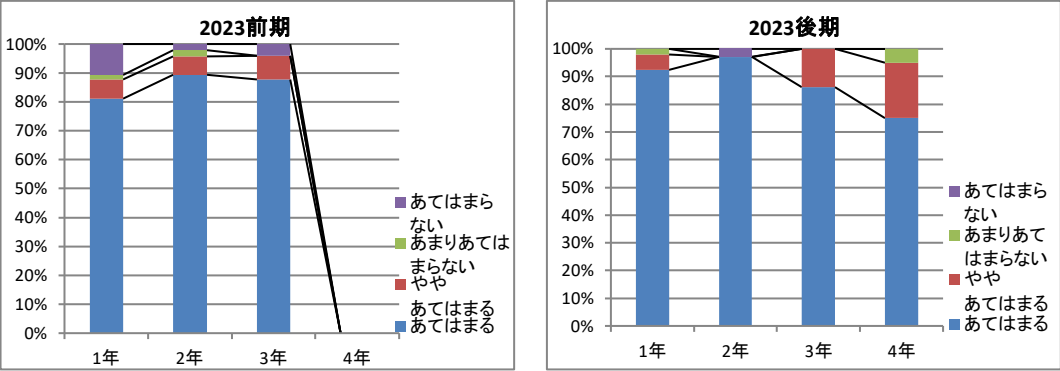


【教員の授業に対する取り組み】

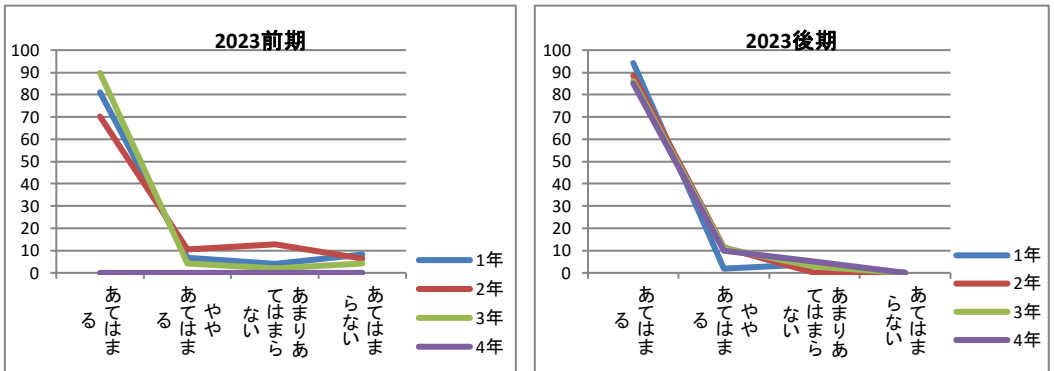
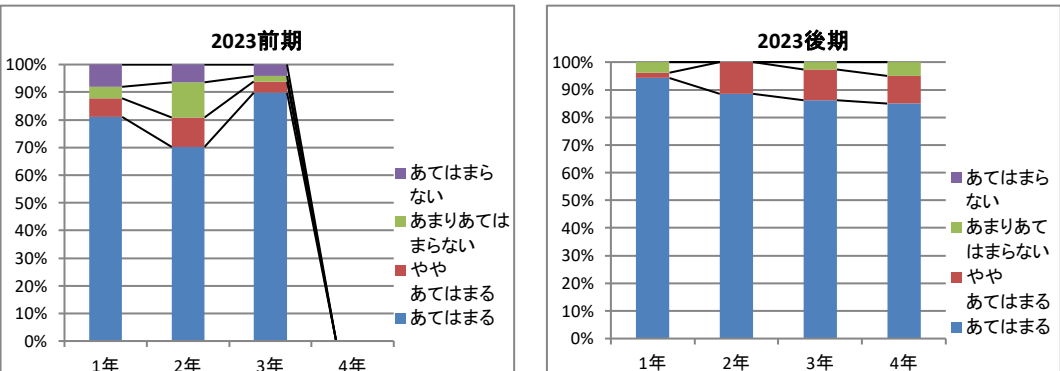
Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



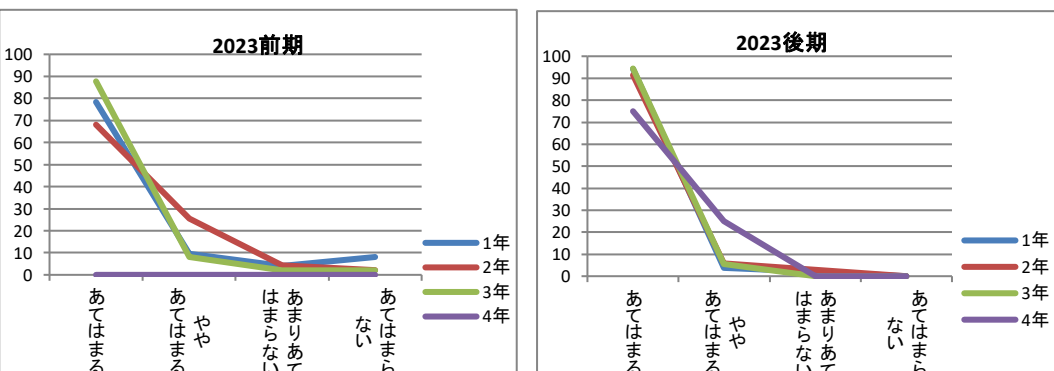
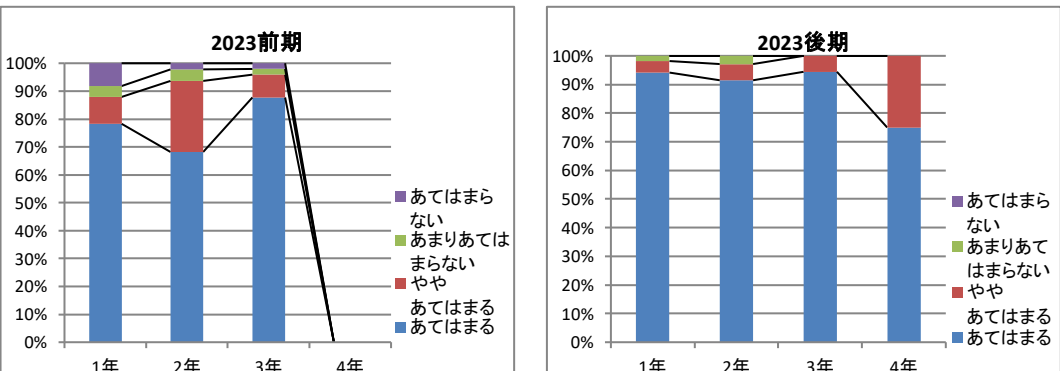
【教員の授業に対する取り組み】
Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



【教員の授業に対する取り組み】
Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。

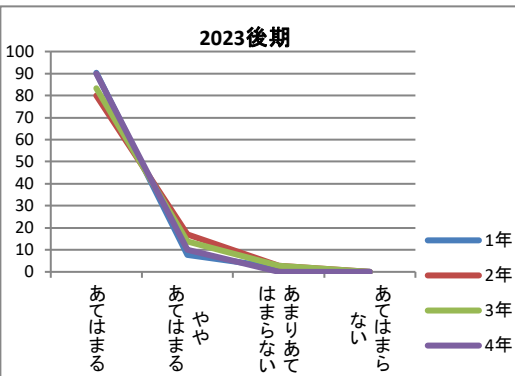
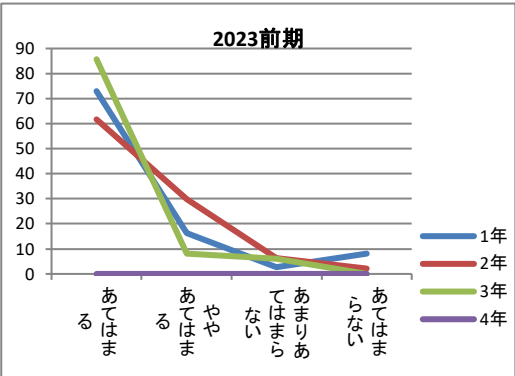
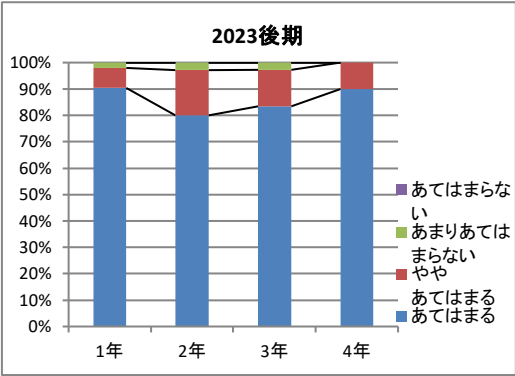
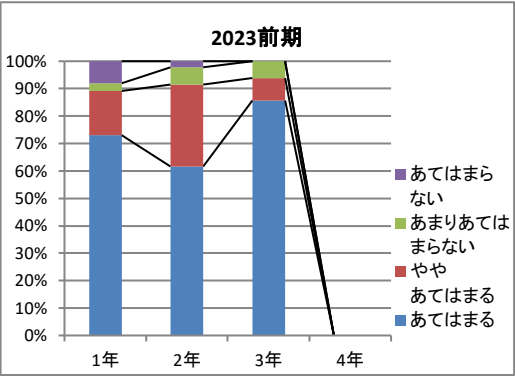


【教員の授業に対する取り組み】
Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



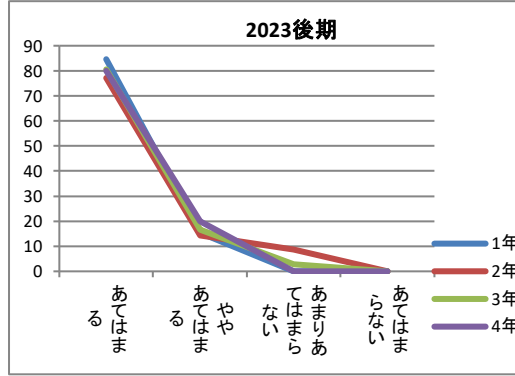
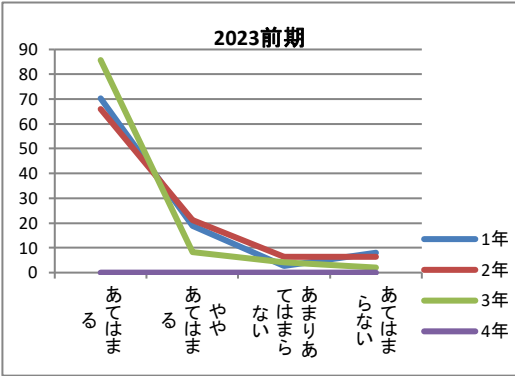
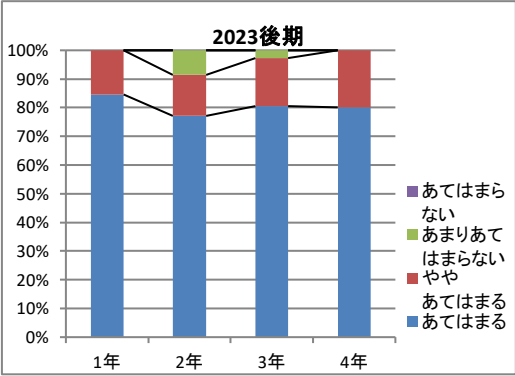
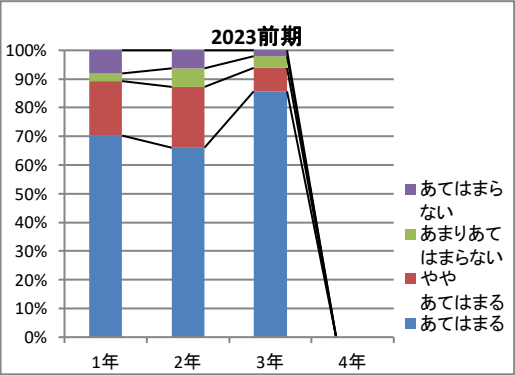
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



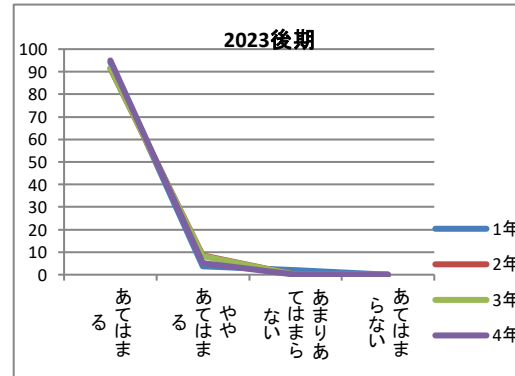
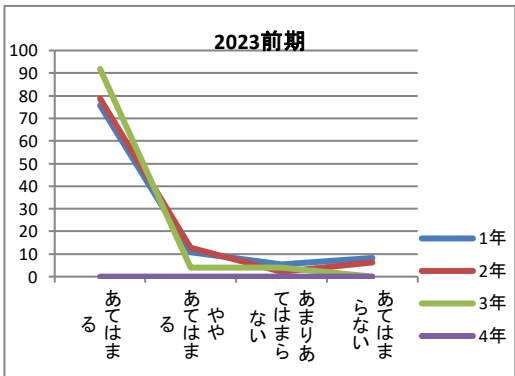
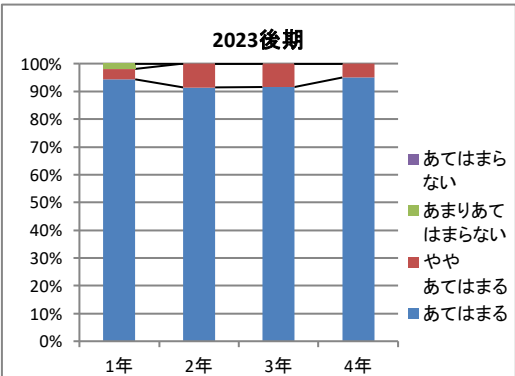
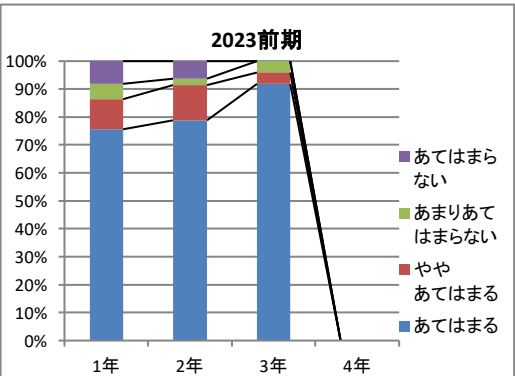
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。



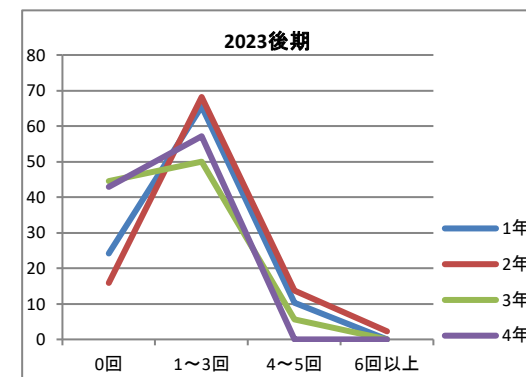
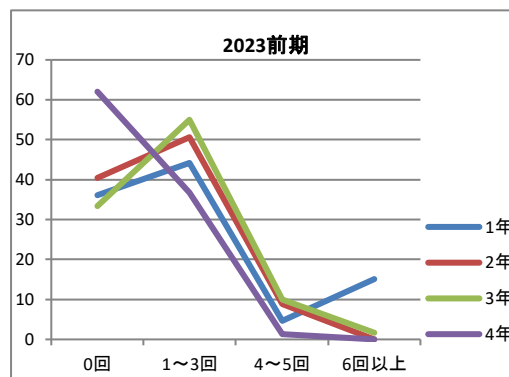
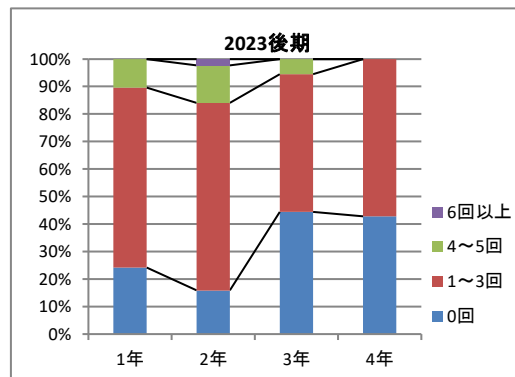
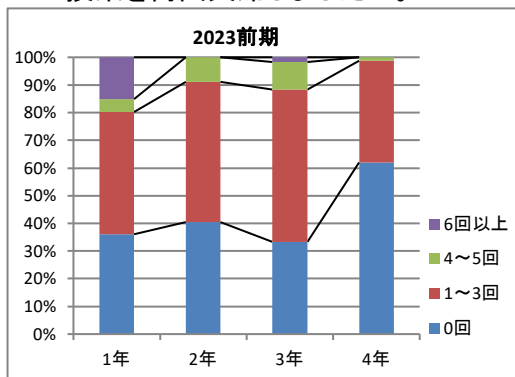
授業アンケート 令和5年度 2023年度

<スポーツ健康福祉学科>

図Ⅳ スポ

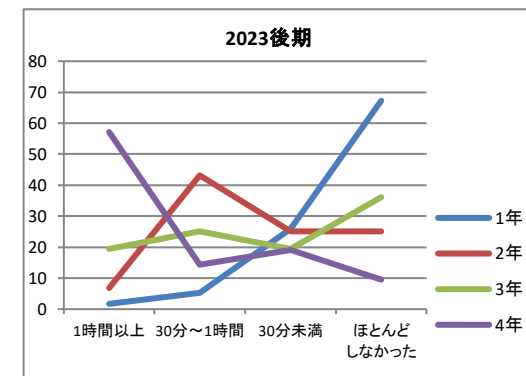
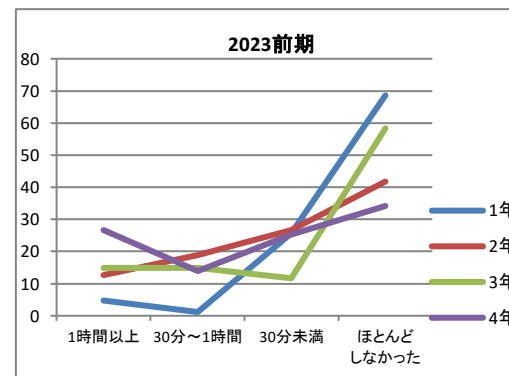
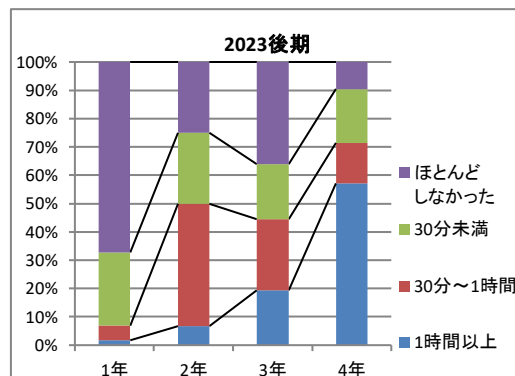
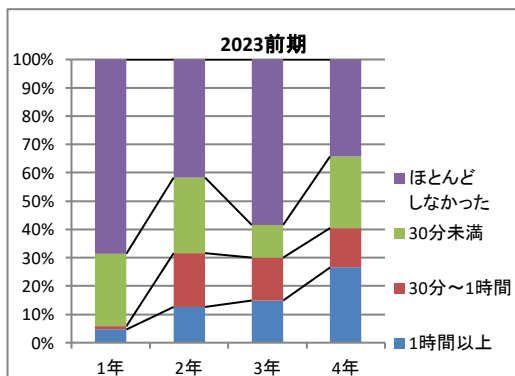
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



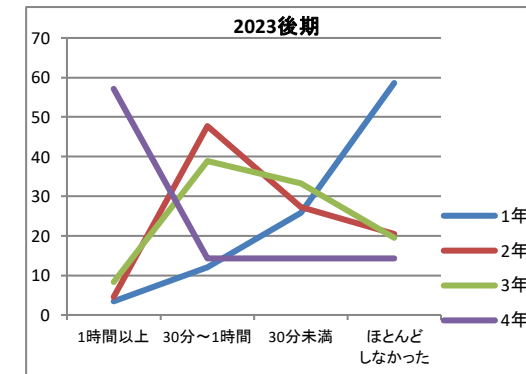
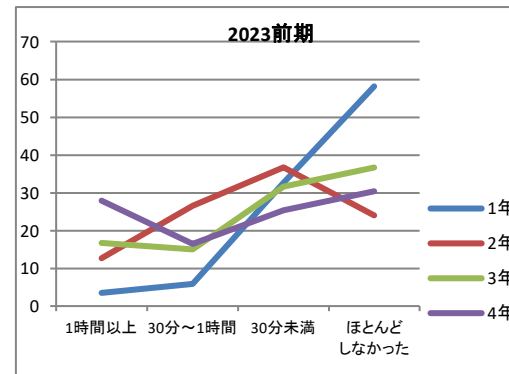
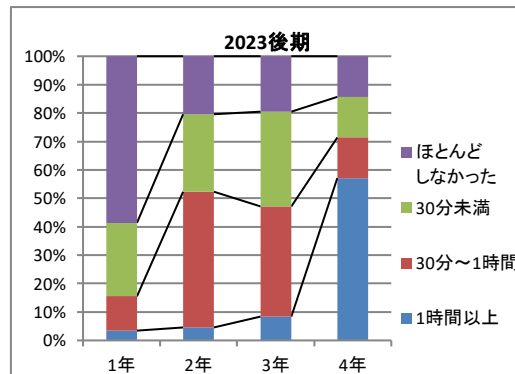
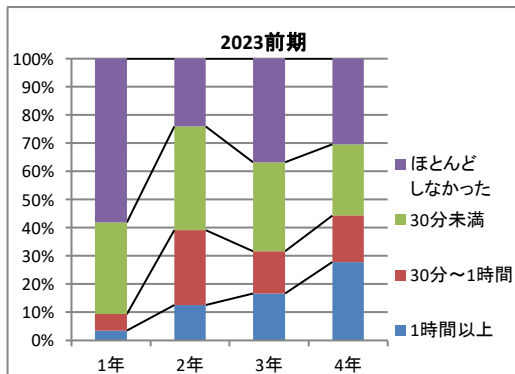
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



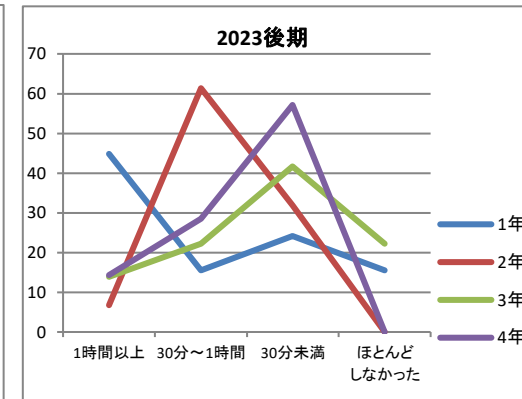
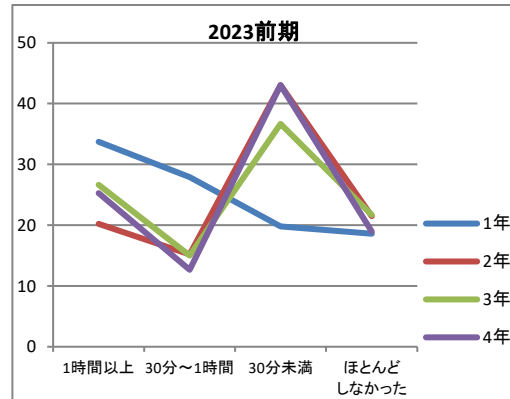
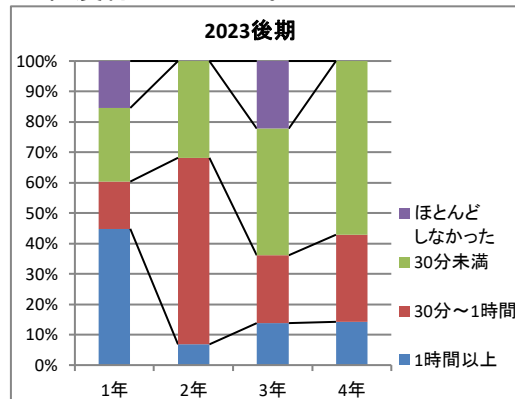
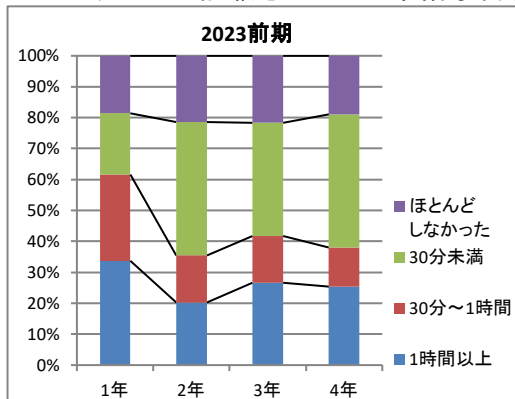
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



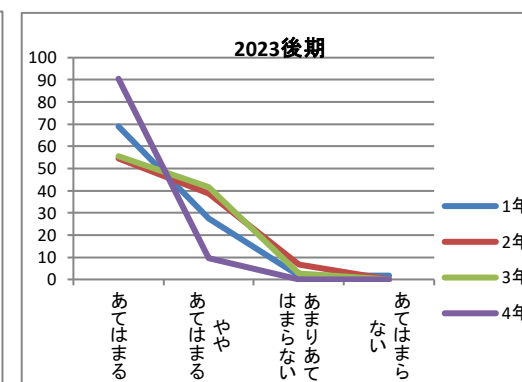
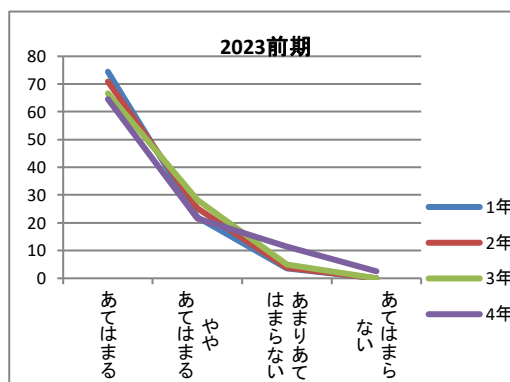
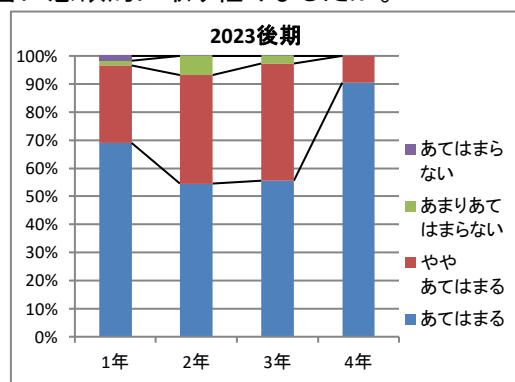
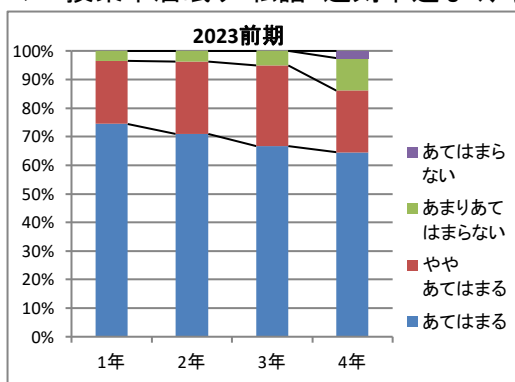
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



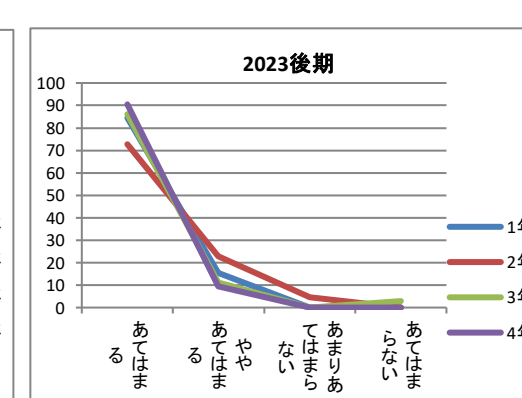
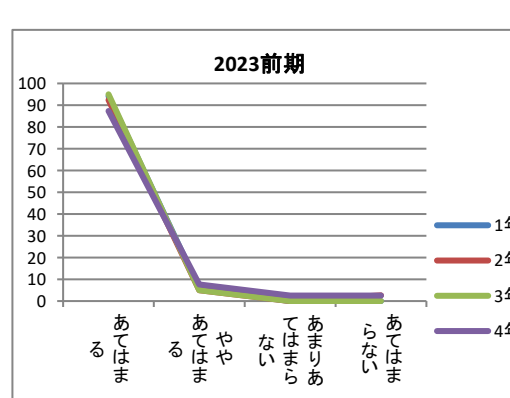
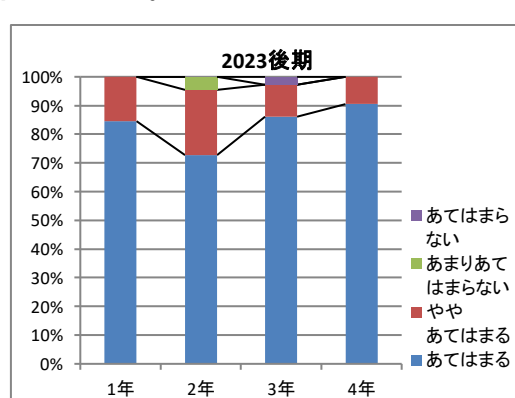
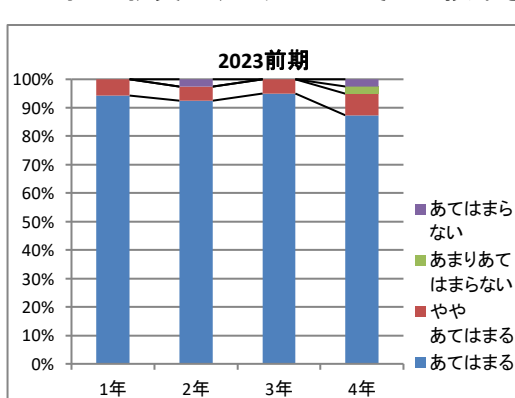
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



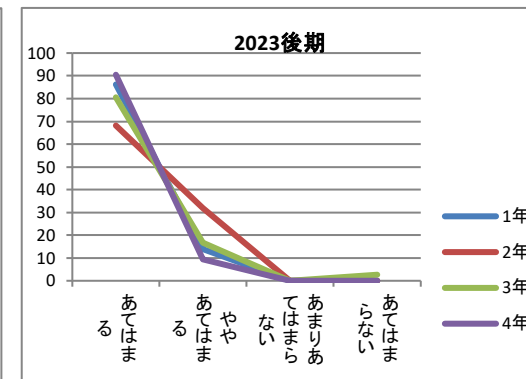
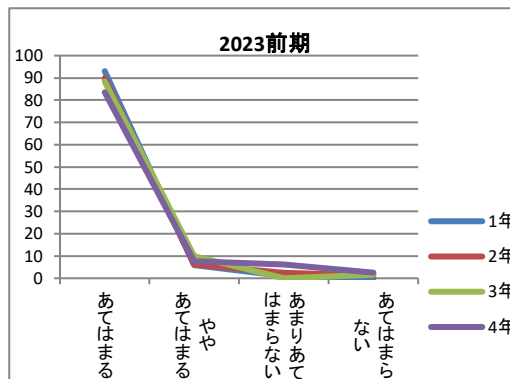
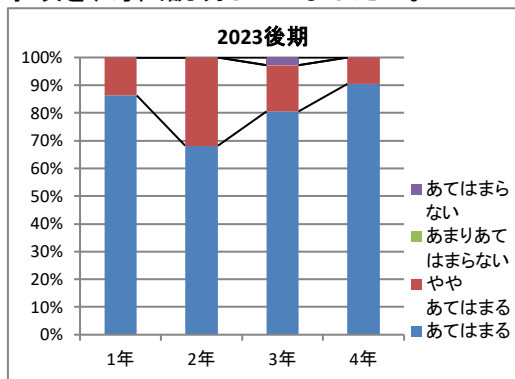
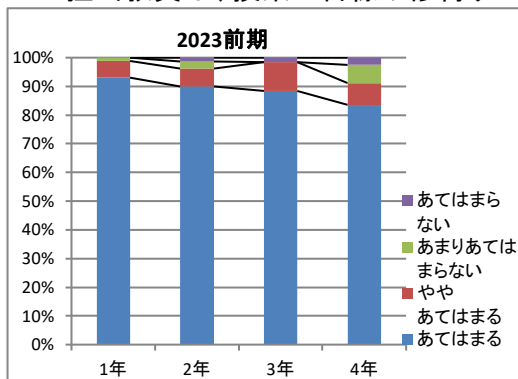
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



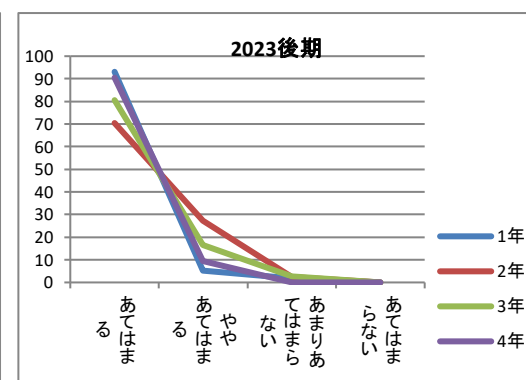
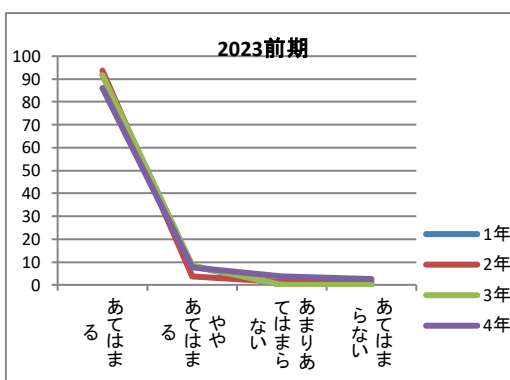
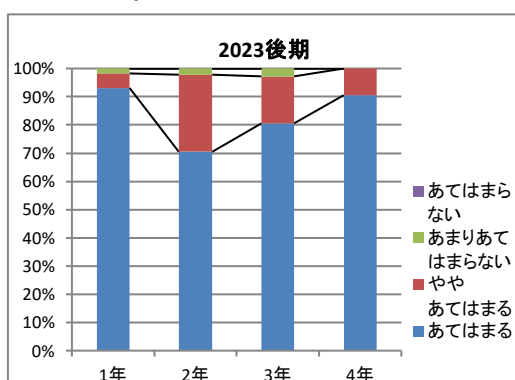
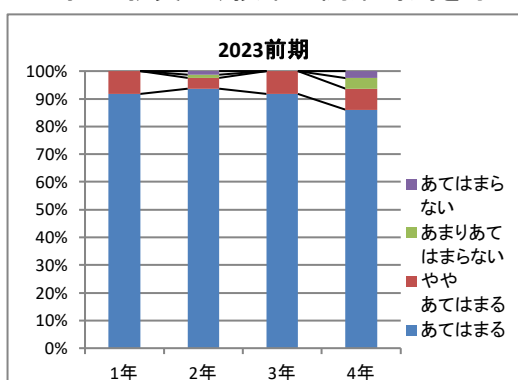
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



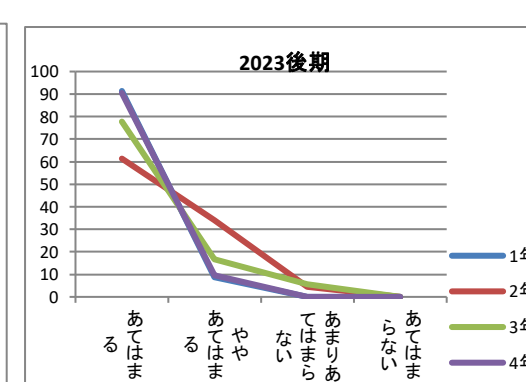
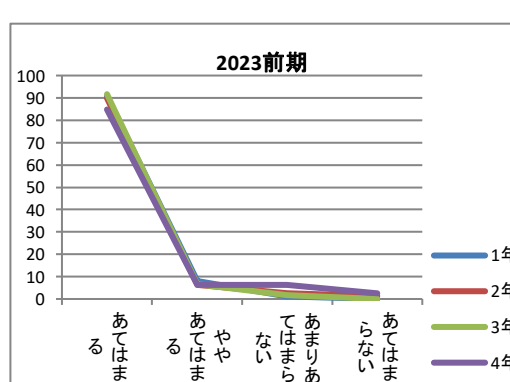
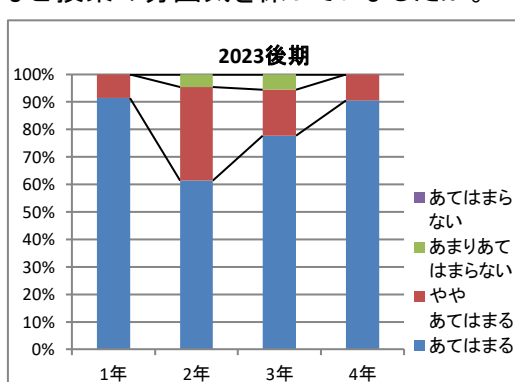
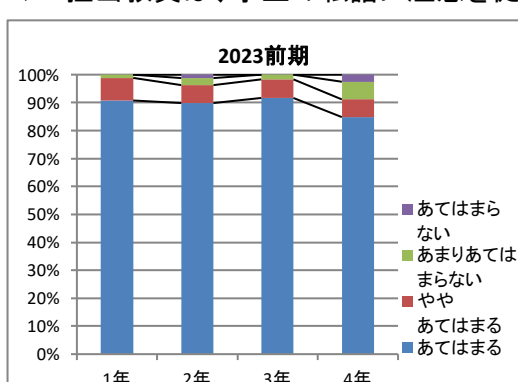
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



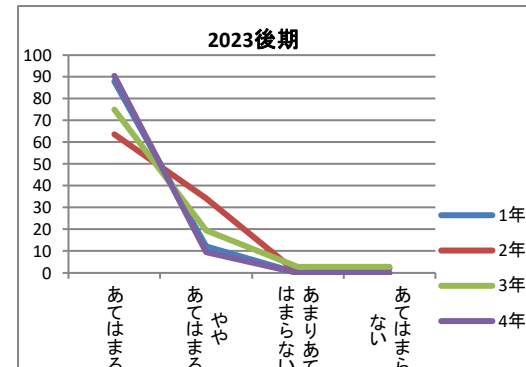
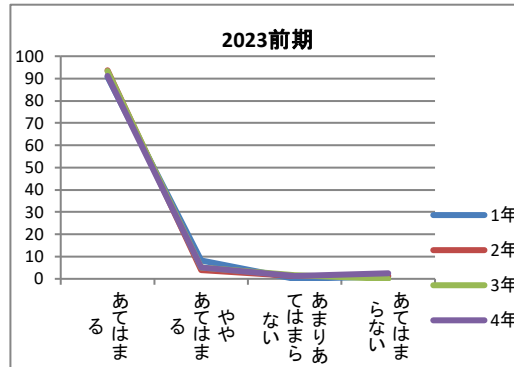
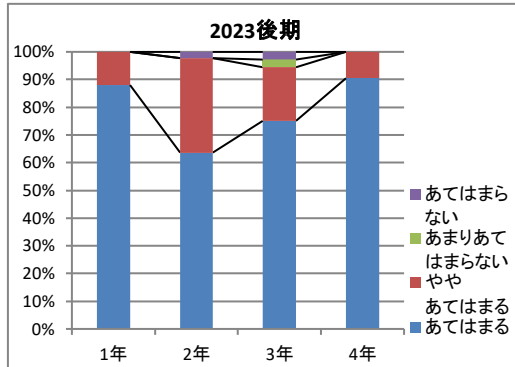
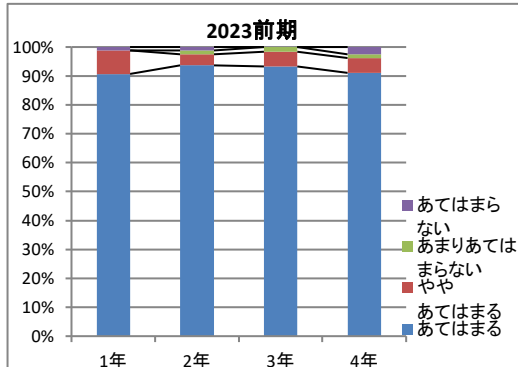
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



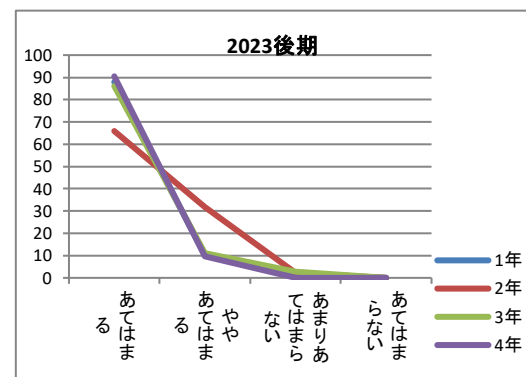
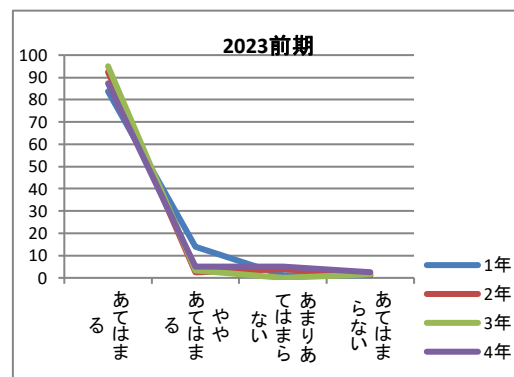
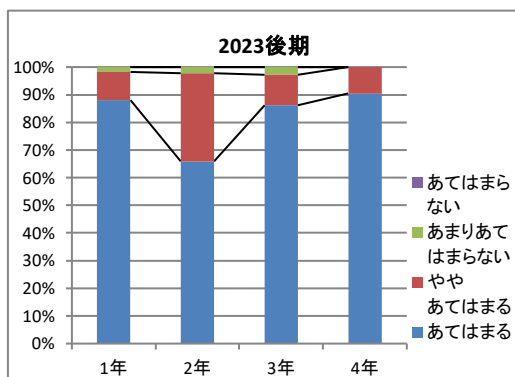
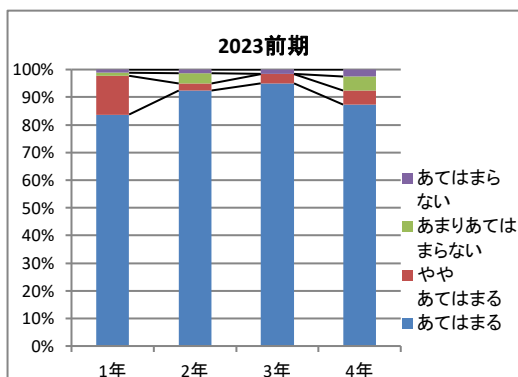
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



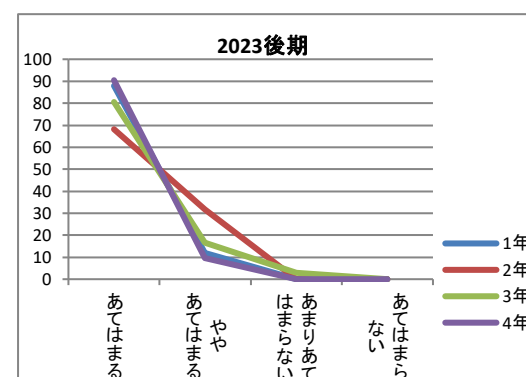
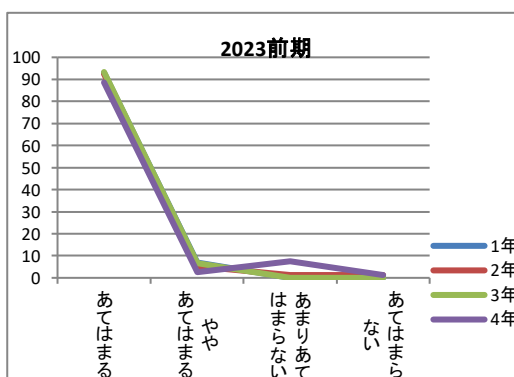
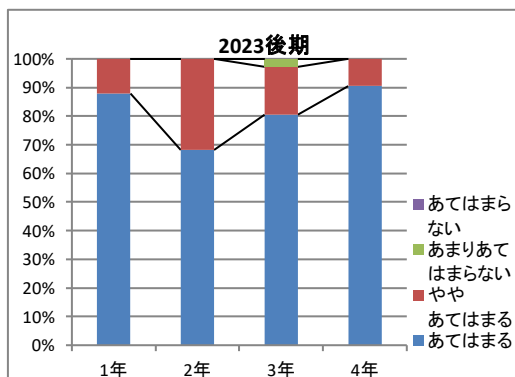
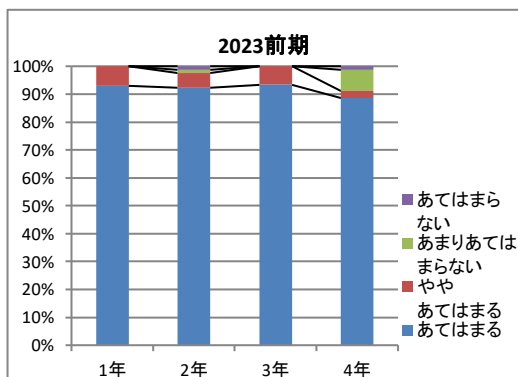
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



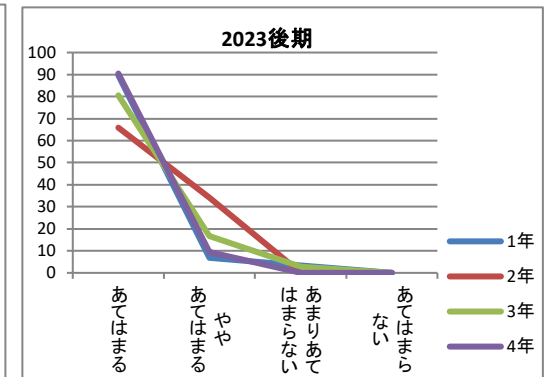
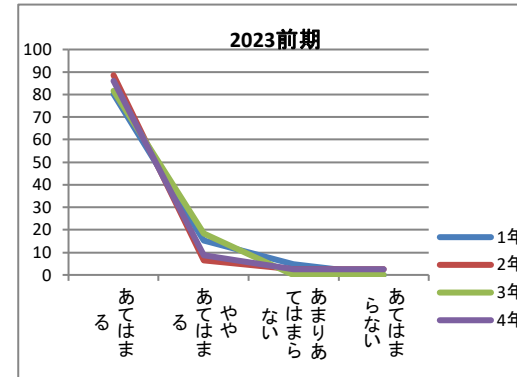
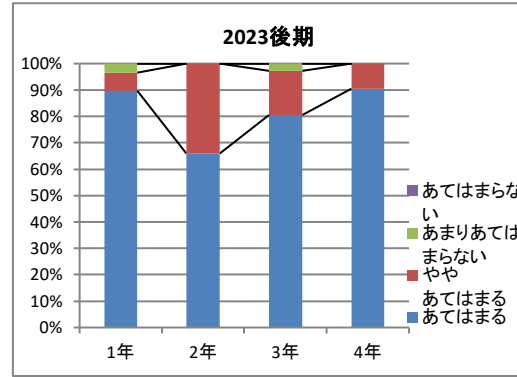
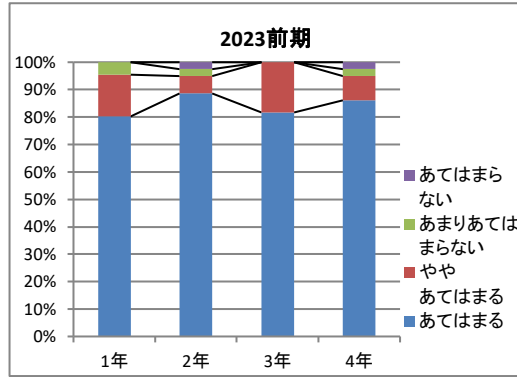
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



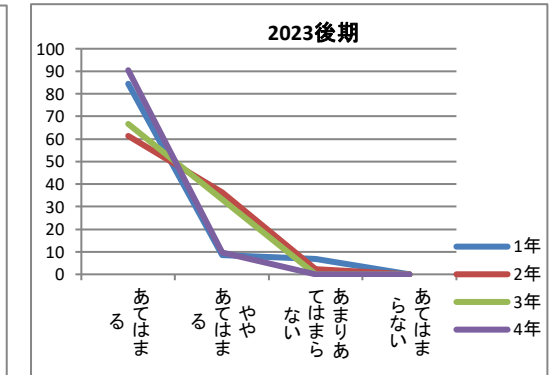
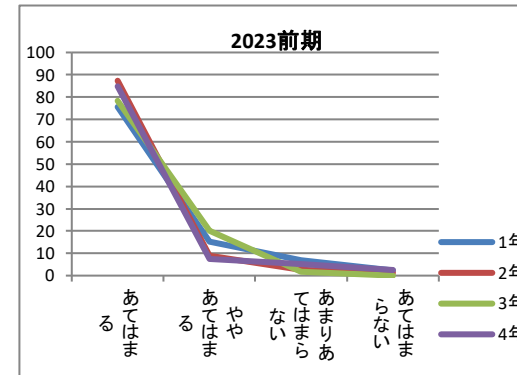
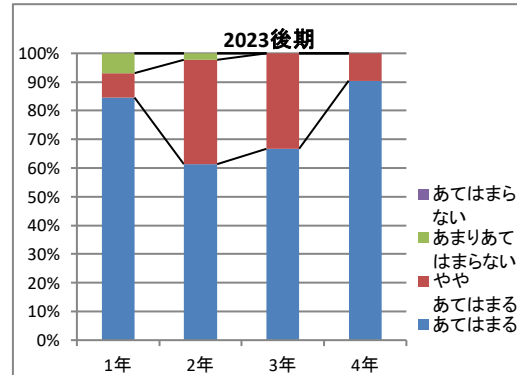
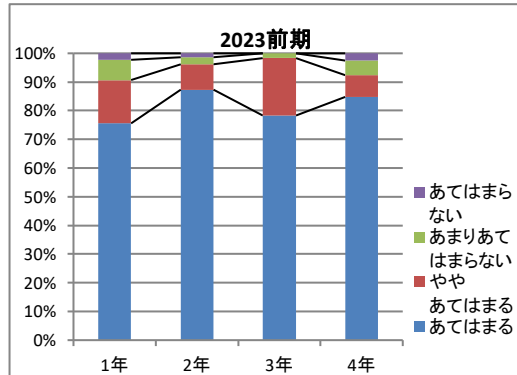
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



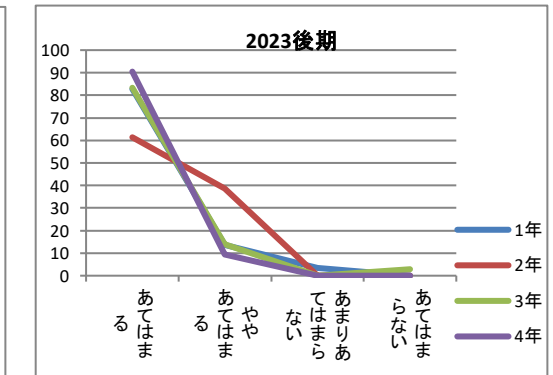
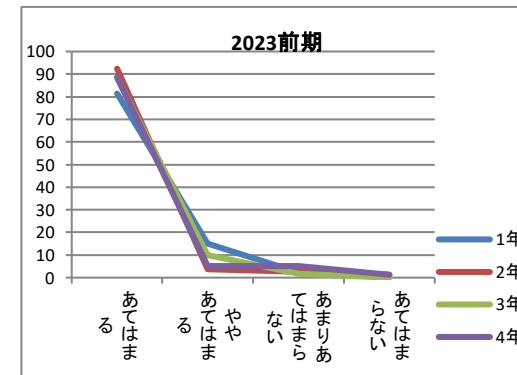
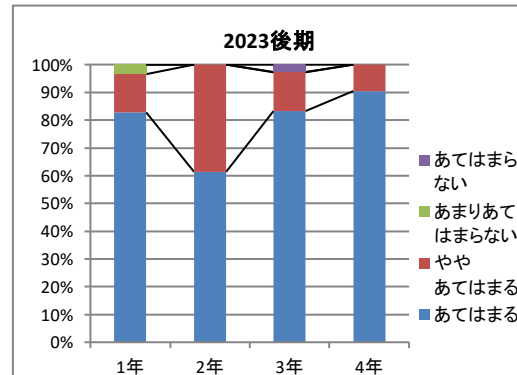
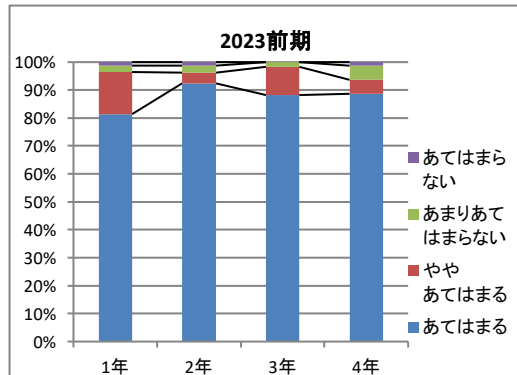
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。



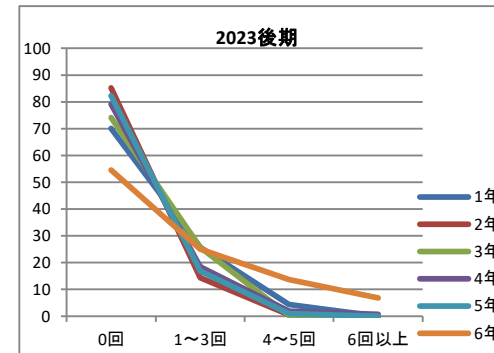
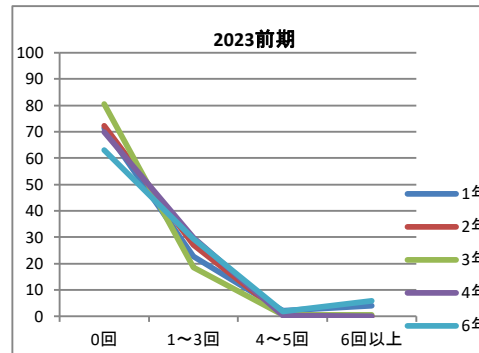
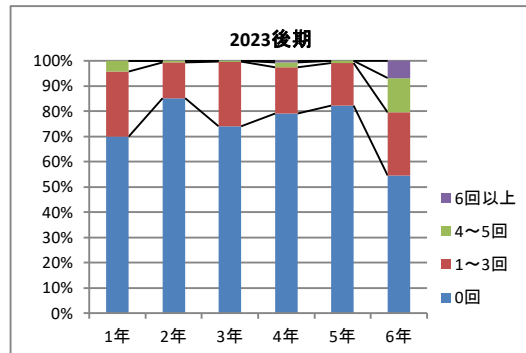
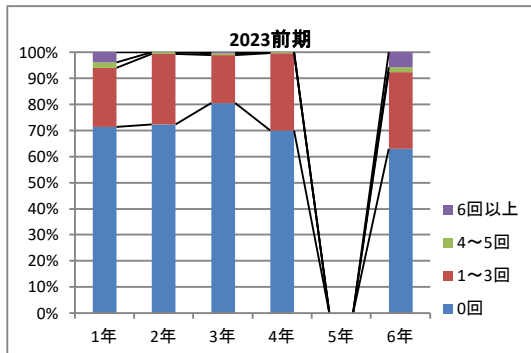
授業アンケート 令和5年度 2023年度

<薬学科>

図 V 薬

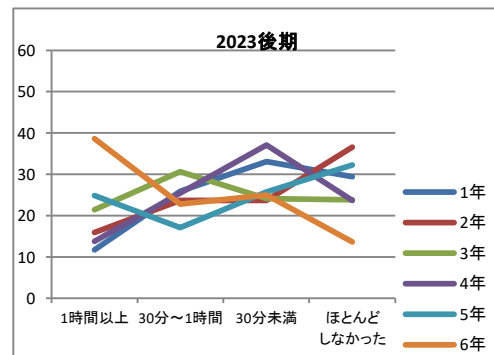
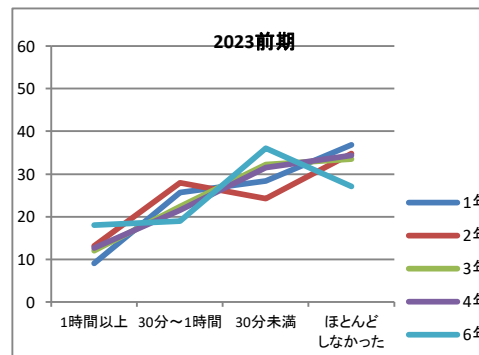
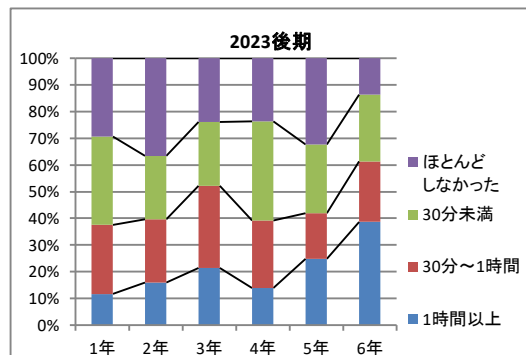
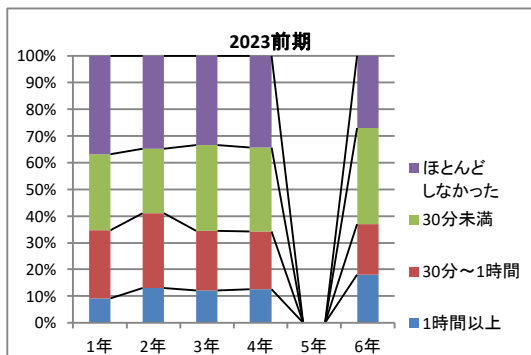
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



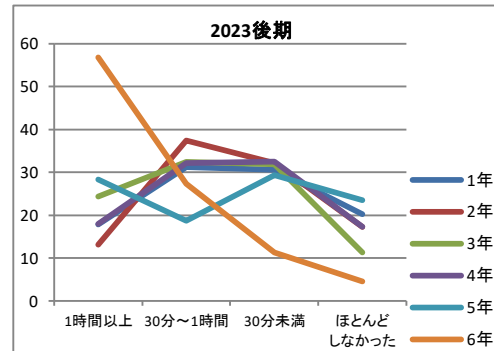
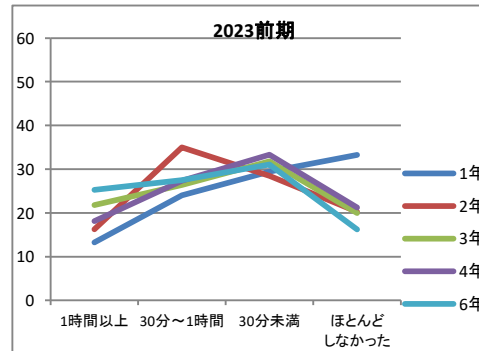
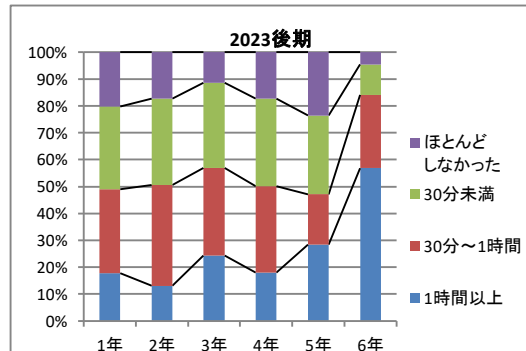
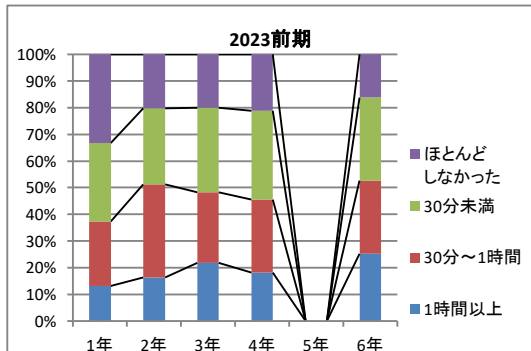
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



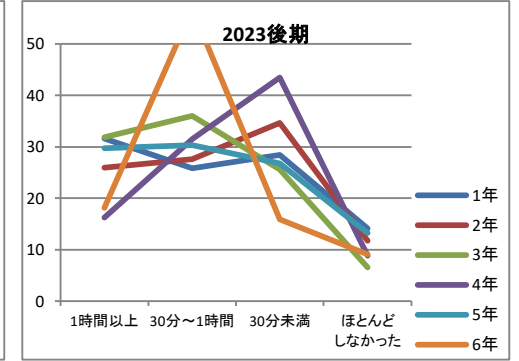
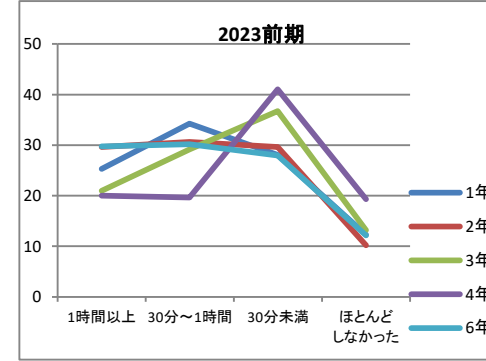
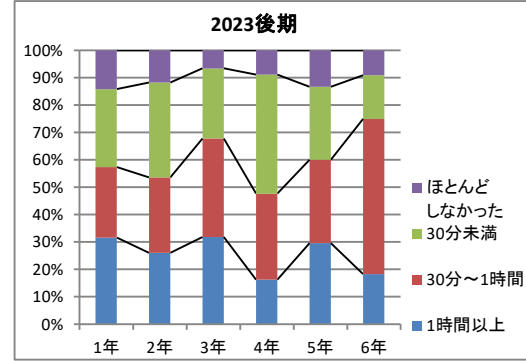
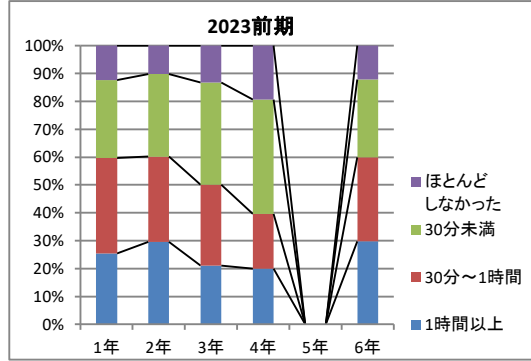
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



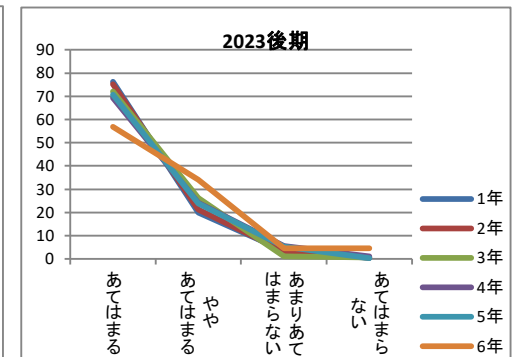
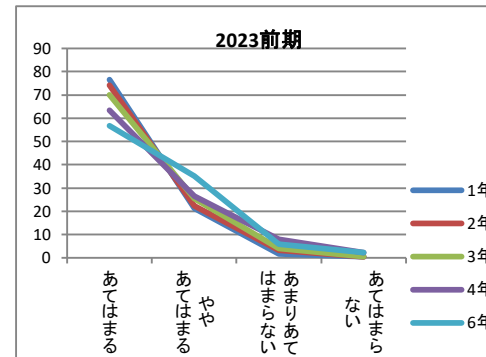
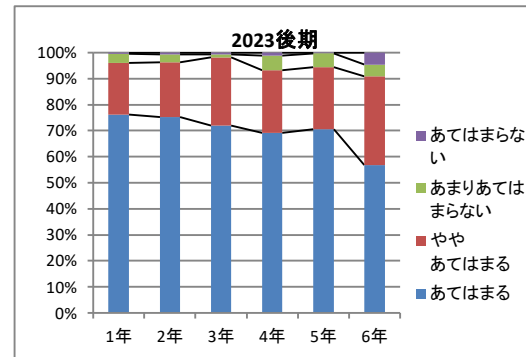
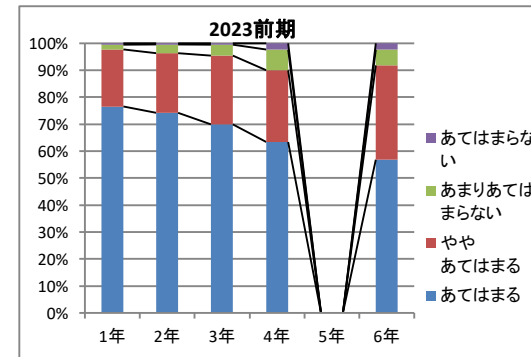
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



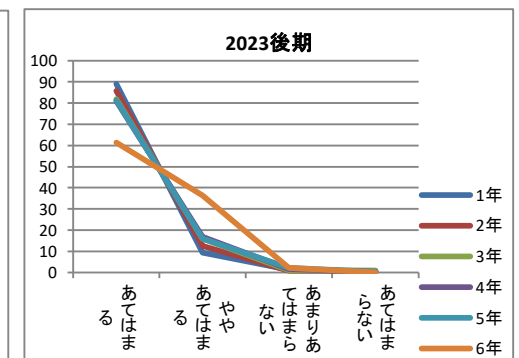
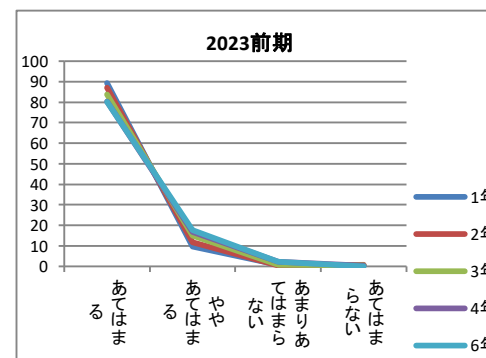
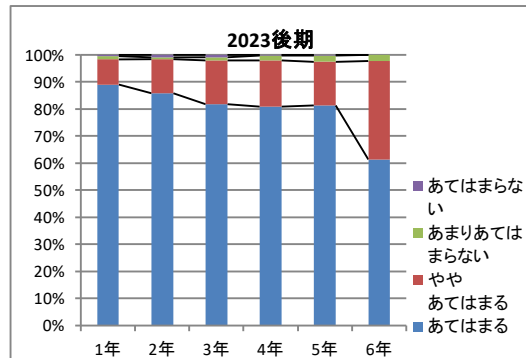
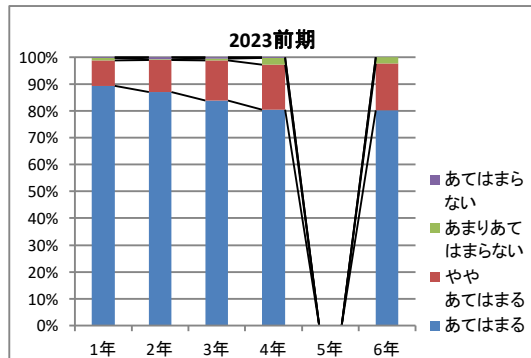
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



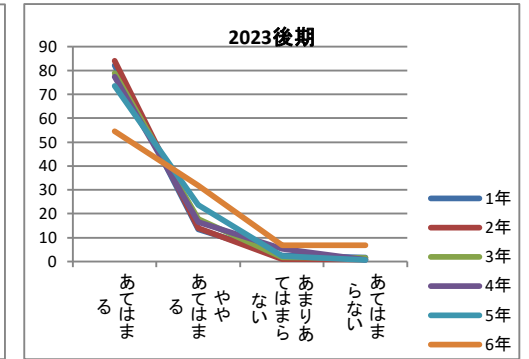
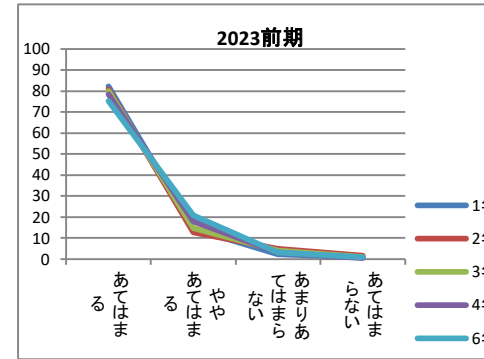
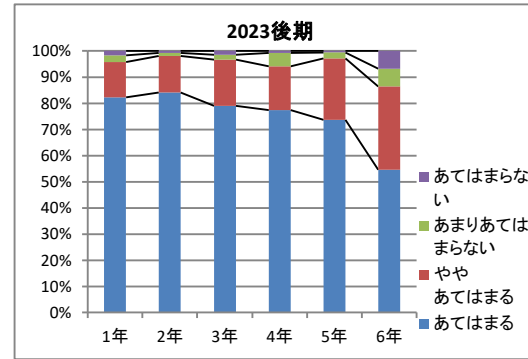
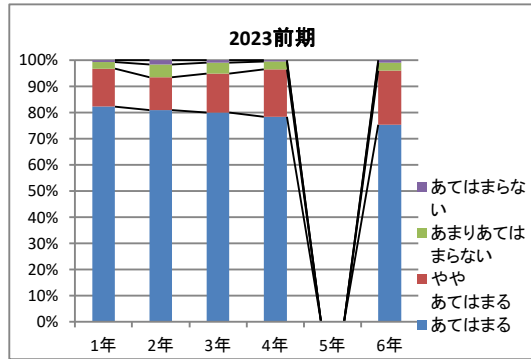
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



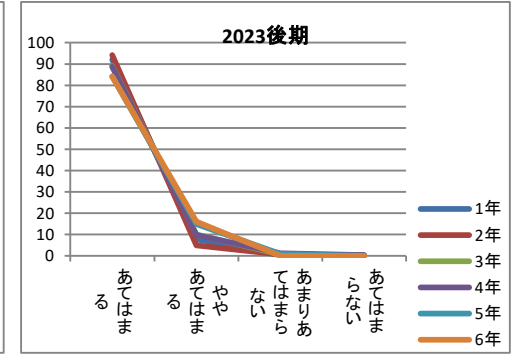
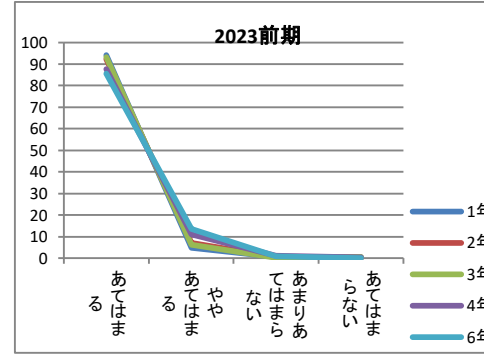
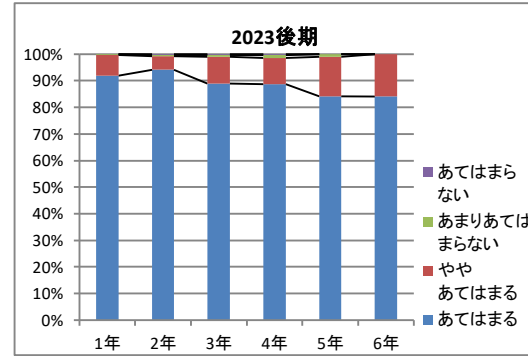
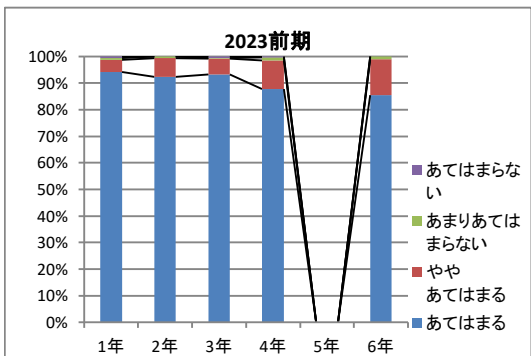
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



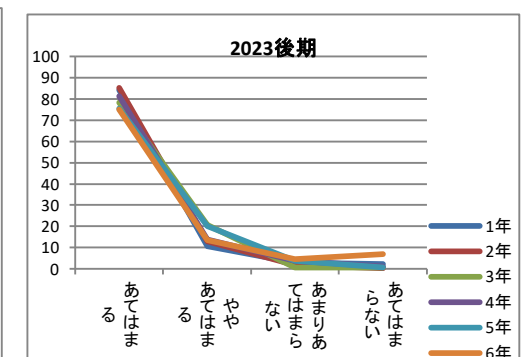
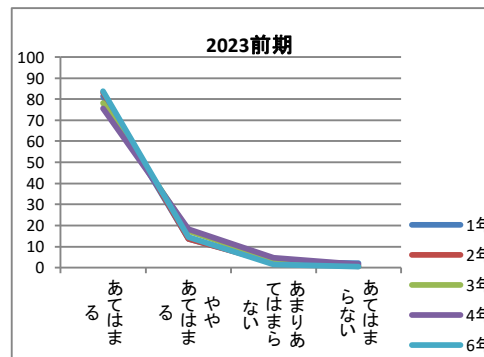
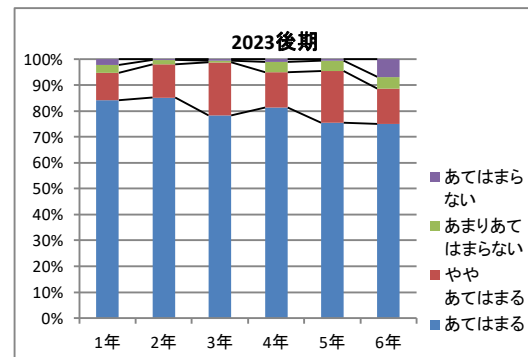
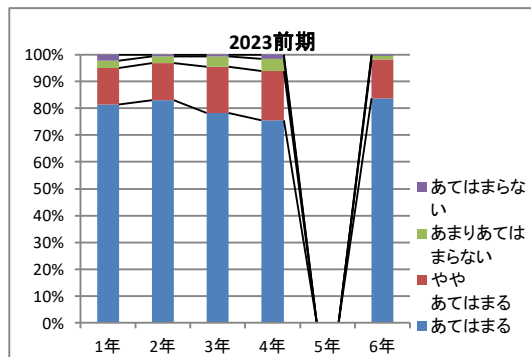
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



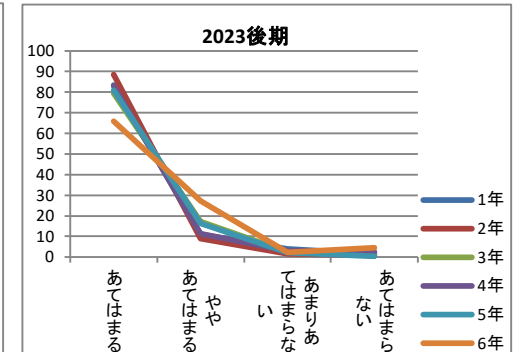
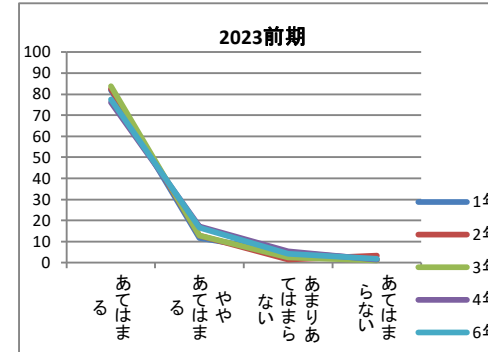
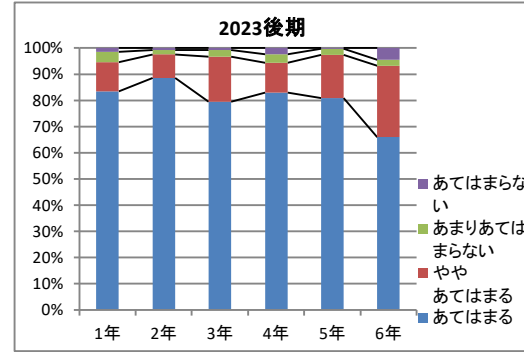
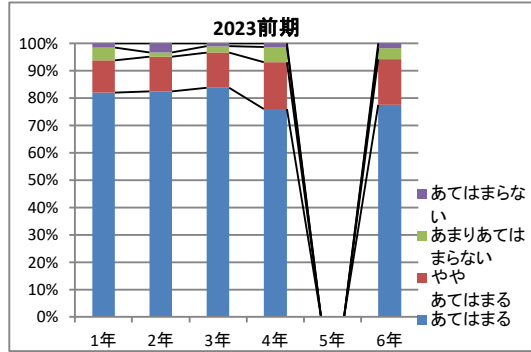
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



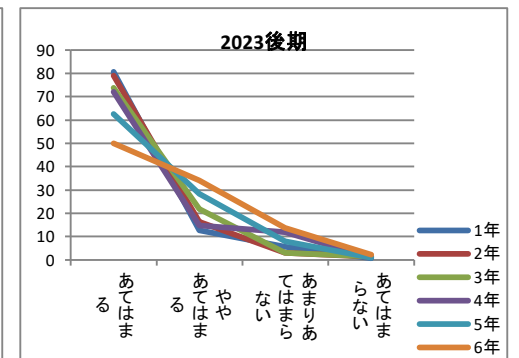
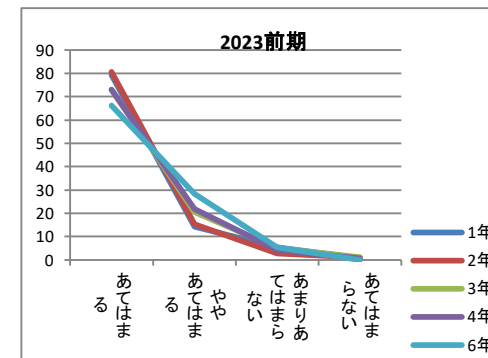
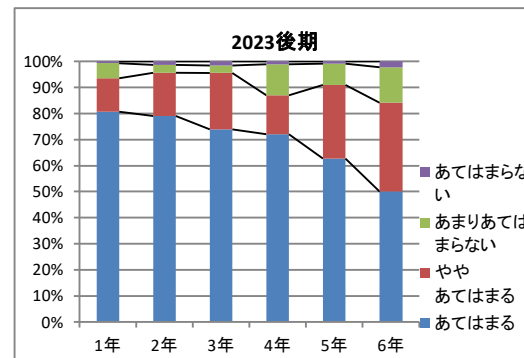
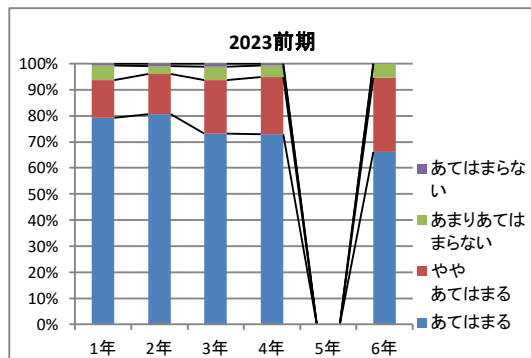
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



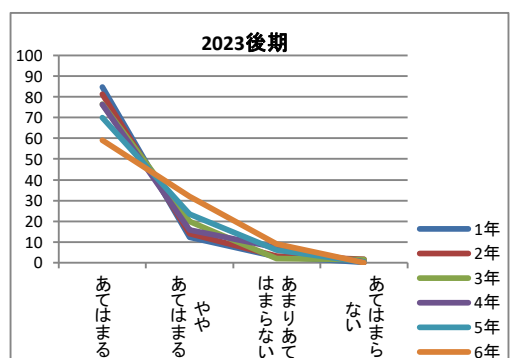
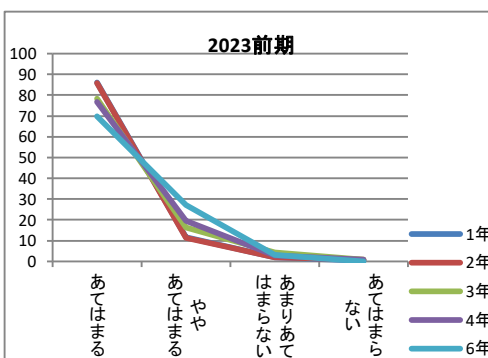
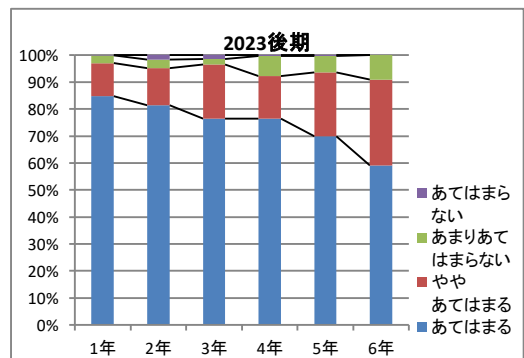
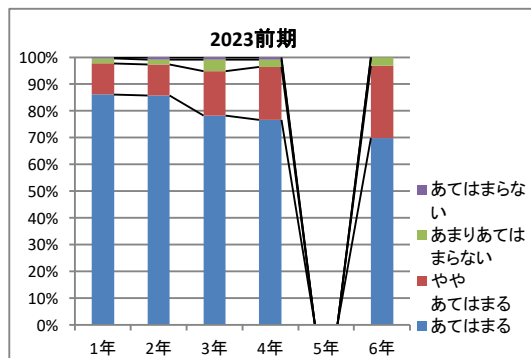
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



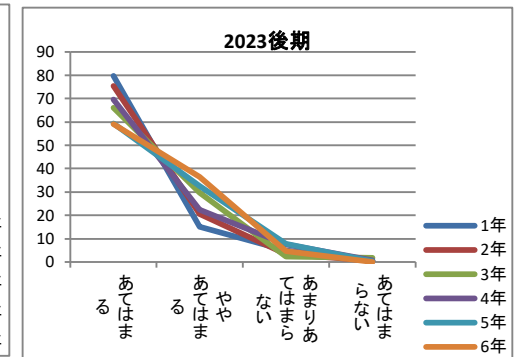
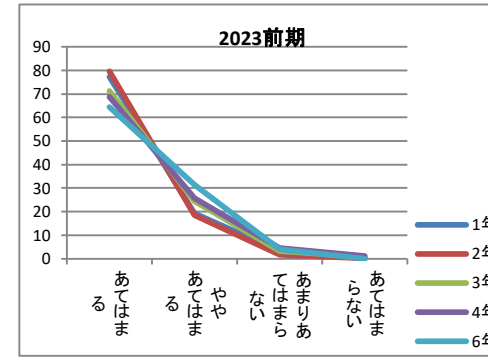
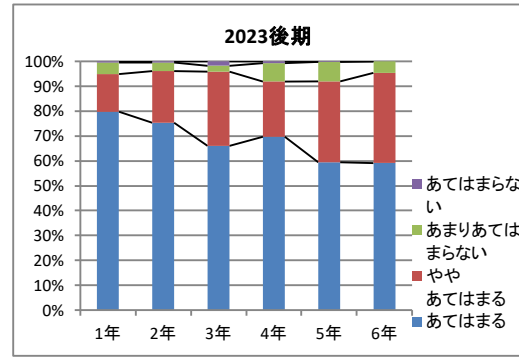
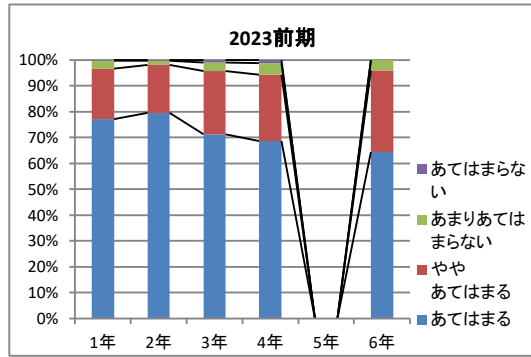
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



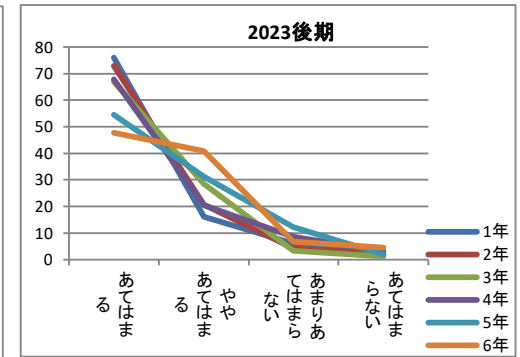
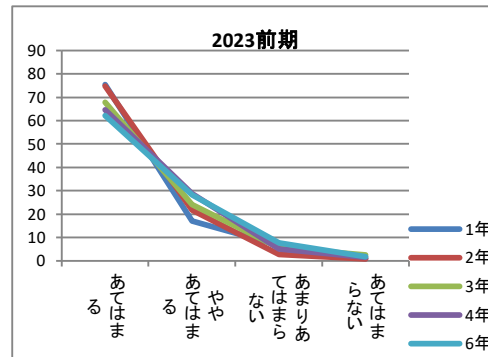
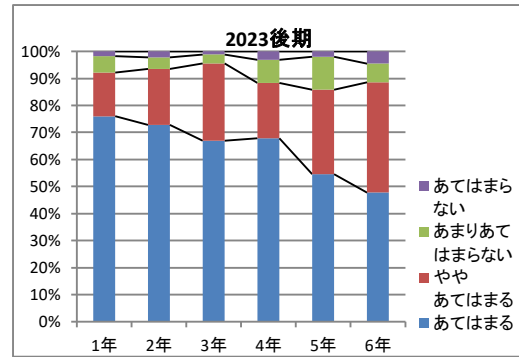
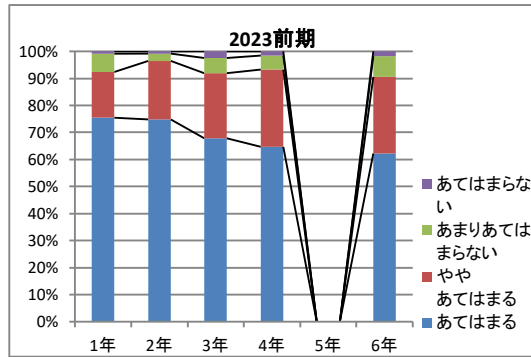
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



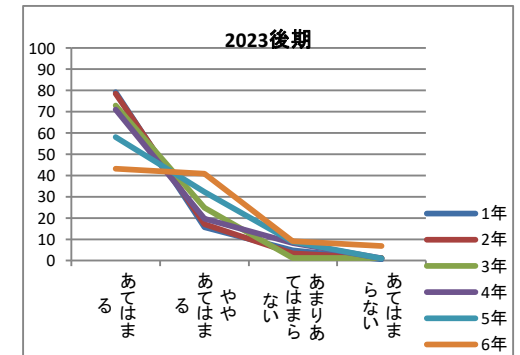
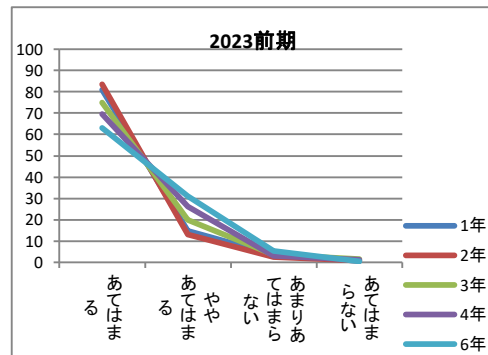
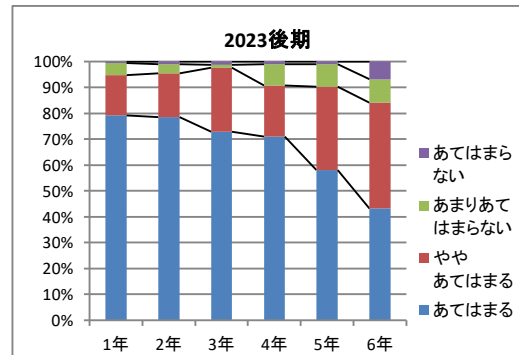
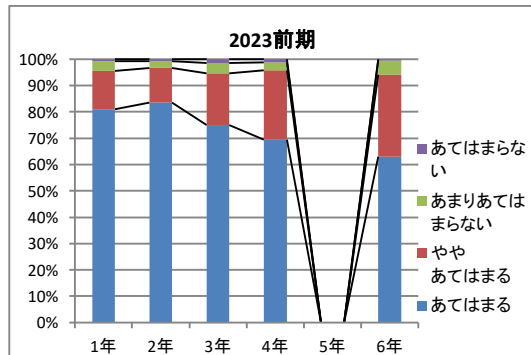
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。



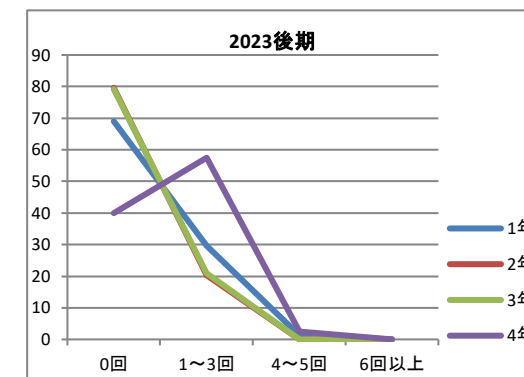
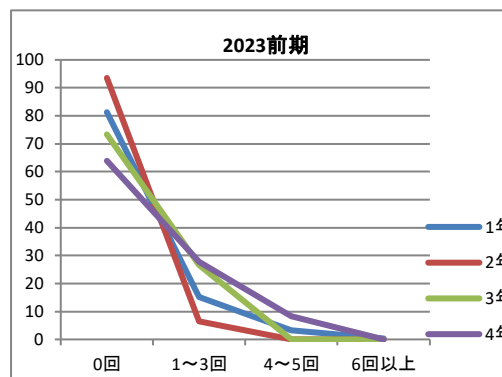
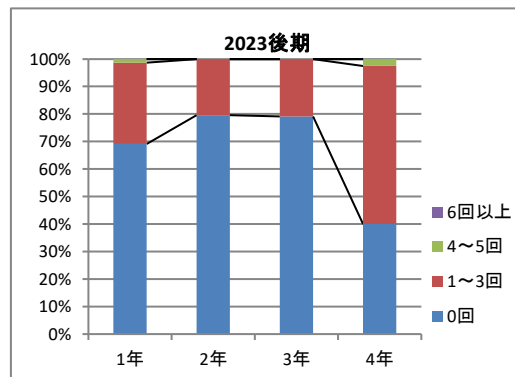
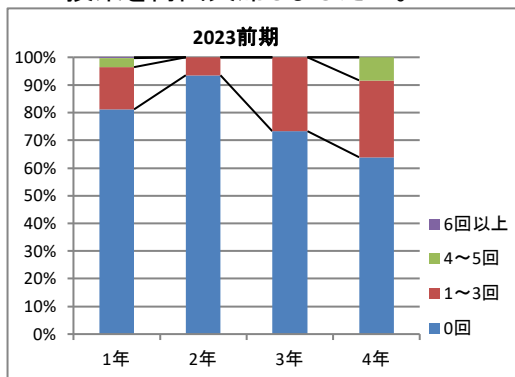
授業アンケート 令和5年度 2023年度

<動物生命薬科学科>

図VI 動生

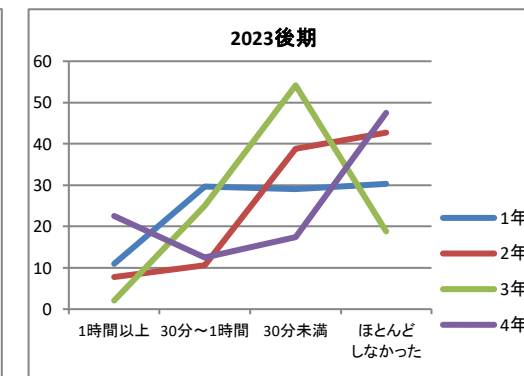
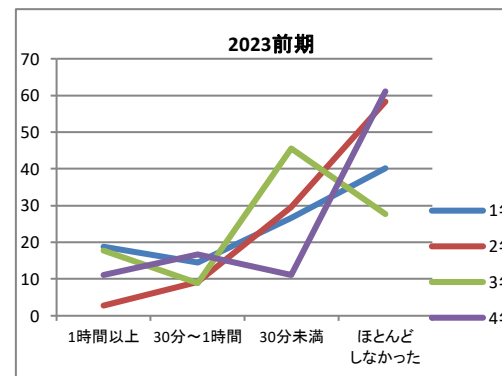
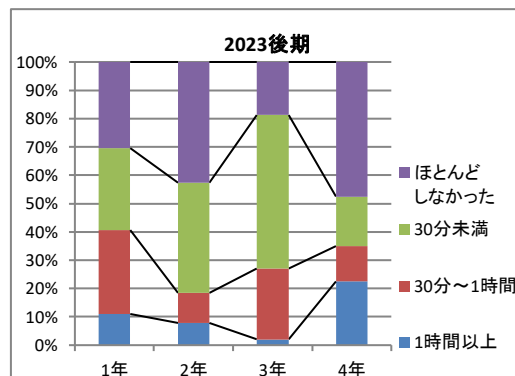
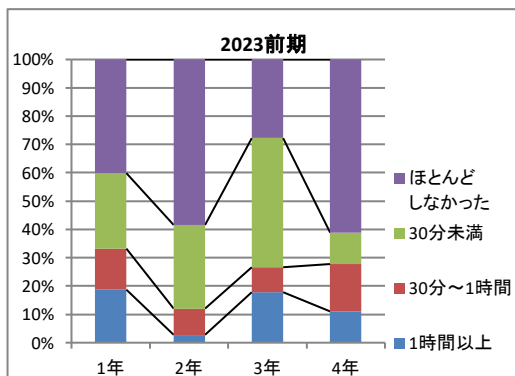
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



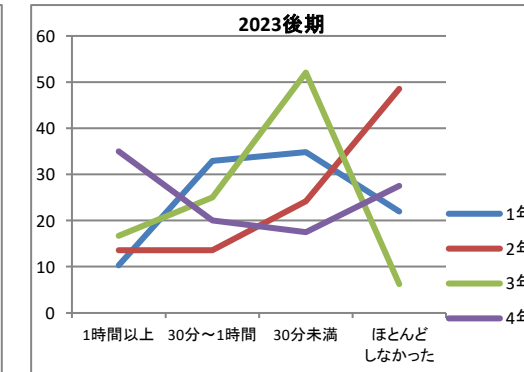
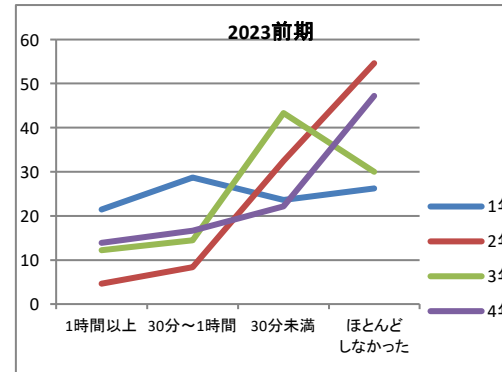
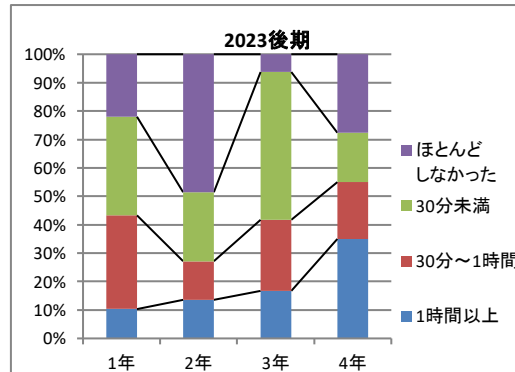
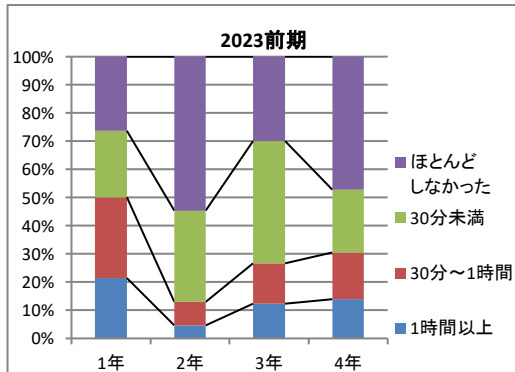
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



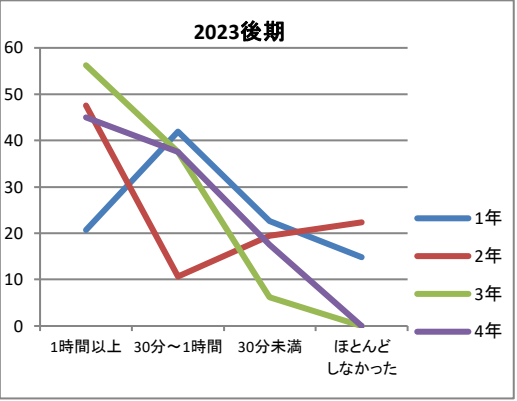
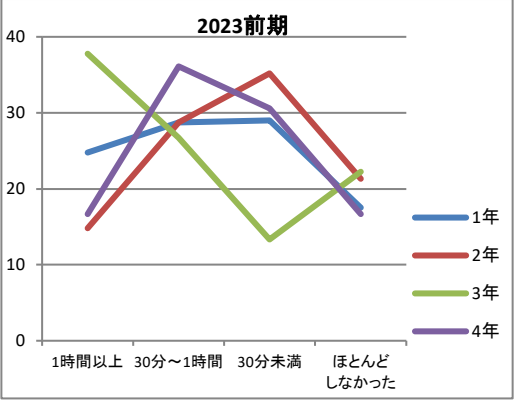
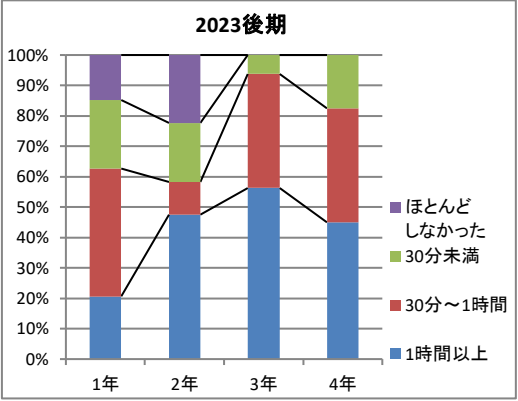
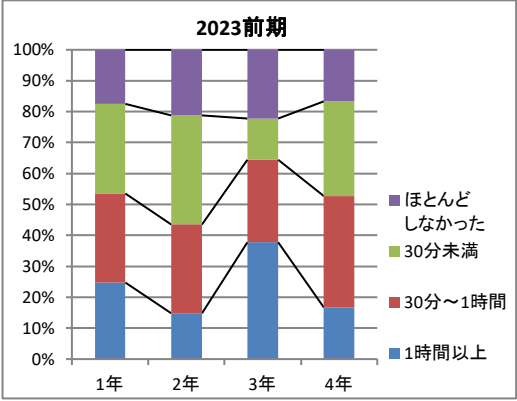
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



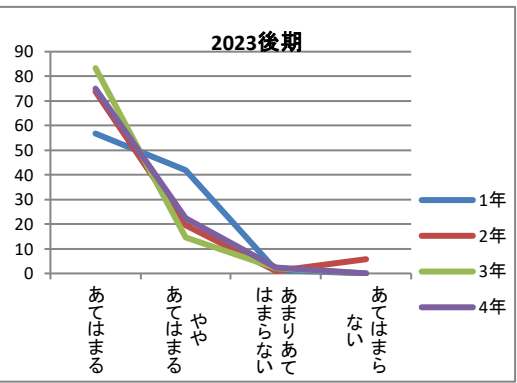
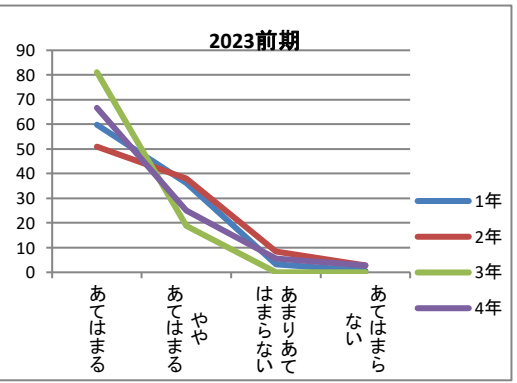
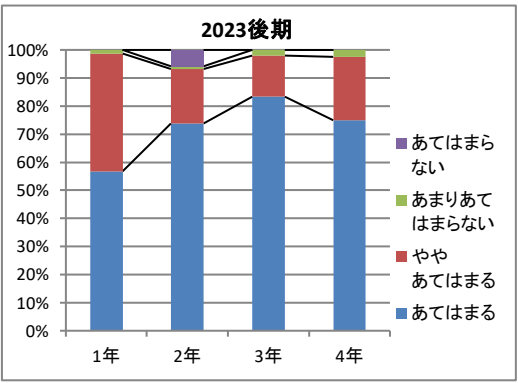
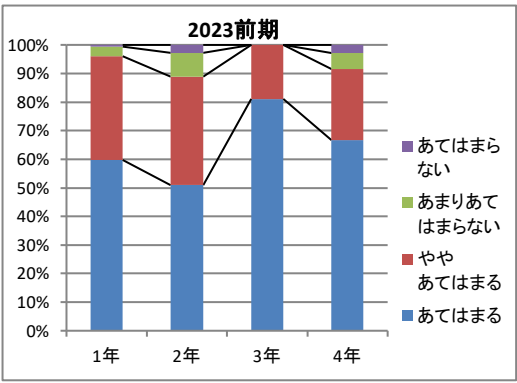
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



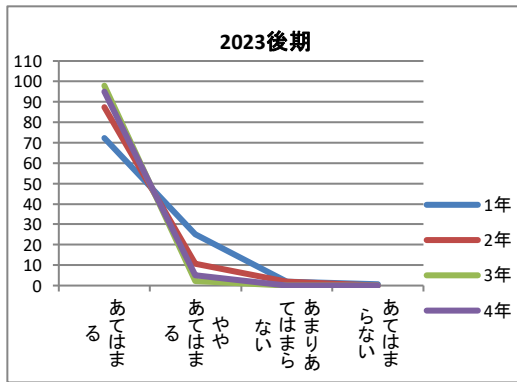
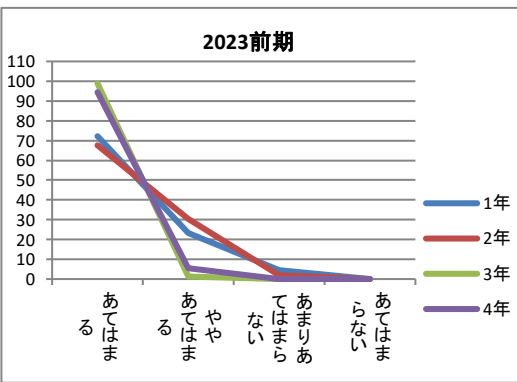
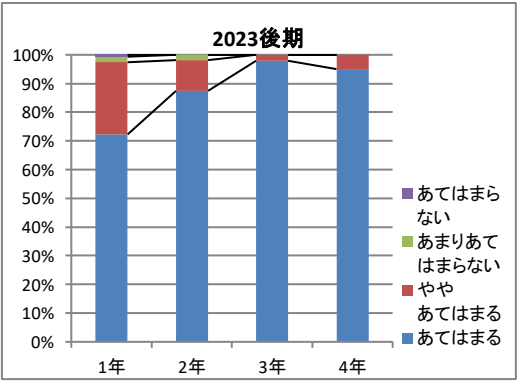
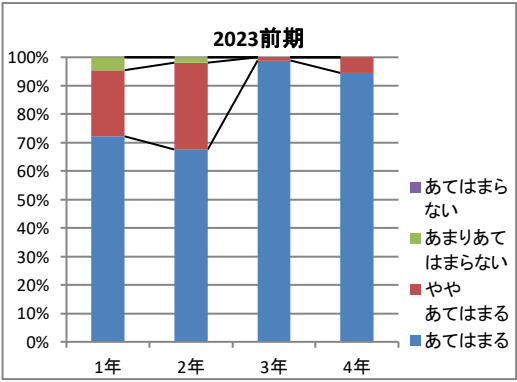
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



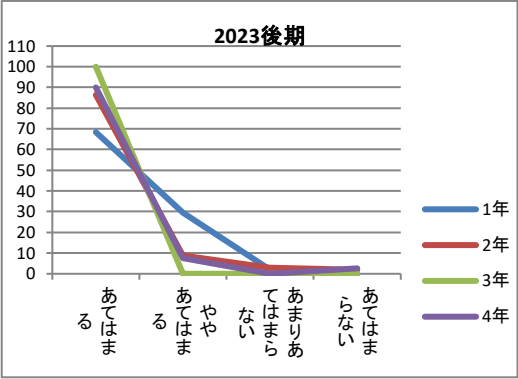
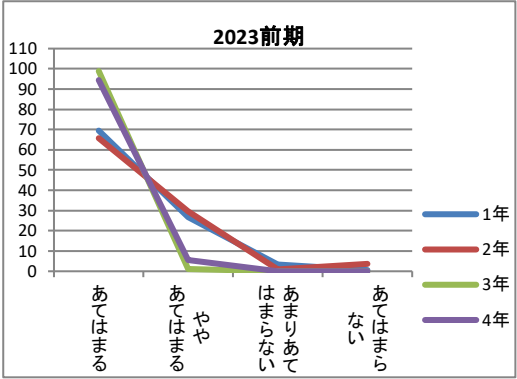
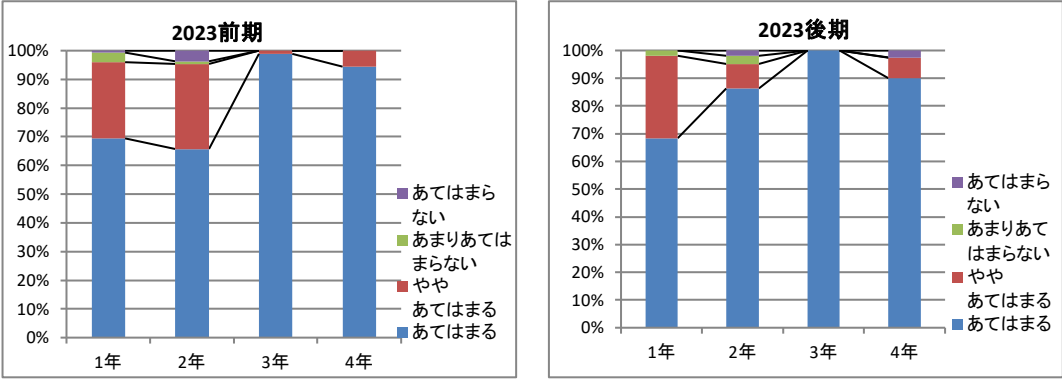
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



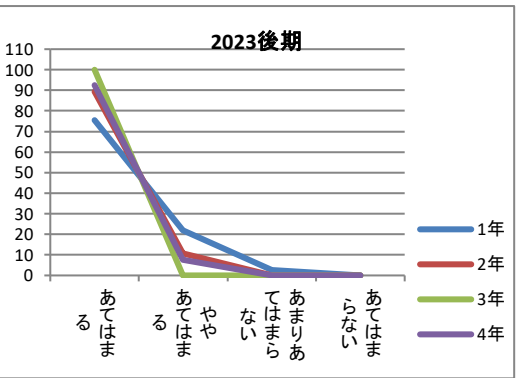
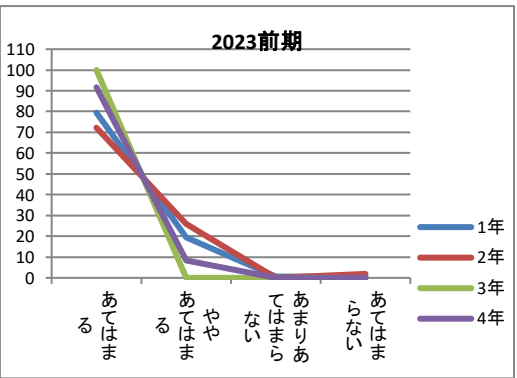
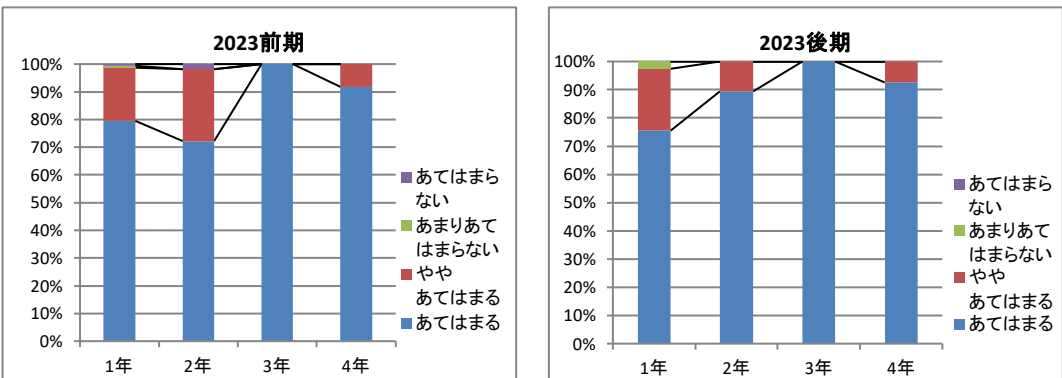
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



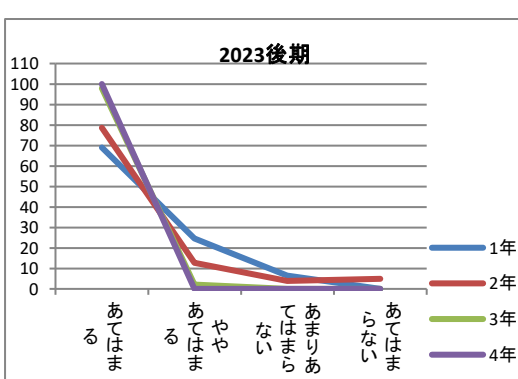
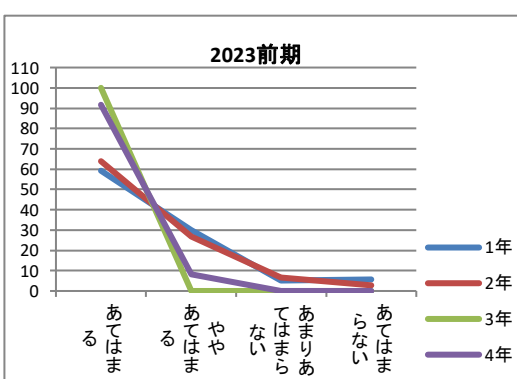
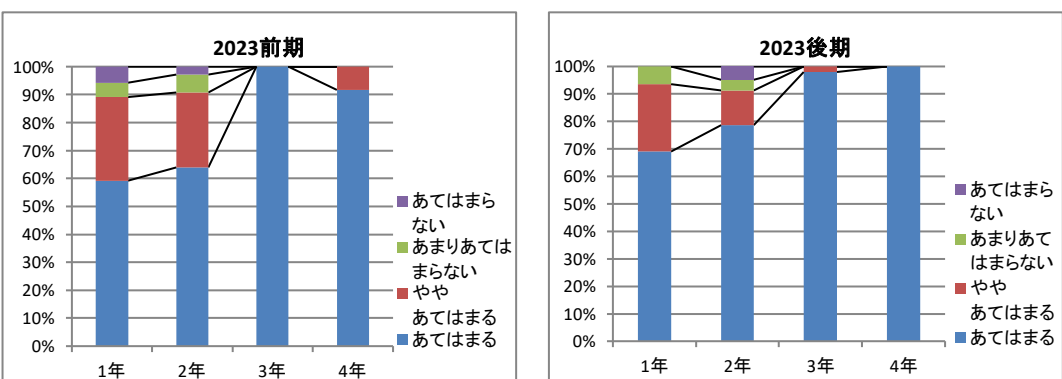
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



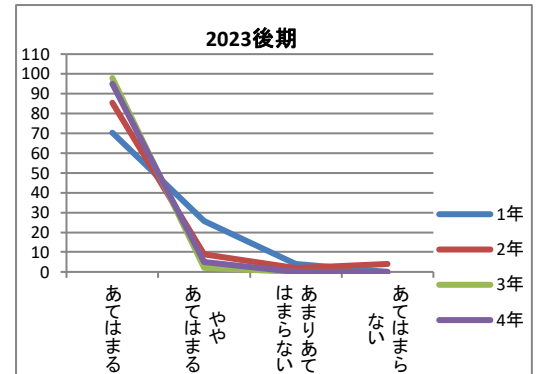
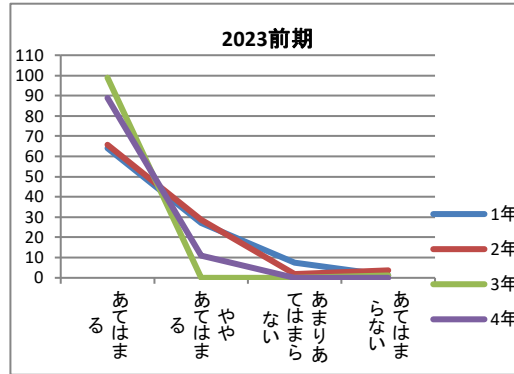
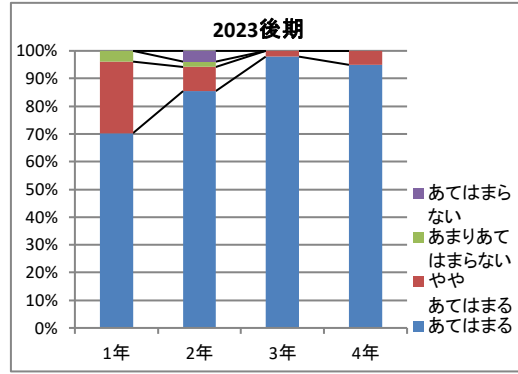
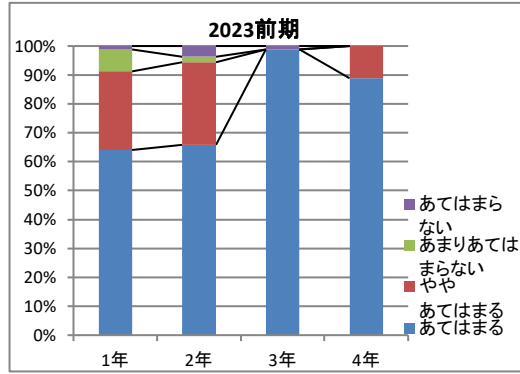
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



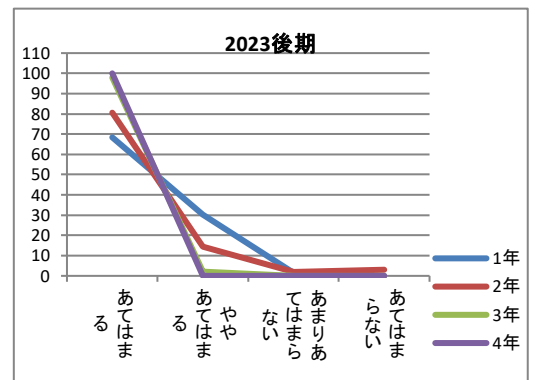
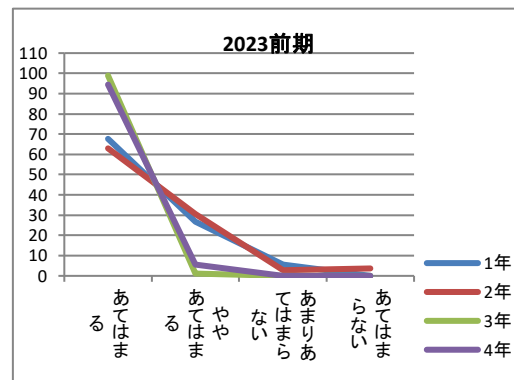
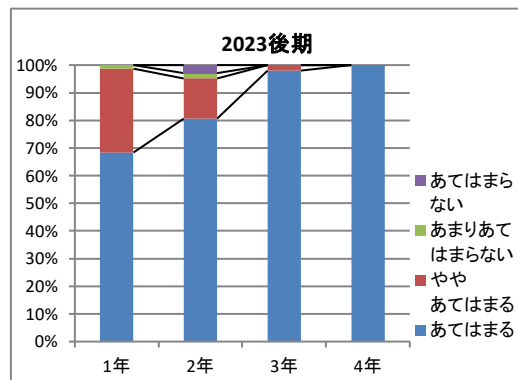
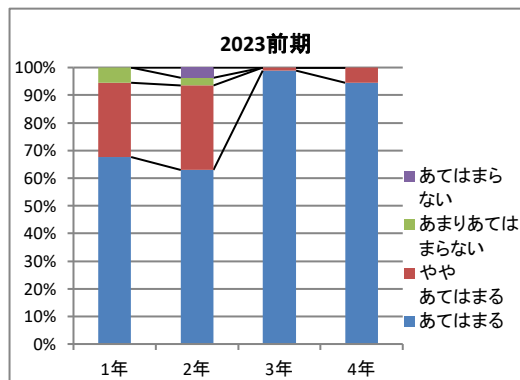
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



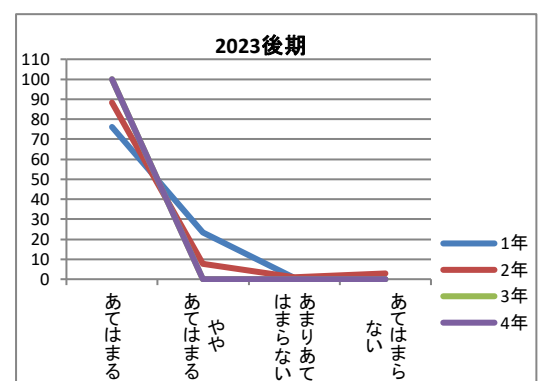
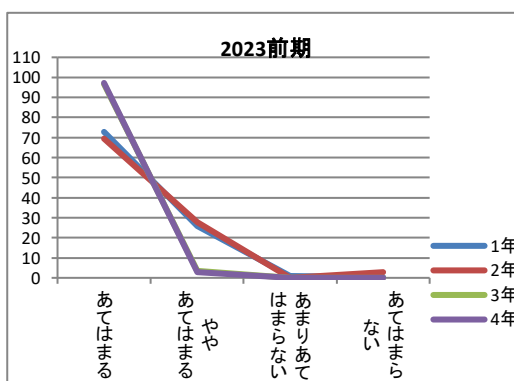
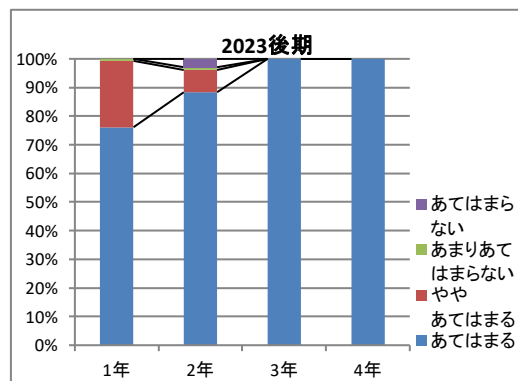
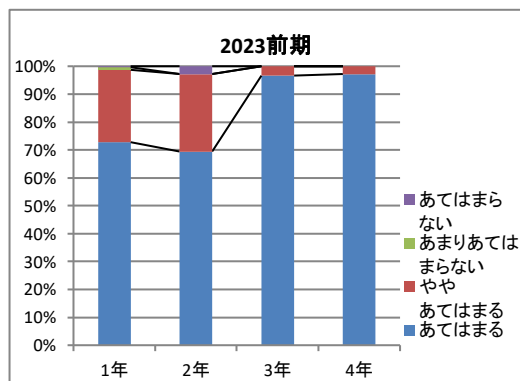
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



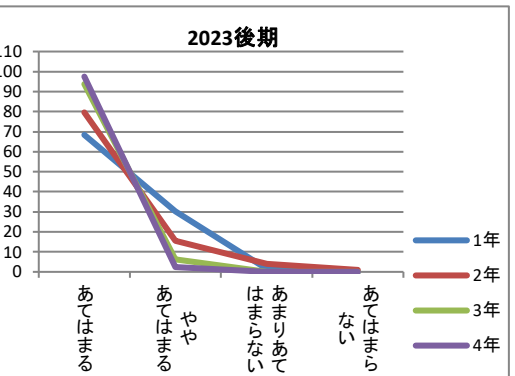
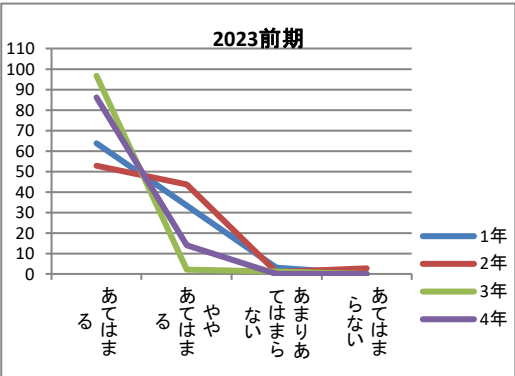
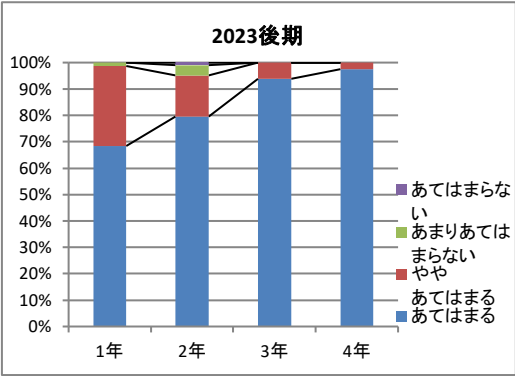
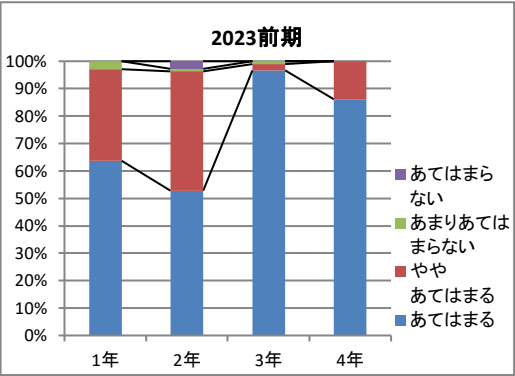
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



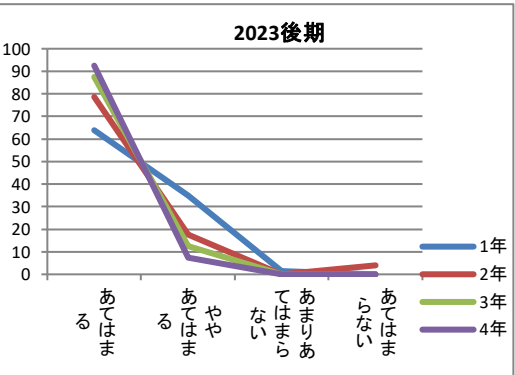
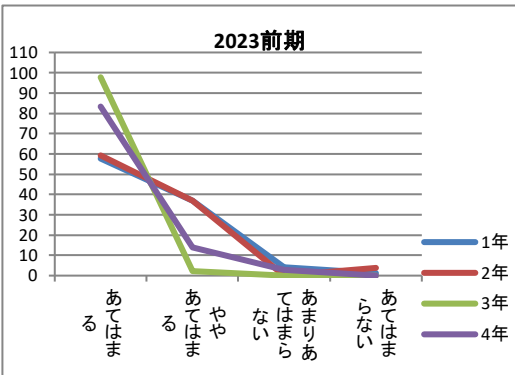
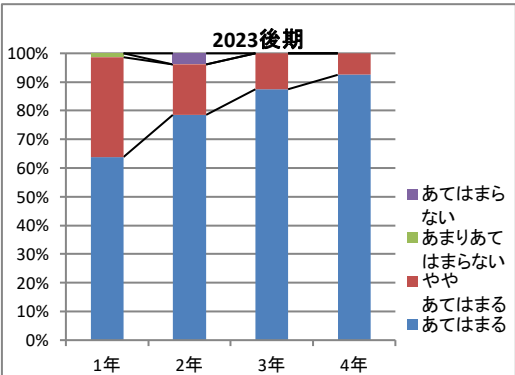
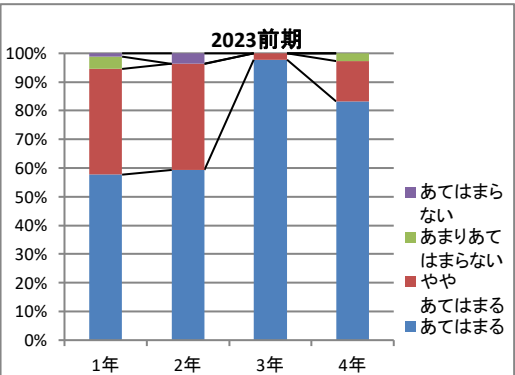
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



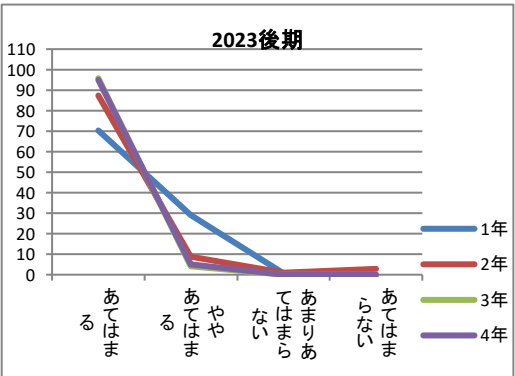
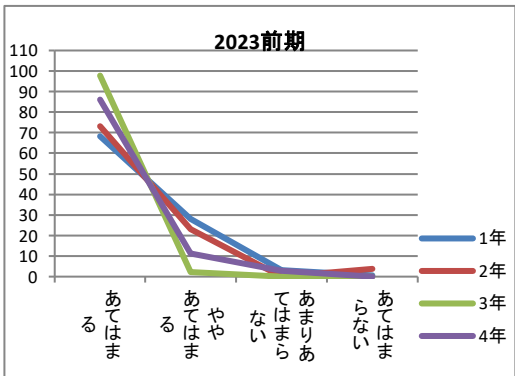
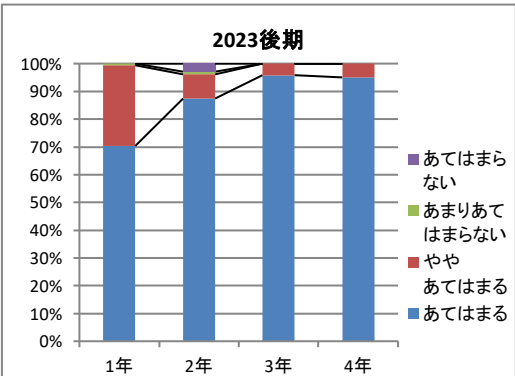
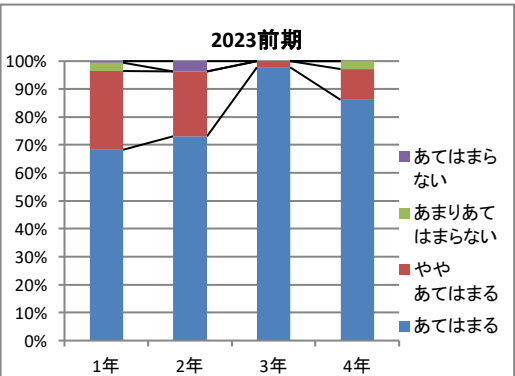
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。



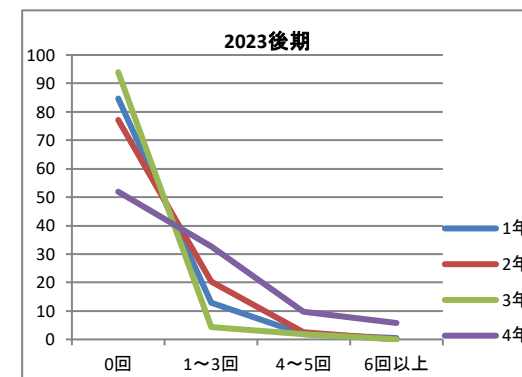
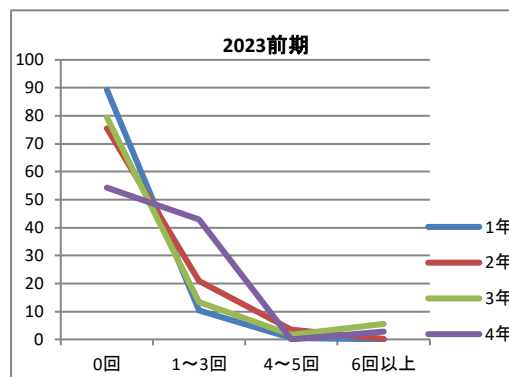
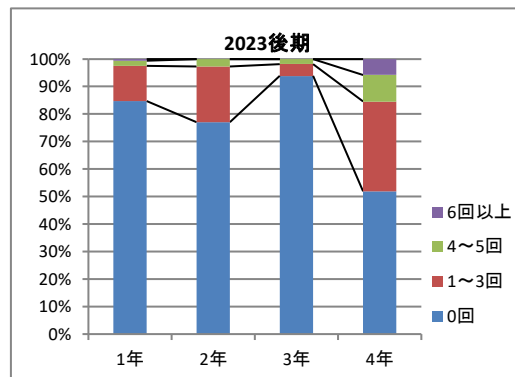
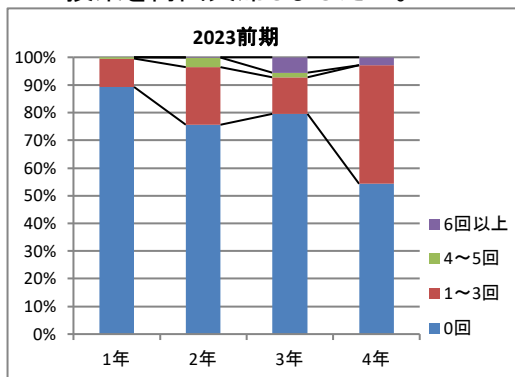
授業アンケート 令和5年度 2023年度

<生命医科学科>

図Ⅶ 生命

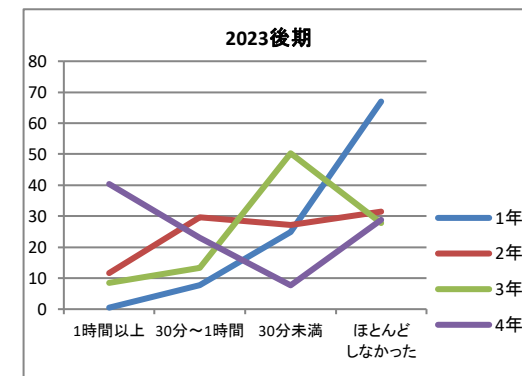
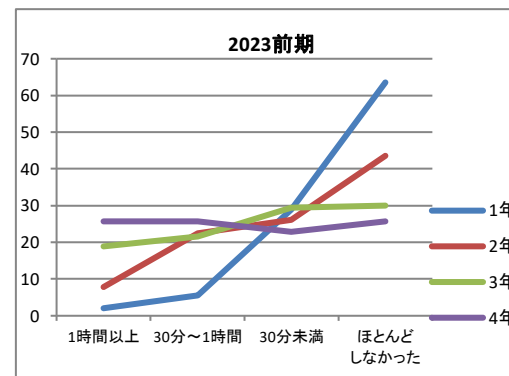
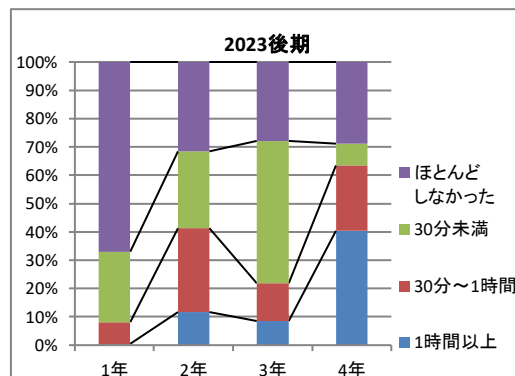
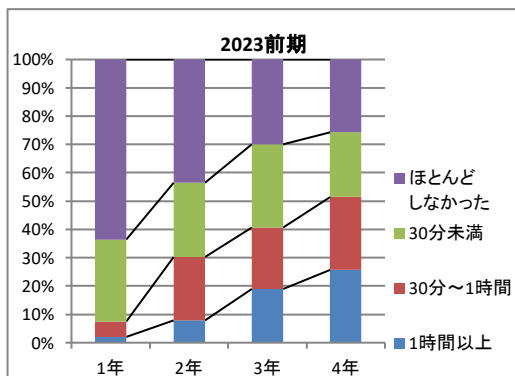
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



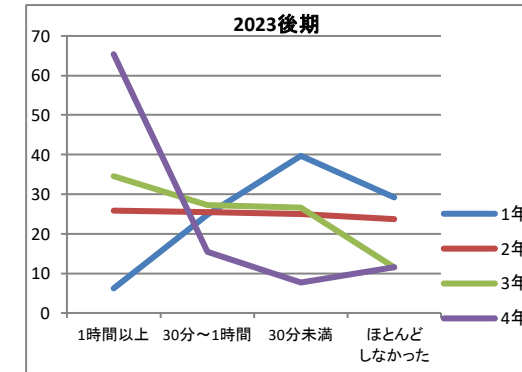
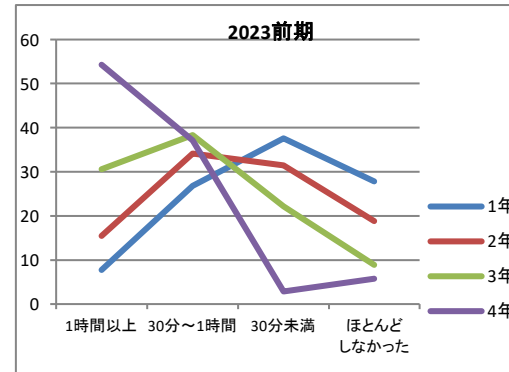
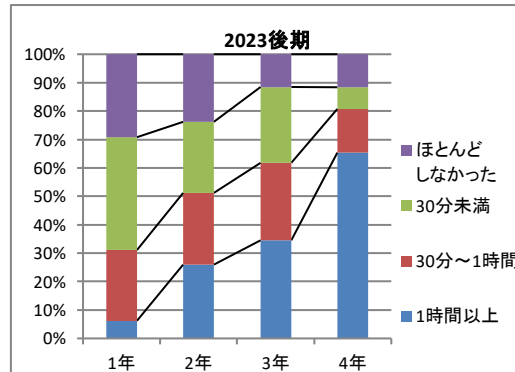
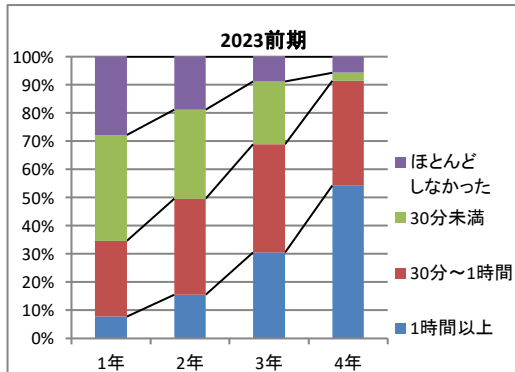
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



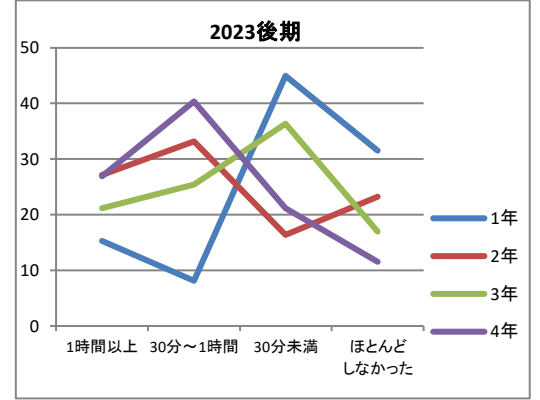
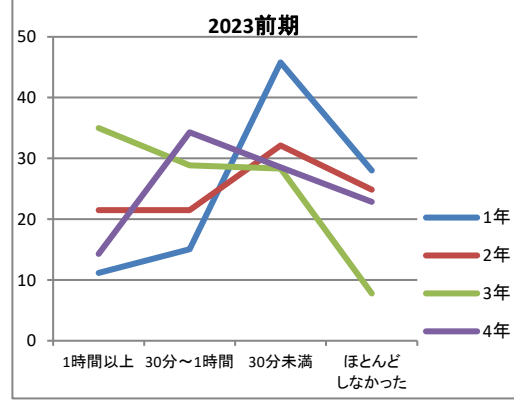
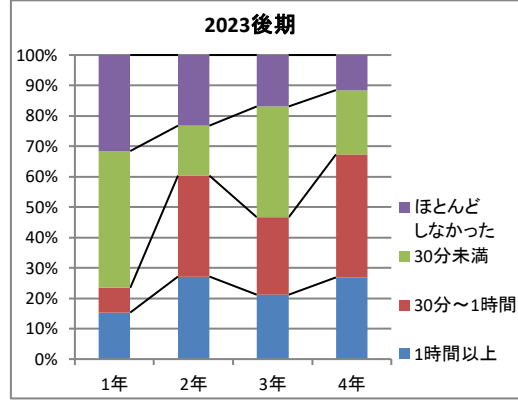
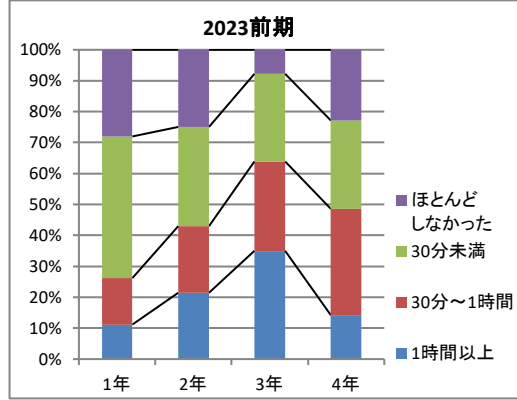
【あなたの授業に対する取り組み】

Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



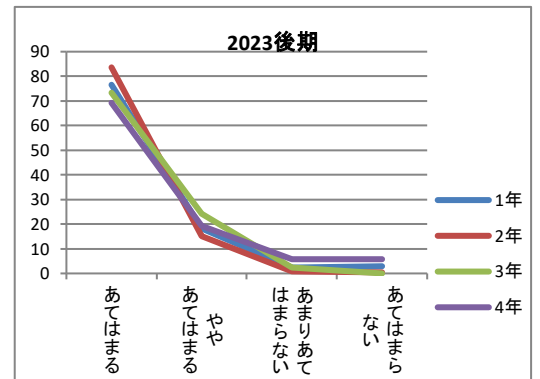
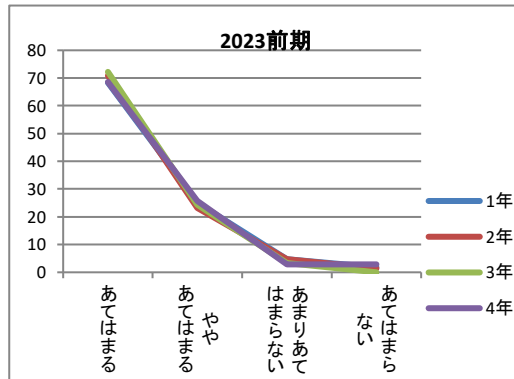
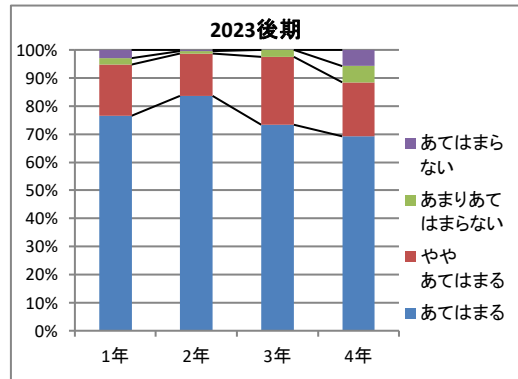
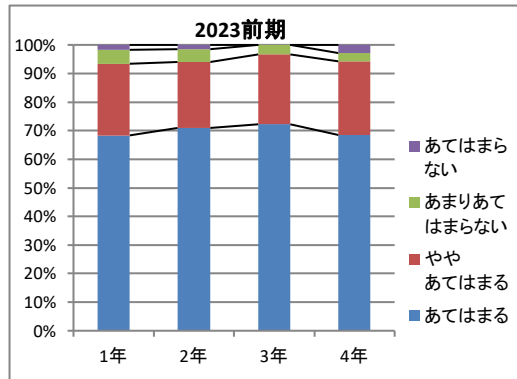
【あなたの授業に対する取り組み】

Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。



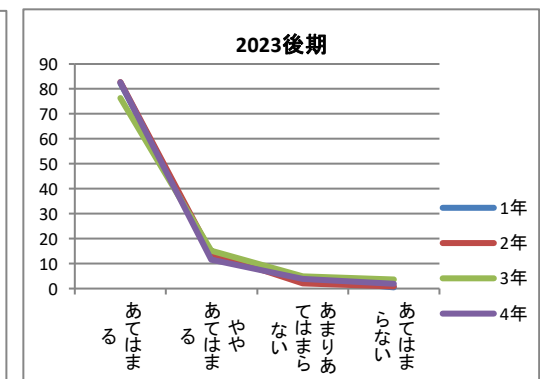
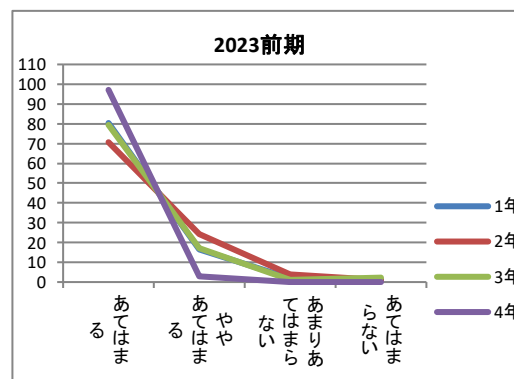
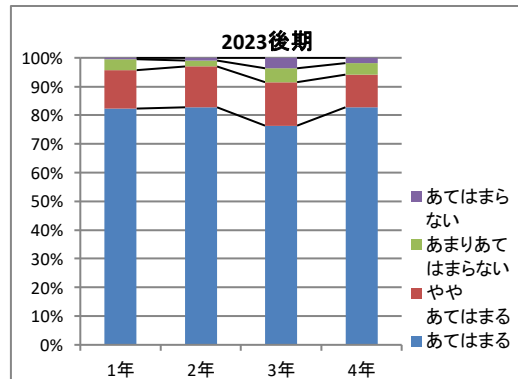
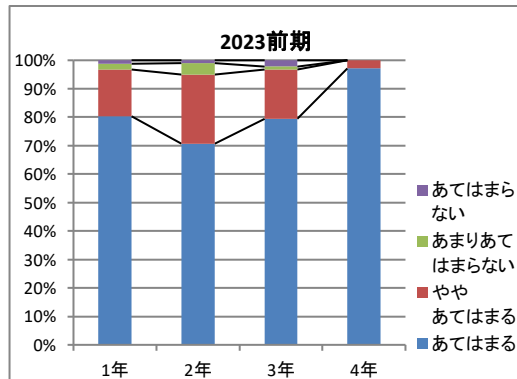
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



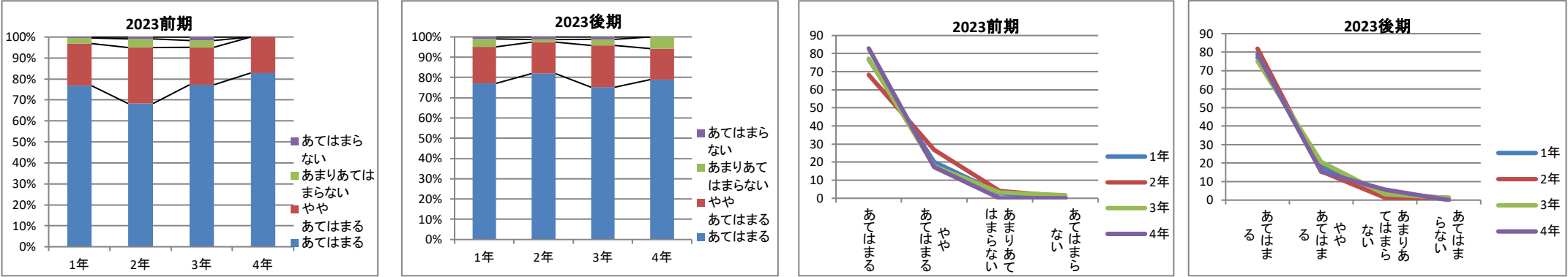
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



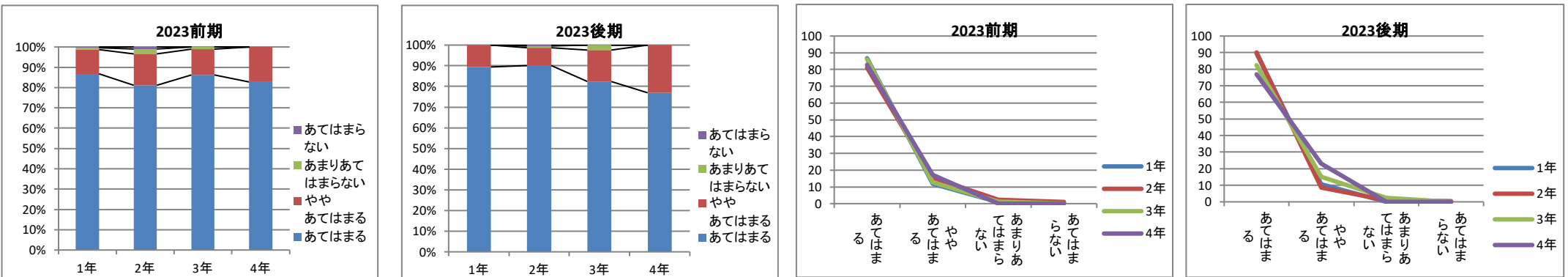
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



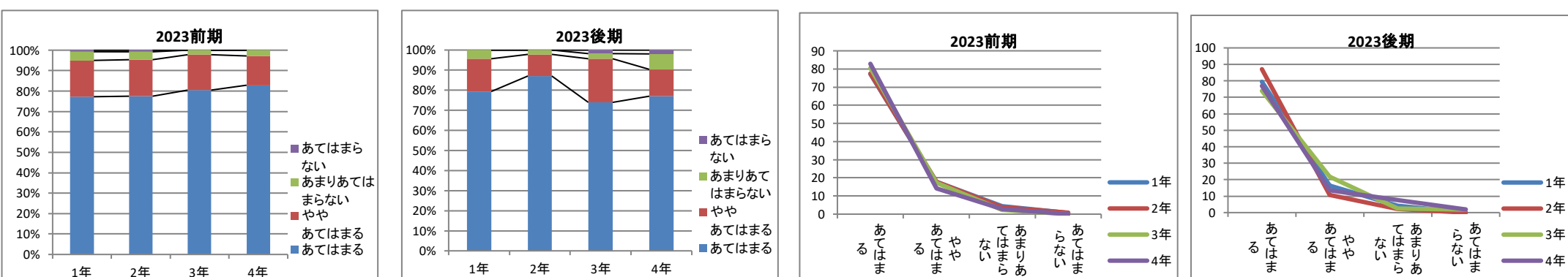
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



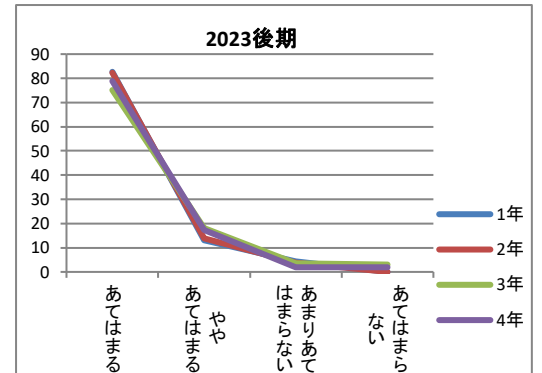
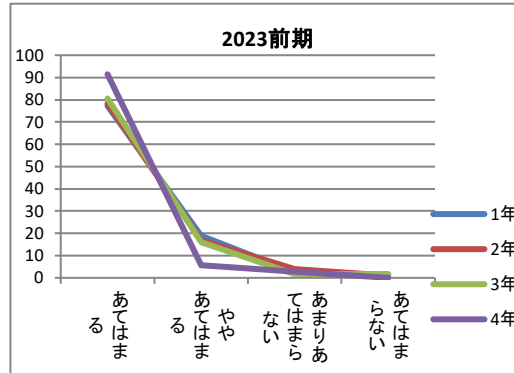
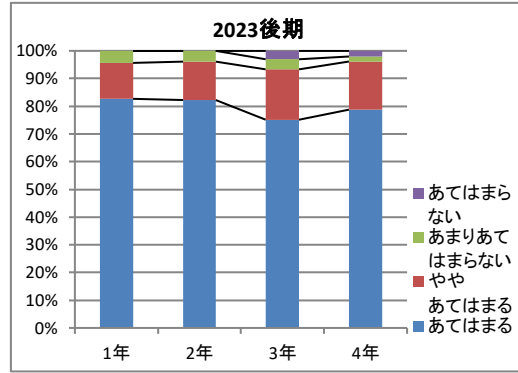
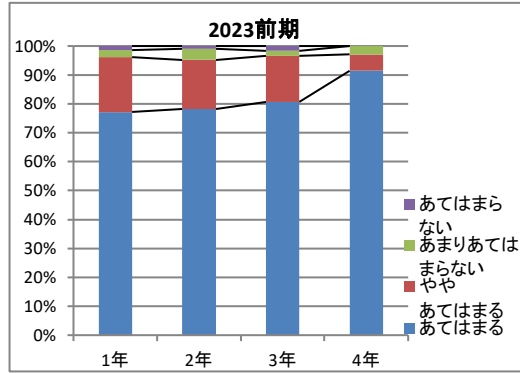
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



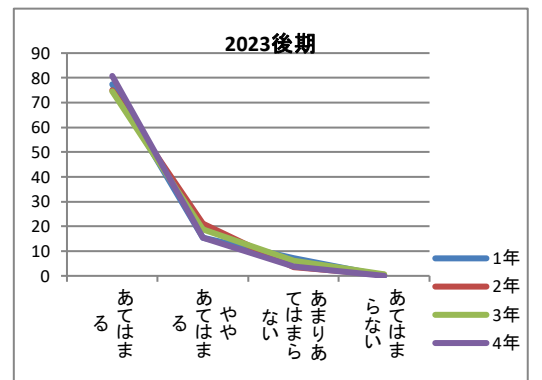
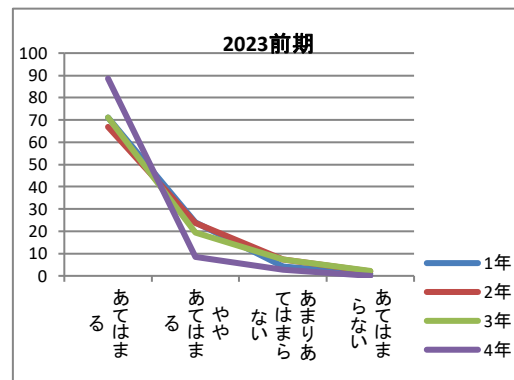
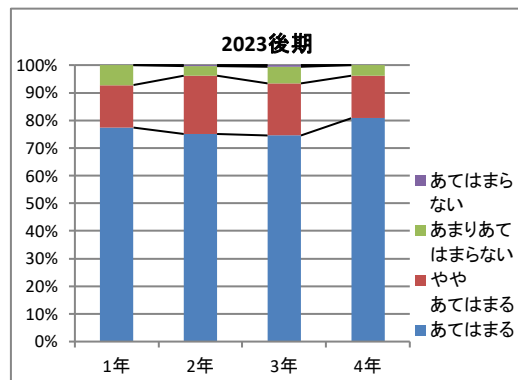
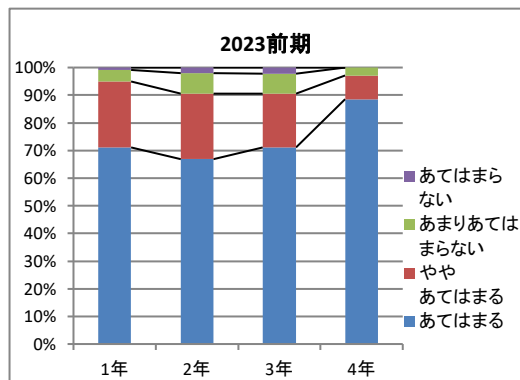
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



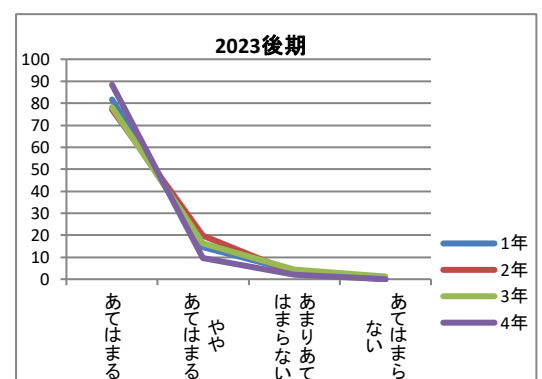
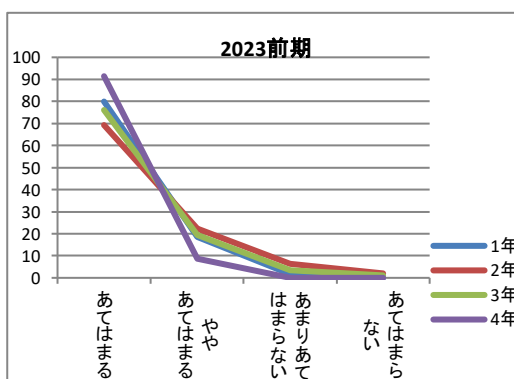
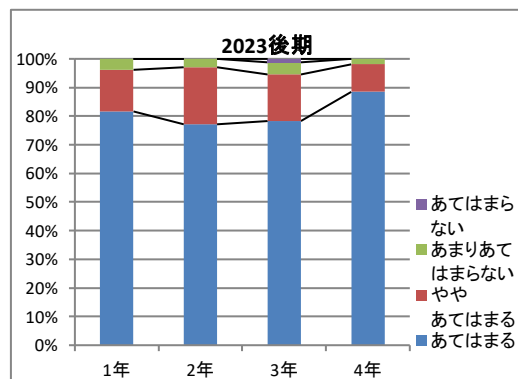
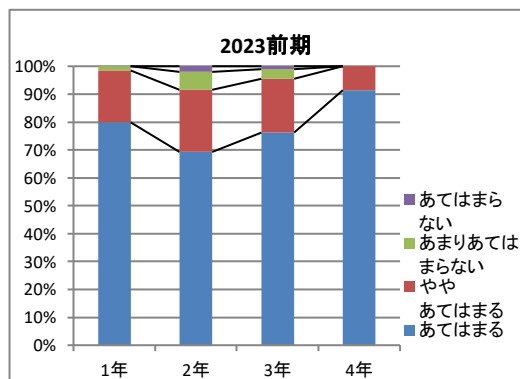
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



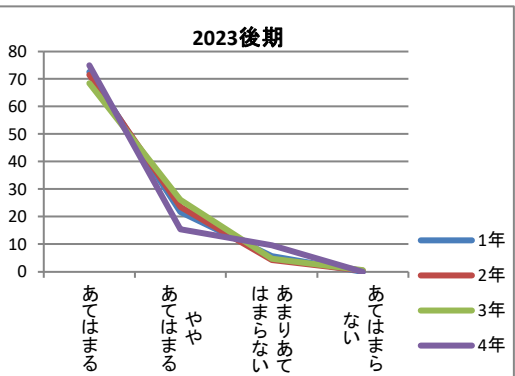
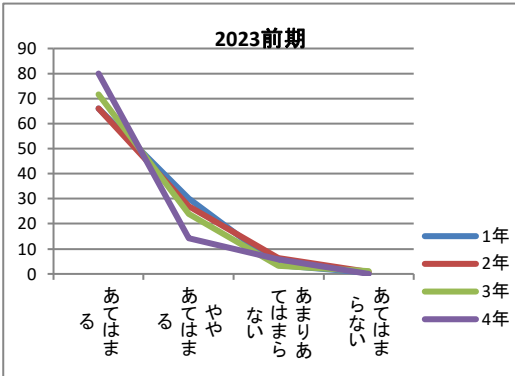
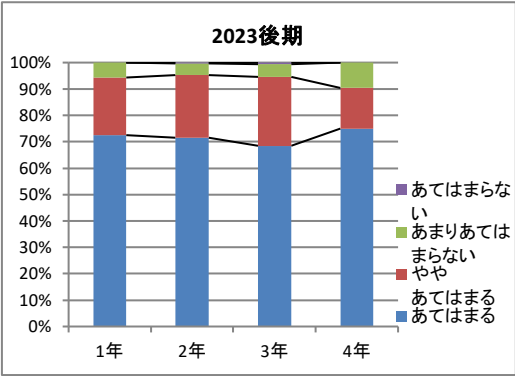
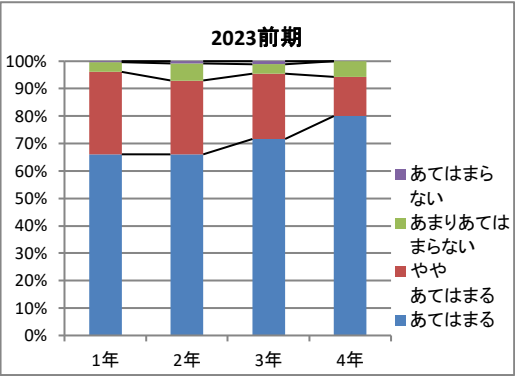
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



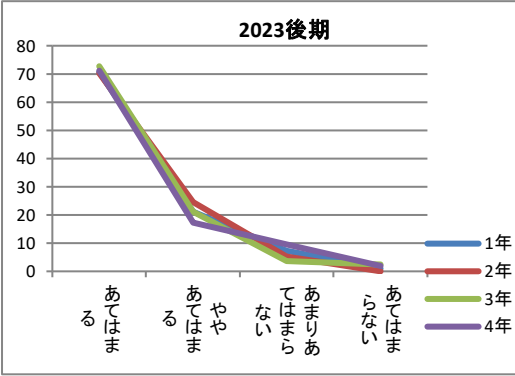
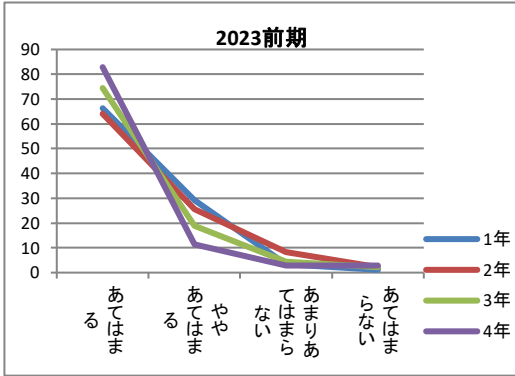
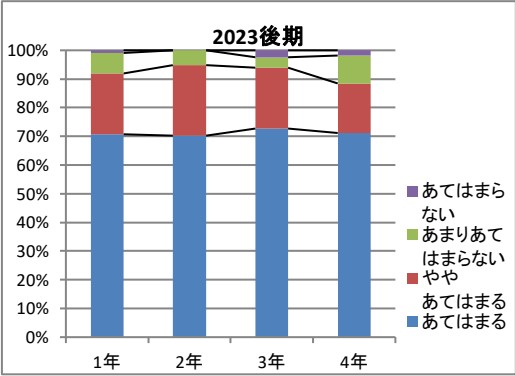
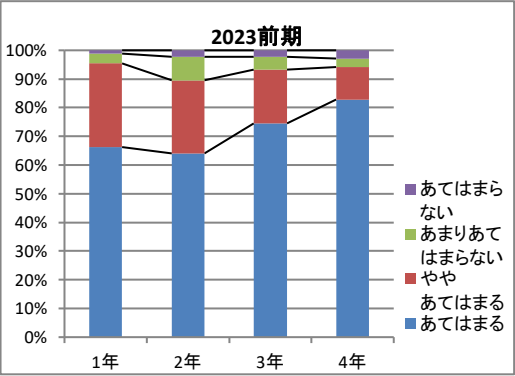
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



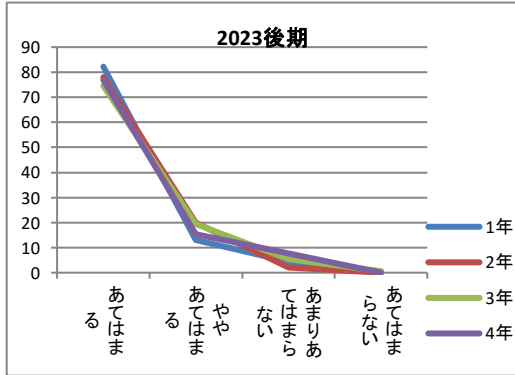
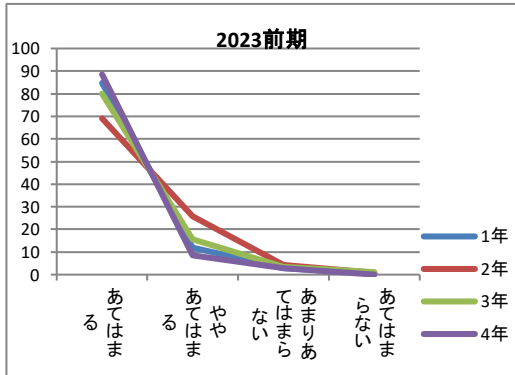
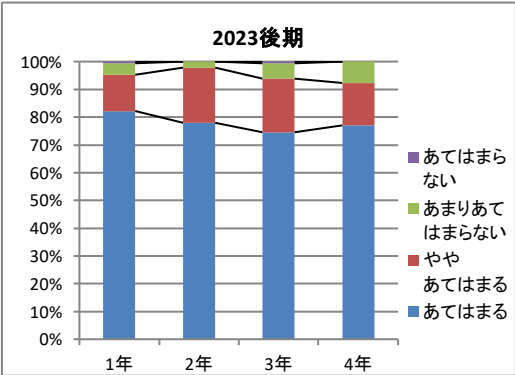
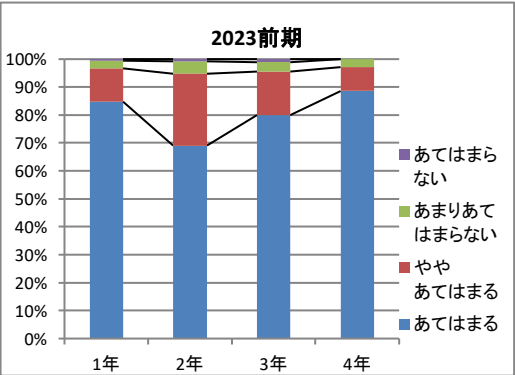
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。

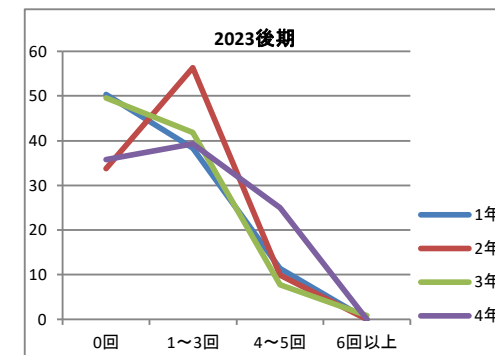
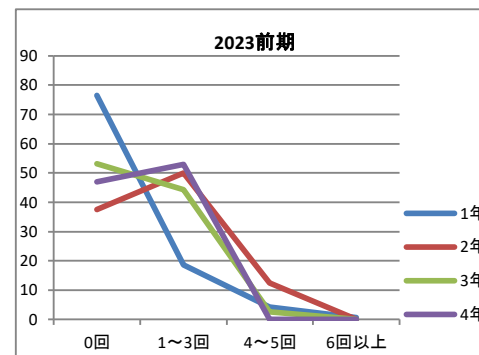
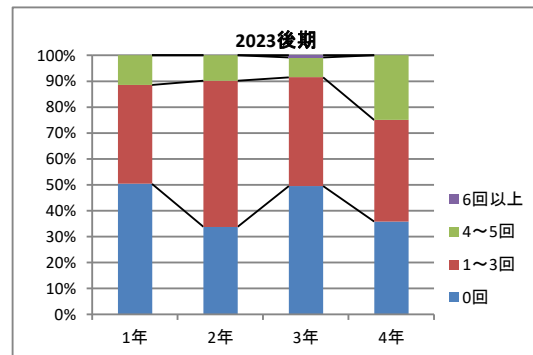
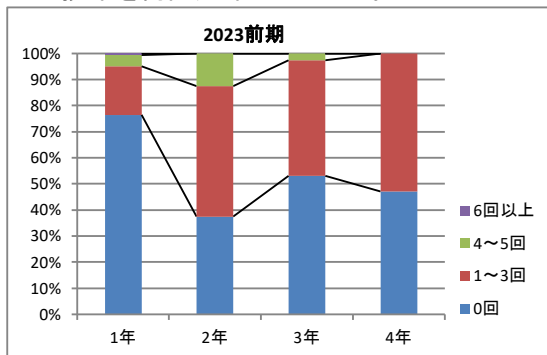


授業アンケート 令和5年度 2023年度 ＜臨床心理学科＞

図Ⅷ 心理

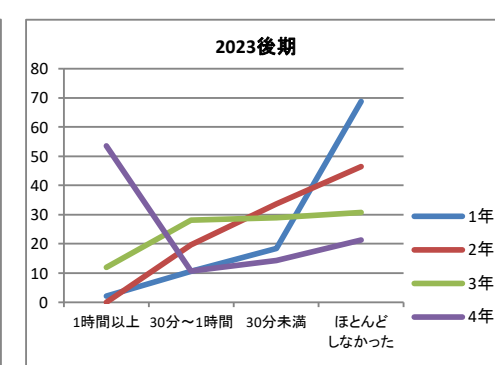
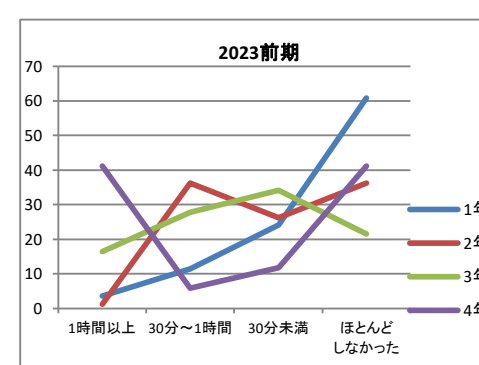
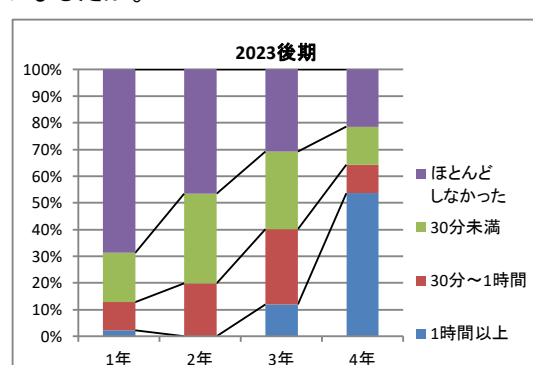
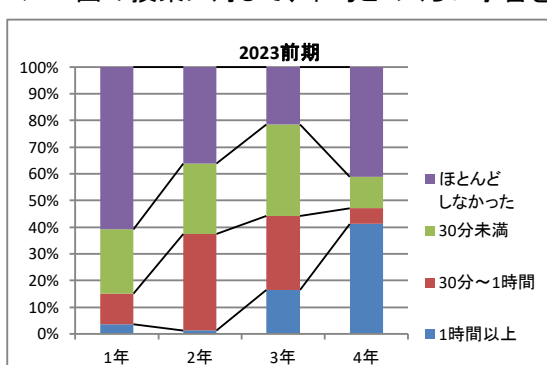
【あなたの授業に対する取り組み】

Q1. 授業を何回欠席しましたか。



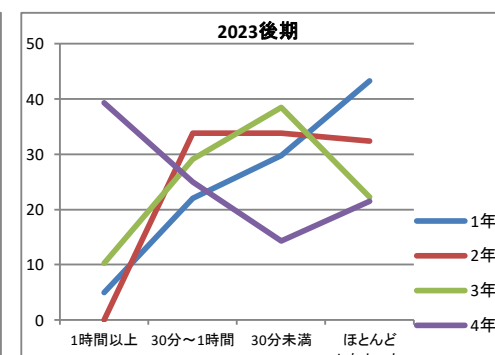
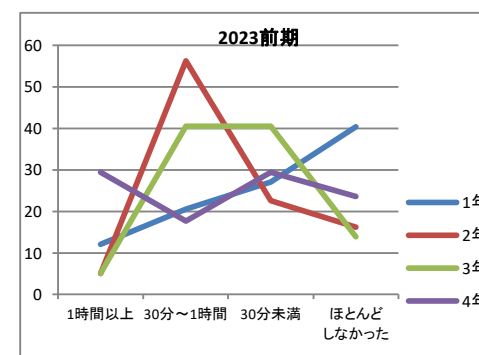
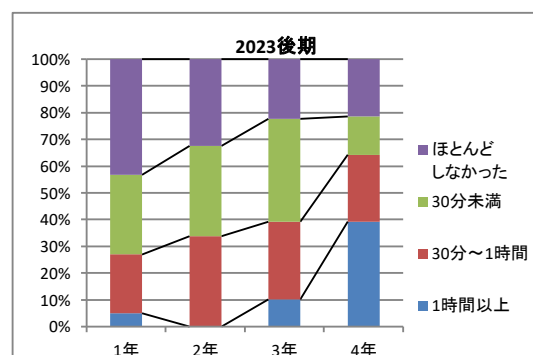
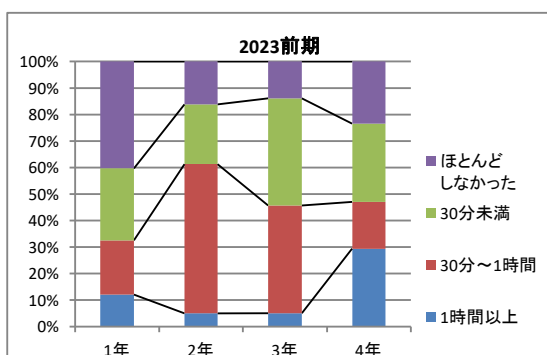
【あなたの授業に対する取り組み】

Q2. 1回の授業に対して、平均どのくらい予習を行いましたか。



【あなたの授業に対する取り組み】

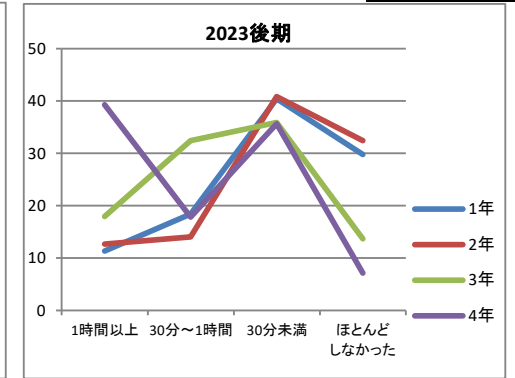
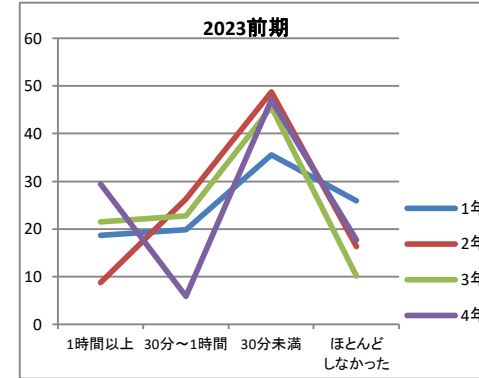
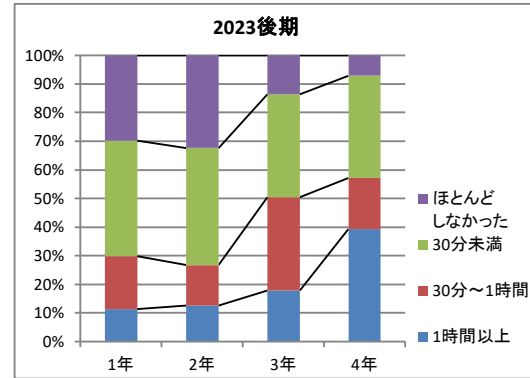
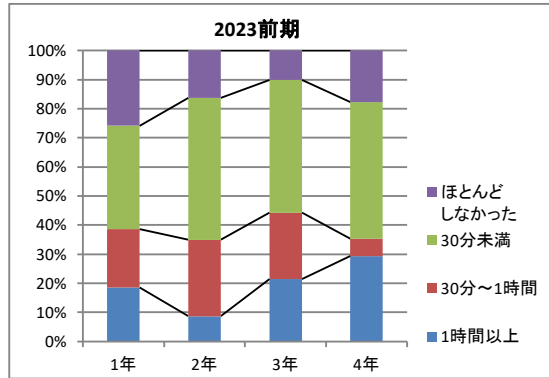
Q3. 1回の授業に対して平均どのくらい復習を行いましたか。



【あなたの授業に対する取り組み】

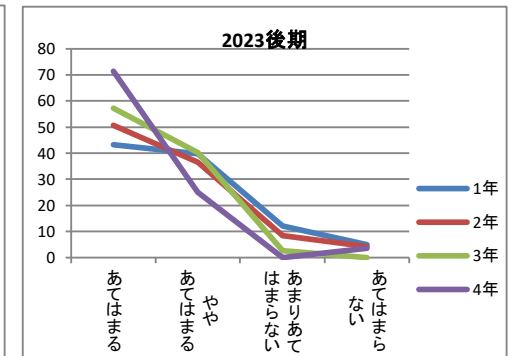
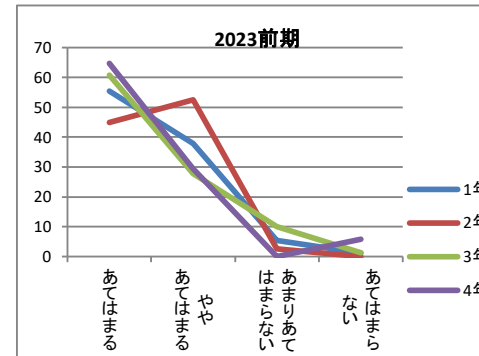
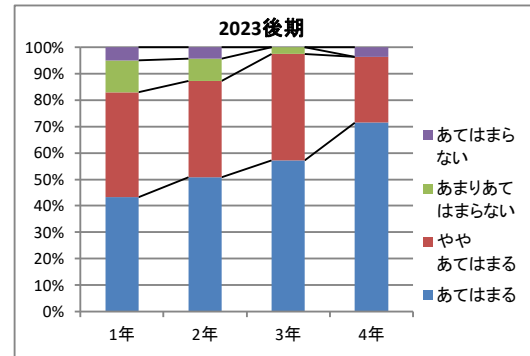
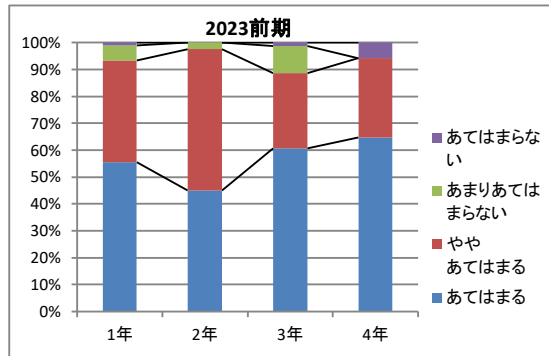
Q4. シラバスに記載されている準備学習をどの程度行いましたか。

図Ⅷ 心理



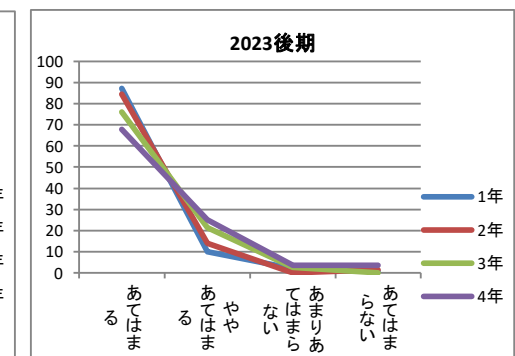
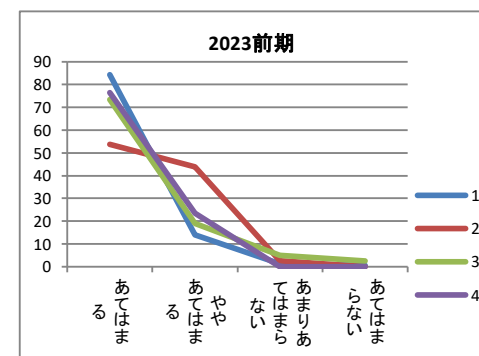
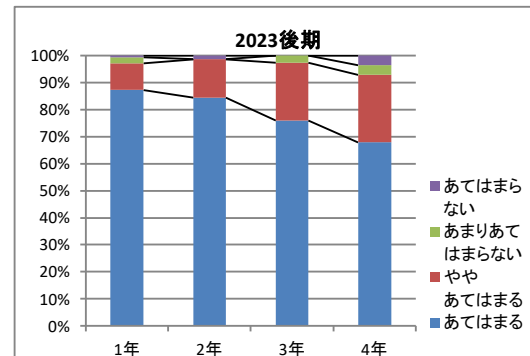
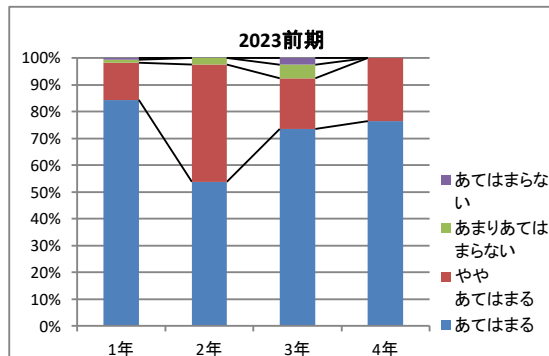
【あなたの授業に対する取り組み】

Q5. 授業中居眠り・私語・遅刻早退なく、学習に意欲的に取り組みましたか。



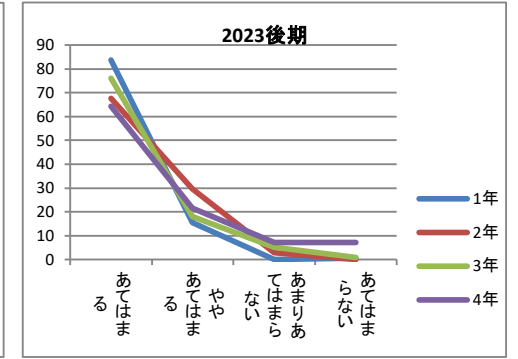
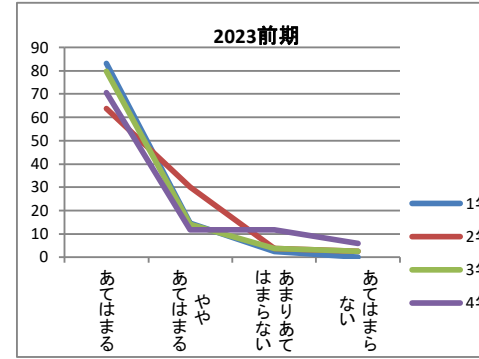
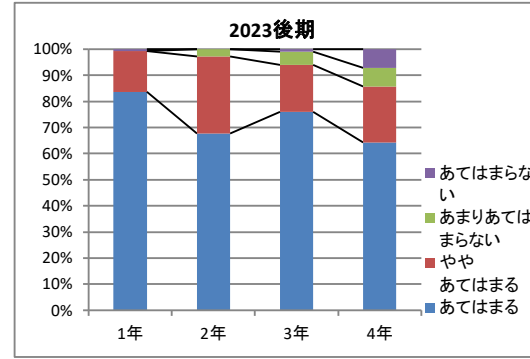
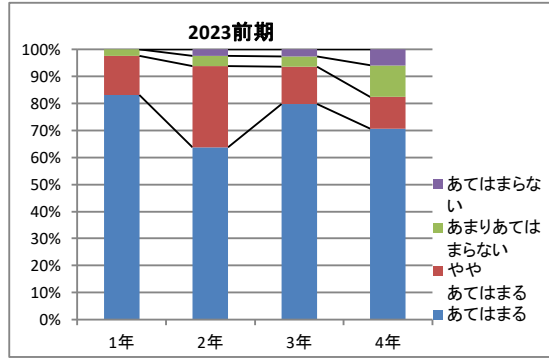
【教員の授業に対する取り組み】

Q6. 担当教員は、シラバスにそって授業を行いましたか。



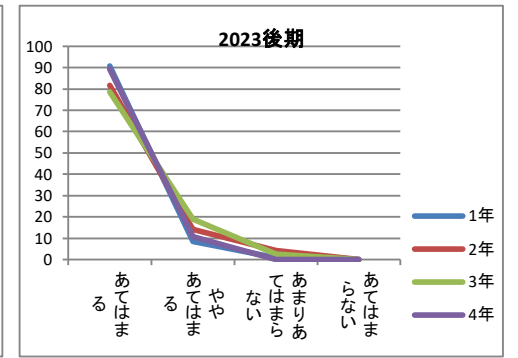
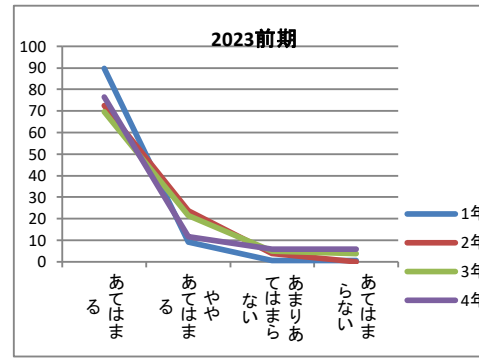
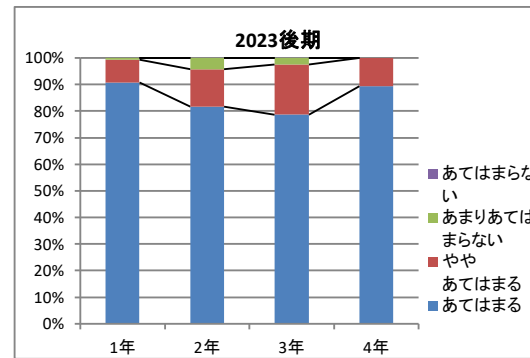
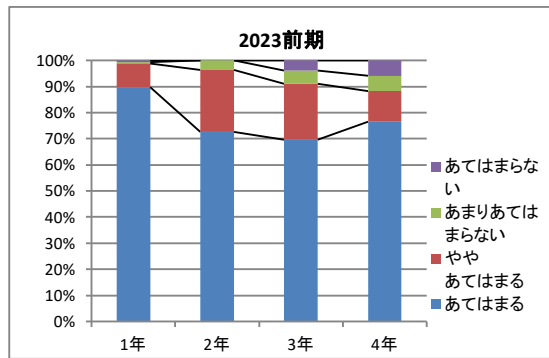
【教員の授業に対する取り組み】

Q7. 担当教員は、授業の目標や修得すべき事項を、毎回説明していましたか。



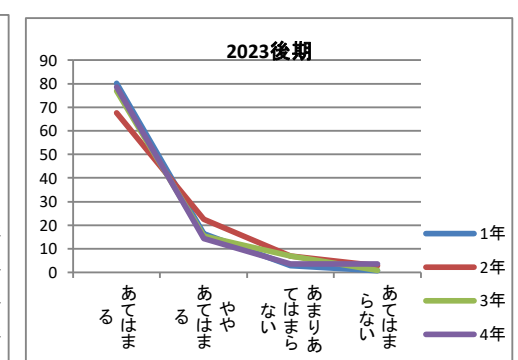
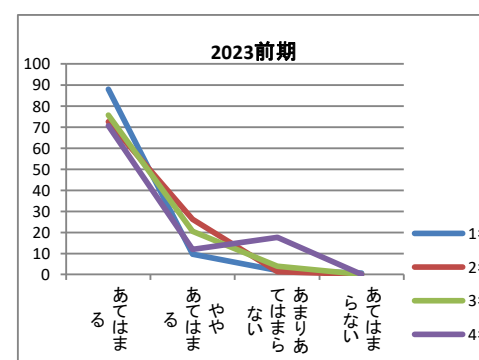
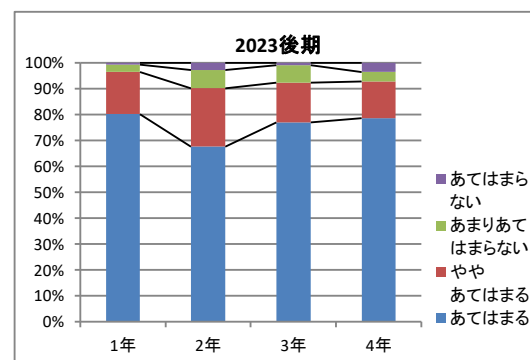
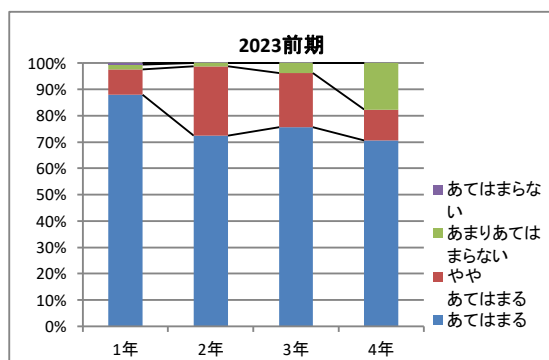
【教員の授業に対する取り組み】

Q8. 担当教員は、授業の開始時刻を守っていましたか。



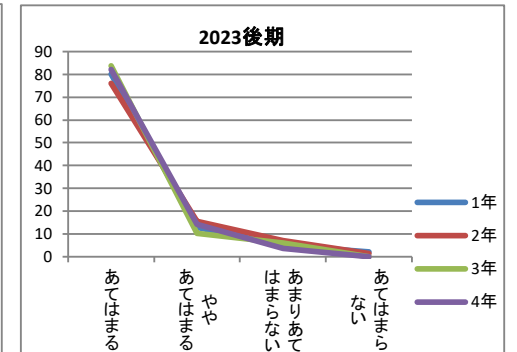
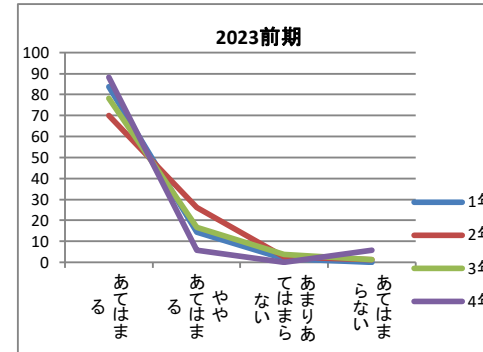
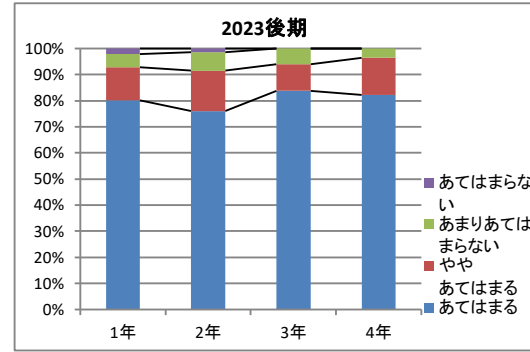
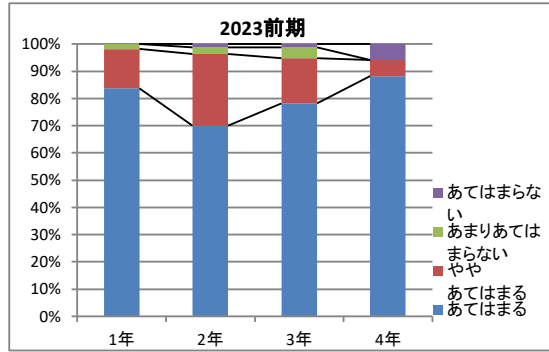
【教員の授業に対する取り組み】

Q9. 担当教員は、学生の私語に注意を促すなど授業の雰囲気を保っていましたか。



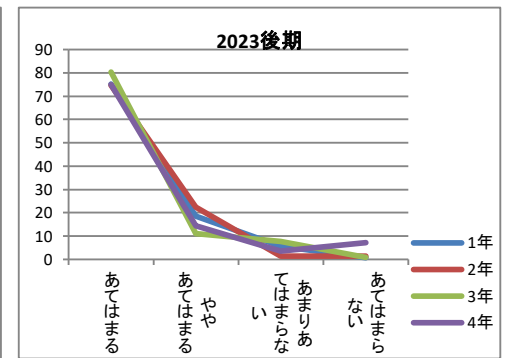
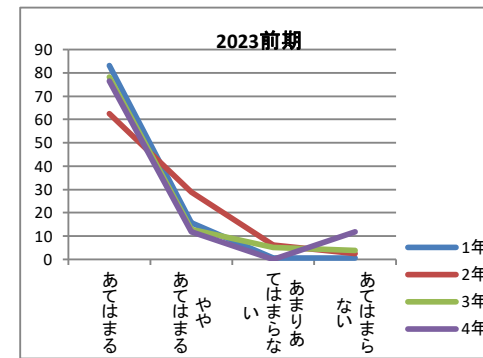
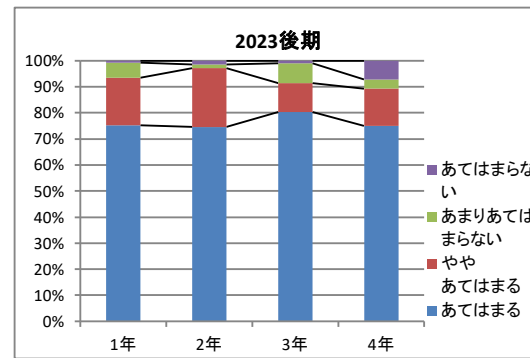
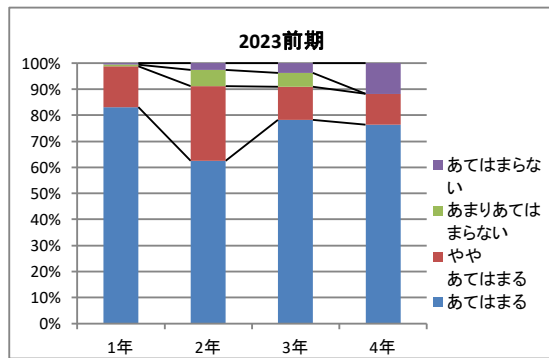
【教員の授業に対する取り組み】

Q10. 担当教員は、学生の授業への参加を促しましたか(質問等)。



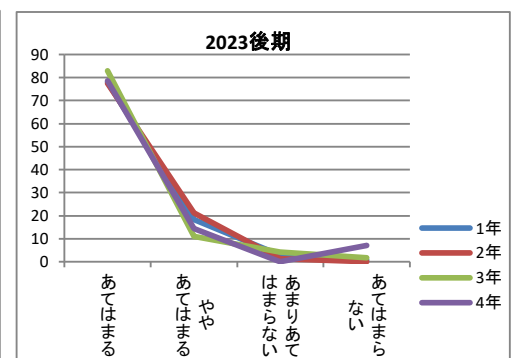
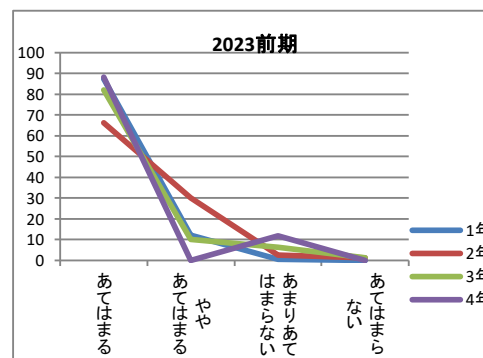
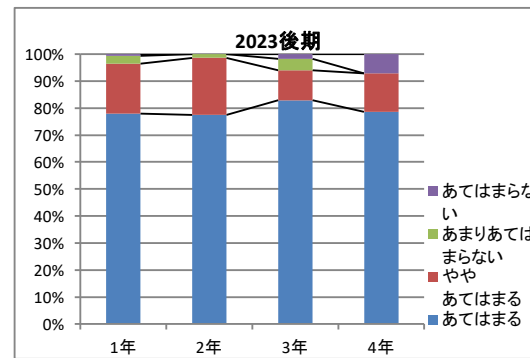
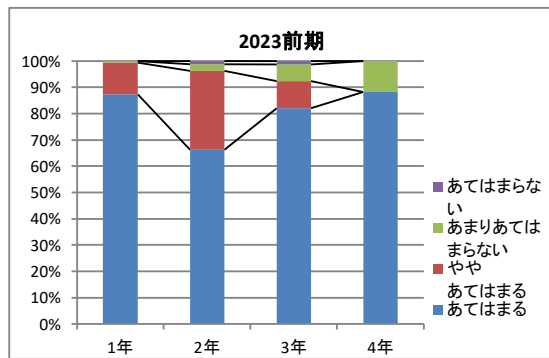
【教員の授業に対する取り組み】

Q11. 担当教員は、わかりやすい説明や指導をしていましたか。



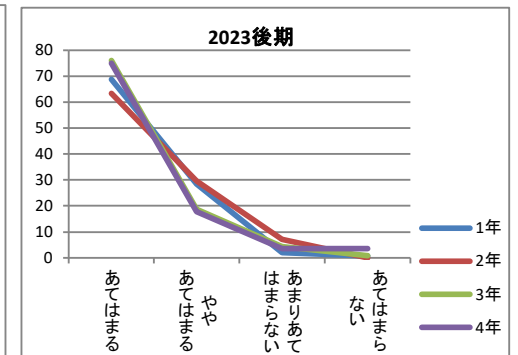
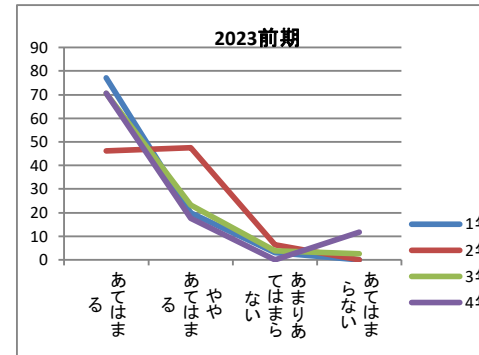
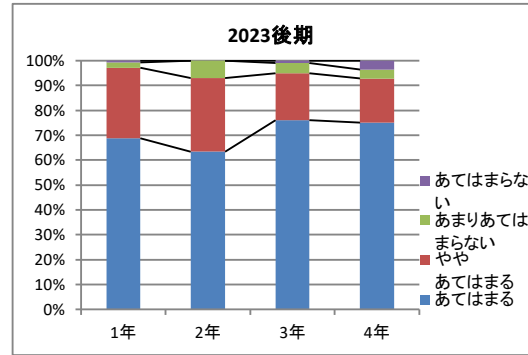
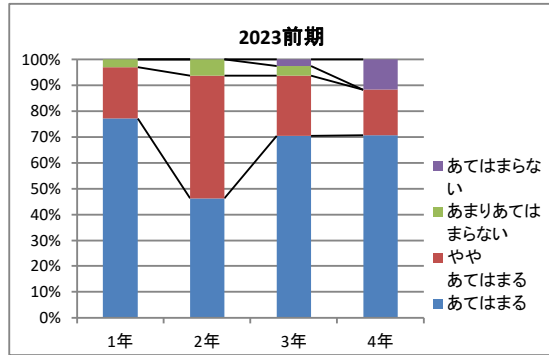
【教員の授業に対する取り組み】

Q12. 担当教員の講義資料は適切でしたか(教科書を含む)。



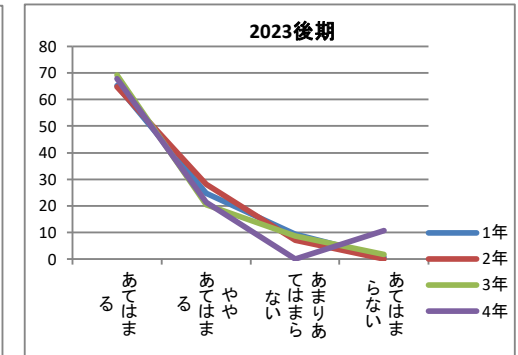
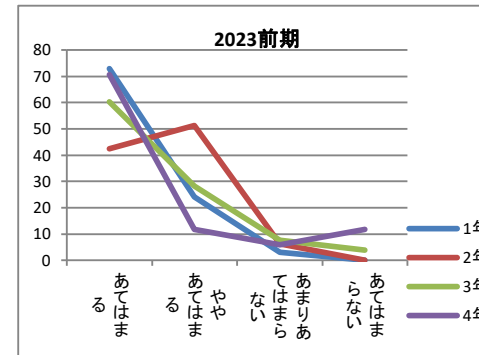
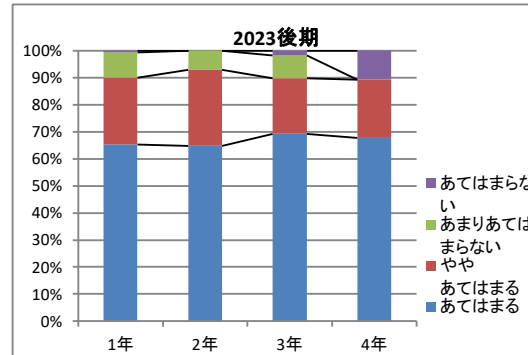
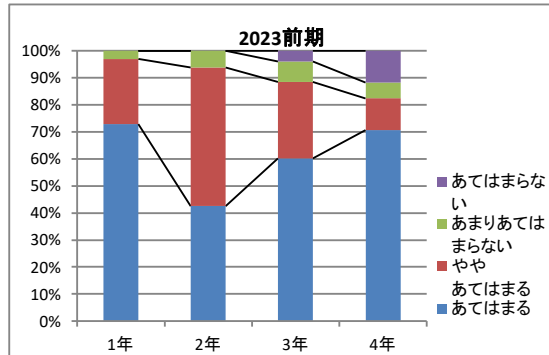
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q13. 授業の目標や修得すべき事項を理解できましたか。



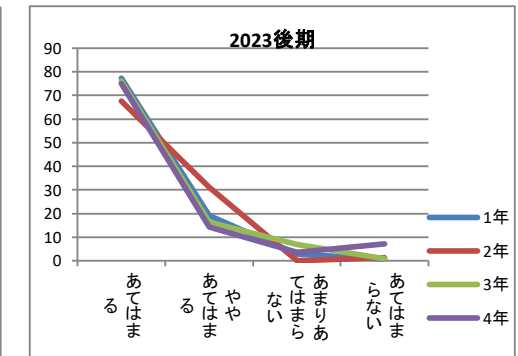
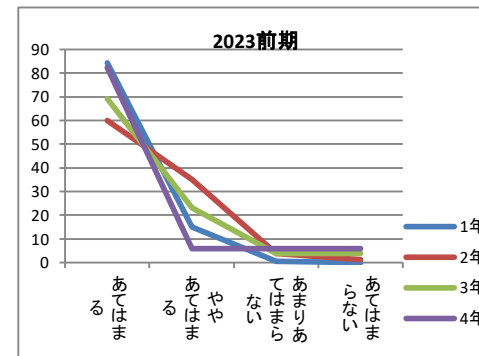
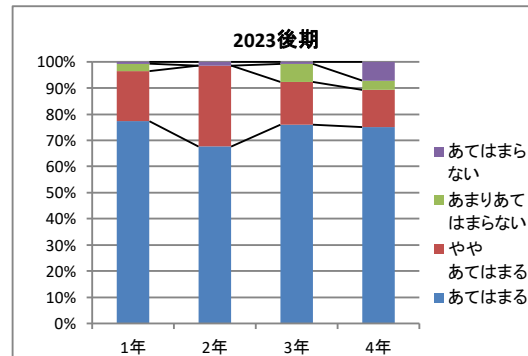
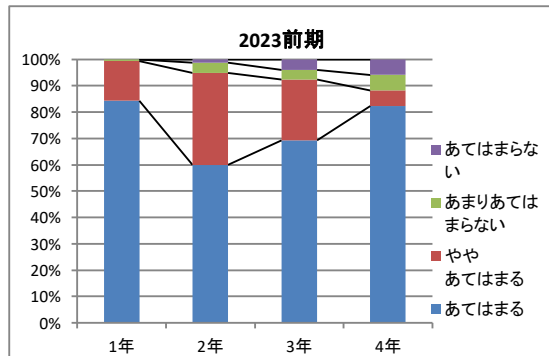
【授業に対するあなたの理解・達成度】

Q14. 授業で学習意欲が高まりましたか。



【総合評価】

Q15. 授業は意義あるものでしたか。



所 属	部 署	役 職	氏 名
九州医療科学大学	事務局	事務局長	的場 嘉男

【前年度結果報告】

1. 日本高等評価機構の来年度受審を意識し業務を遂行する。
日本高等評価機構が主催する研修会等に参加し、第4期評価システムを理解し業務を遂行し、現在、自己点検評価書の作成に取り掛かっている。
2. 入学者定員100%確保
学部入学生は一昨年度の166名から211名と増えたが、定員充足率は未達であった。
3. 私立大学等改革総合支援事業（タイプ1『特色ある教育の展開』とタイプ3『地域社会の発展への貢献』）での補助金獲得
連続でタイプ1に選定されたが、タイプ3は選定されなかった。

【今年度数値目標・決意表明】

1. 日本高等評価機構受審に関する業務を遺漏なく遂行する。
第4期評価システムの内容を意識し業務を行い、大学全体で業務に取り組む。
2. 入学者定員100%確保
応援学費等の本学の魅力をPRし定員確保に努める。
3. 私立大学等改革総合支援事業（タイプ1『特色ある教育の展開』とタイプ3『地域社会の発展への貢献』）での補助金獲得

所 属	部 署	役 職	氏 名
九州医療科学大学	庶務部 庶務課	課長	大石 正憲

【前年度結果報告】

1. 働き方や職場環境に改善を進める
 - ・ハラスメント研修並びにハラスメントに関するアンケートを実施することができた。アンケートの分析はできていないが、今年度の早い時期にアンケートの分析を実施する予定である。
2. 外部資金の獲得に向けてサポートを実施
 - ・科研費の新規採択件数は4件→5件の微増である。
3. 日本高等教育評価機構の機関別認証評価に向けて、第4期評価システムに対する理解を深めるとともに、自己点検評価書作成に向けた体制の整備を目指す。
 - ・自己点検評価書作成に向けて作業スケジュール及び役割分担を決めて現在作業を進めている。

【今年度数値目標・決意表明】

1. 働き方や職場環境に改善を進める
 - ・今年度も研修等を通じてハラスメントに対する理解を深めるとともに、ハラスメントを受けたときに相談しやすい環境（職場環境・学生の学修環境）を目指す。
2. 外部環境の変化に伴う新たな委員会の設置とスムーズな運営
 - ・科研費申請条件の変更による研究インテグリティの確保に関する規程と委員会、安全保障輸出管理規程と委員会、外部検証の指摘に対応したバイオセーフティ準備委員会の設置とスムーズな運営を目指す。
3. 日本高等教育評価機構の外部評価（自己点検評価書の作成、実地調査等）を滞りなく完了する。

所 属	部 署	役 職	氏 名
九州医療科学大学	附属図書館	課長	大石 正憲

【前年度結果報告】

1. 学習支援及び教育活動への直接の関与
図書館のラーニングコモンズを活用して、教員と連携し、新入生やゼミ生に対してオリエンテーションを実施したが、利用者総数の増加には繋がらなかった。入館者数 R5: 23,725→R6: 22,328
ただし、学生数を考慮した入管者数/学生数で計算すると増加したとみなせる。R5: 22.7→R6: 23.4
2. 研究活動に即した支援と知の産生への貢献
研究紀要第 26 号を発行し、リポジトリに公開した。
3. コレクション構築と適切なナビゲーション
国試、認知症、学習支援、新刊、季節展示コーナー充実を図った。
4. 他機関・地域との連携
延岡市立図書館と連携して「認知症」をテーマに企画展示を実施した。

【今年度数値目標・決意表明】

1. 学習支援及び教育活動への直接の関与
ラーニングコモンズの活用がスムーズに進むように支援し、教員と連携することで利用者数の増加につなげる。
2. 研究活動に即した支援と知の産生への貢献
研究紀要第 27 号の発行と、リポジトリへの公開を推進する。
3. 他機関・地域との連携
延岡市立図書館との連携展示を継続する。
4. オープンアクセス加速化事業で導入した機関リポジトリアシスト機能を利用して、リポジトリの更なる充実を図る。

所 属	部 署	役 職	氏 名
九州医療科学大学	庶務部 会計課	課長	牧野 喜代子

【前年度結果報告】

1. 省エネルギー活動の推進
電気・ガス・水道の使用量の現状維持を目標とした。結果、一昨年度に比べ電気使用量は 2.2%増、ガスは 12.3%増、水道は 23.8%減となり、目標達成は水道のみであった。なお金額にすると電気代 252 万円増、ガス代は 219 万円増、水道は 225 万円減であった。電気・ガス使用量が増加した要因は夏場の気温上昇、一方、水道使用量が減少した要因はグラウンドの雑草対策で散水を控えたことが挙げられる。
2. 優先順位をつけた予算執行
修繕経費 1200 万円を目標としていたところ、実績は 1910 万円であった。ただしこのうち 510 万円は落雷被害に伴う修繕で、後日保険金の支払いがなされており、これを除くと修繕費は 1400 万円であった。

【今年度数値目標・決意表明】

1. 省エネルギー活動の推進
空調向け冷温水の温度設定、休業期間中の使用建物の集約による省エネルギー活動を実施する。その一方、救急救命の年次進行に伴う使用教室の増加、数年間使用を制限していた 3 号棟の利用頻度上昇が見込まれるため、これらを織り込んだ数値目標として電気使用量 4%増、ガスは 10%増、水道は現状維持を目標とする。
2. 優先順位をつけた予算の執行
開学 25 年を迎え建物設備の老朽化が進んでいることから、設備の更新では省エネルギーに繋がるものを優先的に実施する。建物等の修繕では今後の維持に資する箇所と施工を優先し、修繕経費 1200 万円を超えないことを目標とする。

所 属	部 署	役 職	氏 名
教務部	教務課	参事	紺野 智子

【前年度結果報告】

1. 者減少に向けた取り組み（継続）

今年度も引き続き、退学者 0 を目標に昨年度の取り組みを継続する。連続欠席の情報を教職員で共有し、早期に学生指導に着手することで、学生の動向を把握し、継続的に学生サポートを実施する。

結果：学部退学者19名、退学率19名/947名 2.0%（昨年1.8%） 大学院 退学者1名

退学者は昨年度とより1名増の20名となり、今年度退学率としては2.0%と0.2%の増となった。除籍者は減少（4名→1名）している。転学科5名・通信転学科2名となっている。

2. 学生満足度向上に向けた取り組み

課員（実習センター）全員で各種情報を共有し、丁寧な学生対応（窓口等）を行う。「建学の理念」を心に留め学生に寄り添い学生の声を傾聴し、「学修者本位の教育」をサポートしていく。

結果：課内全体での情報共有については、ガルーン等で共有し円滑な対応が行えた。課員全員丁寧な窓口対応が実施できた。

【今年度数値目標・決意表明】

1. 退学者減少に向けた取り組み（継続）

今年度も引き続き、退学者 0 を目標に昨年度の取り組みを継続する。

学生・保護者・学科間教員の橋渡し役となる連携体制の構築を目指す。合理的配慮が必要な学生や心身ともに課題を抱えた学生が増加傾向にあり、教職員で情報の共有を図っていく。学生の連続欠席の情報をチューター教員への配信をしているが、今年度は累計の欠席についても情報提供を測り、学生の動向を早期に把握し、退学者連携体制構築に努める。

2. 学生満足度向上に向けた取り組み（継続）

今年度においても課員（実習センター）全員で各種情報を共有・丁寧な学生対応（窓口等）を行う。

- ・より一層安定した窓口対応を目指し、フローチャート作成するとともに、積極的に研修会 SD に参加する。

所 属	部 署	役 職	氏 名
教務部	教育イノベーション課	課長	紺野 智子

【前年度結果報告】

教育イノベーション課

1. 学修成果の可視化を推進するとともに、教育成果の把握・可視化を目指す。

学修ポートフォリオ、マイステップに加え、外部アセスメントテスト「GPSアカデミック」を今年度新一年生から実施する。教育成果の把握・可視化の一環として、各授業科目の成績評価（素点）の分布表を作成し、成績の平準化について考察を始める。

結果：学修ポートフォリオ・マイステップ促進を試みたが、学生・教員の振り返りコメントの入力は十分とは言えない状態であった。「GPSアカデミック」実施を行った。成績評価（素点分布表）についてはデータ処理の途中であり、学科へのフィードバックは行えなかった。

2. 教育職員並びに各部署と連携し本学の教学IR推進に努める。

アセスメント実施計画を作成する。教学マネジメントの推進のために必要とされる学内情報を収集し、紐づけ分析を試みる。

結果：アセスメント実施計画を作成、学内情報の収集を行った、紐づけ分析までには至らなかったが、アセスメント運営計画（案）を作成し、次年度実施を試みる。

【今年度数値目標・決意表明】

1. 学修成果の可視化を推進するとともに、教育成果の把握・可視化を目指す。

学修ポートフォリオ、マイステップの利用促進を図り、データの積み上げを行い、学修成果の可視化を推進する。成績評価（素点）分布表を作成し成績の平準化について考察を始める。

教職員並びに各部署と連携し、本学の教学IR推進に努める。

2. アセスメント運営計画（案）を再検討し、教学マネジメントの推進のために必要とされる学内情報を収集し紐づけ分析を試みる。

所 属	部 署	役 職	氏 名
九州医療科学大学	通信教育事務課	課長	矢野 朋光

【前年度結果報告】

- ・入学者の確保に向けた広報活動の充実
デジタル広告を実施し資料請求数は2023年度2277件から2024年度2919件へと増加した。
- ・学生サポート体制の充実
オンラインにて学習相談、入学相談に対し丁寧な対応を心がけて行った。
随時、国家試験対策に関する情報を提供した。
バーチャルキャンパスを導入しコミュニケーションツールとしての利用を図った。
- ・オンラインに対応した授業内容の検討
オンラインでの開催でほとんどの講義が問題なく実施されている。
- ・ハイブリッドコースの充実
「ハイブリッド演習室」を整備し学習環境を整えた。

【今年度数値目標・決意表明】

- ・資料請求から入学につながる広報活動の実施
出願書類等の作成時期を早めるとともに出願時期に期日が迫っている広告を展開していく。
- ・学生サポート体制の充実
バーチャルキャンパスの利用を推進し、引き続き学習相談、入学相談を実施していく。
- ・通信教育部のオンライン化の充実
現在、スクーリング、科目単位認定試験のみであるが添削課題をオンライン化するとともにオンデマンド授業の導入を検討していく

所 属	部 署	役 職	氏 名
九州医療科学大学	スチューデントサポートセンター学生部学生課	課長	加藤 泰輔

【前年度結果報告】

○学生満足度の向上

学生に対する情報提供に関しては、課内で共有したうえで「速やかに・確実なもの」を提供することができた。また、留学生の対応としては英語村イベントとの共同および教育後援会留学生支援経費を活用して、日本人学生との交流会を実施することができた。

○事件・事故の防止

当課に届け出があった学生の交通事故は、第1当（加害者）12件であった。なお、危険運転に起因する事故はなかったが、マナー不足が確認された学生に対しては対面で指導するなど事故防止に努めた。

○防災に対する意識向上

令和6年12月全体での消防・防災・避難訓練を実施して防災意識の向上を図った。また、3か年計画の1年目として270人分の備蓄品を整備した。

○相談しやすい環境づくりと相談スキルの向上

私大協や九州地区大学が主催する学生支援に関する研修会へ努めて参加をして情報共有を図った。

【今年度数値目標・決意表明】

- (1) 【3つの力】で学生満足度の向上をめざす（すべては窓口対応から始まる）
 - ①安定した傾聴力
 - ②課題の発見力
 - ③的確な判断・情報発信力
- (2) 事件・事故・防災（災害）に対する「備え」と「危機管理」の意識向上
 - ①事件、事故を発生させない（注意喚起の徹底）（交通事故ゼロを目指す）
 - ②事件については関係部署・機関と連携して早期解決をめざす（抱え込まない）
 - ③備蓄品整備計画（2年目）の遂行
- (3) 学生生活に関する学生の意見・要望の把握
 - ①相談しやすい窓口対応と環境の整備
 - ②学生支援にかかわる研修会への参加（情報収集と情報共有）→学生支援の質の向上に努める

所 属	部 署	役 職	氏 名
九州医療科学大学	キャリアサポートセンター	課長	猪股 健久

【前年度結果報告】

- 1. 就職目標 100%
【結果】94.4% [98.9%] ※ [] は 2024 年度 最終
- 2. 修学支援新制度での要件を満たす「就職・進学率」90%以上
【結果】92%
- 3. キャリア支援の強化
質の高いキャリア支援を目指し教職員や関係機関と連携し適切なサポートを実践した結果、除籍目の学生を卒業まで導くことができた。また、昨年を上回る公務員合格者 14 名のほか、旭化成株式会社への内定などの実績を残すことができた。さらに受験報告書などをデジタル化したことで学生の利便性も向上した

【今年度数値目標・決意表明】

- 1. 就職目標 100%
- 2. 修学支援新制度での要件を満たす「就職・進学率」90%以上
- 3. キャリア支援の強化
 - ①学生支援部署と連携し質の高いキャリアサポートを実施する
 - ②学科ごとのニーズに合った各種企画や学内説明会を積極的に実施する
 - ③公務員を含む地元での就職数増加を推進する
 - ④マイステップ「私の活動記録」を積極的に活用する

令和7年度 部門目標（事務部門）

所 属	部 署	役 職	氏 名
法人本部	入試広報室	室長	猪木原 恵

【前年度結果報告】

2025 年度入試 順正学園の学部・専門学校総志願者数は、1,265 名(前年度 1,240 名)で前年対比 102.0%、入学者総数は、598 名(前年度 543 名)で前年対比 110.1%であった。学園全体の充足率は全体定員 900 名中入学者数 598 名で 67.0%と前年度の目標であった全学科定員確保は未達となった。また留学生 200 名入学の目標については、秋・春入学者数 164 名（昨年 147 名）となり目標は未達となった。

	志願者数			入学者数			入学定員 充足率
	2025 年度	2024 年度	対前年比	2025 年度	2024 年度	対前年比	
吉備国際大学	727	729	99.7%	364	331	110.0%	67.4%
九州医療科学大学	494	429	115.1%	211	166	127.1%	70.3%
九州医療科学大学専門学校	44	82	54.0%	23	46	50.0%	38.3%
総 数	1,265	1,240	102.0%	598	543	110.1%	66.4%

【今年度数値目標・決意表明】

◎入試：

- ・入学者選抜において、受付・入試実施・発表・入学手続までの入試業務をミスのないよう行う。

◎広報：

- ・各設置校のブランドビジョンを柱に学部・学科の情報発信を行い、入学定員充足率 100%を目指す。
- ・留学生募集については、秋、春、留学生別科を含めて 200 名の入学を目指す。

令和7年度 部門目標（事務部門）

所 属	部 署	役 職	氏 名
法人本部	入試広報室	参事	高木真理子

【前年度結果報告】

2025 年度九州医療科学大学の学部志願者数は、494 名（'24：429 名、'23：775 名、'22：928 名）で前年対比 115%、入学者数は、211 名（'24：166 名、'23：184 名、'22：210 名）で定員充足率 70.3%であった。全体の受験者が年内入試にシフトしているといわれており、本学の年内入試志願者は 152 名（入学者 127 名）入学者の 60%（'24 志願者 100 名（入学者 98 名）、'23 志願者 118 名（入学者 93 名）、'22 度志願者 136 名（入学者 111 名）と同様の傾向となった。昨年度掲げた目標の年内入試志願者 150 名以上をなんとか達成したが、一般入試の目標値 700 名には到底及ばず、年内入試志向の傾向を鑑みると、年内入試で定員の 75%（225 名）を超えないと定員を満たさない状況であった。

※一般入試受験者数 331 名（入学者数 81 名（26%））'24：324 名（入学者 64 名（20%））'23：652 名（入学 87 名（13%））、'22：778 名（入学 88 名（11%））※2020 年度 586 名：入学 151 名（25%）

【今年度数値目標・決意表明】

◎入試：

- ・学科のポリシーに沿った入学者選抜の実施、受験生に対して丁寧な対応やミスのない実施に努める。

◎広報：

- ・学科ごとの募集対象地域、高校、広報内容を明確にし、学科教員と協力して高校訪問などを行い各学科の定員充足率 80%以上とする。
- ・今年度の志願者数 600 名以上（12 月までの入試 200 名、一般入試 500 名もしくは一般入試の歩留まり 30%以上）をめざす。
- ・オープンキャンパス参加者数昨年対比 130%（高校生 600 名以上）をめざす。

2025 自己点検自己評価総会（事務部門）参考資料

学科	志願者数				入学者数								充足率	充足率
	2025	2024	2023	2020	2025	歩留	2024	歩留	2023	歩留	2020	歩留	2025	2024
スポーツ	112	92	76	60	68	60%	62	67%	35	44%	37	62%	85%	77.5%
臨床福祉			41	26					17	48%	11	42%		
薬	162	140	294	253	50	31%	38	27%	43	10%	66	26%	50%	38%
動物	73	66	84	78	34	47%	22	33%	23	21%	28	36%	85%	55%
生命医科	84	84	200	193	23	31%	26	31%	45	23%	66	34%	57.5%	32.5%
臨床心理	63	46	80	108	36	57%	18	39%	21	40%	48	44%	90%	45%
合 計	494	429	775	718	211	43%	166	39%	184	23%	256	36%	70.3%	48.8%

★スポーツ健康福祉学科

年度	宮崎県内		県外		留学生	高卒認定	計	定員	充足率
2025	39	57%	29	43%			68	80	85%
2024	33	53%	28	45%	1		62	80	78%
2023	16	46%	19	54%			35	40	88%

★臨床福祉学科

2023 宮崎県内 11 名（65％）、県外 6 名（35％） 計 17 名 定員 40 名 充足率 43％

★臨床心理学科

年度	宮崎県内		県外		留学生	高卒認定	計	定員	充足率
2025	28	78%	8	22%			36	40	90%
2024	13	72%	5	28%			18	40	45%
2023	17	81%	4	19%			21	40	53%

★薬学科

年度	宮崎県内		県外		留学生	高卒認定	計	定員	充足率
2025	31	62%	18	36%		1	50	100	50%
2024	17	45%	20	53%	1		38	100	38%
2023	21	49%	20	47%	2		43	100	43%

★動物生命薬科学科

年度	宮崎県内		県外		留学生	高卒認定	計	定員	充足率
2025	10	29%	23	68%	1		34	40	85%
2024	7	32%	15	68%			22	40	55%
2023	2	9%	21	91%			23	40	58%

★生命医科学科

年度	宮崎県内		県外		留学生	高卒認定	計	定員	充足率
2025	12	52%	11	48%			23	40	58%
2024	12	46%	14	54%			26	80	33%
2023	22	49%	23	51%			45	80	56%